

9.10 動物（水生生物を含む）

9.10.1 調査結果の概要

(1) 調査項目

調査項目は、①脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、クモ類、魚類、底生動物、陸産貝類）の状況、②動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況、③注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況としました。

(2) 調査の基本的な手法

① 脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相

ア. 文献その他の資料調査

入手可能な最新の資料による情報の収集並びに当該情報の整理を行いました。

イ. 現地調査

現地調査の方法は、表 9.10-1 に示すとおりです。

表 9.10-1(1) 現地調査方法（動物相の状況）

調査項目		調査方法
哺乳類	任意観察及びフィールドサイン法	調査範囲内を網羅的に踏査し、足跡、糞、食痕、巣、球巣（カヤネズミ）、爪痕、抜毛、掘り返し（モグラ坑道、モグラ塚等）等のフィールドサイン（動物の生活痕）を確認しました。
	トラップ法	目撃、フィールドサインによる確認が困難なネズミ類やヒミズ類を対象に、シャーマントラップを設置し、捕獲による調査を行いました。 誘引餌は、ピーナッツやオートミール等を使用しました。 調査地点は、環境特性（植生、土地利用）を踏まえ6地点設定しました。 トラップは、1地点あたり10個を1晩設置しました。
	無人撮影法	哺乳類が頻繁に往来しているような「けもの道」あるいは小径に自動撮影機能付のカメラを設置し、カメラの視野内に出現する中型哺乳類を撮影しました。 誘引餌は、さつまあげや魚肉ソーセージ等の餌を使用しました。 調査地点は、乾性草地及び旧米軍宿舎跡の3地点としました。 カメラは1地点あたり2台程度を2晩設置しました。
	夜間調査	夕暮れから夜間において、バットディテクターを用いて、飛翔するコウモリ類を確認しました。

表 9.10-1(2) 現地調査方法（動物相の状況）

調査項目		調査方法	
鳥類	一般鳥類	任意観察法	調査範囲内を網羅的に踏査し、目視及び鳴き声等の確認により、種の判別を行い、記録しました。
		ラインセンサス法	あらかじめ設定しておいた調査ルート上を歩いて、一定速度でゆっくり（1～2 km/h）と歩き、一定の範囲内に出現する鳥類を目視及び鳴き声等の確認により、種の判別を行い、記録しました。 調査ルートは、環境特性(植生、土地利用)を踏まえ3ルートを設定しました。
		定点観察法	配置した定点より半径 200m 程度の範囲に出現した鳥類を目視及び鳴き声等の確認により、種の判別を行い、記録しました。 調査定点は、環境特性(植生、土地利用)を踏まえ3定点を設定しました。
		ねぐら調査	日の入り前後の時間帯（日の入り時刻の約 1～1.5 時間前から日の入り後 30 分程度）について、計画地の中で見通しのいい地点に調査定点を配置し、調査定点よりねぐら入りする鳥類の集団の有無を観察しました。 集団を観察した場合には、種名、確認時刻、概ねの羽数及びねぐら入りの方向について記録しました。なお、遠方で種の識別が不能な場合は、可能な限り確認できる情報を記録しました。 また、補足調査として、地元住民の方に鳥類のねぐら入りについて聞き取り調査を行いました。
	夜行性鳥類	夜間調査	夕暮れから夜間において、調査範囲内を踏査し、目視及び鳴き声等の確認により、種の判別を行い、記録しました。 また、録音した鳴声を流し、帰ってくる鳴声により、種の判別を行い、記録しました。（コールバック法）
両生類 及び爬虫類	猛禽類	定点観察法	営巣地や餌場となりうる地点を見渡せる見晴らしの良い箇所に観察定点を配置し、定点から確認される猛禽類の出現位置、行動内容・雌雄・成鳥幼鳥等を記録しました。 調査定点は、設定した 6 定点から、猛禽類の出現状況等を踏まえ 3～4 定点を選定し、調査を実施しました。
	任意観察法 及び任意採取法	調査範囲内を網羅的に踏査し、個体を確認するほか、爬虫類では脱皮殻、カエル類では鳴き声等により、種の判別を行い、記録しました。	
	夜間調査	夕暮れから夜間において、調査範囲内を踏査し、カエル類を鳴声により確認するとともに、道路上に出現するへび類を確認し、記録しました。	

表 9.10-1(3) 現地調査方法（動物相の状況）

調査項目		調査方法
昆虫類	任意観察法 及び任意採取法 (スウィーピング法、 ビーティング法)	調査範囲内を網羅的に踏査し、スウィーピング法（草を捕虫網でなぎ払い、止まっている昆虫類を採取）やビーティング法（木の枝・草などを叩き、下に受けた捕虫網に落ちた昆虫類を採取）で採取する他、種の判別の可能なものは目視、鳴き声等で種の判別を行い、記録しました。
	ライトトラップ (走光性昆虫)	夜間に光源（BOX 法）を置き、光に集まってくる昆虫類を採取しました。 調査地点は、環境特性(植生、土地利用)を踏まえ6地点を設定しました。 ライトトラップは、1地点あたり1個を1晩設置しました。
	ベイトトラップ (地上徘徊性昆虫)	誘引餌を入れたコップの口が地面と同じレベルとなるように埋め、コップに落下した昆虫類を採取しました。 誘引餌はドッグフード及びカルピスや焼酎の混合液を使用しました。 調査地点は、環境特性(植生、土地利用)を踏まえ6地点を設定しました。 ベイトトラップは、1地点あたり10個程度を1晩設置しました。
	夜間調査 (ホタル類)	成虫の発生時期である5月下旬～6月中旬（ゲンジボタル）、6月下旬～7月上旬（ヘイケボタル）の夜間に、調査範囲内の河岸及び水田沿いを踏査し、発光するホタル類を確認し、記録しました。
	鳴声調査 (クツワムシ)	クツワムシ成虫の発生時期である夏季の夜間に、調査範囲内の草地環境を踏査し、クツワムシの鳴き声を確認し、記録しました。
クモ類	任意観察法 及び任意採取法	調査範囲内を網羅的に踏査し、個体を確認し、種の判別を行い、記録しました。
魚類	任意観察法 及び任意採取法	調査範囲内の水域において、タモ網を用いて魚類を採取し、種名、個体数、確認位置等を記録しました。また、水域の状況に応じて、投網、定置網、かご網、サデ網、セル瓶も使用しました。 また、水面から種の判別の可能なものは目視で確認し、記録しました。 調査地点は、調査範囲内の水系に7地点を設定しました。
底生動物	任意観察法 及び任意採取法	調査範囲内の水域において、タモ網、サーバーネットを用いて底生動物を採取し、種名、個体数、確認位置等を記録しました。 採取した底生動物は、ホルマリン等によって固定し、持ち帰り後、種の同定等を行いました。 調査地点は、調査範囲内の水系に7地点を設定しました。
	定量調査	方形枠にて水底を囲い、方形枠内に生息する底生動物をすべて採取し、種名、個体数を記録しました。 採取した底生動物は、ホルマリン等によって固定し、持ち帰り後、種の同定等を行いました。 調査地点は、調査範囲内の水系に4地点を設定しました。
陸産貝類	任意観察法 及び任意採取法	調査範囲内を網羅的に踏査し、個体を確認し、種の判別を行い、記録しました。

② 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

生息が確認された種のうち、表 9.10-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定しました。

ア. 文献その他の資料調査

入手可能な最新の資料による情報の収集並びに当該情報の整理を行いました。

イ. 現地調査

脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況の現地調査において確認した種から、重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況の整理を行いました。

表 9.10-2 重要な種の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー
①	「文化財保護法」 (昭和25年5月30日法律第214号)	特天：国指定特別天然記念物
		国天：国指定天然記念物
		県天：神奈川県指定天然記念物
		市天：横浜市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成4年6月5日法律第75号)	希少：国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト2020」 (環境省 令和2年3月)	EX：絶滅
		EW：野生絶滅
		CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類
		CR：絶滅危惧ⅠA類
		EN：絶滅危惧ⅠB類
		VU：絶滅危惧Ⅱ類
		NT：準絶滅危惧
		DD：情報不足
		LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」 (神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)	EX：絶滅
		EW：野生絶滅
		CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類
		CR：絶滅危惧ⅠA類
		EN：絶滅危惧ⅠB類
		VU：絶滅危惧Ⅱ類
		NT：準絶滅危惧
		減少：減少種
		希少：希少種
		要注：要注意種
		注目：注目種
		DD：情報不足
不明：不明種		
LP：絶滅のおそれのある地域個体群		

③ 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

ア. 文献その他の資料調査

入手可能な最新の資料による情報の収集並びに当該情報の整理を行いました。

イ. 現地調査

脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況の現地調査において確認した種から、注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況の整理を行いました。

(3) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺としました。

(4) 調査地点

① 脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況

ア. 文献その他の資料調査

調査区域及びその周辺としました。

イ. 現地調査

現地調査の調査地域は、図 9.10-1 に示す対象事業実施区域及びその周辺約 200m の範囲内（舗装地等人工改変地を除く。）としました（以下、「調査範囲」といいます。）。

調査地点は図 9.10-1 に、踏査ルートは図 9.10-2 に示すとおりです。

② 動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

ア. 文献その他の資料調査

調査区域及びその周辺としました。

イ. 現地調査

「①脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況」と同じ地点としました。

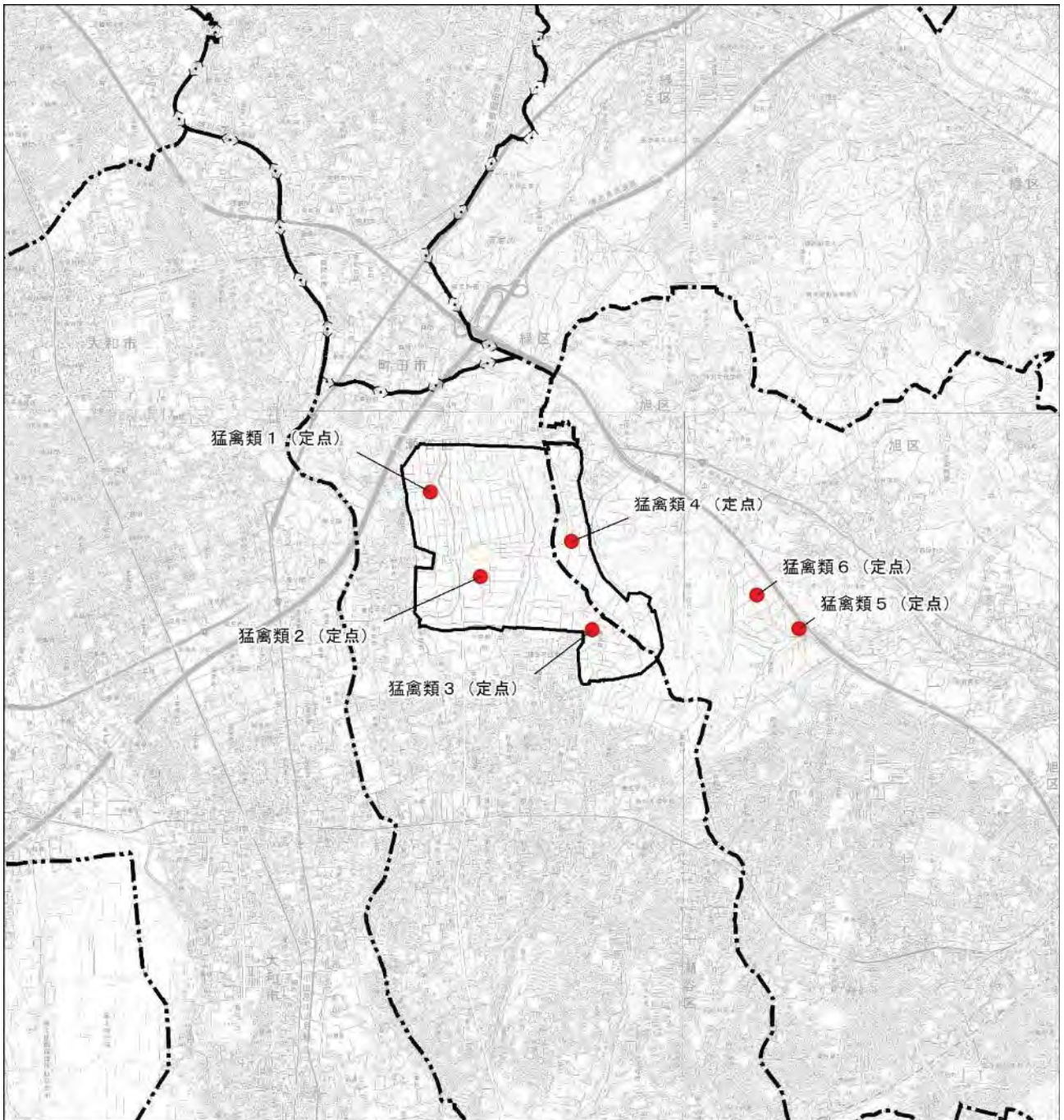
③ 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

ア. 文献その他の資料調査

調査区域及びその周辺としました。

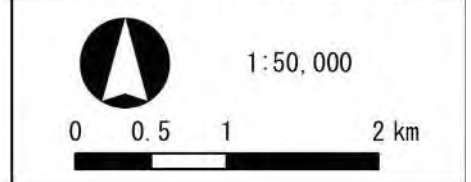
イ. 現地調査

「①脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相の状況」と同じ地点としました。



凡例

- 対象事業実施区域 猛禽類(調査定点地点)
- 都県界
- 市界
- 区界



注1：猛禽類は行動範囲が広いので、調査範囲は対象事業実施区域及びその周辺約200mの範囲に限定していません。
 注2：猛禽類の出現状況等に応じて、各調査日ごとに6定点のうちの3～4定点を選定して、調査を実施しました。

図 9.10-1(3) 調査地域・調査地点図 (猛禽類)

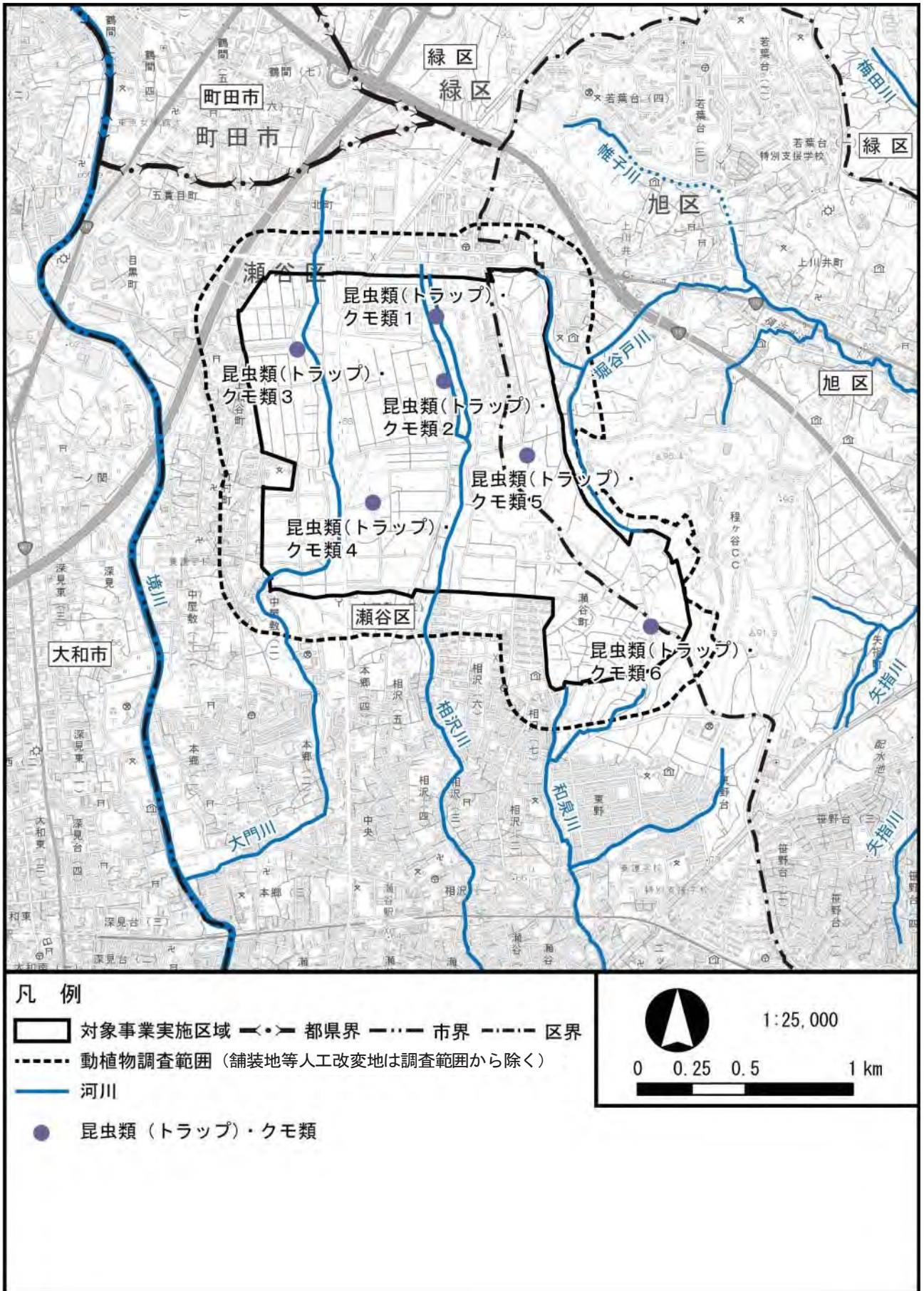


図 9.10-1(4) 調査地域・調査地点図 (昆虫類・クモ類)

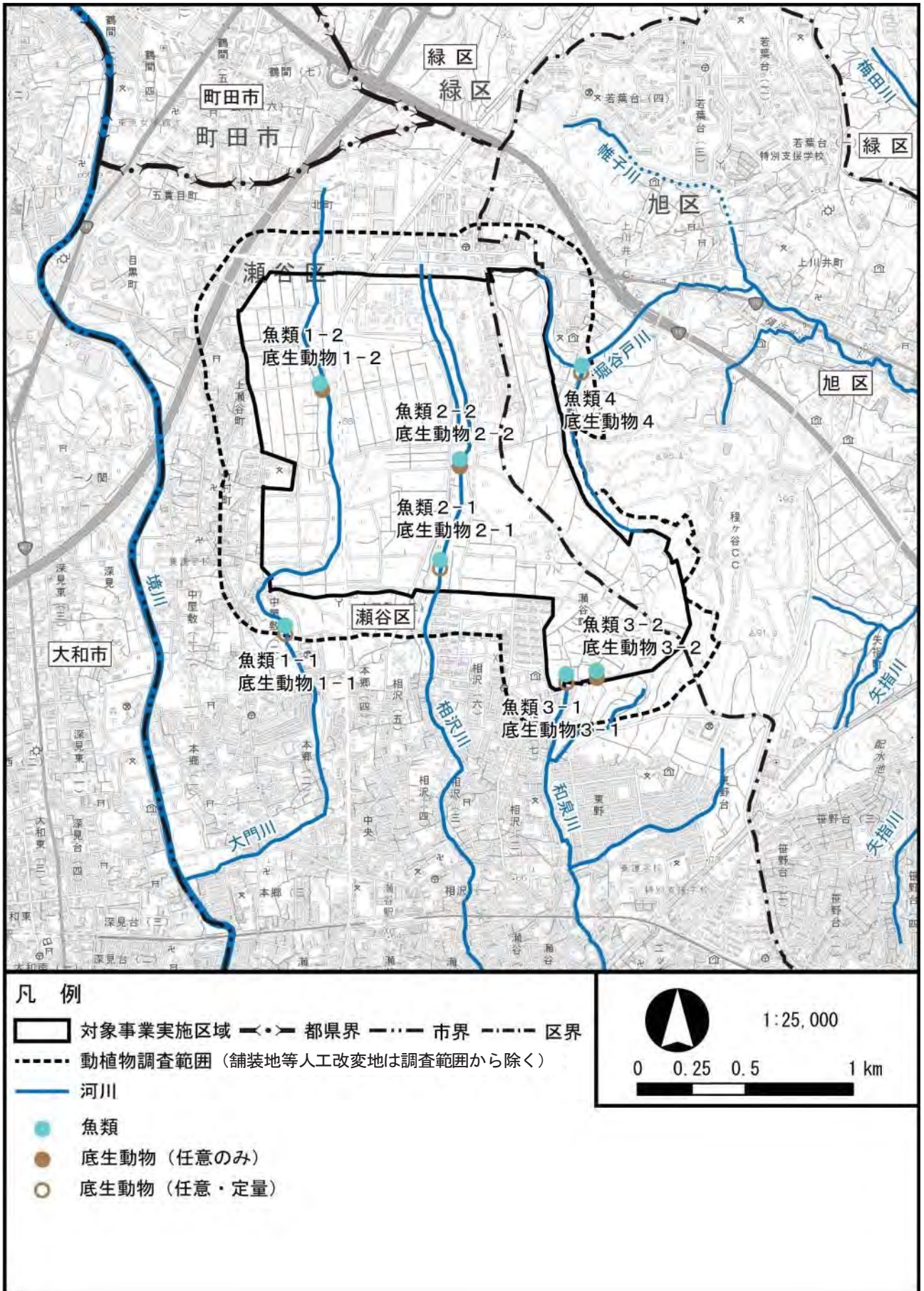


図 9.10-1(5) 調査地域・調査地点図（魚類・底生動物）

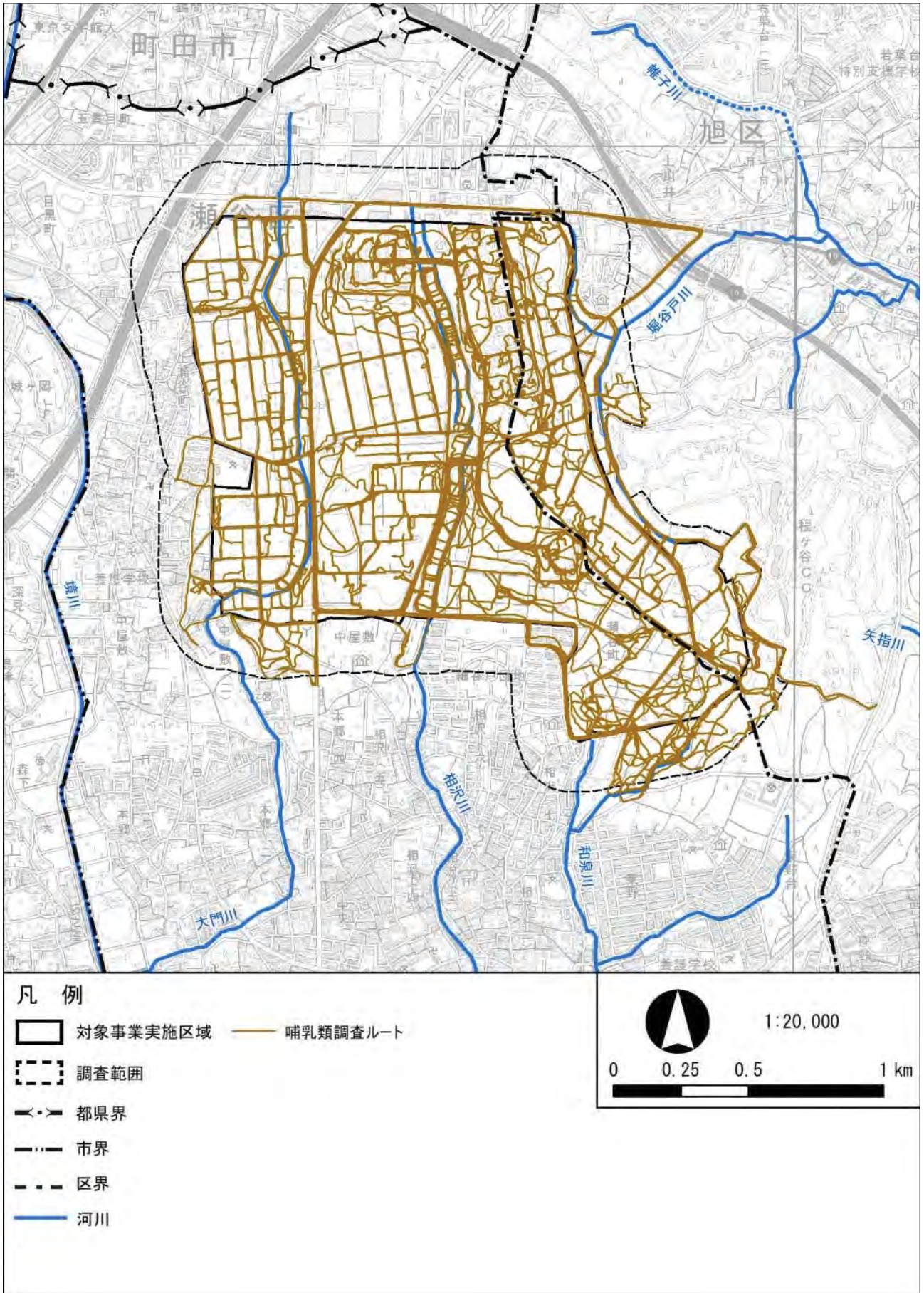


図 9.10-2(1) 動物踏査ルート図 (哺乳類)

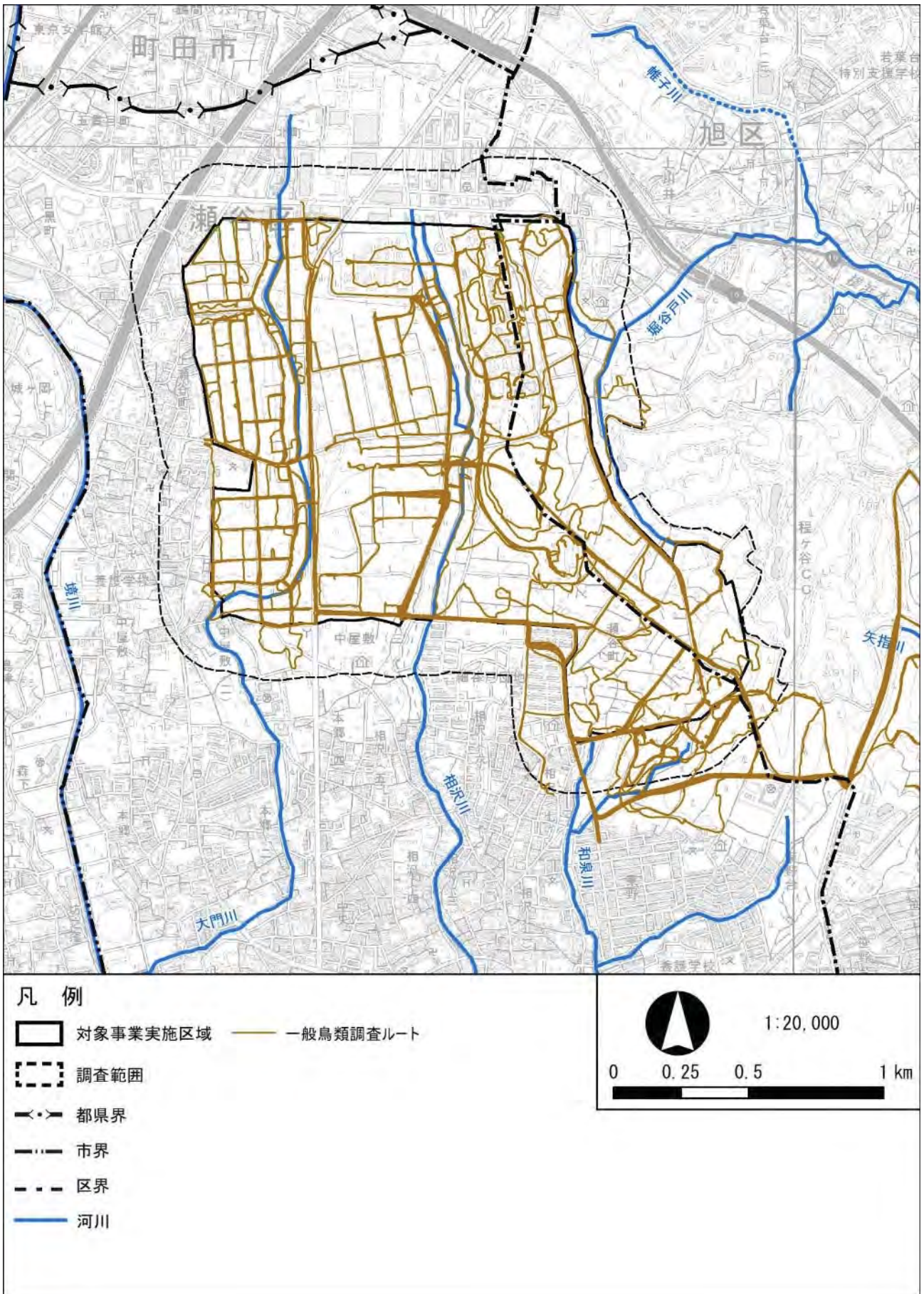


図 9.10-2(2) 動物踏査ルート図（一般鳥類）

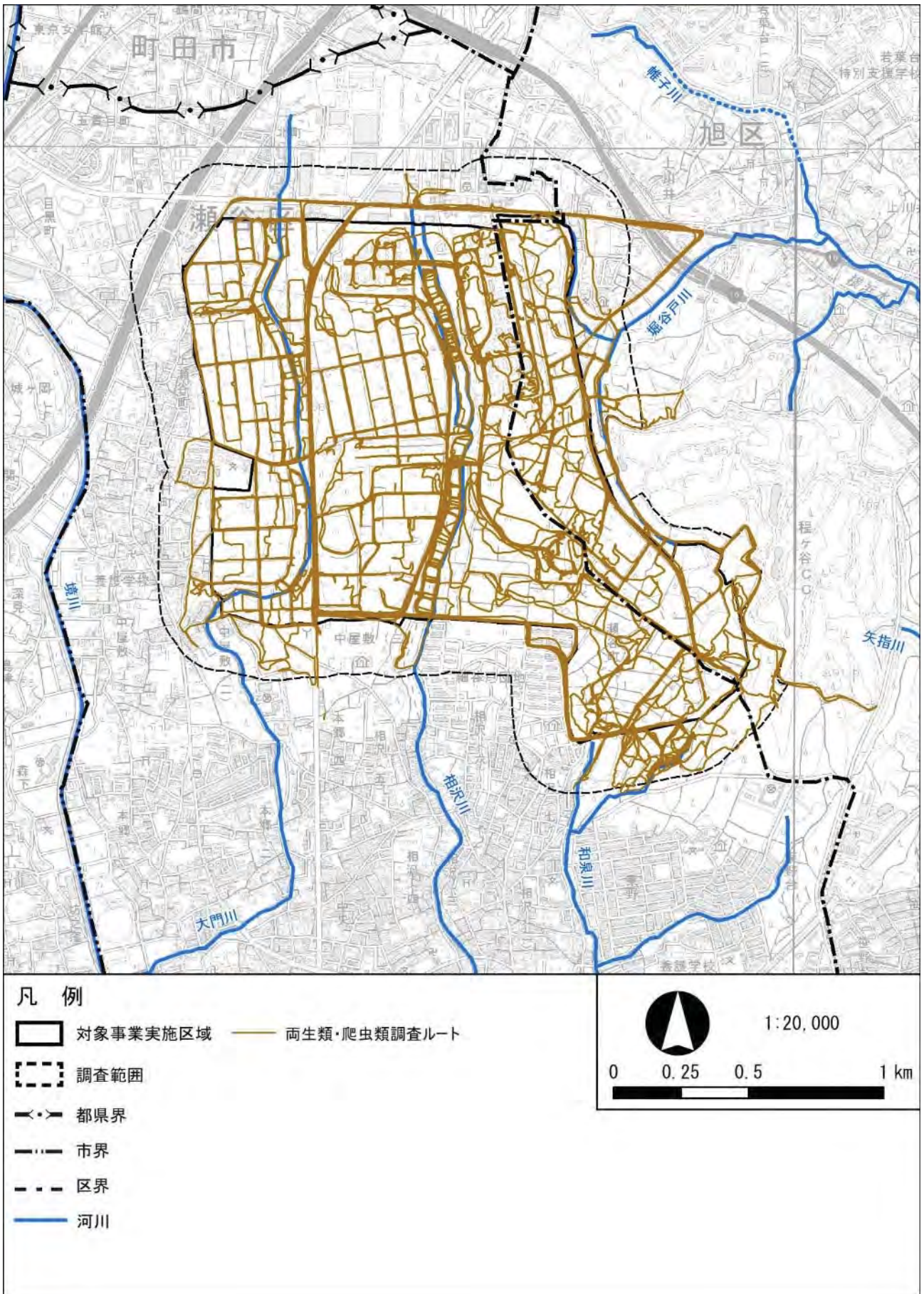


図 9.10-2(3) 動物踏査ルート図（両生類・爬虫類）

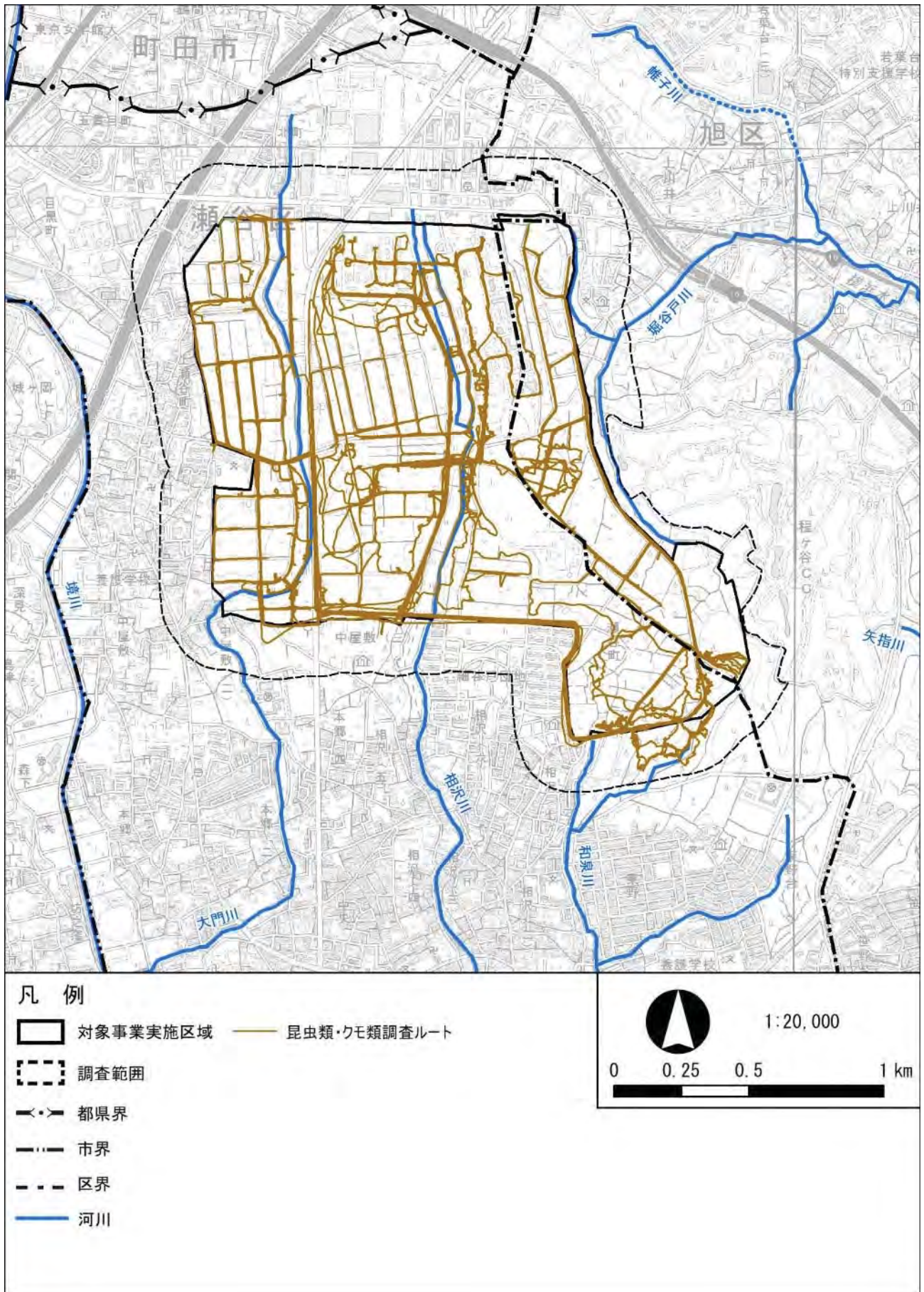


図 9.10-2(4) 動物踏査ルート図（昆虫類・クモ類）

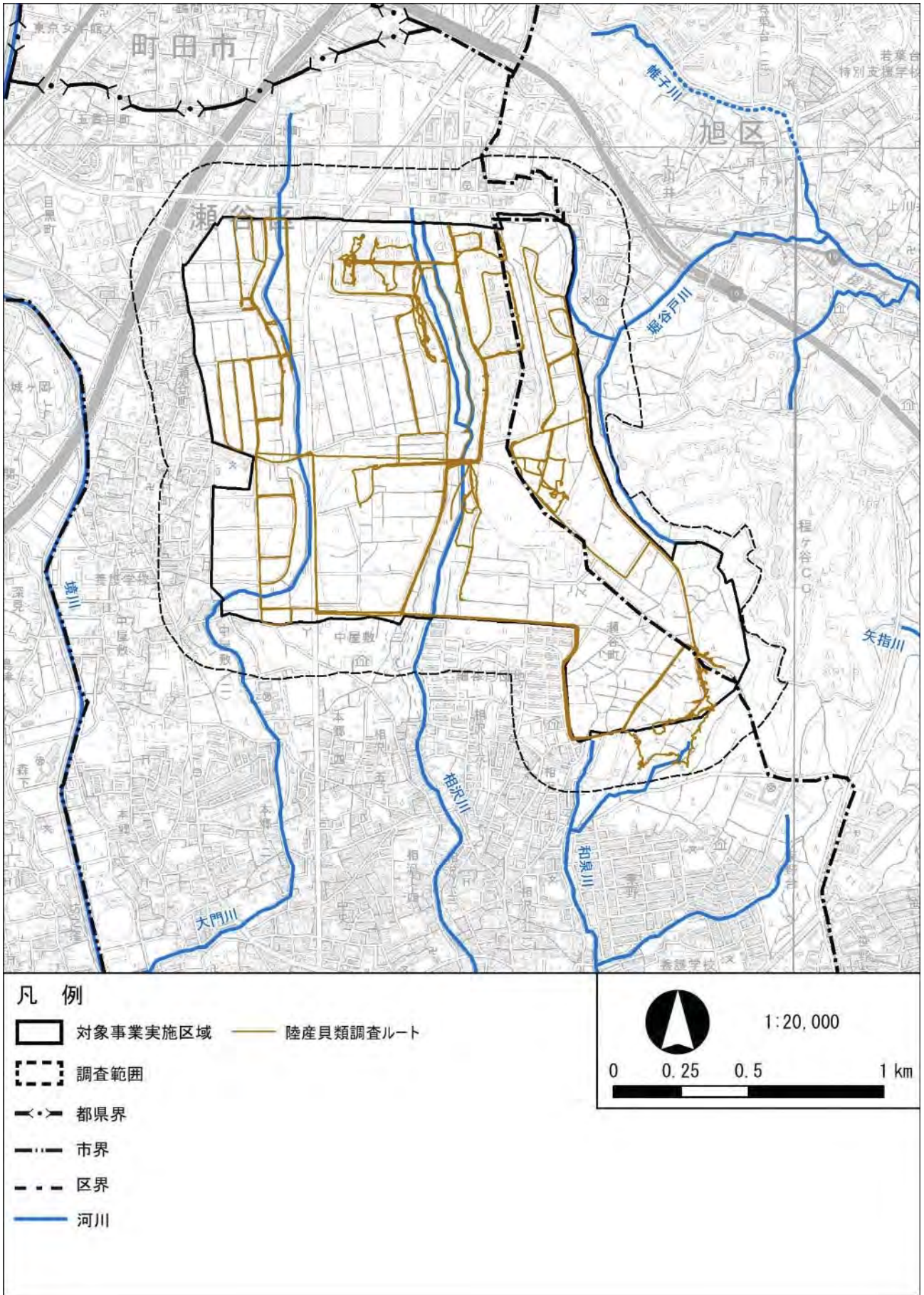


図 9.10-2(5) 動物踏査ルート図（陸産貝類）

(5) 調査期間

① 文献その他の資料調査

文献資料が入手可能な最新の資料としました。

② 現地調査

調査期間は、表 9.10-3 に示すとおりとしました。また、一般鳥類と猛禽類の定点調査の調査時間については、それぞれ表 9.10-4 及び表 9.10-5 に示すとおりとしました。

表 9.10-3(1) 調査時期等

調査項目	調査方法	季節	調査時期
哺乳類	任意観察及び フィールドサイン法 トラップ法 無人撮影法	夏季	平成30年8月6日～8月8日 令和元年7月4日～7月5日
		秋季	平成30年10月10日～10月12日
		冬季	平成31年1月21日～1月23日
		春季	令和元年5月7日～5月9日
	夜間調査	夏季	平成30年8月6日～8月7日 令和元年7月4日～7月5日
		春季	令和元年5月7日～5月8日
鳥類 (一般鳥類)	任意観察法 ラインセンサス法 定点観察法	夏季	平成30年8月13日～8月15日 令和元年7月18日～7月19日
		秋季	平成30年10月10日～10月12日
		冬季	平成31年2月20日～2月22日
		春季	令和元年5月3日
		初夏	令和元年6月14日～6月16日
	ねぐら調査	秋季	令和2年11月2日
		冬季	令和3年2月20日
鳥類 (フクロウ類・ 夜行性鳥類)	夜間調査	平成31年 繁殖期	平成31年1月15日～1月16日 平成31年2月20日～2月21日 令和元年6月14日～6月15日 令和元年8月1日～8月2日
		令和2年 繁殖期	令和2年1月15日～1月16日 令和2年2月5日～2月6日 令和2年6月15日～6月16日 令和2年8月3日～8月4日

表 9.10-3(2) 調査時期等

調査項目	調査方法	季節	調査時期
鳥類 (猛禽類)	定点観察法	平成31年 繁殖期	平成31年1月16日～1月18日 平成31年2月6日～2月8日 平成31年3月14日～3月16日 平成31年4月15日～4月17日 令和元年5月26日～5月28日 令和元年6月17日～6月19日 令和元年7月9日～7月11日
		令和2年 繁殖期	令和2年1月15日～1月17日 令和2年2月5日～2月7日 令和2年3月10日～3月12日 令和2年4月22日～4月24日 令和2年5月28日～5月30日 令和2年6月15日～6月17日 令和2年7月16日～7月18日
両生類 及び爬虫類	任意観察法及び任意採取法	夏季	平成30年8月16日～8月17日 令和元年7月4日～7月5日
		秋季	平成30年10月10日～10月11日
		早春季	平成31年3月8日
		春季	令和元年5月7日～5月9日
		初夏	令和元年6月4日～6月5日
	夜間調査	夏季	平成30年8月16日～8月17日
		春季	令和元年5月7日～5月8日
初夏		令和元年6月4日～6月5日	
昆虫類	任意観察法 及び任意採取法 ライトトラップ ベイトトラップ	夏季	平成30年8月10日～8月11日 令和元年7月16日～7月17日
		秋季	平成30年10月9日～10月10日
		春季	令和元年5月9日～5月10日
	夜間調査(ホタル類)	初夏	令和元年6月4日～6月5日 令和元年6月12日～6月13日 令和元年7月4日 令和元年7月16日
	鳴声調査(クツワムシ)	夏季	令和元年8月27日 令和元年9月3日
クモ類	任意観察法及び任意採取法	夏季	平成30年8月10日～8月11日
		秋季	平成30年10月9日～10月10日
		春季	令和元年5月9日～5月10日

表 9.10-3(3) 調査時期等

調査項目	調査方法	季節	調査時期
魚類	任意観察法 及び任意採取法	夏季	平成30年7月31日～8月1日
		秋季	平成30年10月1日～10月2日
		冬季	平成31年1月21日～1月22日
		春季	令和元年5月7日～5月8日
底生動物	任意観察法及び任意採取法 定量調査	夏季	平成30年7月31日～8月1日
		秋季	平成30年10月1日～10月2日
		冬季	平成31年1月21日～1月22日
		春季	令和元年5月7日～5月8日
陸産貝類	任意観察法及び任意採取法	冬季	平成31年1月16日～1月17日
		初夏	令和元年6月13日～6月14日

表 9.10-4 一般鳥類の定点調査時間

調査季	調査年月日	調査時間
夏季	平成30年8月13日～8月15日	5:00～13:00
秋季	平成30年10月10日～10月12日	5:30～13:30
冬季	平成31年2月20日～2月22日	6:30～12:30
春季	令和元年5月3日	5:00～13:00
初夏季	令和元年6月14日～6月16日	4:30～12:30
夏季	令和元年7月18日～7月19日	4:30～12:30

表 9.10-5 猛禽類の定点調査時間

繁殖期	調査月	調査年月日	調査時間
H31 繁殖期	1月	平成31年1月16日～1月18日	7:00～15:00
	2月	平成31年2月6日～2月8日	7:00～15:00
	3月	平成31年3月14日～3月16日	6:00～14:00
	4月	平成31年4月15日～4月17日	6:30～14:30
	5月	令和元年5月26日～5月28日	6:30～14:30
	6月	令和元年6月17日～6月19日	7:00～15:00
	7月	令和元年7月9日～7月11日	6:30～14:30
R2 繁殖期	1月	令和2年1月15日～1月17日	6:30～14:30
	2月	令和2年2月5日～2月7日	6:40～14:40
	3月	令和2年3月10日～3月12日	6:30～14:30
	4月	令和2年4月22日～4月23日 令和2年4月24日	6:30～14:30 4:30～12:30
	5月	令和2年5月28日～5月30日	4:30～12:30
	6月	令和2年6月15日～6月17日	6:30～14:30
	7月	令和2年7月16日～7月18日	6:30～14:30

(6) 調査結果

① 文献その他の資料調査

ア. 脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相

脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、調査区域及びその周辺の動物相の概要を表 9.10-6 のとおり整理しました。

哺乳類 14 種、鳥類 149 種、両生類 10 種、爬虫類 11 種、昆虫类等 823 種、魚類 47 種、底生動物 99 種及び陸産貝類 32 種が確認されています。

表 9.10-6(1) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
哺乳類	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成4年3月)	2	アズマモグラ、アブラコウモリ、タヌキ、キツネ、ノイヌ、ノネコ、テン、イタチ、アナグマ、ハクビシン、タイワンリス、アカネズミ、ドブネズミ、ノウサギ (14種)
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	4	
	「大和市史8(上)別編自然」(大和市 平成8年9月)	1	
	「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	11	
鳥類	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)	2	キジ、カルガモ、キジバト、コサギ、コチドリ、キアシシギ、トビ、アオバズク、カワセミ、コゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ等 (149種)
	「かながわの鳥と獣」(神奈川県 平成4年3月)	55	
	「かながわの鳥図鑑」(神奈川県 平成4年3月)	88	
	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	55	
	「大和市史8(上)別編自然」(大和市 平成8年9月)	23	
	「1993年(平成5年)町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成6年10月)	85	
	「1998年(平成10年)町田の野鳥」(町田野鳥の会 平成12年2月)	77	
	「2003年(平成15年)町田の野鳥3」(町田野鳥の会 平成17年3月)	38	
「生物多様性情報システムー基礎調査データベース検索ー(第2回～第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	127		

表 9.10-6(2) 動物相の状況

分類	文献その他の資料名	確認種数	主な確認種
両生類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	7	アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、アカガエル属、トウキョウダルマガエル、ウシガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル (10種)
	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回~第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	9	
爬虫類	「大和市の脊椎動物」(大和市教育委員会 平成2年3月)	8	クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシ (11種)
	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回~第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	8	
昆虫類等	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月)	7	ジグモ、オナガグモ、ジョロウグモ、アシナガグモ、クロケシグモ、コクサグモ、ウツキコモリグモ、ハナグモ、アリグモ、アキアカネ、オオカマキリ、エンマコオロギ、オンブバッタ、アブラゼミ、マルカメムシ、マイマイカブリ、コクワガタ、カナブン、ウバタマムシ、ナミテントウ、シロスジカミキリ、ヒメクロオトシブミ、オオスズメバチ、アカイラガ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ヒメアカタテハ、コシロシタバ等 (823種)
	「大和市の昆虫」(大和市教育委員会 平成3年3月)	659	
	「大和市史8(上)別編自然」(大和市 平成8年9月)	80	
	「横浜のホタル生息地(1983年版)」(横浜市公害研究所 昭和59年3月)	2	
	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回~第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	160	
魚類	「神奈川県内河川の魚類」(神奈川県環境科学センター 平成26年3月)	13	コイ、ギンブナ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、ミナミメダカ、オオヨシノボリ、クロダハゼ、旧トウヨシノボリ類等 (47種)
	「横浜の川と海の生物(第14報・河川編)」(横浜市環境科学研究所 平成28年3月)	14	
	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回~第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	43	
底生動物	「神奈川県内河川の底生動物II」(神奈川県環境科学センター 平成26年3月)	65	アメリカツノウズムシ、マルタニシ、イトミミズ属、シマイシビル、ミズムシ、ヒラテテナガエビ、アメリカザリガニ、サホコカゲロウ、ハグロトンボ、コオニヤンマ、アメンボ、コガタシマトビケラ、セスジユスリカ等 (99種)
	「横浜の川と海の生物(第14報・河川編)」(横浜市環境科学研究所 平成28年3月)	73	
	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回~第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	9	
陸産貝類	「生物多様性情報システム-基礎調査データベース検索-(第2回~第6回自然環境保全基礎調査 動物分布調査書)」(環境省ホームページ 令和3年4月閲覧)	32	サドヤマトガイ、ケンガイ、ヒラマキミズマイマイ、ナミコギセル、オカチョウジガイ、ナメクジ、チャコウラナメクジ、ニッポンマイマイ、オナジマイマイ等 (32種)

イ. 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

動物の重要な種は、「ア. 脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相動物相」の文献その他の資料で確認された種について、前掲表 3.2-18 (P. 3-59、60) に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。

その結果、重要な種は前掲表 3.2-19 (P. 3-61～66) のとおり、哺乳類 2 種、鳥類 68 種、両生類 8 種、爬虫類 5 種、昆虫類等 55 種、魚類 18 種、底生動物 7 種及び陸産貝類 5 種が確認されています。

「環境アセスメントデータベース (EADAS)」(環境省ホームページ 令和 3 年 4 月閲覧) によれば、調査区域にはコウモリ洞の分布やコウモリ生息情報はありませんでした。

前掲図 3.2-25 (P. 3-68) に示すとおり、調査区域の北端(対象事業実施区域外)を含むメッシュにて、イヌワシの一時滞在の記録がありますが、生息確認や生息推定はなされていません。

クマタカ、オオワシ、オジロワシの生息分布や渡りをするタカ類の集結地、ガン類・ハクチョウ類の主要な集結地はありませんでした。

前掲図 3.2-26 (P. 3-69) 及び前掲図 3.2-27 (P. 3-70) に示すとおり、調査区域は、オオハクチョウ、コハクチョウ、ハクチョウ類、ガン類、マガン、亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ、ツル類、海ワシ類、アカハラダカ、サシバ、ノスリ、ハチクマ、その他猛禽類の渡りのルートになっていません。

前掲図 3.2-28 (P. 3-71) に示すとおり、対象事業実施区域を含むメッシュは、オオタカの生息ランクとして「繁殖を確認」に該当します。

ウ. 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

動物の注目すべき生息地については、前掲表 3.2-20 (P. 3-72～74) に示す法令や規制等の選定基準に基づき、学術上又は希少性の観点から選定しました。

調査区域における動物の注目すべき生息地は、前掲表 3.2-21 (P. 3-74) 及び前掲図 3.2-29 (P. 3-75) に示すとおり、調査区域には、「ホタル生息確認地域」及び「トンボ池等主なエコアップスポット(点のビオトープ)」が存在しており、対象事業実施区域には「ホタル生息確認地域」が含まれています。

② 現地調査

ア. 脊椎動物、昆虫類その他主な動物に係る動物相

a. 哺乳類

現地調査の結果、4目7科9種の哺乳類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-7 に示すとおりです。

表 9.10-7 確認種目録（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度			平成31年度	
					夏季	秋季	冬季	春季	夏季
1	モグラ(食虫)	モグラ	アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	●	●	●	●	●
2	コウモリ(翼手)	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科の一種	<i>Vespertilionidae sp.</i>	●			●	●
3	ネズミ(齧歯)	ネズミ	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>		●	●	●	●
4			ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>			●	●	●
5			ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>					●
-			ネズミ科の一種	<i>Muridae sp.</i>	●	●			
6	ネコ(食肉)	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	●	●	●	●	●
7		イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	●	●	●	●	●
8		イタチ	イタチ科の一種	<i>Mustelidae sp.</i>	●			●	
9		ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	●	●	●	●	●
合計	4目	7科	9種		7種	5種	6種	8種	8種

注：種名及び配列は原則として、「平成30年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成30年度版）に準拠しました。

b. 鳥類（一般鳥類）

現地調査の結果、14目34科66種の一般鳥類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-8 に示すとおりです。

表 9.10-8 確認種目録（一般鳥類）

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度			平成31年度		
					夏季	秋季	冬季	春季	初夏	夏季
1	キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus robustipes</i>	●		●	●	●	●
2	カモ	カモ	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>				●	●	●
3			コガモ	<i>Anas crecca crecca</i>			●			
4	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis orientalis</i>	●	●	●	●	●	●
5			アオバト	<i>Treron sieboldii sieboldii</i>						●
6	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo hanedae</i>				●	●	●
7	ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea juyi</i>		●		●	●	●
8			ダイサギ	<i>Ardea alba alba</i>				●		
9	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>		●			●	●
10			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		●				
11	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus kurodae</i>					●	
12	チドリ	チドリ	ムナグロ	<i>Pluvialis dominica fulva</i>	●					
13			コチドリ	<i>Charadrius dubius curonicus</i>				●	●	●
14	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>		●				
15		タカ	トビ	<i>Milvus migrans lineatus</i>			●		●	●
16			ツミ	<i>Accipiter gularis gularis</i>		●				
17			ハイタカ	<i>Accipiter nisus nisosimilis</i>			●			
18			オオタカ	<i>Accipiter gentilis fujiyamae</i>	●	●		●	●	●
19			ノスリ	<i>Buteo buteo japonicus</i>		●	●			
20	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis bengalensis</i>				●		
21	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki nippon</i>	●	●	●	●	●	●
22			アオゲラ	<i>Picus awokera awokera</i>	●	●		●	●	●
23	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus interstinctus</i>	●	●				●
24	スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus bucephalus</i>		●	●	●	●	●
25		カラス	オナガ	<i>Cyanopica cyanus japonica</i>	●	●		●	●	●
26			ハシボソガラス	<i>Corvus corone orientalis</i>	●	●	●	●	●	●
27			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos japonensis</i>	●	●	●	●	●	●
28		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Poecile varius varius</i>		●	●	●	●	●
29			シジュウカラ	<i>Parus minor minor</i>	●	●	●	●	●	●
30		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis japonica</i>	●	●	●	●	●	●
31		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica gutturalis</i>	●			●	●	●
32		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i>	●	●	●	●	●	●
33		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone cantans</i>	●	●	●	●	●	●
34		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus trivirgatus</i>	●	●			●	●
35		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>				●		
36		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus japonicus</i>	●	●	●	●	●	●
37		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>				●	●	●
38		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis bruniceps</i>	●	●		●	●	●
39		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes fumigatus</i>			●			
40		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	●	●	●	●	●	●
41		ヒタキ	トラツグミ	<i>Zoothera dauma aurea</i>			●			
42			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>			●			
43			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i>				●		
44			ツグミ	<i>Turdus naumanni eunomus</i>			●	●		
45			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus aureus</i>			●			
46			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus stejnegeri</i>		●				
47			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>		●				
48			キビタキ	<i>Ficedula narcissina narcissina</i>		●		●	●	
49	スズメ	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i>	●	●	●	●	●	●
50	セキレイ	キセキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea cinerea</i>		●	●		●	
51			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>	●	●	●	●	●	●
52			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>		●				
53			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i>				●		
54			タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>			●			
55	アトリ	カワラヒワ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica minor</i>	●	●	●	●	●	●
56			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes japonicus</i>			●	●		
57			イカル	<i>Eophona personata personata</i>				●	●	
58	ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides ciopsis</i>	●	●	●	●	●	●
59			ホオアカ	<i>Emberiza fucata fucata</i>				●		
60			カシラダカ	<i>Emberiza rustica latifascia</i>			●			
61			アオジ	<i>Emberiza spodocephala personata</i>			●	●		
62			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>			●	●		
63	(キジ)	(キジ)	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus thoracicus</i>	●	●	●	●	●	●
64	(インコ)	(インコ)	ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i>		●		●	●	●
65	(スズメ)	(チメドリ)	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	●	●	●	●	●	●
66	(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i>	●	●		●	●	●
合計	14目	34科		66種	26種	37種	34種	43種	38種	36種

注 種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会 平成24年9月）に準拠しました。

c. 鳥類（フクロウ類・夜行性鳥類）

現地調査の結果、1目1科1種のフクロウ類・夜行性鳥類が確認されました。

確認概要は表 9.10-9 に示すとおりです。

表 9.10-9 確認概要（フクロウ類・夜行性鳥類）

No.	目名	科名	種名	調査時期								
				平成31年繁殖期				令和2年繁殖期				
				平成31年		令和元年		令和2年				
				1月	2月	6月	8月	1月	2月	6月	8月	
1	フクロウ	フクロウ	フクロウ			●		●				
合計	1目	1科	1種	—	—	1種	—	1種	—	—	—	—

注：種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 平成24年9月）に準拠しました。

d. 鳥類（猛禽類）

現地調査の結果、2目3科8種の猛禽類が確認されました。

確認概要は表 9.10-10 に示すとおりです。

対象事業実施区域内にハイタカ、ノスリ、ハヤブサ等が確認され、特にオオタカは、対象事業実施区域における利用頻度が高く複数個体が観察されました。対象事業実施区域の環境と調査結果から、狩場（餌場）として利用していることが考えられます。

重要な種の保護の観点から、非表示としております。

表 9.10-10 確認概要（猛禽類）

No.	目名	科名	種名	調査時期													
				平成31年繁殖期							令和2年繁殖期						
				平成31年				令和元年			令和2年						
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ									1					
2		タカ	ツミ	1		4					1		3			1	
3			ハイタカ	1	4	1	14				8	7	2				
4			オオタカ	14	9	2	9	6	21	25	32	23	37	16	7	11	22
5			サシバ				1							3			
6			ノスリ	2	3							12	10	2	1		
7	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	1	2						4	3	5	1	2	2	1
8			ハヤブサ	1		2	3		1	1	5	2	2				
合計	2目	3科	8種	6種	4種	3種	5種	1種	2種	2種	6種	6種	5種	5種	2種	2種	3種

注：1. 種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 平成24年9月）に準拠しました。
2. 表内の数字は、確認例数を示します。

e. 鳥類(ねぐら調査)

ねぐら調査は、鳥類のねぐら入りが日の入り前後に行われることが多いこと、日の入り前に周辺の鳥類の群れの有無を把握することから、日の入りの概ね1時間半前から完全に日が暮れる時間帯となる日の入り30分後まで実施しました。

表 9.10-11 ねぐら調査の調査時期及び時間帯

調査時期	調査日	日の入り時刻	調査時間
秋季	令和2年11月2日	16:46	15:15～17:15
冬季	令和3年2月20日	17:28	15:25～18:00

現地調査の結果、秋季は群れの確認が早い時間帯であることから、ねぐらの位置は確認できませんでした。冬季は夕暮れ前後に群れを確認しましたが、滞留後に東方向に飛去していることから、ねぐらの位置は特定できませんでした。

調査結果の概要は表 9.10-12 に、聞き取り調査結果は表 9.10-13 に示すとおりです。

表 9.10-12 ムクドリのねぐらの確認概要

調査時期	確認日時	個体数	確認状況
秋季	令和2年 11/2 (月) 15:18～ 15:20	100 個体程度	現地調査の結果、ムクドリの群れを1群確認した。 確認位置は、上瀬谷旧通信施設北西側の畑の上空であり、100 個体程度の群れが上空を数回旋回し、その後、大門川沿いの樹林と草本の茂み方向に飛翔し、見失った。 夕暮れ前後には群れを確認することができなかったため、ねぐらの位置は確認できなかった。
冬季	令和3年 2/20 (土) 17:00～ 17:34	80 個体程度	現地調査の結果、ムクドリの群れ1群を確認した。 ムクドリの群れの確認位置は、海軍道路沿いの桜並木であり、樹上に止まっている80 個体程度のムクドリの群れを確認した。その後、日の入り時刻まで桜並木に滞留した後、東方向に飛翔し、見失った。 夕暮れ前後に群れを確認したが、ねぐらの位置は特定できなかった。

表 9.10-13 聞き取り調査結果

- ・杖の柄となるような木を探しに来た。夕暮れに鳥の群れがいるかは気にしたことはない。(60代男性)
- ・鳥類の群れのねぐら入りは特に確認していない。(50～60代男性)
- ・カラス以外の鳥の群れは夕方には見ていない。以前、この辺りはカラスが多かったが、昨年くらいから鳥よけの音(爆発音)を鳴らすようになってから、カラスの群れはこの辺りで見なくなった。(60代女性)
- ・子供が少年野球に入ってから、夕方迎えに来ている。通い始めてあまりたっていないが、夕方に鳥の群れを見かけていない。(30代女性)

f. 両生類

現地調査の結果、1目3科3種の両生類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-14 に示すとおりです。

表 9.10-14 確認種目録（両生類）

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度			平成31年度		
					夏季	秋季	早春季	春季	初夏季	夏季
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>		●	●	●		●
2		アマガエル	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>	●	●	●	●	●	●
3		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	●	●		●	●	
合計	1目	3科	3種		2種	3種	2種	3種	2種	2種

注：種名及び配列は原則として、「平成30年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成30年度版）に準拠しました。

g. 爬虫類

現地調査の結果、1目4科7種の爬虫類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-15 に示すとおりです。

表 9.10-15 確認種目録（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度			平成31年度		
					夏季	秋季	早春季	春季	初夏季	夏季
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	●	●		●		●
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>	●	●		●		●
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●		●		●
4		ナミヘビ	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	●	●				●
5			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>		●		●		
6			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>		●				
7			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>		●				
合計	1目	4科	7種		4種	7種	—	4種	—	4種

注：種名及び配列は原則として、「平成30年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成30年度版）に準拠しました。

h. 昆虫類

現地調査の結果、17目222科1,178種の昆虫類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-16 に示すとおりです。

表 9.10-16(1) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
1	トンボ	アオイトトンボ	オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>		●		
2		カワトンボ	ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>			●	●
3		イトトンボ	ホソミイトトンボ	<i>Aciagrion migratum</i>	●	●		
4			アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	●	●	●	
5		ヤンマ	アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>	●			
6			クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>			●	
7		ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>	●	●		●	
8		オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	●			
9		トンボ	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●	●	●	●
10			オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania melania</i>		●		
11			ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>	●			
12			ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>				●
13			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>		●		
14			ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>		●		
15		カワゲラ	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	●	●		●
16	オナシカワゲラ		<i>Nemoura</i> 属の一種	<i>Nemoura</i> sp.			●	
17	ゴキブリ	クロゴキブリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i>		●			
18	カマキリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	●	●	●	●
19		カマキリ	ハラヒロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>		●		
20	シロアリ	コカマキリ	<i>Stalitia maculata</i>		●			
21		オオカマキリ	<i>Tenodera sinensis</i>	●	●			
22		ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	<i>Reticulitermes speratus speratus</i>			●	
23	バッタ	コオロギ	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>	●	●		
24		ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>	●	●			
25		コオロギ	<i>Loxoblemmus</i> 属の一種	<i>Loxoblemmus</i> sp.		●		
26		ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>	●			●	
27		クマスマシ	<i>Sclerogryllus punctatus</i>	●				
28		マツムシ	アオマツムシ	<i>Triljalja hibinonis</i>	●	●		
29		ヒバリモドキ	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>		●		
30			ウスグモスズ	<i>Amusurgus genji</i>	●	●		
31			マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>		●		●
32			シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>		●		●
33	カネタタキ	ヤチスズ	<i>Pteronemobius ohmachi</i>		●			
34		カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>	●	●			
35	アリツカコオロギ	<i>Myrmecophilus</i> 属の一種	<i>Myrmecophilus</i> sp.	●		●	●	
36	ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>			●	●	
37	キリギリス	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>	●			●	
38		ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>				●	
39	バッタ	クビキリギス	<i>Euconocephalus varius</i>		●	●		
40		クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i>	●				
41		ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i>		●			
42		ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i>		●		●	
43		ササキリ	<i>Conocephalus melaenus</i>		●		●	
44		<i>Hexacentrus</i> 属の一種	<i>Hexacentrus</i> sp.		●			
45		クツラムシ	クツラムシ	<i>Mecopoda niponensis</i>				●
46		ツユムシ	サトクダマキモドキ	<i>Holochlora (Holochlora) japonica</i>	●	●		
47			ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i>		●		●
48		ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	<i>Criotettix japonicus</i>		●		
49	コバネヒシバッタ		<i>Formosatettix larvatus</i>			●		
50	ハラヒシバッタ		<i>Tetrix japonica</i>	●	●	●	●	
51	ヤセヒシバッタ		<i>Tetrix macilenta</i>	●				
52	オンブバッタ	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>	●	●		●	
53	バッタ	メスアカフキバッタ	<i>Parapodisma tenryuensis</i>	●	●			
54		ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>	●	●	●		
55		コバネイナゴ	<i>Oxva yezoensis</i>	●	●		●	
56		ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>	●	●		●	
57		ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>	●	●			
58		ヒナバッタ	<i>Glyptobothrus maritimus maritimus</i>	●	●	●	●	
59	マダラバッタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>		●				
60	トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i>	●	●		●		

表 9.10-16(2) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
61			クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>	●	●		●
62			イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i>	●	●		
63	ナナフシ	ナナフシモドキ	ナナフシモドキ	<i>Ramulus mikado</i>				●
64	ハサミムシ	ハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ	<i>Anisolabella marginalis</i>	●	●	●	●
65			ハマベハサミムシ	<i>Anisolabis maritima</i>	●	●	●	
66			コバネハサミムシ	<i>Euborellia annulata</i>	●	●		
67		オオハサミムシ	オオハサミムシ	<i>Labidura riparia</i>	●	●		
68	アザミウマ	クダアザミウマ	クダアザミウマ科の一種	Phlaeothripidae Gen. et sp.	●		●	
69	カメムシ	アブラムシ	クリオオアブラムシ	<i>Lachnus tropicalis</i>			●	
70			アブラムシ科の一種	Aphididae Gen. et sp.		●	●	
71		ワタフキカイガラムシ	オオワラジカイガラムシ	<i>Drosicha corpulenta</i>			●	
72		ヒメキジラミ	センダンコクロキジラミ	<i>Metapsylla uei</i>		●		
73		キジラミ	クワキジラミ	<i>Anomoneura mori</i>			●	●
74			ベニキジラミ	<i>Cacopsylla coccinea</i>			●	
75			ハコネキジラミ	<i>Cacopsylla hakonensis</i>			●	
76			Cacopsylla属の一種	<i>Cacopsylla</i> sp.			●	
77		セミ	ニイニイゼミ	<i>Platypleura kaempferi</i>	●			●
78			クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>	●			
79			アブラゼミ	<i>Graptosaltria nigrofuscata</i>	●	●		
80			ツクツクホウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	●	●		
81			ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>	●			
82			ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>	●			
83	コガシラアワフキムシ	コガシラアワフキ	コガシラアワフキ	<i>Eoscarta assimilis</i>				●
84	アワフキムシ	シロオビアワフキ	シロオビアワフキ	<i>Aphrophora intermedia</i>	●	●		●
85			ホシアワフキ	<i>Aphrophora stictica</i>	●			
86			クロスジアワフキ	<i>Aphrophora vittata</i>				●
87	トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ	ムネアカアワフキ	<i>Hindoloides bipunctata</i>			●	
88	ヨコバイ	ヨコバイ	ヨコバイ	<i>Ledropsis discolor</i>			●	
89			ツマグロオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>		●		
90			オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i>	●	●	●	●
91			マエジロオヨコバイ	<i>Kolla atramentaria</i>	●		●	
92			Pagaronia属の一種	<i>Pagaronia</i> sp.			●	
93			クロスジホソサジヨコバイ	<i>Sophonia orientalis</i>		●	●	
94			アオスキンヨコバイ亜科の一種	Iassinae Gen. et sp.		●		
95			クロサジヨコバイ	<i>Planaphrodes nigricans</i>			●	●
96			クロミヤクイチモンジヨコバイ	<i>Exitianus indicus</i>	●	●	●	
97			トバヨコバイ	<i>Alobaldia tobae</i>	●	●	●	
98			ミドリカスリヨコバイ	<i>Balclutha incisa</i>		●		
99			ヒメフタテンウスバヨコバイ	<i>Macrosteles striifrons</i>	●			
100			Macrosteles属の一種	<i>Macrosteles</i> sp.	●			
101			Hishimonus属の一種	<i>Hishimonus</i> sp.	●			
102			クロヒラタヨコバイ	<i>Penthimia nitida</i>			●	
103			ヒトツメヨコバイ	<i>Phlogotettix cyclops</i>	●			
104			フタスジトガリヨコバイ	<i>Futasujinus candidus</i>	●	●		
105			ヨコバイ亜科の一種	Deltocephalinae Gen. et sp.		●		
106			ホシヨコバイ	<i>Xestocephalus japonicus</i>		●		
107			ホシヒメヨコバイ	<i>Limassolla multipunctata</i>		●		
108			ヒメヨコバイ亜科の一種	Typhlocybinae Gen. et spp.	●			●
109	ウンカ	ウンカ	ウンカ	<i>Epeurysa nawai</i>				●
110			コフウンカ	<i>Tropidocephala brunneipennis</i>			●	
111			クロモンヒラアシウンカ	<i>Cemus sauteri</i>		●		
112			ヒメトビウンカ	<i>Laodelphax stratellus</i>	●	●		
113			ウンカ科の一種	Delphacidae Gen. et sp.	●	●		
114	グンバイウンカ	グンバイウンカ	グンバイウンカ	<i>Kallitaxila sinica</i>	●	●		
115			ヒラタグンバイウンカ	<i>Ossoides lineatus</i>		●		
116	マルウンカ	マルウンカ	マルウンカ	<i>Sarima amagisana</i>	●			●
117	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	●	●	●	
118	ハゴロモ	ハゴロモ	ハゴロモ	<i>Euricania fascialis</i>	●			
119			ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonicus</i>	●	●		
120			アミガサハゴロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>	●			
121	ミズムシ	ミズムシ	ミズムシ	<i>Sigara (Pseudovermicorixa) septemlineata</i>	●	●		
122	カタビロアメンボ	カタビロアメンボ	カタビロアメンボ	<i>Microvelia horvathi</i>	●			
123	アメンボ	アメンボ	アメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>		●		
124			アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	●	●		●
125			ヒメアメンボ	<i>Gerris (Gerris) latiabdominis</i>				●
126			ヤスマツアメンボ	<i>Gerris (Magrogerris) insularis</i>				●
127	カスミカメムシ	カスミカメ	カスミカメ	<i>Peritropis advena</i>				●
128			ツヤキノコカスミカメ	<i>Yamatofulvius miyamotoi</i>				●
129			オオクロトビカスミカメ	<i>Ectometopterus micantulus</i>	●			
130			Campylomma属の一種	<i>Campylomma</i> sp.		●		
131			キアシクロホソカスミカメ	<i>Phylus miyamotoi</i>			●	
132			Psallus属の一種	<i>Psallus</i> sp.			●	
133			ヒメヨモギカスミカメ	<i>Plagiognathus yomogi</i>	●			
134			ヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus setulosus</i>		●		●
135			クロヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus typicus</i>		●		
136			スアカシダカスミカメ	<i>Monalocoris filicis</i>				●
137			ナカグロカスミカメ	<i>Adelphocoris suturalis</i>	●	●	●	
138			ヒメセダカカスミカメ	<i>Charagochilus angusticollis</i>				●
139			アカホシカスミカメ	<i>Creontiades coloripes</i>	●			
140			ハギメンガタカスミカメ	<i>Eurystylus sauteri</i>	●			●
141			Lygocoris属の一種	<i>Lygocoris</i> sp.		●	●	
142			オオクロセダカカスミカメ	<i>Proboscidocoris varicornis</i>		●		
143			アカスジカスミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i>	●	●	●	
144			イネホソミドリカスミカメ	<i>Trigonotylus caelestialium</i>	●	●	●	
145			カスミカメムシ科の一種	Miridae Gen. et sp.			●	

表 9.10-16(3) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
146		ハナカメムシ	コヒメハナカメムシ	<i>Orius (Heterorius) minutus</i>		●	●	
147			ナミヒメハナカメムシ	<i>Orius (Heterorius) sauteri</i>			●	
148			モリモトヤサハナカメムシ	<i>Amphiareus morimotoi</i>				●
149			ヤサハナカメムシ	<i>Amphiareus obscuriceps</i>			●	●
150			ケシハナカメムシ	<i>Cardiastethus exiguus</i>		●		
151		グンバイムシ	ウチワグンバイ	<i>Cantacader lethierryi</i>	●			
152			ブラタナスグンバイ	<i>Corythucha ciliata</i>	●	●		
153			アワダチソウグンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>	●	●	●	●
154			ヤブガラシグンバイ	<i>Cysteochila consueta</i>	●	●	●	
155			ヘクソカズラグンバイ	<i>Dulinius conchatus</i>		●		
156			ナシグンバイ	<i>Stephanitis (Stephanitis) nashi</i>				●
157			ツツジグンバイ	<i>Stephanitis (Stephanitis) pyrioides</i>	●			●
158			トサカグンバイ	<i>Stephanitis (Stephanitis) takeyai</i>			●	
159		マキバサシガメ	ミナミマキバサシガメ	<i>Nabis (Tropiconabis) kinbergii</i>	●	●		
160		サシガメ	アカシマサシガメ	<i>Haematoloecha nigrorufa</i>			●	
161			ヨコツナサシガメ	<i>Agriosphodrus dohrni</i>		●	●	
162			アカサシガメ	<i>Cydnocoris russatus</i>		●	●	
163			オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>		●		
164			ヒゲナガサシガメ	<i>Serendiba staliana</i>				●
165			シマサシガメ	<i>Sphedanolestes impressicollis</i>		●	●	
166			ヤニサシガメ	<i>Velinus nodipes</i>	●		●	
167			Polytoxus 属の一種	<i>Polytoxus sp.</i>				●
168			モモブトトビイロサシガメ	<i>Oncoccephalus femoratus</i>		●		
169		ヒゲナガカメムシ	ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>	●	●	●	
170		ヒョウタンナガカメムシ	ヒナナガカメムシ	<i>Iodinus ferrugineus</i>			●	
171			オオチャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus assamensis</i>	●			●
172			チャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus dallasi</i>		●	●	
173			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	<i>Gyndes pallicornis</i>		●		
174			サビヒョウタンナガカメムシ	<i>Horridipamera inconspicua</i>	●	●		●
175			キベリヒョウタンナガカメムシ	<i>Horridipamera lateralis</i>	●	●		
176			チビナガカメムシ	<i>Stigmatonotum rufipes</i>				●
177			コバネヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>	●	●	●	
178			オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochus abbreviatus</i>	●			●
179			モンシロナガカメムシ	<i>Panaorus albomaculatus</i>	●			●
180			シロヘリナガカメムシ	<i>Panaorus japonicus</i>		●		
181		オオメナガカメムシ	ヒメオオメナガカメムシ	<i>Geocoris (Geocoris) proteus</i>	●	●		●
182			オオメナガカメムシ	<i>Geocoris (Geocoris) varius</i>	●	●	●	
183		コバネナガカメムシ	コバネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i>		●	●	
184			ホソコバネナガカメムシ	<i>Macropes obnubilus</i>	●	●	●	●
185		マダラナガカメムシ	ヤスマツナガカメムシ	<i>Pylorgus yasumatsui</i>		●		
186			セスジナガカメムシ	<i>Arocatus melanostoma</i>	●			
187			ヒメジュウジナガカメムシ	<i>Tropidothorax sinensis</i>	●	●	●	
188			ヒメナガカメムシ	<i>Nysius plebeius</i>	●	●	●	●
189		ヒメヒラタナガカメムシ	ホソヒメヒラタナガカメムシ	<i>Cymus koreanus</i>		●		
190		メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	<i>Chauliops fallax</i>	●	●	●	●
191		イトカメムシ	ヒメイトカメムシ	<i>Metacanthus pulchellus</i>	●			
192			イトカメムシ	<i>Yemma exilis</i>	●		●	
193		オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>		●		
194		ホシカメムシ	クロホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sinuaticollis</i>		●	●	
195		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>		●		
196			ニセヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius vulgaris</i>	●			
197			ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus (Riptortus) pedestris</i>	●	●	●	●
198		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhyssus hyalinus</i>	●	●		
199			アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus (Aeschyntelus) maculatus</i>			●	●
200			コブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus minutus</i>			●	●
201			ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i>	●		●	
202		ヘリカメムシ	ヒメトゲヘリカメムシ	<i>Coriomeris scabricornis</i>	●			
203			ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>	●	●	●	●
204			ツマキヘリカメムシ	<i>Hygia (Hygia) opaca</i>	●	●	●	●
205			ミナミトゲヘリカメムシ	<i>Paradasynus spinosus</i>	●	●		
206			ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	●	●	●	●
207			ハリカメムシ	<i>Cletus schmidtii</i>			●	
208			キバラヘリカメムシ	<i>Plinactus bicoloripes</i>	●	●	●	
209			オオクモヘリカメムシ	<i>Homoeocerus (Anacanthocoris) striicornis</i>	●	●	●	
210			ホシハラビロヘリカメムシ	<i>Homoeocerus (Tiponius) unipunctatus</i>	●	●	●	●
211		マルカメムシ	マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>	●	●	●	●
212		ツチカメムシ	ヒメツチカメムシ	<i>Fromundus pygmaeus</i>			●	
213			ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>	●	●		
214			フタバソツチカメムシ	<i>Adomerus rotundus</i>				●
215			ミツボソツチカメムシ	<i>Adomerus triguttulus</i>	●	●		●
216		キンカメムシ	アカスジキンカメムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i>		●	●	●
217		ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ	<i>Megymenum gracilicorne</i>				●
218		カメムシ	シロヘリクチフトカメムシ	<i>Andrallus spinidens</i>		●		
219			ウスラカメムシ	<i>Aelia fieberi</i>		●	●	●
220			チャバネアオカメムシ	<i>Plautia stali</i>	●	●	●	●
221			クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>	●	●	●	●
222			ヨツボシカメムシ	<i>Homalogonia obtusa</i>		●		
223			ブチヒゲカメムシ	<i>Dolycoris baccarum</i>	●	●		
224			トゲシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris aeneus</i>				●
225			ムラサキシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>	●	●	●	●
226			ウシカメムシ	<i>Acimocoris japonensis</i>	●			
227			ナカボンカメムシ	<i>Menida musiva</i>	●	●		
228			ツギアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>	●	●	●	●
229			アオクサカメムシ	<i>Nezara antennata</i>		●		
230			イチモンジカメムシ	<i>Piezodorus hybneri</i>		●		

表 9.10-16(4) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
231			シロヘリカメムシ	<i>Aenaria lewisi</i>			●	●
232			ナガメ	<i>Eurydema rugosa</i>	●	●	●	●
233			エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>			●	●
234			ハナダカカメムシ	<i>Dybowskyia reticulata</i>				●
235			オオクロカメムシ	<i>Scotinophara horvathi</i>			●	●
236			イネクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i>			●	●
237		ツノカメムシ	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>	●		●	●
238			ベニモンツノカメムシ	<i>Elasmostethus humeralis</i>				●
239			エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>	●	●	●	●
240	アミメカゲロウ	ヒロバカゲロウ	ヤマトヒロバカゲロウ	<i>Spilosmylus tuberculatus</i>				●
241		ヒメカゲロウ	キバネヒメカゲロウ	<i>Hemerobius harmandinus</i>			●	●
242			<i>Hemerobius</i> 属の数種	<i>Hemerobius</i> spp.			●	●
243			チャバネヒメカゲロウ	<i>Micromus numerosus</i>			●	●
244		クサカゲロウ	アミメクサカゲロウ	<i>Apochrysa matsumurae</i>	●	●	●	●
245			ヨツボシクサカゲロウ	<i>Chrysopa pallens</i>	●		●	●
246			ヤマトクサカゲロウ	<i>Chrysoperla nipponensis</i>			●	●
247			ヨツボシアカマダラクサカゲロウ	<i>Pseudomallada parabolus</i>		●		●
248		ウスバカゲロウ	コカスリウスバカゲロウ	<i>Distoleon contubernalis</i>				●
249			ホシウスバカゲロウ	<i>Paraglenurus japonicus</i>	●			●
250		ツノトンボ	ツノトンボ	<i>Ascalohybris subjacens</i>	●			●
251	コウチュウ	ナガヒラタムシ	ナガヒラタムシ	<i>Tenomerga mucida</i>				●
252		ハンミョウ	トウキョウヒメハンミョウ	<i>Cicindela kaleea yedoensis</i>	●			●
253		オサムシ	エゾカタビロオサムシ	<i>Campalita chinense</i>	●			●
254			マイマイカブリ	<i>Carabus (Damaster) blaptoides oxuroides</i>				●
255			アオオサムシ	<i>Carabus (Ohomopterus) insulicola insulicola</i>	●	●	●	●
256			クロヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina lewisi</i>	●			●
257			メダカチビカワゴミムシ	<i>Asaphidion semilucidum</i>				●
258			アトモンミスギワゴミムシ	<i>Bembidion niloticum batesi</i>	●			●
259			クロオビコムスギワゴミムシ	<i>Paratachys fasciatus uenoi</i>	●			●
260			ウスオビコムスギワゴミムシ	<i>Paratachys sericans</i>	●			●
261			ウスモンコムスギワゴミムシ	<i>Tachyura fuscicauda</i>	●			●
262			アトモンコムスギワゴミムシ	<i>Tachyura klugi euglypta</i>		●		●
263			ヨツモンコムスギワゴミムシ	<i>Tachyura laetifica</i>	●			●
264			キアシヌレチゴミムシ	<i>Patrobus flavipes</i>		●		●
265			オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i>			●	●
266			トックリナガゴミムシ	<i>Pterostichus haptoderoides japonensis</i>		●		●
267			コガシラナガゴミムシ	<i>Pterostichus microcephalus</i>	●	●	●	●
268			アオグロヒラタゴミムシ	<i>Agonum chalcomum</i>				●
269			ハラアカモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes japonicus</i>			●	●
270			セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>		●	●	●
271			マルガタツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus arcuaticollis</i>		●	●	●
272			クロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus cycloderus</i>		●	●	●
273			ヒメツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus dulcigradus</i>		●	●	●
274			オオクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus nitidus</i>		●		●
275			マルガタゴミムシ	<i>Amara chalcites</i>			●	●
276			ニセマルガタゴミムシ	<i>Amara congrua</i>			●	●
277			ナガマルガタゴミムシ	<i>Amara macronota ovalipennis</i>		●	●	●
278			コマルガタゴミムシ	<i>Amara simplicidens</i>	●	●	●	●
279			<i>Amara</i> 属の一種	<i>Amara</i> sp.			●	●
280			ホシボンゴモムシ	<i>Anisodactylus punctatipennis</i>	●			●
281			ゴミムシ	<i>Anisodactylus signatus</i>			●	●
282			マルガタゴモクムシ	<i>Harpalus bungii</i>			●	●
283			トゲアシゴモクムシ	<i>Harpalus calceatus</i>	●			●
284			ヒロゴモクムシ	<i>Harpalus corporosus</i>		●		●
285			ハコダテゴモクムシ	<i>Harpalus discrepans</i>			●	●
286			ケウスゴモクムシ	<i>Harpalus griseus</i>		●		●
287			ヒメケゴモクムシ	<i>Harpalus jureceki</i>		●		●
288			クロゴモクムシ	<i>Harpalus niigatanus</i>		●		●
289			ニセクロゴモクムシ	<i>Harpalus simplicidens</i>		●		●
290			ウスアカクロゴモクムシ	<i>Harpalus sinicus</i>	●	●		●
291			コゴモクムシ	<i>Harpalus tridens</i>		●		●
292			ケゴモクムシ	<i>Harpalus vicarius</i>		●		●
293			キイロチビゴモクムシ	<i>Acupalpus inornatus</i>				●
294			イツホシマメゴモクムシ	<i>Stenolophus quinquepustulatus</i>	●		●	●
295			オオスナハラゴミムシ	<i>Diplocheila zeelandica</i>	●			●
296			クロケブカゴミムシ	<i>Peronomerus nigrinus</i>		●		●
297			コキベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius circumdatus</i>		●		●
298			ヒメキベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius inops</i>	●			●
299			ニセコガシラアオゴミムシ	<i>Chlaenius kurosawai</i>	●			●
300			オオアトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius micans</i>		●		●
301			アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>	●			●
302			キボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius posticalis</i>		●		●
303			ムナビロアトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius tetragonoderus</i>	●			●
304			アトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius virgulifer</i>	●	●		●
305			スジアオゴミムシ	<i>Haplochlaenius costiger</i>			●	●
306			ヤマトトックリゴミムシ	<i>Lachnocyberis japonica</i>				●
307			トックリゴミムシ	<i>Lachnocyberis prolixa</i>				●
308			クロツブゴミムシ	<i>Pentagonica subcordicollis</i>				●
309			トゲアトクリゴミムシ	<i>Aephnidius adelioides</i>		●		●
310			キボシアトクリゴミムシ	<i>Anomotarus stigmula</i>	●			●
311			アオアトクリゴミムシ	<i>Calleida onoha</i>		●		●
312			ハギキノゴミムシ	<i>Coptodera subapicalis</i>				●
313			ヒコサンジュウジアトクリゴミムシ	<i>Lebia hikosana</i>			●	●
314			アトグロジュウジアトクリゴミムシ	<i>Lebia idae</i>	●			●
315			ジュウジアトクリゴミムシ	<i>Lebia retrofasciata</i>		●	●	●

表 9.10-16(5) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
316			ヤホシコムシ	<i>Lebidia octoguttata</i>		●		
317			ヒラダアトキリコムシ	<i>Parena cavipennis</i>				●
318			クロヘリアトキリコムシ	<i>Parena nigrolineata nipponensis</i>	●			
319			フダホシシバネコムシ	<i>Planetes puncticeps</i>				●
320			コマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus acuminatus</i>	●			
321			チビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus japonicus</i>	●			
322			ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>	●			
323			ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes sticticus</i>		●		●
324			アカケシガムシ	<i>Cercyon olivrus</i>	●			
325			Cercyon属の一種	<i>Cercyon sp.</i>		●		
326			キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i>	●			
327			コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>	●			
328			ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>	●			
329			トゲバコマフガムシ	<i>Berosus (Enoplurus) lewisius</i>	●			●
330			チュウジョウチビエンマムシ	<i>Binhister chujoii</i>	●			●
331			キノコアカマルエンマムシ	<i>Notodoma fungorum</i>				●
332			ツヤマルエンマムシ	<i>Atholus pirithous</i>		●		
333			コエンマムシ	<i>Margarinotus (Grammostethus) niponicus</i>	●		●	
334			ヒメナガエンマムシ	<i>Platysoma (Platysoma) celatum</i>				●
335			ニセヒメナガエンマムシ	<i>Platysoma (Platysoma) rasile</i>			●	
336			ウスイロヒメタマキノコムシ	<i>Pseudocolenis (Pseudocolenis) hilleri</i>		●		
337			ヨツボシモンシテムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>			●	
338			オオヒラタシテムシ	<i>Eusilpha japonica</i>	●	●	●	●
339			Trisinus属の一種	<i>Trisinus sp.</i>			●	
340			ムネトゲアリゾカムシ上族の一種	<i>Batrisitae Gen. et sp.</i>	●			
341			Bryaxis属の一種	<i>Bryaxis sp.</i>			●	
342			アリゾカムシ亜科の一種	<i>Pselaphinae Gen. et sp.</i>		●		
343			Lordithon属の一種	<i>Lordithon sp.</i>	●			
344			クロゲヒメキノコハネカクシ	<i>Sepedophilus armatus</i>			●	●
345			Sepedophilus属の一種	<i>Sepedophilus sp.</i>	●			
346			クロズシリホソハネカクシ	<i>Tachyporus celatus</i>		●	●	●
347			Tachyporus属の一種	<i>Tachyporus sp.</i>		●	●	
348			Aleochara属の一種	<i>Aleochara sp.</i>	●			
349			Atheta属の數種	<i>Atheta spp.</i>	●	●	●	●
350			ショウジョウハネカクシ	<i>Thamiaraea (Thamiaraea) diffinis</i>		●		
351			ヒメハネカクシ族の一種	<i>Athetini Gen. et sp.</i>	●			
352			アメイロセミソハネカクシ	<i>Myrmecocephalus concinnus</i>		●		
353			キバネセミソハネカクシ	<i>Myrmecocephalus sapidus</i>	●			
354			カレキハネカクシ族の一種	<i>Homalotini Gen. et sp.</i>		●		
355			クロツヤクサアリハネカクシ	<i>Pella comes</i>			●	
356			ヒゲブトハネカクシ亜科の一種	<i>Aleocharinae Gen. et sp.</i>			●	
357			ヤマトデオキノコムシ	<i>Scaphidium japonum</i>				●
358			クリイロケシデオキノコムシ	<i>Scaphisoma castaneipenne</i>		●		
359			ツマキケシデオキノコムシ	<i>Scaphisoma haemorrhoidale</i>			●	●
360			アカミケシデオキノコムシ	<i>Scaphisoma rubrum</i>		●		
361			Scaphisoma属の一種	<i>Scaphisoma sp.</i>		●		●
362			ナガモリツツハネカクシ	<i>Nacaeus longulus</i>			●	
363			Bledius属の一種	<i>Bledius sp.</i>	●			
364			コバネアシベセスジハネカクシ	<i>Anotylus amicus</i>	●		●	●
365			ルイスツヤセスジハネカクシ	<i>Anotylus lewisius</i>				●
366			Anotylus属の一種	<i>Anotylus sp.</i>		●		
367			Carpelimus属の數種	<i>Carpelimus spp.</i>	●	●		
368			Oxytelus属の一種	<i>Oxytelus sp.</i>	●	●		
369			アアカシユミセミソハネカクシ	<i>Thinodromus (Thinodromus) deceptor</i>		●		
370			コクロメダカハネカクシ	<i>Stenus melanarius</i>	●			
371			キアシホソメダカハネカクシ	<i>Stenus rugipennis</i>				●
372			Stenus属の一種	<i>Stenus sp.</i>			●	
373			ルイスヒメコケムシ	<i>Euconnus (Napochus) lewisii</i>			●	
374			フダホシシリグロハネカクシ	<i>Astenus (Astenognathus) maculipennis</i>		●		
375			ヒメシリグロハネカクシ	<i>Astenus brevipes</i>		●	●	
376			カワベナガエハネカクシ	<i>Ochtheophilum cuneatum</i>		●		
377			クロストガリハネカクシ	<i>Lithocharis nigriceps</i>	●	●		
378			アオバアリガタハネカクシ	<i>Paederus (Heteropaederus) fuscipes</i>		●		
379			クビボソハネカクシ	<i>Rugilus (Eurystilicus) rufescens</i>	●	●		
380			ホソチビツヤムネハネカクシ	<i>Heterothops cognatus</i>			●	●
381			オオメチビツヤムネハネカクシ	<i>Heterothops rotundiceps</i>			●	
382			オオドウガネコガシラハネカクシ	<i>Philonthus (Philonthus) lewisius</i>	●			
383			オオアカバコガシラハネカクシ	<i>Philonthus (Philonthus) spinipes</i>	●			
384			ヘリアカバコガシラハネカクシ	<i>Philonthus (Philonthus) tardus</i>				●
385			ニセヒゲナガコガシラハネカクシ	<i>Philonthus (Philonthus) wuesthoffi</i>				●
386			Philonthus属の一種	<i>Philonthus sp.</i>		●		
387			クロサビイロマルズオオハネカクシ	<i>Ocytus (Pseudocyclus) lewisius</i>		●	●	
388			アカバトガリオオズハネカクシ	<i>Platydracus (Platydracus) brevicornis</i>	●			
389			クロガネトガリオオズハネカクシ	<i>Platydracus (Platydracus) inornatus</i>	●			
390			ムネビロハネカクシ	<i>Algon grandicollis</i>				●
391			Staphylinini族の一種	<i>Staphylinini Gen. et sp.</i>	●	●		
392			クロバネツツガタナガハネカクシ	<i>Hypnogyra tenebrosa</i>		●		
393			ツマアカマルハナノミダマシ	<i>Eucinetus haemorrhoidalis</i>				●
394			マルハナノミ	<i>Herthania sasagawai</i>			●	
395			コキムネマルハナノミ	<i>Sacodes nakanei</i>			●	
396			クワガタムシ	<i>Prosopocoilus inclinatus inclinatus</i>	●			
397			センチコガネ	<i>Pheilotrupes (Eogeotrupes) laevistriatus</i>	●	●	●	●
398			コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus (Gibbonthophagus) atripennis</i>	●			
399			カナブン	<i>Pseudotrynorhina japonica</i>	●			●
400			コアオハナムグリ	<i>Gametis jucunda</i>	●	●	●	●

表 9.10-16(6) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
401			シロテンハナムグリ	<i>Protaetia (Calopototia) orientalis submarmorata</i>	●		●	●
402			ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>	●		●	●
403			コイチャコガネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>	●		●	●
404			マメコガネ	<i>Popillia japonica</i>	●	●		●
405			アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa albopilosa</i>	●	●		●
406			ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i>	●			●
407			サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i>	●			●
408			ヒラタアオコガネ	<i>Anomala octiescostata</i>			●	
409			ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i>	●			●
410			セマダラコガネ	<i>Exomala orientalis</i>				●
411			ウスチャコガネ	<i>Phyllopertha diversa</i>			●	
412			カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>	●			●
413			アシナゴコガネ	<i>Hoplia (Euchromoplia) communis</i>			●	
414			クロコガネ	<i>Holotrichia kiotonensis</i>			●	
415			オオクロコガネ	<i>Holotrichia parallela</i>				●
416			コクロコガネ	<i>Holotrichia picea</i>			●	
417			コフキコガネ	<i>Melolontha japonica</i>	●			
418			マルガタビロウドコガネ	<i>Maladera (Aserica) secreta</i>	●			
419			アカビロウドコガネ	<i>Maladera (Cephaloserica) castanea</i>	●			●
420			ビロウドコガネ	<i>Maladera (Omataladera) japonica</i>		●		
421			カミヤビロウドコガネ	<i>Maladera (Omataladera) kamiyai</i>	●			
422			ヒメビロウドコガネ	<i>Maladera (Omataladera) orientalis</i>			●	
423		ヒラタドロムシ	ヒラタドロムシ	<i>Mataeocephalus japonicus japonicus</i>	●			
424		チビドロムシ	リュウキュウダエンチビドロムシ	<i>Pelochares ryukyensis</i>	●			
425		タマムシ	ムツボシタマムシ	<i>Chrysobothris succedanea</i>			●	
426			ムネアカチビナカボソタマムシ	<i>Nalanda rutilicollis rutilicollis</i>	●			●
427			シラホシナガタマムシ	<i>Agrilus decoloratus</i>				●
428			ヒシモンナガタマムシ	<i>Agrilus discalis</i>		●	●	●
429			マサキナガタマムシ	<i>Agrilus euonvni</i>				●
430			ムネアカナガタマムシ	<i>Agrilus imitans</i>			●	
431			クワナガタマムシ	<i>Agrilus komareki komareki</i>			●	
432			ツヤケシナガタマムシ	<i>Agrilus nipponigena</i>			●	
433			ウグイスナガタマムシ	<i>Agrilus tempestivus</i>			●	●
434			アオグロナガタマムシ	<i>Agrilus viridiobscurus</i>			●	
435			クズノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>	●	●	●	●
436			コウゾチビタマムシ	<i>Trachys broussonetiae</i>	●	●	●	●
437			ウメチビタマムシ	<i>Trachys inconspicuus</i>			●	
438			サシゲチビタマムシ	<i>Trachys robustus</i>	●			
439			ヤノナミガタチビタマムシ	<i>Trachys vanoii</i>	●		●	
440		コメツキムシ	ヒゲコメツキ	<i>Pectocera hige hige</i>			●	
441			サビキコリ	<i>Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus</i>	●	●	●	●
442			ムナビロサビキコリ	<i>Agrypnus (Agrypnus) cordicollis</i>		●		●
443			コガタヒメサビキコリ	<i>Agrypnus (Colaulon) hypnicola</i>	●			
444			ホソサビキコリ	<i>Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus</i>				●
445			マダラチビコメツキ	<i>Prodrasterius agnatus</i>	●	●	●	
446			オオツヤハダコメツキ	<i>Stenagostus umbratilis</i>	●			
447			シモフリコメツキ	<i>Actenicerus pruinosus</i>			●	
448			アカヒゲヒラタコメツキ	<i>Neopristilophus serrifer serrifer</i>			●	
449			チャイロコメツキ	<i>Haterumelater bicarinatus bicarinatus</i>				●
450			ヒゲナガコメツキ	<i>Mulsanteus junior junior</i>			●	
451			ヒメオオナガコメツキ	<i>Nipponoelater kometsuki</i>	●			
452			オオナガコメツキ	<i>Nipponoelater sieboldi sieboldi</i>	●			
453			キバネクチボソコメツキ	<i>Glyphonyx bicolor bicolor</i>	●			
454			クロスジクチボソコメツキ	<i>Glyphonyx dalopiooides</i>				●
455			ニセクチフトコメツキ	<i>Lanecarus palustris</i>			●	
456			マルクビクシコメツキ	<i>Melanotus fortnumi fortnumi</i>			●	
457			クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>			●	●
458			ルイスクシコメツキ	<i>Melanotus lewisi lewisi</i>	●			
459			オオクロクシコメツキ	<i>Spheniscosomus cribricollis</i>			●	
460			ヒラタクシコメツキ	<i>Spheniscosomus koikei</i>			●	
461			アカアシハナコメツキ	<i>Dicronychus (Displatynychus) adjutor adjutor</i>				●
462			オオハナコメツキ	<i>Dicronychus (Platynychus) nothus</i>			●	●
463			コハナコメツキ	<i>Paracardiophorus pullatus pullatus</i>	●	●	●	●
464		ヒゲプトコメツキ	ミカドヒゲプトコメツキ	<i>Trixagus micado micado</i>		●		
465		コメツキダマシ	コヒメミゾコメツキダマシ	<i>Dromaeolus brevipis</i>	●			
466		ベニボタル	クロハナボタル	<i>Plateros coracinus</i>	●			●
467		ホタル	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>				●
468			ノハラボタル	<i>Pyropyga sp.</i>	●	●		
469		ジョウカイボン	ウスイロクビボソジョウカイ	<i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) temporalis</i>			●	
470			オカベセボシジョウカイ	<i>Lycocerus okabei okabei</i>			●	
471			ジョウカイボン	<i>Lycocerus suturellus suturellus</i>			●	
472			セボシジョウカイ	<i>Lycocerus vitellinus</i>			●	
473		カツオブシムシ	カマキリタマゴカツオブシムシ	<i>Thaumaglossa rufocapillata</i>	●			
474			ヒメマルカツオブシムシ	<i>Anthrenus verbasci</i>			●	●
475		ナガシクイムシ	ニホンタケナガシクイ	<i>Dinoderus japonicus</i>			●	
476		シバンムシ	ツツガタシバンムシ	<i>Gastrallus affinis</i>				●
477			タイワンタマキノコシバンムシ	<i>Byrrhodes tomokunii</i>	●			
478			ヒメホコリダケシバンムシ	<i>Caenocara rufitarse</i>			●	
479		コクヌスト	ハロルドヒメコクヌスト	<i>Ancyrona haroldi</i>	●		●	
480		カッコウムシ	ツマグロツツカッコウムシ	<i>Tenerus hilleri</i>				●
481			アカアシホシカムシ	<i>Necrobia rufipes</i>			●	
482		ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ	<i>Laius historio</i>				●
483			キアシオビジョウカイモドキ	<i>Laius pellegrini</i>	●			
484			ツマキアジョウカイモドキ	<i>Malachius prolongatus</i>			●	

表 9.10-16(7) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
485		ゲシキスイ	ホソキヒラタゲシキスイ	<i>Epuraea (Epuraea) oblonga</i>			●	
486			マメヒラタゲシキスイ	<i>Epuraea (Haptoncurina) paulula</i>	●	●		
487			モンチビヒラタゲシキスイ	<i>Epuraea (Haptoncus) ocularis</i>		●		
488			クロハナゲシキスイ	<i>Carpophilus (Carpophilus) chalybeus</i>	●	●	●	●
489			クリヤゲシキスイ	<i>Carpophilus (Carpophilus) hemipterus</i>		●		
490			クリイロデオキスイ	<i>Carpophilus (Carpophilus) marginellus</i>		●		
491			カタベニデオキスイ	<i>Urophorus (Anophorus) humeralis</i>		●		
492			ヨツボシゲシキスイ	<i>Glischrochilus (Librodor) ipsoides</i>	●			
493			ヨツボシゲシキスイ	<i>Glischrochilus (Librodor) japonicus</i>				●
494			クロモンムクゲシキスイ	<i>Aethina (Aethina) flavicollis</i>	●		●	●
495			チビムクゲシキスイ	<i>Aethina (Circopes) suturalis</i>			●	
496			コクロヒラタゲシキスイ	<i>Ipedia (Hemipidia) sibirica</i>			●	
497			アカマダラゲシキスイ	<i>Phenolia (Lasiodites) picta</i>	●	●		●
498			ヒメアカマダラゲシキスイ	<i>Phenolia (Lasiodites) sadanarii</i>			●	
499			マルキマダラゲシキスイ	<i>Stelidota multiguttata</i>	●	●	●	●
500			キベリチビゲシキスイ	<i>Meligethes violaceus</i>			●	
501		ネスイムシ	オバケデオネスイ	<i>Mimemodes monstrosus</i>		●		
502			トビイロデオネスイ	<i>Monotoma picipes</i>	●			
503		ヒメハナムシ	エムモンチビヒメハナムシ	<i>Acyломus polygramma</i>	●	●	●	
504			Acyломus 属の一種	<i>Acyломus sp.</i>			●	
505			キイロアシナガヒメハナムシ	<i>Augasmus nipponicus</i>	●	●	●	●
506			トビイロヒメハナムシ	<i>Olibrus consanguineus</i>	●	●	●	
507			チビスマルヒメハナムシ	<i>Phalacrus luteicornis</i>		●		●
508		チビヒラタムシ	Leptophloeus 属の一種	<i>Leptophloeus sp.</i>	●			
509			オオキバチビヒラタムシ	<i>Nipponophloeus dorcoides</i>			●	●
510			カドムネチビヒラタムシ	<i>Placonotus testaceus</i>			●	
511		ホソヒラタムシ	ミツモンセマルヒラタムシ	<i>Psammoecus trimaculatus</i>		●	●	●
512			マルムネホソヒラタムシ	<i>Silvanolomus inermis</i>			●	
513			アダマホソヒラタムシ	<i>Silvanoprus cephalotes</i>		●		
514			ミツカドコナヒラタムシ	<i>Silvanoprus scuticollis</i>	●		●	●
515		キスイムシ	クロモンキスイ	<i>Cryptophagus decoratus</i>		●	●	
516			Cryptophagus 属の數種	<i>Cryptophagus spp.</i>			●	
517			ケナガセマルキスイ	<i>Atomaria horridula</i>	●	●		
518			キイロセマルキスイ	<i>Atomaria lewisi</i>		●	●	
519			マルガタキスイ	<i>Curelius japonicus</i>		●		
520		ムクゲキスイムシ	アカグロムクゲキスイ	<i>Biphyllus lewisi</i>				●
521			ハスモンムクゲキスイ	<i>Biphyllus rufopictus</i>			●	●
522		オオキノコムシ	ヒメムクゲオオキノコ	<i>Cryptophilus propinquus</i>	●			
523			ケナガマルキスイ	<i>Toramus glisonothoides</i>	●	●		
524			ゲシコメツキモドキ	<i>Microlanguria jansoni</i>	●	●	●	●
525			スグロホソオオキノコ	<i>Dacne (Xenodacne) zonaria</i>			●	
526			カタモンオオキノコ	<i>Aulacochilus japonicus</i>	●			●
527			ヒメオビオオキノコ	<i>Episcapha (Episcapha) fortunei</i>			●	
528		ミジンムシ	ナカグロミジンムシ	<i>Arthrolips lewisii</i>	●	●	●	
529			マエキミジンムシ	<i>Arthrolips oblongus</i>	●			
530			Arthrolips 属の一種	<i>Arthrolips sp.</i>	●	●	●	
531			ベニモンツヤミジンムシ	<i>Parmulus politus</i>				●
532			ムクゲミジンムシ	<i>Sericoderus lateralis</i>	●	●		
533			Sericoderini 族の一種	<i>Sericoderini Gen. et sp.</i>			●	
534		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i>	●	●	●	●
535		テントウムシ	クロツヤテントウ	<i>Serangium japonicum japonicum</i>	●	●	●	
536			ムツボシテントウ	<i>Sticholotis punctata</i>	●	●	●	
537			ハダニクロヒメテントウ	<i>Stethorus (Stethorus) pusillus</i>	●	●	●	
538			セスジヒメテントウ	<i>Nephus patagiatus</i>	●	●	●	
539			アトホシヒメテントウ	<i>Nephus phosphorus</i>	●	●	●	
540			シヨクフダホシヒメテントウ	<i>Nephus shikokensis</i>	●	●	●	●
541			ハレヤヒメテントウ	<i>Sasajiscymnus hareja</i>	●	●	●	
542			ツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) dorcatomoides</i>	●	●	●	
543			オニヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) giganteus</i>			●	
544			カワムラヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) kawamurai</i>	●	●	●	●
545			コクロヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) posticalis</i>	●	●	●	●
546			ニセツマアカヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) rectoides</i>	●	●	●	●
547			ナガヒメテントウ	<i>Scymnus (Pullus) ruficeps</i>	●			
548			フダホシテントウ	<i>Hyperaspis japonica</i>	●		●	
549			ナガサキクテントウ	<i>Telsimia nagasakiensis</i>	●	●		
550			フダモンクテントウ	<i>Cryptogonus orbiculus</i>			●	●
551			モンクチビテントウ	<i>Platynaspidium maculosus</i>	●	●	●	●
552			ヨツボシテントウ	<i>Phymatosternus lewisii</i>			●	
553			ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus kuwanae</i>	●	●	●	●
554			アカホシテントウ	<i>Chilocorus rubidus</i>		●		
555			ムーアシロホシテントウ	<i>Calvia (Eocaria) muii</i>	●	●		●
556			ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>	●	●	●	●
557			マクガタテントウ	<i>Coccinula crotchi</i>	●	●	●	●
558			ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	●	●	●	●
559			ジュウサンホシテントウ	<i>Hippodamia tredecimpunctata</i>			●	
560			ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>	●	●	●	●
561			キイロテントウ	<i>Kiio koebelei koebelei</i>	●	●	●	●
562			シロホシテントウ	<i>Vibidia duodecimpunctata</i>	●	●	●	●
563			トホシテントウ	<i>Epilachna admirabilis</i>	●			
564			ルイヨウマダラテントウ	<i>Henosepilachna yasutomii</i>	●	●		●
565		ヒメマキムシ	ヒラムネヒメマキムシ	<i>Enicmus histrio</i>			●	
566			ムナボソヒメマキムシ	<i>Stephostethus angusticollis</i>			●	
567			ニセクロオビゲシマキムシ	<i>Corticaria geisha</i>	●	●	●	●
568			クロオビゲシマキムシ	<i>Corticaria ornata</i>	●	●	●	●
569			ウスチャケシマキムシ	<i>Corticaria gibbosa</i>	●	●	●	●
570			サカグチゲシマキムシ	<i>Melanophthalma (Cortilena) sakagutii</i>	●	●		

表 9.10-16(8) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
571			ヤマトケシマキムシ	<i>Melanophthalma (Melanophthalma) japonica</i>	●			
572			トブシケシマキムシ	<i>Migneauxia laderi</i>	●			
573		コブゴミムシダマシ	ヒサゴホソカタムシ	<i>Glyphocryptus brevicollis</i>		●		
574			ツヤケシヒメホソカタムシ	<i>Microprius opacus</i>		●		●
575		ツツキノコムシ	キタツツキノコムシ	<i>Cis seriatopilosus</i>		●	●	
576			<i>Ennearthron</i> 属の一種	<i>Ennearthron</i> sp.			●	
577			マダラホソツツキノコムシ	<i>Orthocis ornatus</i>		●	●	
578			<i>Orthocis</i> 属の一種	<i>Orthocis</i> sp.		●		
579		キノコムシダマシ	アヤモンヒメナガクチキ	<i>Holostrophus (Paraholostrophus) orientalis</i>				●
580		ナガクチキムシ	ズカクシナガクチキ	<i>Anisoxya conicicollis</i>				●
581			ビロウドホソナガクチキ	<i>Phloeotrya obscura</i>				●
582			クロホソナガクチキ	<i>Phloeotrya rugicollis</i>				●
583			クロチビヒラタホソナガクチキ	<i>Phloeotrya</i> sp.			●	
584		ハナノミ	ナミアカヒメハナノミ	<i>Falsomordellina luteoloides</i>				●
585			フタモンヒメハナノミ	<i>Falsomordellistena altestrigata</i>				●
586			チャイロヒメハナノミ	<i>Glipostenoda rosseola</i>				●
587			フタオビヒメハナノミ	<i>Mordellina signatella</i>	●			
588			ヤマモトヒメハナノミ	<i>Mordellina yamamotoi</i>				●
589			クロヒメハナノミ	<i>Mordellistena comes</i>			●	
590			オオスミヒメハナノミ	<i>Mordellistenoda ohsumiana</i>				●
591			ナガトヒゲヒメハナノミ	<i>Tolidostena japonica</i>				●
592		クビナガムシ	クビカクシナガクチキムシ	<i>Scotodes niponicus</i>			●	
593		カミキリモドキ	アオカミキリモドキ	<i>Nacerdes (Xanthochroa) waterhousei</i>				●
594			モモフトカミキリモドキ	<i>Oedemera (Oedemera) lucidicollis</i>			●	
595		アリモドキ	ケオビアリモドキ	<i>Anthelephila cribriceps</i>	●	●		●
596			タナカホソアリモドキ	<i>Anthicus tobias</i>	●			
597			ホソクビアリモドキ	<i>Formicomus braminus coiffaiti</i>	●	●	●	●
598			ヨツボシホソアリモドキ	<i>Pseudoleptaleus valgipes</i>	●	●	●	●
599		ニセクビボソムシ	チャイロニセクビボソムシ	<i>Aderus grouvelli</i>	●	●		
600			ヤマトニセクビボソムシ	<i>Pseudolotelus japonicus</i>				●
601			オビモンニセクビボソムシ	<i>Syzeton quadrimaculatus</i>			●	
602		ツチハンミョウ	ツマグロキゲンセイ	<i>Zonitis cothurnata cothurnata</i>				●
603			キイロゲンセイ	<i>Zonitis japonica</i>	●			
604		ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ	<i>Anaspis (Anaspis) marseuli</i>			●	
605		チビキカワムシ	ツヤチビキカワムシ	<i>Lissodema (Chilopeltis) laevipenne</i>			●	
606			クリイロチビキカワムシ	<i>Lissodema (Lissodema) dentatum</i>				●
607			カドムネチビキカワムシ	<i>Lissodema (Lissodema) validicorne</i>			●	
608			ヒメクチキムシダマシ	<i>Elacatis ocularis</i>			●	
609		ゴミムシダマシ	オオメキバネハムシダマシ	<i>Lagria (Lagria) rufipennis</i>		●		●
610			ヒゲフトゴミムシダマシ	<i>Luprops orientalis</i>	●	●	●	●
611			ニホンキマワリ	<i>Plesiothalamus (Plesiothalamus) nigrocyanus nigrocyanus</i>	●	●	●	●
612			スジコガシラゴミムシダマシ	<i>Heterotarsus carinula</i>	●	●	●	
613			コソナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum (Gonocephalum) coriaceum</i>	●	●	●	
614			ムネビロスナゴミムシダマシ	<i>Gonocephalum (Gonocephalum) japonum japonum</i>	●	●		●
615			ゴモクムシダマシ	<i>Blindus strigosus</i>	●			
616			ヒメナガニシゴミムシダマシ	<i>Ceropria induta</i>		●		●
617			モンキゴミムシダマシ	<i>Diaperis lewisi lewisi</i>	●			
618			アオツヤキノゴミムシダマシ	<i>Platydemia maruseuli</i>				●
619			ツノボソキノゴミムシダマシ	<i>Platydemia recticornis</i>	●			
620			ベニモンキノゴミムシダマシ	<i>Platydemia subfascia subfascia</i>	●		●	●
621			ダケイキノゴミムシダマシ	<i>Platydemia takeii</i>	●			
622			ホンドホソアカクチキムシ	<i>Allecula (Allecula) tenuis</i>			●	
623			クリイロクチキムシ	<i>Borboressthes acicularis</i>				●
624			ホンドトビイロクチキムシ	<i>Borboressthes cruralis</i>				●
625			アカツヤバネクチキムシ	<i>Hymenalia (Hymenalia) rufipennis</i>			●	●
626			ホンドクロオオクチキムシ	<i>Upinella fuliginosa</i>		●		
627			ナミクチキムシ	<i>Upinella melanaria</i>		●	●	
628			フナガタクチキムシ	<i>Isomira (Paraisomira) oculata</i>				●
629			セスジナガキマワリ	<i>Strongylium cultellatum cultellatum</i>	●			●
630		カミキリムシ	ヒナルリハナカミキリ	<i>Dinoptera minuta</i>			●	
631			ツマグロハナカミキリ	<i>Leptura modicenotata</i>			●	
632			テツイロヒメカミキリ	<i>Ceresium sinicum sinicum</i>				●
633			ベニカミキリ	<i>Purpuricenus (Sternoplistes) temminckii</i>			●	
634			フタオビミドリトラカミキリ	<i>Chlorophorus muscosus</i>				●
635			ヨツスジトラカミキリ	<i>Chlorophorus quinquefasciatus</i>	●			●
636			キイロトラカミキリ	<i>Grammographus notabilis notabilis</i>				●
637			ヒメクトロカミキリ	<i>Rhaphuma diminuta diminuta</i>			●	
638			ナガゴマフカミキリ	<i>Mesosa (Aplocnemia) longipennis</i>				●
639			カダシロゴマフカミキリ	<i>Mesosa (Perimesosa) hirsuta hirsuta</i>	●			
640			カノコサビカミキリ	<i>Apomecyna naevia naevia</i>	●			
641			シナノクロフカミキリ	<i>Asaperda agapanthina</i>			●	●
642			コブスジサビカミキリ	<i>Atimura japonica</i>		●		●
643			ニイジマチビカミキリ	<i>Egesina (Nijimaia) bifasciana bifasciana</i>	●			●
644			ハイイロヤハズカミキリ	<i>Niphona (Niphona) furcata</i>			●	
645			ワモンサビカミキリ	<i>Pterolophia (Hylobrotus) annulata</i>		●		
646			アトモンサビカミキリ	<i>Pterolophia (Pterolophia) granulata</i>				●
647			ビロウドカミキリ	<i>Acalolepta fraudatrix fraudatrix</i>				●
648			ニセビロウドカミキリ	<i>Acalolepta sejuncta sejuncta</i>				●
649			キボシカミキリ	<i>Psacotha hilaris hilaris</i>				●
650			ヤハズカミキリ	<i>Uraecha bimaculata bimaculata</i>				●
651			クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>	●			
652			ヘリグロチビコブカミキリ	<i>Miccolamia (Isomiccolamia) takakuwai</i>			●	
653			ヒトオビアラダカミキリ	<i>Rhopaloscelis unifasciatus</i>				●
654			クモガタケシカミキリ	<i>Exocentrus fasciolatus</i>	●			
655			ガロアケシカミキリ	<i>Exocentrus galloisi</i>				●

表 9.10-16(9) 確認種目録(昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
656			シラオビゴマフゲンシカミキリ	<i>Exocentrus guttulatus</i>				●
657			アトモンマルケシカミキリ	<i>Exocentrus lineatus</i>				●
658			ケシカミキリ	<i>Sciades (Miaenia) tonsus</i>				●
659			シラホシカミキリ	<i>Glenea (Glenea) relictata relictata</i>			●	
660			ラミーカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>				●
661			シラハタリンゴカミキリ	<i>Oberea (Oberea) shirahatai</i>				●
662			エンジュマメゾウムシ	<i>Megabruchidius sophorae</i>	●			
663		ハムシ	キバラルリクビボソハムシ	<i>Lema (Lema) concinnipennis</i>				●
664			アカクビボソハムシ	<i>Lema (Lema) diversa</i>				●
665			トホシクビボソハムシ	<i>Lema (Microlema) decempunctata</i>		●		
666			ヤマイモハムシ	<i>Lema (Petauristes) honorata</i>	●			●
667			キイロクビナガハムシ	<i>Lilioceris (Lilioceris) rugata</i>				●
668			ムナキルリハムシ	<i>Smaragdina semiaurantiaca</i>			●	
669			ハラルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>			●	
670			チビルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus confusus</i>			●	●
671			ヤツボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus japanus</i>			●	
672			ヨツモンクロツツハムシ	<i>Cryptocephalus nobilis</i>			●	
673			キボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus perelegans perelegans</i>				●
674			カシロツツハムシ	<i>Cryptocephalus scitulus</i>				●
675			クロボシツツハムシ	<i>Cryptocephalus signaticeps</i>			●	
676			ミスギムシクツハムシ	<i>Chlamisus interjectus</i>		●		●
677			ツツジムシクツハムシ	<i>Chlamisus laticollis</i>		●		
678			ムシクツハムシ	<i>Chlamisus spilotus</i>	●	●	●	
679			アカガササルハムシ	<i>Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii</i>			●	
680			アオバナサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>	●			●
681			クロムナゲサルハムシ	<i>Basilepta hirticollis</i>				●
682			ウスイロサルハムシ	<i>Basilepta pallidula</i>				●
683			イモサルハムシ	<i>Colasposoma dauricum</i>				●
684			マダラカサハラハムシ	<i>Demotina fasciculata</i>		●	●	
685			カサハラハムシ	<i>Demotina modesta</i>	●	●		●
686			クロオビカサハラハムシ	<i>Hyperaxis fasciata</i>	●			
687			コフキケブカサルハムシ	<i>Lypestes ater</i>			●	
688			ニホンケブカサルハムシ	<i>Lypestes japonicus</i>			●	
689			ムネアカキバネサルハムシ	<i>Pagria consimile</i>		●	●	●
690			ツヤキバネサルハムシ	<i>Pagria flavopustulata</i>		●	●	●
691			マルキバネサルハムシ	<i>Pagria ussuriensis</i>	●	●	●	●
692			ドウガネサルハムシ	<i>Scelodonta lewisii</i>	●	●	●	●
693			キカサハラハムシ	<i>Xanthonia placida</i>	●			●
694			ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>		●	●	
695			ハッカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>	●	●	●	
696			コガタルリハムシ	<i>Gastrophysa atrocyanea</i>			●	
697			ヤツボシハムシ	<i>Gonioctena (Sinomela) nigroplagiata</i>			●	●
698			ギナギルリハムシ	<i>Plagioderma versicolora</i>			●	
699			ウリハムシモドキ	<i>Atrachya menetriesi</i>	●			
700			ウリハムシ	<i>Aulacophora indica</i>	●	●		●
701			クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis nigripennis</i>	●		●	●
702			ニセキバラヒメハムシ	<i>Exosoma chujoi</i>				●
703			クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>			●	
704			イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>				●
705			クロウスバハムシ	<i>Luperus moorii</i>			●	
706			フダスジヒメハムシ	<i>Medythia nigrobilineata</i>	●			
707			ホタルハムシ	<i>Monolepta dichroa</i>	●	●		●
708			フダクサハムシ	<i>Ophraella communis</i>	●	●		●
709			アトボシハムシ	<i>Paridea angulicollis</i>	●		●	
710			サンゴジュハムシ	<i>Pyrrhalta humeralis</i>		●		
711			ニレハムシ	<i>Pyrrhalta maculicollis</i>			●	
712			エノキハムシ	<i>Pyrrhalta tibialis</i>	●			●
713			カミナリハムシ	<i>Altica aenea</i>		●		
714			アカバナカミナリハムシ	<i>Altica oleracea</i>	●		●	●
715			キイロツブノミハムシ	<i>Aphthona abdominalis</i>		●	●	
716			アヤメツブノミハムシ	<i>Aphthona interstitialis</i>			●	
717			ツブノミハムシ	<i>Aphthona perminuta</i>	●	●	●	●
718			ヘリグロテントウノミハムシ	<i>Argopistes coccinelliformis</i>			●	
719			ヒメドウガネトビハムシ	<i>Chaetocnema concinnicollis</i>	●	●	●	
720			テンサイトビハムシ	<i>Chaetocnema picipes</i>				●
721			タバコノミハムシ	<i>Epitrix hirtipennis</i>	●			
722			ナガトビハムシ	<i>Liprus punctatostratus</i>			●	
723			クロボシトビハムシ	<i>Longitarsus bimaculatus</i>	●	●	●	
724			コクロアシナガトビハムシ	<i>Longitarsus morrisonus</i>	●	●		●
725			オオアシナガトビハムシ	<i>Longitarsus nitidus</i>	●			●
726			チュウジョウアシナガトビハムシ	<i>Longitarsus ohnoi</i>				●
727			オオバコトビハムシ	<i>Longitarsus scutellaris</i>			●	
728			クビアカトビハムシ	<i>Luperomorpha pryeri</i>				●
729			ヒメトビハムシ	<i>Orthocrepis adamsii</i>	●	●	●	●
730			アサトビハムシ	<i>Psylliodes attenuata</i>	●	●	●	●
731			ナトビハムシ	<i>Psylliodes punctifrons</i>	●	●		
732			ダイコンナガスネトビハムシ	<i>Psylliodes subrugosa</i>	●	●	●	
733			ナスナガスネトビハムシ	<i>Psylliodes viridana</i>	●			
734			ツマキタノミハムシ	<i>Sphaeroderma apicale</i>			●	
735			カタビロトゲハムシ	<i>Dactylispa subquadrata</i>	●			
736			クロトゲハムシ	<i>Hispellinus moerens</i>	●			
737			セモンジンガサハムシ	<i>Cassida crucifera</i>			●	
738			カメノコハムシ	<i>Cassida nebulosa</i>				●
739			ヒメカメノコハムシ	<i>Cassida piperata</i>				●
740			ヨツモンカメノコハムシ	<i>Lacoptera nepalensis</i>		●	●	●

表 9.10-16(10) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
741		ヒゲナガゾウムシ	カオシロヒゲナガゾウムシ	<i>Sphinctrotropis laxa</i>		●		●
742			キマダラヒゲナガゾウムシ	<i>Tropideres naevulus</i>			●	
743			スネアカヒゲナガゾウムシ	<i>Autotropis distinguenda</i>			●	
744			エゴヒゲナガゾウムシ	<i>Exechesops leucopis</i>	●			●
745			コモンヒメヒゲナガゾウムシ	<i>Rhaphitropis guttifer guttifer</i>		●	●	
746			アカアシヒゲナガゾウムシ	<i>Araecerus tarsalis</i>			●	
747		オトシブミ	ヒメクロオトシブミ	<i>Apoderus (Compsapoderus) erythrogaster</i>	●			●
748			ウスモンオトシブミ	<i>Apoderus (Leptapoderus) balteatus</i>				●
749			エゴツルクビオトシブミ	<i>Cynotrachelus (Cynotrachelodes) roelofsi</i>			●	
750			アシナガオトシブミ	<i>Phialodes rufipennis</i>			●	
751		チョッキリゾウムシ	ハイイロチョッキリ	<i>Cyllorhynchites (Cyllorhynchites) ursulus</i>	●			●
752			ツツムネチョッキリ	<i>Involvulus (Involvulus) cylindricollis</i>			●	
753			グミチョッキリ	<i>Involvulus (Involvulus) placidus</i>			●	
754			クチプトチョッキリ	<i>Lasiorhynchites (Lasiorhynchites) brevirostris</i>			●	
755			クロゲシツブチョッキリ	<i>Auletobius (Pseudomesauletes) uniformis</i>			●	
756		ホソクチゾウムシ	ケブカホソクチゾウムシ	<i>Sergiola (Sergiola) griseopubescentis</i>	●	●	●	●
757			アカクチホソクチゾウムシ	<i>Microconapion pallidirostre</i>	●			
758			アザミホソクチゾウムシ	<i>Piezotrachelus (Piezotrachelus) japonicus</i>			●	
759		チビゾウムシ	ハナコブチビゾウムシ	<i>Alonsiellus pubescens</i>				●
760			<i>Nanophyes</i> 属の一種	<i>Nanophyes</i> sp.			●	
761		オサゾウムシ	ササコクゾウムシ	<i>Diocalandra sasa</i>			●	
762		イネゾウムシ	イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus (Lissorhoptrus) oryzophilus</i>				●
763			オオミズゾウムシ	<i>Tanysphyrus major</i>	●			●
764		ゾウムシ	オジロアシナガゾウムシ	<i>Ornateloides (Mesalcidodes) trifidus</i>	●	●		●
765			カツオゾウムシ	<i>Lixus impressiventris</i>				●
766			マダラクチカクシゾウムシ	<i>Cryptorhynchus (Cryptorhynchus) electus</i>	●		●	●
767			ヒサゴクチカクシゾウムシ	<i>Simulatacalles simulator</i>		●	●	●
768			アシナガオニゾウムシ	<i>Gasterocercus longipes</i>			●	
769			タカオマルクチカクシゾウムシ	<i>Orochlesis takaosana</i>	●	●	●	●
770			ヒメクチカクシゾウムシ	<i>Syrotelus umbrosus</i>	●			
771			チャバネキイゾウムシ	<i>Kojimazo lewisi</i>			●	
772			ワシバナヒメキイゾウムシ	<i>Phloeophagosoma (Aemorphorhynchus) curvirostre</i>				●
773			ハマベキイゾウムシ	<i>Dryotribus mimeticus</i>			●	
774			アカネニセクチプトキイゾウムシ	<i>Stenoscelodes hayashii</i>				●
775			ヤノシギゾウムシ	<i>Curculio (Curculio) yanoi</i>			●	
776			イチゴハナゾウムシ	<i>Anthonomus (Anthonomus) bisignifer</i>			●	●
777			ユアサハナゾウムシ	<i>Anthonomus (Anthonomus) yuasai</i>	●		●	
778			オビモンハナゾウムシ	<i>Anthonomus (Furcicus) rectirostris</i>		●		
779			ガロアノミゾウムシ	<i>Orchestes (Alyctus) galloisi</i>				●
780			ムネスジノミゾウムシ	<i>Orchestes (Orchestes) amurensis</i>	●		●	
781			ヤドリノミゾウムシ	<i>Orchestes (Orchestes) hustachei</i>		●	●	●
782			カシワノミゾウムシ	<i>Orchestes (Orchestes) koltzei</i>	●			
783			アカアシノミゾウムシ	<i>Orchestes (Orchestes) sanguinipes</i>	●	●	●	●
784			タバゲササラゾウムシ	<i>Demimaea fascicularis</i>				●
785			ツメクサタネコバンゾウムシ	<i>Tychius (Tychius) picirostris</i>			●	●
786			オオハッカヒメゾウムシ	<i>Baris pilosa</i>			●	
787			マダラヒメゾウムシ	<i>Baris scolopacea</i>				●
788			カナムクラヒメゾウムシ	<i>Psilarthroides czerskyi</i>		●		●
789			クラヒメゾウムシ	<i>Moreobaris deplanata</i>			●	
790			タテスジアカヒメゾウムシ	<i>Moreobaris rubricata</i>		●	●	
791			サンゴジュヒメゾウムシ	<i>Nespilobaris viburni</i>			●	
792			カナムクラサルゾウムシ	<i>Cardipennis shaowuensis</i>	●			●
793			ムネミゾサルゾウムシ	<i>Cardipennis sulcithorax</i>			●	
794			ダイコンサルゾウムシ	<i>Ceutorhynchus albosuturalis</i>		●		
795			ミドリサルゾウムシ	<i>Ceutorhynchus filiae</i>			●	
796			アオバナサルゾウムシ	<i>Ceutorhynchus ibukianus</i>			●	
797			ケマンサルゾウムシ	<i>Sirocalodes umbrinus</i>		●		
798			ニッポントゲムネサルゾウムシ	<i>Mecysmoderes nipponicus</i>	●	●	●	●
799			<i>Mecysmoderes</i> 属の一種	<i>Mecysmoderes</i> sp.		●	●	
800			アカアシクチプトサルゾウムシ	<i>Rhinoncus cribricollis</i>			●	
801			タデトゲサルゾウムシ	<i>Homorosoma asperum</i>	●	●		●
802			トゲハラヒラセクモゾウムシ	<i>Metialma cordata</i>			●	
803			ヤザイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>		●		
804			オオタコゾウムシ	<i>Donus (Antidonus) punctatus</i>			●	
805			ツメクサタコゾウムシ	<i>Hypera (Hypera) nigrirostris</i>			●	
806			アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera (Hypera) postica</i>	●	●	●	●
807			ツノヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius (Diallobius) incomptus</i>			●	
808			カントウヒゲボソゾウムシ	<i>Phyllobius (Otophyllobius) kantoensis</i>			●	
809			メナガクチプトゾウムシ	<i>Calomycterus setarius</i>				●
810			サビクチプトゾウムシ	<i>Canoixus japonicus</i>			●	
811			エグリクチプトゾウムシ	<i>Corymacronus naso</i>	●			●
812			クリイロクチプトゾウムシ	<i>Cyrtepistomus castaneus</i>			●	
813			ケブカクチプトゾウムシ	<i>Lepidepistomodes fumosus</i>			●	
814			チビヒョウタンゾウムシ	<i>Myosides seriehispidus</i>	●			
815			カシワクチプトゾウムシ	<i>Nothomyloccerus griseus</i>	●	●	●	●
816			オオクチプトゾウムシ	<i>Phyllolytus variabilis</i>	●			
817			ヒレルクチプトゾウムシ	<i>Pseudoedophrys hilleri</i>	●	●	●	●
818			シロコブゾウムシ	<i>Episomus turritus turritus</i>		●		
819			スグリゾウムシ	<i>Pseudoceorhinus bifasciatus</i>	●	●	●	
820			カキスグリゾウムシ	<i>Pseudoceorhinus obesus</i>				●
821			ホソゲチビツチゾウムシ	<i>Trachyphloeosoma advena</i>		●		
822			ヒメシロコブゾウムシ	<i>Dermatoxenus caescicollis</i>	●			
823			サビヒョウタンゾウムシ	<i>Scepticus insularis</i>	●	●	●	●
824			コブキノゾウムシ	<i>Eugnathus distinctus</i>	●	●	●	●
825			ケチビコフキノゾウムシ	<i>Sitona hispidulus</i>		●		●
826			チビコフキノゾウムシ	<i>Sitona japonicus</i>				●

表 9.10-16(11) 確認種目録（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
827		キクイムシ	<i>Cryphalus</i> 属の一種	<i>Cryphalus</i> sp.		●	●	
828			<i>Hypothenemus</i> 属の一種	<i>Hypothenemus</i> sp.			●	
829			Cryphalini族の一種	Cryphalini Gen. et sp.	●			
830			<i>Dryocoetius</i> 属の一種	<i>Dryocoetius</i> sp.			●	
831			Xyleborini族の一種	Xyleborini Gen. et sp.				●
832	ハチ	ミフシハバチ	アカスジチュウレンジ	<i>Arge nigronodosa</i>			●	
833			ニホンチュウレンジ	<i>Arge nipponensis</i>		●	●	
834		ハバチ	オスグロハバチ	<i>Dolerus japonicus</i>			●	
835			<i>Dolerus</i> 属の一種	<i>Dolerus</i> sp.			●	
836		イハバチ	<i>Eutomostethus</i> 属の一種	<i>Eutomostethus apicalis</i>			●	
837			<i>Eutomostethus</i> 属の一種	<i>Eutomostethus</i> sp.			●	
838			マルハバチ亜科の一種	Blennocestinae Gen. et sp.		●		
839			ハグロハバチ	<i>Allantus luctifer luctifer</i>	●	●	●	●
840			セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>			●	
841			カブラハバチ	<i>Athalia rosae ruficornis</i>	●		●	
842			クロムネハバチ	<i>Lagidina irritans</i>			●	
843			クロムネアオハバチ	<i>Tenthredo nigropicta</i>			●	
844			オオツマクロハバチ	<i>Tenthredo providens</i>			●	
845			<i>Tenthredo</i> 属の一種	<i>Tenthredo</i> spp.			●	
846		コマユバチ	コウラコマユバチ亜科の一種	Cheloninae Gen. et sp.	●	●		●
847			コマユバチ科の一種	Braconidae Gen. et spp.	●	●	●	●
848		ヒメバチ	Ephialtini族の一種	Ephialtini Gen. et sp.			●	●
849			ヒメバチ科の一種	Ichneumonidae Gen. et spp.	●	●	●	●
850		コンボウヤセバチ	<i>Gasteruption</i> 属の一種	<i>Gasteruption</i> sp.		●		
851		ハエヤドリクロバチ	ハエヤドリクロバチ科の一種	Diapriidae Gen. et sp.	●			●
852		タマゴクロバチ	タマゴクロバチ科の一種	Scelionidae Gen. et sp.		●	●	●
853		アシブトコバチ	アジアカツヤアシブトコバチ	<i>Antrocephalus apicalis apicalis</i>		●		
854			<i>Antrocephalus</i> 属の一種	<i>Antrocephalus</i> sp.		●	●	
855			オニアシブトコバチ	<i>Dirhinus (Dirhinus) hesperidum</i>		●		
856		カタビロコバチ	カタビロコバチ科の一種	Eurytomidae Gen. et sp.		●		
857		コガネコバチ	コガネコバチ科の一種	Pteromalidae Gen. et sp.				●
858		ヒメコバチ	ヒメコバチ科の一種	Eulophidae Gen. et spp.			●	
859		タマバチ	タマバチ科の一種	Cynipidae Gen. et sp.			●	
860		アリガタバチ	<i>Epyris</i> 属の一種	<i>Epyris</i> sp.	●			
861			ムカシアリガタバチ	<i>Acrepyris japonicus</i>			●	
862		セイボウ	クロバチセイボウ	<i>Chrysis angolensis murasaki</i>	●			
863		アリバチ	ミカドアリバチ	<i>Mutilla mikado</i>		●		
864			トゲムネアリバチ	<i>Bischoffitilla ardescens</i>				●
865			ムネアカアリバチ	<i>Bischoffitilla pungens</i>			●	
866		クモバチ	<i>Auplopus</i> 属の一種	<i>Auplopus</i> sp.		●		
867			ベッコウクモバチ	<i>Cyphononyx fulvognathus</i>	●			●
868			<i>Priocnemis</i> 属の一種	<i>Priocnemis</i> sp.				●
869			オオモンクモバチ	<i>Anoplius (Lophopompilus) samariensis</i>	●			●
870			オオシロフクモバチ	<i>Episyron arrogans</i>	●			
871		ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ	<i>Campsomeris annulata annulata</i>	●	●	●	●
872			キンケハラナガツチバチ	<i>Megacampsomeris prismatica</i>	●	●		●
873			シロオビハラナガツチバチ	<i>Megacampsomeris schultzei</i>	●	●		
874			キオビツチバチ	<i>Scolia (Discolia) oculata</i>	●			●
875		コツチバチ	<i>Tiphia</i> 属の一種	<i>Tiphia</i> sp.	●			●
876		アリ	オオハラアリ	<i>Brachyponera chinensis</i>	●		●	
877			アズマオオズアリ	<i>Pheidole fervida</i>	●	●	●	
878			オオズアリ	<i>Pheidole noda</i>				●
879			ヒラタウロコアリ	<i>Strumigenys canina</i>	●			
880			ウロコアリ	<i>Strumigenys lewisi</i>	●		●	
881			コツアリ	<i>Carebara yamatensis</i>		●		
882			ハリブトシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Crematogaster) matsumurai</i>	●	●	●	●
883			テラニシシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Crematogaster) teranishii</i>	●			
884			キイロシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Orthocrema) osakensis</i>	●	●	●	●
885			アミメアリ	<i>Pristomyrmex punctatus</i>	●	●	●	●
886			ムネボツアリ	<i>Temnothorax congruus</i>	●	●	●	
887			ハリナガムネボツアリ	<i>Temnothorax spinosior</i>		●	●	
888			トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>	●	●	●	●
889			ウメマツアリ	<i>Vollenhovia emeryi</i>	●	●		
890			ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>	●	●	●	
891			トフシアリ	<i>Solenopsis japonica</i>	●	●	●	●
892			クロナガアリ	<i>Messor aciculatus</i>	●	●	●	
893			シベリアカタアリ	<i>Dolichoderus sibiricus</i>	●	●	●	●
894			ヒラフシアリ	<i>Technomyrmex gibbosus</i>		●	●	
895			クロヤマアリ	<i>Formica japonica</i>	●	●	●	●
896			アメイロケアリ	<i>Lasius (Chthonolasius) umbratus</i>			●	
897			クロクサアリ	<i>Lasius (Dendrolasius) fuji</i>			●	●
898			ヒラアシクサアリ	<i>Lasius (Dendrolasius) spathepus</i>		●		
899			トビイロケアリ	<i>Lasius (Lasius) japonicus</i>	●	●	●	●
900			カワラケアリ	<i>Lasius (Lasius) sakagami</i>			●	
901			アメイロアリ	<i>Nylanderia flavipes</i>	●	●	●	●
902			サクラアリ	<i>Paraparatrechina sakurae</i>	●	●	●	●
903			クロオアリ	<i>Camponotus (Camponotus) japonicus</i>	●	●	●	●
904			ヒラスオアリ	<i>Camponotus (Colobopsis) nipponicus</i>	●	●		
905			イトウオアリ	<i>Camponotus (Myrmamblys) itoi</i>			●	
906			ウメマツオアリ	<i>Camponotus (Myrmamblys) vitiosus</i>	●	●	●	●
907			クサオアリ	<i>Camponotus (Myrmentoma) keihitoi</i>	●	●	●	
908			ヨツボシオアリ	<i>Camponotus (Myrmentoma) quadrinotatus</i>				●
909			ミカドオアリ	<i>Camponotus (Paramyrmamblys) kiusiuensis</i>	●			

表 9.10-16(12) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
910		スズメバチ	オオフタオビドロバチ	<i>Anterhynchium flavomarginatum micado</i>	●			●
911			ミカドトックリバチ	<i>Eumenes micado</i>	●	●		
912			キアシトックリバチ	<i>Eumenes rubrofemoratus</i>		●	●	
913			ムモントックリバチ	<i>Eumenes rubronotatus</i>	●			
914			ミカドドロバチ	<i>Euodynerus (Pareuodynerus) nipanicus nipanicus</i>			●	
915			スズバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>				●
916			カタグロチビドロバチ	<i>Stenodynerus chinensis kalinowskii</i>	●		●	●
917			キオビチビドロバチ	<i>Stenodynerus frauenfeldi</i>	●			
918			Symmorphus属の一種	<i>Symmorphus sp.</i>	●			
919			セグロアシナガバチ	<i>Polistes jokahamae jokahamae</i>	●	●	●	●
920			キボシアシナガバチ	<i>Polistes nipponensis</i>	●			
921			キアシナガバチ	<i>Polistes rothneyi iwatai</i>	●		●	●
922			コアシナガバチ	<i>Polistes snelleni</i>	●	●	●	●
923			ムモンホソアシナガバチ	<i>Parapolybia crocea</i>	●			
924			コガタスズメバチ	<i>Vespa analis</i>	●	●	●	●
925			ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis</i>	●			●
926			キイロスズメバチ	<i>Vespa simillima</i>	●	●		●
927			クロスズメバチ	<i>Vespa flaviceps</i>		●		
928		アナバチ	ヤマジガバチ	<i>Ammophila infesta</i>		●	●	
929			サトジガバチ	<i>Ammophila vagabunda</i>	●	●		●
930			ヤマトルリシガバチ	<i>Chalybion (Chalybion) japonicum</i>				●
931			コクロアナバチ	<i>Isodontia nigella</i>	●			●
932			クロアナバチ	<i>Sphex argentatus fumosus</i>	●			
933			キンモウアナバチ	<i>Sphex diabolicus</i>	●			
934		ギングチバチ	オオハヤバチ	<i>Tachytes sinensis sinensis</i>				●
935			キスジツチスガリ	<i>Cerceris arenaria yanoi</i>	●			
936		ミツバチ	アシブトムカシハナバチ	<i>Colletes (Colletes) patellatus</i>		●		
937			キバナヒメハナバチ	<i>Andrena (Chlorandrena) knuthi</i>			●	
938			ワタセヒメハナバチ	<i>Andrena (Melandrena) watasei</i>			●	
939			Andrena属の数種	<i>Andrena spp.</i>	●		●	●
940			アカガネコハナバチ	<i>Halictus (Seladonia) aerarius</i>	●	●	●	
941			Lasioglossum (Erylaeus)属の数種	<i>Lasioglossum (Erylaeus) spp.</i>	●		●	
942			ニッポンカタコハナバチ	<i>Lasioglossum (Lasioglossum) nipponicola</i>		●		
943			シロスジカタコハナバチ	<i>Lasioglossum (Lasioglossum) occidens</i>				●
944			Lasioglossum (Lasioglossum)亜属の一種	<i>Lasioglossum (Lasioglossum) sp.</i>	●			●
945			Sphecodes属の一種	<i>Sphecodes sp.</i>		●	●	
946			ツルガハギリバチ	<i>Megachile tsurugensis</i>	●			
947			キオビツヤハナバチ	<i>Ceratina (Ceratinidia) flavipes</i>			●	
948			キムネクマバチ	<i>Elycopa (Alloxycopa) appendiculata circumvolans</i>	●	●	●	●
949			ウシツノキマダラハナバチ	<i>Nomada comparata</i>			●	
950			ギンランキマダラハナバチ	<i>Nomada ginran</i>			●	
951			ダイミョウキマダラハナバチ	<i>Nomada japonica</i>			●	
952			Nomada属の一種	<i>Nomada sp.</i>			●	
953			スジボソフトハナバチ	<i>Amegilla (Glossamegilla) florea</i>	●			
954			ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>		●		
955			セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>	●	●	●	●
956			トラマルハナバチ	<i>Bombus (Megabombus) diversus diversus</i>	●			●
957			コマルハナバチ	<i>Bombus (Pyrobombus) ardens ardens</i>			●	
958			シロスジヒゲナガハナバチ	<i>Eucera (Eucera) spurcatipes</i>			●	
959			ニッポンヒゲナガハナバチ	<i>Eucera (Synhalonia) nipponensis</i>			●	
960	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>		●	●	
961		ガガンボモドキ	Bittacus属の一種	<i>Bittacus sp.</i>				●
962	ハエ	ヒメガガンボ	Limonia属の一種	<i>Limonia sp.</i>			●	
963			ヒメガガンボ科の一種	Limoniidae Gen. et sp.		●	●	
964		ガガンボ	Nephrotoma属の一種	<i>Nephrotoma sp.</i>			●	
965			カスリガガンボ	<i>Tipula (Acutipula) bubo</i>		●		
966			Tipula属の一種	<i>Tipula sp.</i>		●	●	
967		ナミキノコバエ	ナミキノコバエ科の一種	Mycetophilidae Gen. et sp.		●		
968		クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科の一種	Sciariidae Gen. et spp.	●		●	●
969		タマバエ	タマバエ科の一種	Cecidomyiidae Gen. et sp.	●	●	●	●
970		チョウバエ	チョウバエ科の一種	Psychodidae Gen. et sp.		●		
971		カ	Aedes属の一種	<i>Aedes sp.</i>		●		
972			ヒトスジシマカ	<i>Stegomyia (Quasistegomyia) albopicta</i>	●	●		●
973		ヌカカ	ヌカカ科の一種	Ceratopogonidae Gen. et sp.	●			
974		ユスリカ	Chironomus属の一種	<i>Chironomus sp.</i>		●	●	●
975			ユスリカ科の一種	Chironomidae Gen. et spp.	●	●	●	●
976		ミスアブ	Actina属の一種	<i>Actina sp.</i>			●	
977			Allognosta属の一種	<i>Allognosta sp.</i>			●	
978			Beris属の一種	<i>Beris sp.</i>			●	
979			アメリカミスアブ	<i>Hermetia illucens</i>	●			●
980			Kolomania属の一種	<i>Kolomania sp.</i>			●	
981			ハラキンミスアブ	<i>Microchrysa flaviventris</i>			●	
982			コウカアブ	<i>Ptecticus tenebrifer</i>	●			●
983		ツリアブ	クロバネツリアブ	<i>Ligyra tantalus</i>	●			●
984		ツルギアブ	ツルギアブ科の一種	Therevidae Gen. et sp.			●	
985		ムシヒキアブ	オオイシアブ	<i>Laphria mitsukurii</i>			●	
986			アシナガムシヒキ	<i>Molobratia japonica</i>			●	
987			アオメアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>		●		●
988			シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>	●			●
989			ウスクロムシヒキ	<i>Eutolmus rufibarbis</i>			●	●
990			ナミマカリケムシヒキ	<i>Neoitamus angusticornis</i>			●	
991			ムシヒキアブ科の一種	Asilidae Gen. et sp.	●			
992		オドリバエ	オドリバエ科の一種	Empididae Gen. et sp.			●	
993		セダカバエ	ハシリバエ亜科の一種	Tachydromiinae Gen. et sp.			●	
994		アシナガバエ	アシナガバエ科の一種	Dolichopodidae Gen. et sp.	●	●		
995		ノミバエ	ノミバエ科の一種	Phoridae Gen. et sp.			●	●

表 9.10-16(13) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
996		ハナアブ	クロヒラタアブ	<i>Betasyrphus serarius</i>			●	
997			ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus (Episyrphus) balteatus</i>		●	●	●
998			ナミホシヒラタアブ	<i>Eupeodes (Eupeodes) bucculatus</i>			●	
999			フタホシヒラタアブ	<i>Eupeodes (Metasyrphus) corollae</i>			●	
1000			ミナミヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria indiana</i>				●
1001			ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>		●	●	
1002			マガイヒラタアブ	<i>Syrphus dubius</i>			●	
1003			Syrphus属の一種	<i>Syrphus sp.</i>		●		
1004			ホシツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma scalare</i>		●	●	
1005			ムチンシママヒラタアブ	<i>Paragus (Paragus) clauseni</i>			●	
1006			シママヒラタアブ	<i>Paragus (Paragus) fasciatus</i>		●		
1007			キアシマヒラタアブ	<i>Paragus (Pandasophthalmus) haemorrhous</i>			●	
1008			Eumerus属の一種	<i>Eumerus sp.</i>	●			●
1009			スイセンハナアブ	<i>Merodon equestris</i>			●	
1010			ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>			●	
1011			キゴシハナアブ	<i>Eristalinus (Lathyrophthalmus) quinquestratus</i>		●		
1012			シマハナアブ	<i>Eristalis (Eoseristalis) cerealis</i>		●		
1013			ナミハナアブ	<i>Eristalis (Eristalis) tenax</i>		●	●	
1014			Eristalis属の一種	<i>Eristalis sp.</i>		●		
1015			オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>		●	●	
1016			アシブトハナアブ	<i>Helophilus (Helophilus) eristoloides</i>		●	●	
1017			タカサヨハラブトハナアブ	<i>Mallota takasagensis</i>	●			
1018			ナミルイロハラナガハナアブ	<i>Xylota amamiensis</i>				●
1019			キンアリノスアブ	<i>Microdon (Microdon) auricomus</i>			●	
1020		アタマアブ	アタマアブ科の一種	Pipunculidae Gen. et sp.	●	●		
1021		メバエ	メバエ科の一種	Conopidae Gen. et sp.	●			●
1022		クロツヤバエ	ヤマトクロツヤバエ	<i>Lonchaea sylvatica</i>		●		
1023		ハネフリバエ	ルリバエ	<i>Physiphora clausa</i>	●			
1024		シマバエ	ヤブクロシマバエ	<i>Minettia (Frendelia) longipennis</i>			●	
1025			Minettia属の一種	<i>Minettia sp.</i>	●	●		
1026			Protrigonometopus maculifrons	<i>Protrigonometopus maculifrons</i>			●	
1027			Sciasminettia dichaeophora	<i>Sciasminettia dichaeophora</i>			●	
1028			シマバエ科の一種	Lauxaniidae Gen. et sp.		●	●	
1029		ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon aenescens</i>		●		
1030		ツヤホソバエ	ナミヒトデンツヤホソバエ	<i>Sepsis latiforceps</i>			●	
1031			ツヤホソバエ科の一種	Sepsidae Gen. et sp.		●		
1032		ハモグリバエ	ハモグリバエ科の一種	Agromyziidae Gen. et sp.			●	
1033		キモグリバエ	ナガミヤクキモグリバエ亜科の一種	Oscinellinae Gen. et sp.	●	●	●	
1034			Chlorops属の一種	<i>Chlorops sp.</i>	●		●	
1035			Meromyza属の一種	<i>Meromyza sp.</i>	●		●	
1036			キモグリバエ亜科の一種	Chloropinae Gen. et sp.	●			
1037		フンコバエ	フンコバエ科の一種	Sphaeroceridae Gen. et sp.			●	●
1038		ショウジョウバエ	ダンダラショウジョウバエ	<i>Drosophila annulipes</i>		●		
1039			Drosophila属の一種	<i>Drosophila sp.</i>	●	●	●	●
1040		ミギワバエ	トキワクロツヤミギワバエ	<i>Psilopa polita</i>		●	●	
1041			ミナミカマバエ	<i>Ochthera (Ochthera) circularis</i>		●		
1042			ニノミヤトビクチミギワバエ	<i>Brachydeutera ibari</i>	●	●		
1043			Setacera属の一種	<i>Setacera sp.</i>	●	●		
1044		フンバエ	ヒメフンバエ	<i>Scathophaga stercoraria</i>			●	
1045		ハナバエ	ハナバエ科の一種	Anthomyiidae Gen. et sp.	●	●	●	
1046		ヒメイエバエ	ヒメイエバエ科の一種	Fanniidae Gen. et sp.			●	
1047		イエバエ	ヒメクロバエ	<i>Hydrotaea ignava</i>			●	
1048			Musca属の一種	<i>Musca sp.</i>			●	
1049			ギョウギシバクキイエバエ	<i>Atherigona reversura</i>	●	●		
1050			ゼマダライエバエ	<i>Graphomya maculata</i>		●		
1051			シナホソカトリバエ	<i>Lispe leucospila sinica</i>		●		
1052			アシマダラハナレメイエバエ	<i>Coenosia variegata</i>			●	●
1053			Coenosia属の一種	<i>Coenosia sp.</i>		●	●	
1054			ヘリクロハナレメイエバエ	<i>Orchisia costata</i>		●		
1055			シリモチハナレメイエバエ	<i>Pygophora confusa</i>		●		
1056			Pygophora属の一種	<i>Pygophora sp.</i>	●			
1057			イエバエ科の一種	Muscidae Gen. et sp.			●	●
1058		クロバエ	キンバエ	<i>Lucilia (Lucilia) caesar</i>				●
1059			Lucilia属の一種	<i>Lucilia sp.</i>		●		●
1060			ホホクロオビキンバエ	<i>Chrysomya pinguis</i>			●	
1061			シリブトミドリバエ	<i>Strongyloneura prasina</i>		●		
1062			ツマクロキンバエ	<i>Stomorphina obsoleta</i>		●		●
1063		ニクバエ	シリグロニクバエ	<i>Helicophagella melanura</i>			●	
1064			ホリニクバエ	<i>Myorhina (Bellieriomima) horii</i>		●		●
1065			キーガンニクバエ	<i>Myorhina (Phallantha) keegani</i>			●	
1066			ツシマニクバエ	<i>Parasarcophaga (Liosarcophaga) tsushimae</i>	●		●	●
1067			ナミニクバエ	<i>Parasarcophaga (Pandelleisca) similis</i>		●	●	●
1068			ダンロクニクバエ	<i>Parasarcophaga (Parasarcophaga) albiceps</i>		●	●	
1069			オオニクバエ	<i>Sarcorhendorfia mimobasalis</i>				●
1070			ニクバエ族の数種	Sarcophagini Gen. et spp.	●	●		
1071		ヤドリバエ	アシナガヤドリバエ亜科の一種	Dexiinae Gen. et sp.		●	●	●
1072			Exorista属の一種	<i>Exorista sp.</i>		●	●	●
1073			Blepharipa属の一種	<i>Blepharipa sp.</i>		●	●	●
1074			マルホシヒラタヤドリバエ	<i>Gymnosoma rotundatum</i>	●			
1075			Tachina micado	<i>Tachina micado</i>		●	●	
1076			ヤドリバエ科の数種	Tachinidae Gen. et spp.	●	●	●	●
1077	トビケラ	ヒメトビケラ	ヒメトビケラ科の一種	Hydroptilidae Gen. et sp.			●	
1078		クダトビケラ	クダトビケラ科の一種	Psychomyiidae Gen. et sp.	●			
1079		シマトビケラ	Cheumatopsyche属の一種	<i>Cheumatopsyche sp.</i>	●			
1080			Hydropsyche属の一種	<i>Hydropsyche sp.</i>	●		●	

表 9.10-16(14) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
1081		カクツツトビケラ	Lepidostoma属の一種	Lepidostoma sp.	●	●		
1082		エグリトビケラ	エグリトビケラ科の一種	Limnephilidae Gen. et sp.			●	
1083		ニンギョウトビケラ	Goera属の一種	Goera sp.			●	
1084	チョウ	ヒロソコガ	マダラマルハヒロソコガ	Ippa conspersa	●			
1085			ヒロソコガ科の一種	Tineidae Gen. et sp.				●
1086		コナガ	コナガ	Plutella xylostella			●	
1087		スカシバガ	ヒメアトスカシバ	Nokona pernix	●			
1088		ハマキガ	ハマキガ科の一種	Tortricidae Gen. et sp.	●			
1089		メイガ	ウスベニトガリメイガ	Endotricha olivacealis	●			
1090			クロモンフトメイガ	Orthaga euadrusalis	●			
1091		ツトガ	ツトガ	Ancylolomia japonica	●			
1092			シバツトガ	Parapediasia teterella	●			
1093			ユウグモノメイガ	Ostrinia palustralis memnialis				●
1094			ナカミツテンノメイガ	Proteurrhyncha ocellalis ocellalis	●			
1095			クビシロノメイガ	Pileocera aegimiusalis	●			
1096			シロオビノメイガ	Spoladea recurvalis		●		
1097		セセリチョウ	ダイミョウセセリ	Dalio tethys tethys	●	●	●	
1098			イチモンジセセリ	Parnara guttata guttata	●	●		●
1099			チャバネセセリ	Pelopidas mathias oberthueri	●	●		●
1100			キマダラセセリ	Potanthus flavus flavus	●			
1101			コチャバネセセリ	Thoressa varia			●	●
1102		アゲハチョウ	カラスアゲハ	Papilio dehaanii dehaanii	●		●	
1103			モンキアゲハ	Papilio helenus nicconicolens	●			●
1104			キアゲハ	Papilio machaon hippocrates	●		●	
1105			ナガサキアゲハ	Papilio memnon thunbergii		●	●	●
1106			クロアゲハ	Papilio protenor demetrius	●		●	●
1107			アゲハ	Papilio xuthus	●	●	●	●
1108			アオスジアゲハ	Graphium sarpedon nipponum	●	●	●	●
1109			キダキチョウ	Eurema mandarina mandarina	●	●	●	●
1110			モンキチョウ	Colias erate poliographa	●	●	●	●
1111			ツマキチョウ	Anthocharis scolymus scolymus			●	
1112			スジグロシロチョウ	Pieris melete	●	●	●	●
1113			モンシロチョウ	Pieris rapae crucivora	●	●	●	●
1114			ウラギンシジミ	Curetis acuta paracuta	●	●		●
1115		シジミチョウ	ムラサキシジミ	Arhopala japonica			●	
1116			ベニシジミ	Lycaena phlaeas chinensis	●	●	●	●
1117			ルリシジミ	Celastrina argiolus ladonides	●			●
1118			ツバメシジミ	Everes argiades argiades	●	●		●
1119			ウラナミシジミ	Lampides boeticus		●		●
1120			ヤマトシジミ	Zizeeria maha argia	●	●	●	●
1121		タテハチョウ	テングチョウ	Libythea lepita celtoides				●
1122			アサギマダラ	Parantica sita nipponica		●		
1123			ツマグロヒョウモン	Argyreus hyperbius hyperbius		●		
1124			イチモンジチョウ	Limenitis camilla japonica	●			●
1125			コミスジ	Neptis sappho intermedia	●	●	●	●
1126			キダテハ	Polygonia c-aureum c-aureum	●	●	●	●
1127			ヒメアカタテハ	Vanessa cardui	●	●	●	●
1128			アカタテハ	Vanessa indica indica		●		●
1129			アカボンゴマダラ	Hestina assimilis assimilis	●	●	●	●
1130			クロヒカゲ	Lethe diana diana			●	
1131			ヒカゲチョウ	Lethe sicelis		●		●
1132			ジャノメチョウ	Minois dryas bipunctata	●			●
1133			コジャノメ	Mycalesis francisca perdiccas			●	●
1134			ヒメジャノメ	Mycalesis gotama fulginia		●		
1135			サトキマダラヒカゲ	Neope goschkevitschii	●		●	●
1136			ヒメウラナミジャノメ	Ypthima argus argus	●	●	●	●
1137			クロコノマチョウ	Melanitis phedima oitensis		●		
1138		スズメガ	トビイロスズメ	Clanis bilineata tsingtauica				●
1139			オオスカシバ	Cephanodes hylas hylas	●			
1140			コスズメ	Theretra japonica	●			
1141		シャクガ	クロクモエダシャク	Apocleora rimosa			●	
1142			ギンスジエダシャク	Chariaspilates formosaria	●			
1143			ウスバミスジエダシャク	Hypomecis punctinalis conferenda			●	
1144			ミスジツマキリエダシャク	Xerodes rufescentaria			●	
1145			ベニヒメシャク	Idaea muricata minor	●			
1146			Idaea属の一種	Idaea sp.		●		
1147			Eupithecia属の一種	Eupithecia sp.	●		●	
1148			ホソスジナミシャク	Lobogonodes complicata complicata			●	
1149		シャチホコガ	モンクロシャチホコ	Phalera flavescens	●			
1150		下クガ	キアシドクガ	Ivela auripes			●	
1151			マイマイガ	Lymantria dispar japonica				●
1152		ヤガ	シラナミアツバ	Herminia innocens	●			
1153			ソトウスグロアツバ	Hydrillodes lentalis			●	
1154			オオアカマエアツバ	Simplicia nippona			●	
1155			クルマアツバ亜科の一種	Herminiinae Gen. et sp.	●			●
1156			アケビコノハ	Eudocima tyrannus		●		
1157			ヒメエグリバ	Oraesia emarginata		●		
1158			コシロシタバ	Catocala actaea				●
1159			アミメキシタバ	Catocala hyperconnexa	●			
1160			ナカグロクチバ	Grammodes geometrica		●		

表 9.10-16(15) 確認種目録 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度	
					夏季	秋季	春季	夏季
1161			オオウンモンクチバ	<i>Mocis undata</i>			●	
1162			ルリモンクチバ	<i>Lacera procellosa</i>	●			
1163			ミツモンキンウバ	<i>Acanthoplusia agnata</i>				●
1164			ヒメネジロコヤガ	<i>Maliattha signifera</i>	●			
1165			フタオビコヤガ	<i>Naranga aenescens</i>	●			
1166			キマダラコヤガ	<i>Acontia trabealis</i>	●			
1167			フクラスズメ	<i>Arcte coerula</i>	●			●
1168			カラスヨトウ	<i>Amphipyra livida corvina</i>				●
1169			オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera armigera</i>				●
1170			タバコガ	<i>Helicoverpa assulta assulta</i>	●	●		
1171			ツメクサガ	<i>Heliothis maritima adaucta</i>				●
1172			チャオビヨトウ	<i>Nipponyx segregata</i>	●			●
1173			スジキリヨトウ	<i>Spodoptera depravata</i>	●			
1174			テンウスイロヨトウ	<i>Athetis dissimilis</i>	●			
1175			ヨトウガ	<i>Mamestra brassicae</i>			●	
1176			フタスジヨトウ	<i>Protomiselia bilinea</i>			●	
1177			クサシロキヨトウ	<i>Mythimna loreyi</i>			●	
1178			カブラヤガ	<i>Agrotis segetum</i>			●	
合計	17目	222科		1178種	513種	489種	525種	478種

注： 種名及び配列は原則として、「日本産昆虫総目録」(九州大学農学部昆虫学研究室 平成元年9月)に準拠しましたが、一部他の文献も参考としました。

i. クモ類

現地調査の結果、1目23科117種のクモ類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-17 に示すとおりです。

表 9.10-17(1) 確認種目録 (クモ類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度
					夏季	秋季	春季
1	クモ	ユウレイグモ	ユウレイグモ	<i>Pholcus zichyi</i>	●		
2		ヤマトガケジグモ	ヤマトガケジグモ	<i>Nurscia albofasciata</i>	●		●
3		ウズグモ	オウギグモ	<i>Hyptiotes affinis</i>		●	
4			マネキグモ	<i>Miagrammopes orientalis</i>		●	
5		ヤチグモ	Coelotes属の一種	<i>Coelotes</i> sp.		●	
6		タナグモ	Agelena属の一種	<i>Agelena</i> sp.		●	
7			コクサグモ	<i>Allagelena opulenta</i>		●	
8			タナグモ科の一種	Agelenidae Gen. et sp.	●		●
9		キシダグモ	Dolomedes属の一種	<i>Dolomedes</i> sp.			●
10			アズマキシダグモ	<i>Pisaura lama</i>	●		
11		コモリグモ	ナミコモリグモ	<i>Pirata yaginumai</i>	●		
12			ハタチコモリグモ	<i>Alopecosa moriutii</i>			●
13			エビチャコモリグモ	<i>Arctosa ebicha</i>			●
14			クロココモリグモ	<i>Arctosa subamylicata</i>	●		
15			ハラクロコモリグモ	<i>Lycosa coelestis</i>	●	●	●
16			ヒノマルコモリグモ	<i>Tricca japonica</i>	●	●	●
17			アライトコモリグモ	<i>Trochosa ruricola</i>		●	●
18			イナダハリグモ	<i>Pardosa agraria</i>	●		●
19			ウツキコモリグモ	<i>Pardosa astrigera</i>	●	●	●
20			キクツキコモリグモ	<i>Pardosa pseudoannulata</i>		●	
21			Pardosa属の一種	<i>Pardosa</i> sp.	●	●	
22			コモリグモ科の一種	Lycosidae Gen. et sp.	●	●	●
23		ササグモ	Oxyopes属の一種	<i>Oxyopes</i> sp.	●	●	●
24		サラグモ	Gnathonarium属の一種	<i>Gnathonarium</i> sp.			●
25			チビアカサラグモ	<i>Nematogmus sanguinolentus</i>			●
26			オオサカアカムネグモ	<i>Ummeliata osakaensis</i>			●
27			サラグモ科の一種	Linyphiidae Gen. et sp.			●
28		ヒメグモ	ヒシガタグモ	<i>Episinus affinis</i>	●		
29			ムラクモヒシガタグモ	<i>Episinus nubilus</i>			●
30			ムナボシヒメグモ	<i>Keijia sterninotata</i>			●
31			カグヤヒメグモ	<i>Parasteatoda culicivola</i>	●		
32			ニホンヒメグモ	<i>Parasteatoda japonica</i>	●	●	
33			Parasteatoda属の一種	<i>Parasteatoda</i> sp.		●	
34			ツクネグモ	<i>Phoroncidia pilula</i>			●
35			スネグロオチバヒメグモ	<i>Stemmops nipponicus</i>	●		
36			シロカネイソウロウグモ	<i>Argyrodes bonadea</i>	●		
37			オナガグモ	<i>Ariamnes cylindrogaster</i>		●	
38		ヒゲナガヤリグモ	<i>Rhomphaea labiata</i>		●		
39		シモフリミジグモ	<i>Dipoena punctisparsa</i>			●	
40		ボカシミジグモ	<i>Yaginumena castrata</i>	●			
41	アシナガグモ	チュウガタシロカネグモ	<i>Leucauge blanda</i>	●	●	●	
42		コシロカネグモ	<i>Leucauge subblanda</i>	●		●	
43		Leucauge属の一種	<i>Leucauge</i> sp.	●			
44		トガリアシナガグモ	<i>Tetragnatha caudicula</i>		●	●	
45		ヤサガタアシナガグモ	<i>Tetragnatha maxillosa</i>		●		
46		アシナガグモ	<i>Tetragnatha praedonia</i>	●		●	
47		Tetragnatha属の一種	<i>Tetragnatha</i> sp.	●		●	
48	ジョロウグモ	ジョロウグモ	<i>Nephila clavata clavata</i>	●	●		
49	コガネグモ	ビジョオニグモ	<i>Araneus mitificus</i>	●			
50		アオオニグモ	<i>Araneus pentagrammicus</i>			●	
51		カラオニグモ	<i>Araneus tsurusakii</i>			●	
52		オニグモ	<i>Araneus ventricosus</i>			●	
53		Araneus属の一種	<i>Araneus</i> sp.		●		
54		ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichi</i>	●			
55		コガタコガネグモ	<i>Argiope minuta</i>		●		
56		ギンメッキゴミグモ	<i>Cyclosa argenteoalba</i>	●			
57		ゴミグモ	<i>Cyclosa octotuberculata</i>	●			
58		ヨツデゴミグモ	<i>Cyclosa sedeculata</i>		●		
59		キザハシオニグモ	<i>Gibbaranea abscissa</i>	●	●	●	
60		シロスジショウジョウグモ	<i>Hypsosinga sanguinea</i>	●	●	●	
61		Larinia属の一種	<i>Larinia</i> sp.		●		
62		ドヨウオニグモ	<i>Neoscona adianta</i>	●	●	●	
63		ワキグロサツマノミダマシ	<i>Neoscona mellottei</i>	●			
64		コゲチャオニグモ	<i>Neoscona punctigera</i>		●	●	
65		ヤマシロオニグモ	<i>Neoscona scylla</i>	●		●	
66	コマチグモ	ヤマトコマチグモ	<i>Chiracanthium lascivum</i>			●	
67		Chiracanthium属の一種	<i>Chiracanthium</i> sp.	●	●	●	

表 9.10-17(2) 確認種目録 (クモ類)

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度		平成31年度
					夏季	秋季	春季
68		シボグモ	シボグモ	<i>Anahita fauna</i>	●		●
69		エビグモ	キンイロエビグモ	<i>Philodromus auricomus</i>			●
70			アサヒエビグモ	<i>Philodromus subaureolus</i>	●		●
71			<i>Philodromus</i> 属の一種	<i>Philodromus</i> sp.			●
72			ヤドカリグモ	<i>Thanatus miniaceus</i>	●		
73			ヤマトヤドカリグモ	<i>Thanatus nipponicus</i>		●	
74			シャコグモ	<i>Tibellus japonicus</i>	●	●	
75		ワシグモ	トラフワシグモ	<i>Drassodes serratidens</i>			●
76			メキリグモ	<i>Gnaphosa kompirensis</i>	●		
77			ヤマトフトバワシグモ	<i>Odontodrassus hondoensis</i>	●		●
78			クロケムリグモ	<i>Zelotes tortuosus</i>		●	
79			ワシグモ科の一種	Gnaphosidae Gen. et sp.		●	●
80		カニグモ	ワカバグモ	<i>Oxytate striatipes</i>	●	●	●
81			キハダカニグモ	<i>Bassaniana decorata</i>	●		●
82			コカニグモ	<i>Coriarachne fulvipes</i>		●	
83			クマダハナグモ	<i>Ebelingia kumadai</i>	●	●	
84			ハナグモ	<i>Ebrechtella tricuspidata</i>	●	●	●
85			ガザミグモ	<i>Pistius undulatus</i>	●	●	●
86			アズチグモ	<i>Thomisus labefactus</i>	●	●	
87			ヤギヌマノセマルトラフカニグモ	<i>Tmarus yaginumai</i>	●		
88			<i>Tmarus</i> 属の一種	<i>Tmarus</i> sp.		●	●
89			ヤミイロカニグモ	<i>Xysticus croceus</i>			●
90			チュウカカニグモ	<i>Xysticus ephippiatus</i>	●		
91			ゾウシキカニグモ	<i>Xysticus saganus</i>	●		
92			ヨコフカニグモ	<i>Xysticus transversomaculatus</i>	●	●	●
93			<i>Xysticus</i> 属の一種	<i>Xysticus</i> sp.	●	●	●
94		フクログモ	<i>Clubiona</i> 属の一種	<i>Clubiona</i> sp.		●	●
95		イツツグモ	イツツグモ	<i>Anyphaena pugil</i>		●	●
96		ウエムラグモ	イタチグモ	<i>Itatsina praticola</i>	●		
97		ネコグモ	ネコグモ	<i>Trachelas japonicus</i>		●	●
98		ハエトリグモ	ヤガタアリグモ	<i>Myrmarachne elongata</i>		●	
99			アリグモ	<i>Myrmarachne japonica</i>	●	●	●
100			<i>Myrmarachne</i> 属の一種	<i>Myrmarachne</i> sp.		●	
101			ヤマジハエトリ	<i>Asianellus festivus</i>	●	●	
102			ネコハエトリ	<i>Carrhotus xanthogramma</i>	●	●	
103			カタオカハエトリ	<i>Euophrys kataokai</i>			●
104			マミジロハエトリ	<i>Evarcha albaria</i>	●	●	●
105			ヨダンハエトリ	<i>Marpissa pulla</i>		●	●
106			オスクロハエトリ	<i>Mendoza canestrinii</i>		●	●
107			ヤハズハエトリ	<i>Mendoza elongata</i>	●	●	●
108			<i>Mendoza</i> 属の一種	<i>Mendoza</i> sp.		●	●
109			シラヒゲハエトリ	<i>Menemerus brachygnathus</i>			●
110			メガネアサヒハエトリ	<i>Phintella linea</i>		●	●
111			<i>Phintella</i> 属の一種	<i>Phintella</i> sp.			●
112			デーニツハエトリ	<i>Plexippoides doenitzi</i>	●	●	
113			ミスジハエトリ	<i>Plexippus setipes</i>		●	
114			イナヅマハエトリ	<i>Pseudicius vulpes</i>		●	●
115			カラスハエトリ	<i>Rhene atrata</i>	●	●	●
116			アオオビハエトリ	<i>Siler vittatus</i>			●
117			ハエトリグモ科の一種	<i>Salticidae</i> Gen. et sp.		●	●
合計	1目	23科		117種	60種	62種	68種

注：種名及び配列は原則として、「野生生物目録 無脊椎動物Ⅱ」（環境庁 平成7年4月）に準拠しましたが、一部他の文献も参考としました。

j. 魚類

現地調査の結果、3目5科6種の魚類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-18 に示すとおりです。

表 9.10-18 確認種目録（魚類）

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度			平成31年度
					夏季	秋季	冬季	春季
1	コイ	コイ	アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>	●			
2		ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	●	●	●	●
3			ヒガシマドジョウ	<i>Cobitis</i> sp. BIWAE type C	●	●		
4		フクドジョウ	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	●	●	●	●
5	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	●	●	●	
6	スズキ	ハゼ	クロダハゼ	<i>Rhinogobius kurodai</i>		●		
合計	3目	5科	6種		5種	5種	3種	2種

注： 種名及び配列は原則として、「平成30年度河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成30年度版）に準拠しました。

k. 底生動物

現地調査の結果、8門13綱25目68科143種の底生動物が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-19 に示すとおりです。

表 9.10-19(1) 確認種目録 (底生動物)

No.	門	綱	目名	科名	種名	学名	平成30年度			平成31年度		
							夏季	秋季	冬季	春季		
1	刺胞動物	ヒドロ虫	ハナクラゲ	ヒドロ	ヒドロ属	<i>Hydra</i> sp.						
2	扁形動物	有棒状体	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	<i>Dugesia japonica</i>	●	●				●
3					アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>				●		
4	苔虫動物	裸喉	櫛口	(三岐腸目)	三岐腸目	TRICLADIDA sp.		●				
5	紐形動物	有針	ハリヒモムシ	マミズヒモムシ	ミミズヒモムシ属	<i>Prostoma</i> sp.	●	●				
6	軟体動物	腹足	新生腹足	タニシ	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>				●		
7					カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>	●	●				●
8					カワニナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>	●	●				●
9					カワニナ属	<i>Semisulcospira</i> sp.	●	●				●
10					カワザンショウガイ	<i>Paludinassiminea debilis</i>	●					
11			汎有肺		サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>	●	●				
12					カワコザラガイ	<i>Laevapex nipponica</i>	●	●				
13		二枚貝	マルスタレガイ	シジミ	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	●					
14					マメシジミ	マメシジミ属	●	●				
15	環形動物	ミミズ	イトミミズ	ヒメミミズ	ヒメミミズ科	ENCHYTRAEIDAE sp.	●	●				
16					ミズミミズ	ヤドリミズミミズ属	●	●				
17					ウチワミミズ	<i>Dero digitata</i>	●	●				
18					ミツゲミズミミズ	<i>Nais bretscheri</i>				●		
19					ミズミミズ属	<i>Nais</i> sp.				●		
20					ヨゴレミズミミズ	<i>Slavina appendiculata</i>	●	●				
21					ミズミミズ亜科	NAIDINAE sp.	●	●				
22					トガリミズミミズ属	<i>Pristina</i> sp.						●
23					ヒメイトミミズ属	<i>Aulodrilus</i> sp.	●					●
24					ピワヨゴレイトミミズ	<i>Emblocephalus yamaguchii</i>				●		●
25					ユリミミズ	<i>Limnodrilus hoffmeisteri</i>						●
26					イトミミズ亜科	TUBIFICINAE sp.	●	●				
27					エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>	●					
28					ナガライトミミズ亜科	RHYACODRILINAE sp.						●
29					ミズミミズ科	NAIDIDAE sp.						●
30					ツリミミズ	ツリミミズ科				●		●
31					フトミミズ	フトミミズ科	●	●		●		●
32					(ツリミミズ目)	ツリミミズ目	●	●		●		●
33		ヒル	物無蜂	イシビル	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	●	●				●
34					ナガラビル	<i>Barbronia weberi</i>	●	●				●
35	節足動物	クモ (蛛形)	ダニ	オヨギダニ	オヨギダニ科	HYGROBATIDAE sp.	●					
36					アオイダニ	アオイダニ科						●
37					ナガラダニ	ナガラダニ科						●
38					ケイリュウダニ	ケイリュウダニ科				●		
39	顎脚		カイミジンコ	(カイミジンコ目)	カイミジンコ目	PODOCOPIDA sp.	●	●				●
40	軟甲		ヨコエビ	マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>	●	●				●
41			ワラジムシ	ミズムシ (甲)	ミズムシ (甲)	<i>Aeillus hilgendorfi</i>	●	●				●
42			エビ	ヌマエビ	<i>Neocaridina heteropoda heteropoda</i>	<i>Neocaridina heteropoda heteropoda</i>	●	●				●
43					テナガエビ	<i>Palaeon paucidens</i>	●					●
44					アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	●	●				●
45					サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>						●
46	昆虫		カゲロウ (蜻蛉)	コカゲロウ	フタバカゲロウ	<i>Cloeon dipterum</i>	●					
47					フタバカゲロウ属	<i>Cloeon</i> sp.	●					
48					サホコカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>	●					●
49					フタモンコカゲロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>		●				●
50					シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicus</i>				●		●
51					ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labioabaetis atrebatinus orientalis</i>	●					●
52					ウデマガリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>	●					●
53					トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	アオイトトンボ属					●
54					カワトンボ	アオイトトンボ属						●
55					ヤンマ	クロスジギンヤンマ	<i>Atoxotoma atrata</i>	●	●			●
56						ギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	●				
57						ギンヤンマ属	<i>Anax parthenope julius</i>					
58						ギンヤンマ属	<i>Anax</i> sp.					●
59					サナエトンボ	ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	●	●			●
60					オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	●	●			●
61					トンボ	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●	●			●
62						トンボ科	LIBELLULIDAE sp.					●
63					カワゲラ (セキ翅)	クロカワゲラ	ミジカオクワゲラ属					●
64						オナシカワゲラ	<i>Eucnopsis</i> sp.					●
65						オナシカワゲラ属	<i>Nemoura fulva</i>					●
66					カメムシ (半翅)	アメンボ	<i>Nemoura</i> sp.	●	●			●
67						アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	●	●			●
68						アメンボ	<i>Gerris gracilicornis</i>	●				●
69						アメンボ	<i>Gerris insularis</i>	●				●
70						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
71						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
72						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
73						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
74						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
75						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
76						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
77						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
78						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
79						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
80						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
81						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
82						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
83						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
84						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●
85						アメンボ	<i>Gerris latiaeris</i>	●				●

表 9.10-19(2) 確認種目録 (底生動物)

No.	門	綱	目名	科名	種名	学名	平成30年度			平成31年度	
							夏季	秋季	冬季	春季	
86			ハエ (双翅)	オビヒメガガンボ	ダイミョウガガンボ属	<i>Pedicia</i> sp.			●		
87				ヒメガガンボ	ウスバガガンボ属	<i>Antocha</i> sp.	●				
88						ナミヒメガガンボ属	<i>Dicranomyia</i> sp.				●
89						カスリヒメガガンボ属	<i>Limnophila</i> sp.			●	
90						スクレロプロクタ属	<i>Scleroprocta</i> sp.		●		
91					ガガンボ	Nippotipula亜属	<i>Tipula (Nippotipula)</i> sp.	●		●	●
92						Yamatotipula亜属	<i>Tipula (Yamatotipula)</i> sp.	●	●	●	●
93						ガガンボ属	<i>Tipula</i> sp.	●	●		●
94						ガガンボ亜科	TIPULINAE sp.	●			
95					チョウバエ	ハマダラチョウバエ属	<i>Pericoma</i> sp.	●	●		●
96					ヌカカ	ヌカカ科	CERATOPOGONIDAE sp.			●	●
97					ユスリカ	タマリユスリカ属	<i>Alotanypus</i> sp.			●	●
98						ホカシヌマユスリカ属	<i>Macropelopia</i> sp.	●		●	●
99						モンヌマユスリカ属	<i>Natarsia</i> sp.		●	●	
100					トラフユスリカ属	<i>Conchapelopia</i> sp.				●	
101					ウスギヌマユスリカ属	<i>Rheopelopia</i> sp.	●	●	●	●	
102					カユスリカ属	<i>Procladius</i> sp.	●				
103					カモヤユスリカ種群	<i>Potthastia (longimanus group)</i> sp.			●	●	
104					ヤマユスリカ亜科	DIAMESIINAE sp.			●		
105					ケブカユスリカ属	<i>Brillia</i> sp.			●		
106					コナユスリカ属	<i>Corynoneura</i> sp.			●		
107					ツヤユスリカ属	<i>Cricotopus</i> sp.	●			●	
108					キリカキケバネユスリカ属	<i>Heterotrissocladus</i> sp.			●		
109					ニセトグアシユスリカ属	<i>Parachaeotocladus</i> sp.		●			
110					ニセケバネユスリカ属	<i>Parametrioctenemus</i> sp.	●	●	●	●	
111					ケナガケバネユスリカ属	<i>Paraphaenocladus</i> sp.		●	●		
112					ニセピロウドユスリカ属	<i>Pseudosmittia</i> sp.			●		
113					ナガレツヤユスリカ属	<i>Rheocricotopus</i> sp.	●		●	●	
114					ヌカユスリカ属	<i>Thienemanniella</i> sp.			●		
115					ニセテンマクエリユスリカ属	<i>Ivetenia</i> sp.	●		●	●	
116					エリユスリカ亜科	ORTHOCLADINIINAE sp.			●		
117					ユスリカ属	<i>Chironomus</i> sp.	●	●	●	●	
118					カマカタユスリカ属	<i>Cryptochironomus</i> sp.	●	●	●	●	
119					コブナシユスリカ属	<i>Harnischia</i> sp.	●				
120					ハケユスリカ属	<i>Phaenopsectra</i> sp.	●	●	●	●	
121					ハモユスリカ属	<i>Polypedilum</i> sp.	●	●	●	●	
122					アシマダラユスリカ属	<i>Stictochironomus</i> sp.				●	
123					ナガスネユスリカ属	<i>Micropsectra</i> sp.				●	
124					ニセヒゲユスリカ属	<i>Paratanytarsus</i> sp.				●	
125					ナガレユスリカ属	<i>Rheotanytarsus</i> sp.	●	●	●	●	
126					カンムリゲミンユスリカ属	<i>Stempellinella</i> sp.	●				
127					ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus</i> sp.	●	●	●	●	
128					ヒゲユスリカ族	Tanytarsini sp.		●		●	
129					ユスリカ亜科	CHIRONOMINAE sp.	●				
130				カ	ナミカ属	<i>Culex</i> sp.			●	●	
131				ホソカ	ホソカ属	<i>Dixa</i> sp.	●		●		
132				ブユ	ツノマユブユ属	<i>Eusimulium</i> sp.		●	●	●	
133				ミスアブ	ホソルリミスアブ属	<i>Actina</i> sp.	●	●			
134				オドリバエ	オドリバエ科	EMPIDIDAE sp.				●	
135				ハナアブ	ハナアブ科	SYRPHIDAE sp.				●	
136				ミギワバエ	ミギワバエ科	EPHYDRIDAE sp.			●		
137			コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	チビゲンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus</i>	●	●			
138					マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i>				●	
139					ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>				●	
140					ガムシ	キベリヒラダガムシ	<i>Enochrus japonicus</i>	●			
141						ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>	●			●
142					ガムシ科	HYDROPHILIDAE sp.				●	
143	苔虫動物	裸喉	楯口	(楯口目)	楯口目	CTENOSTOMATA sp.				●	
合計	8門	13綱	25目	68科		143種	88種	63種	72種	87種	

注：種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度生物リスト 河川環境データベース」（国土交通省 平成30年）に準拠したほか部分的には「図説日本のユスリカ」（日本ユスリカ研究会編 平成22年8月）など、各種文献類に従いました。

1. 陸産貝類

現地調査の結果、1目11科24種の陸産貝類が確認されました。

確認種目録は、表 9.10-20 に示すとおりです。

表 9.10-20 確認種目録（陸産貝類）

No.	目名	科名	種名	学名	平成30年度	平成31年度
					冬季	初夏
1	マイマイ	キバサナギガイ	スナガイ	<i>Gastrocopta armigerella armigerella</i>	●	●
2		ミジンマイマイ	ミジンマイマイ	<i>Vallonia costata</i>	●	●
3		キセルガイ	ナミコギセル	<i>Euphaedusa tau tau</i>	●	●
4			ヒカリギセル	<i>Zaptychopsis buschi</i>	●	●
5		オカチョウジガイ	オカチョウジガイ	<i>Allopeas clavulinum kyotoense</i>	●	●
6			トクサオカチョウジガイ	<i>Paropeas javanicum</i>	●	●
7			ホソオカチョウジガイ	<i>Allopeas pyrgula</i>	●	●
8			サツマオカチョウジガイ	<i>Allopeas satsumense</i>	●	●
9		バツラマイマイ	バツラマイマイ	<i>Discus pauper</i>	●	●
10		コハクガイ	ヒメコハクガイ	<i>Hawaiiia minuscula</i>	●	●
11			コハクガイ	<i>Zonitoides arboreus</i>	●	●
12		ナメクジ	ヤマナメクジ	<i>Meghimatium fruhstorferi</i>	●	
13		コウラナメクジ	ノハラナメクジ	<i>Derocerus reticulatum</i>	●	●
14			チャコウラナメクジ	<i>Limax marginatus</i>	●	●
15		ベッコウマイマイ	ヒメベッコウ	<i>Discoconulus sinapidium</i>	●	
16			マルシタラガイ	<i>Parasitala reinhardti</i>	●	●
17			ウラジロベッコウ	<i>Urazirochlamys doenitzii</i>	●	
18		ナンバンマイマイ	ニッポンマイマイ	<i>Satsuma japonica japonica</i>	●	●
19		オナジマイマイ	ウスカワマイマイ	<i>Acusta despecta sieboldina</i>	●	●
20			コハクオナジマイマイ	<i>Bradybaena pellucida</i>	●	●
21			オナジマイマイ	<i>Bradybaena similaris</i>		●
22			ミスジマイマイ	<i>Euhadra peliomphala peliomphala</i>	●	●
23			ヒダリマキマイマイ	<i>Euhadra quaesita quaesita</i>	●	●
24			エンスイマイマイ	<i>Trishoplita conospira</i>	●	●
合計	1目		11科	24種		23種

注：種名及び配列は原則として、「野生物目録 無脊椎動物Ⅲ」（環境庁 平成10年4月）に準拠しましたが、一部他の文献も参考としました。

イ. 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

a. 哺乳類

現地調査の結果、重要な種は確認されませんでした。

b. 鳥類（一般鳥類）

現地調査の結果、4目14科24種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-21 に、確認位置は図 9.10-3 に示すとおりです。

表 9.10-21 鳥類の重要な種の確認種目録（一般鳥類調査）

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		選定基準				
						①	②	③	④	
				内	外				繁殖期	非繁殖期
1	ハト	ハト	アオバト		●				注目	注目
2	チドリ	チドリ	ムナグロ	●						減少
3			コチドリ	●					注目	
4	タカ	ミサゴ	ミサゴ	●				NT	VU	NT
5		タカ	ツミ	●					VU	希少
6			ハイタカ	●				NT	情不	希少
7			オオタカ	●	●				NT	VU
8	ノスリ		●						VU	希少
9	スズメ	モズ	モズ	●	●				減少	
10		ヒバリ	ヒバリ	●					減少	
11		ツバメ	ツバメ	●	●				減少	
12		ムシクイ	センダイムシクイ	●	●				NT	
13		ヨシキリ	オオヨシキリ	●	●				VU	
14		セッカ	セッカ	●					減少	減少
15		ヒタキ	トラツグミ	●					減少	
16			アカハラ	●	●				減少	
17			キビタキ	●	●				減少	
18		セキレイ	キセキレイ	●					減少	
19			セグロセキレイ	●					減少	
20			ビンズイ		●				VU	
21		アトリ	カワラヒワ	●	●				減少	
22		ホオジロ	ホオアカ	●					CR+EN	
23			アオジ	●	●				VU	
24			クロジ	●	●				CR+EN	減少
合計	4目	14科	24種	22種	12種	—	—	3種	23種	8種

注：1. 種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 平成24年9月）に準拠しました。

2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省 令和2年3月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

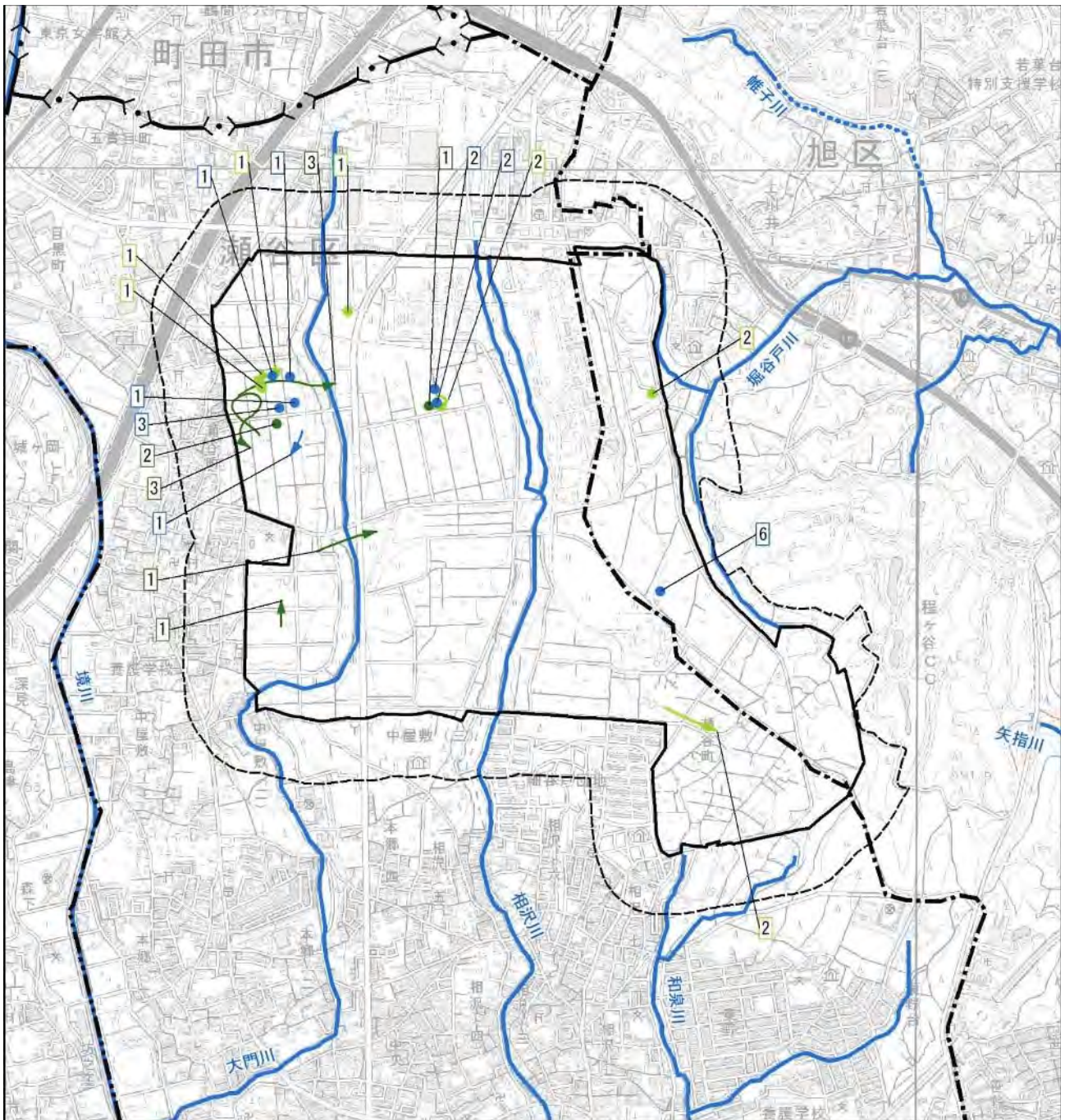


図 9.10-3(1) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：コチドリ）

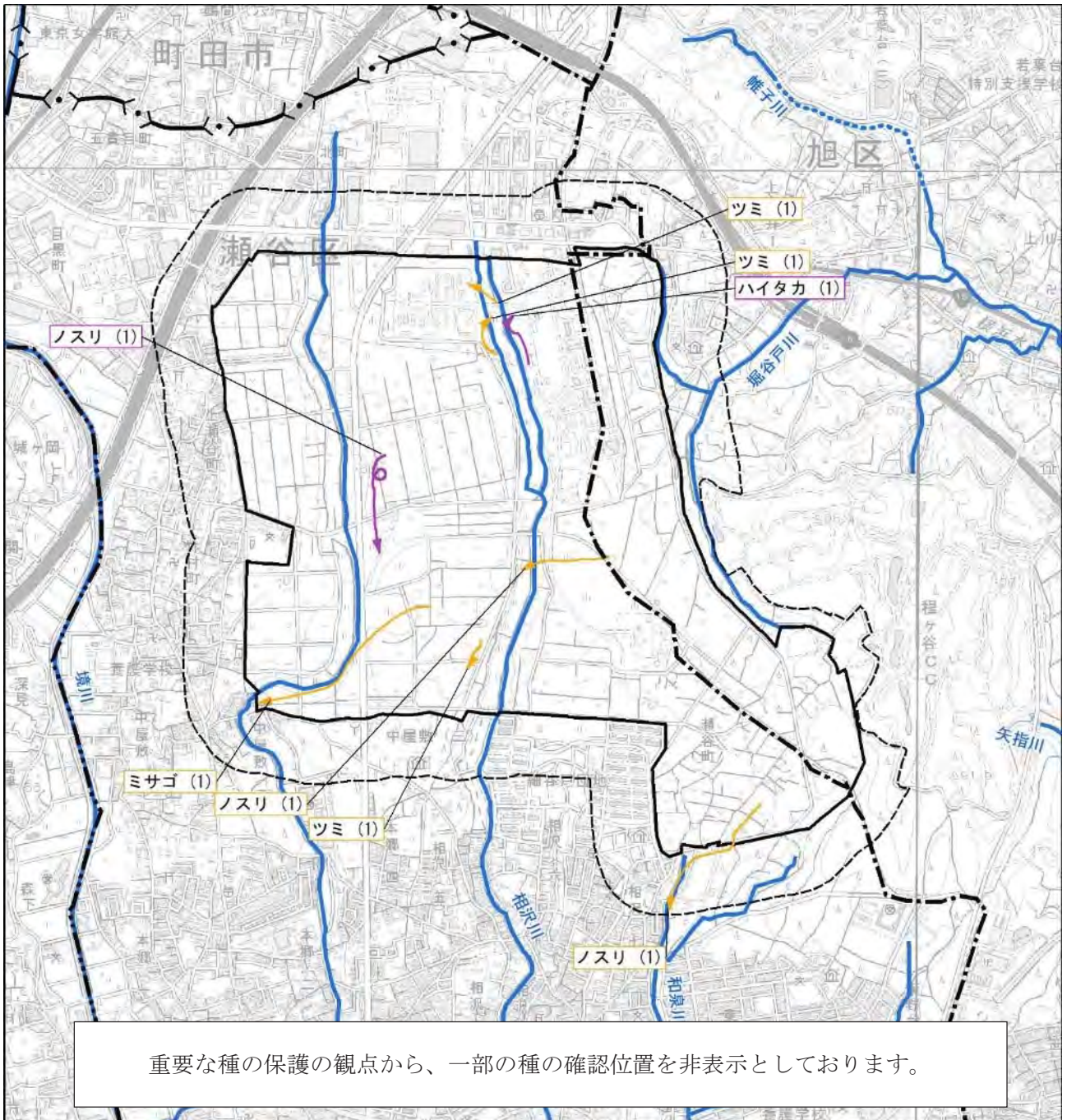


図 9.10-3(2) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：猛禽類（タカ目5種））

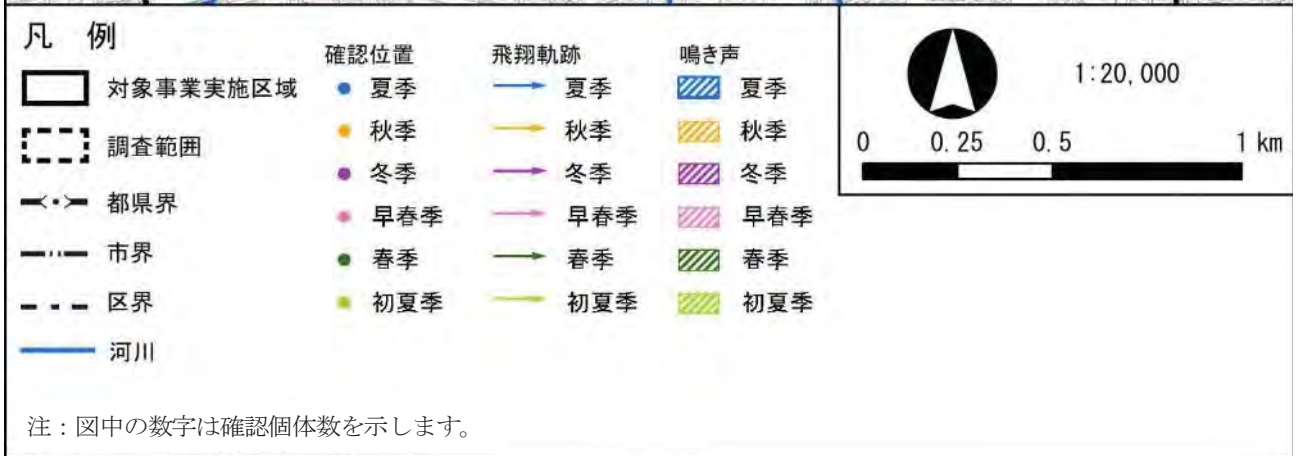
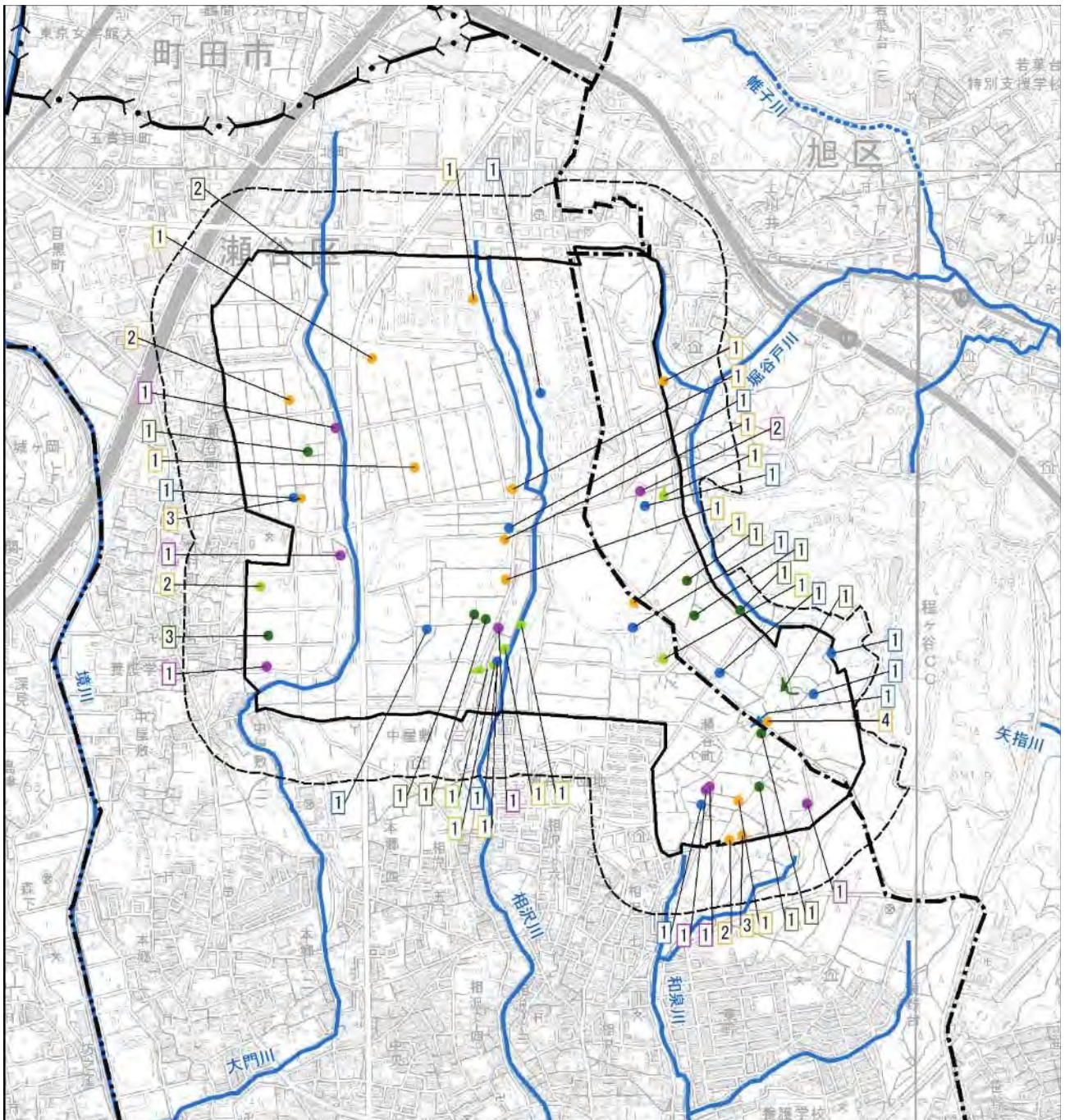


図 9.10-3(3) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：モズ）

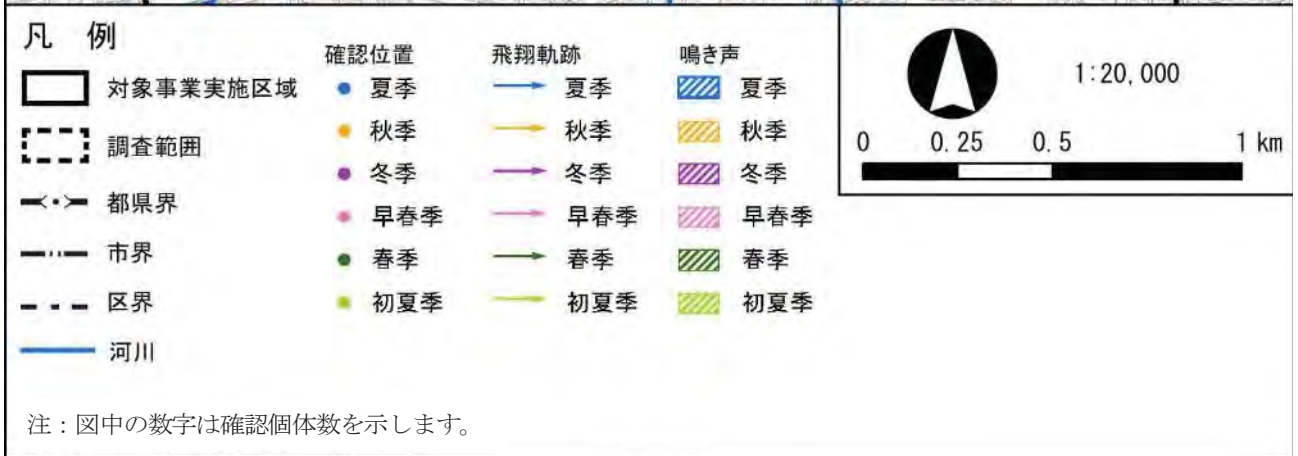
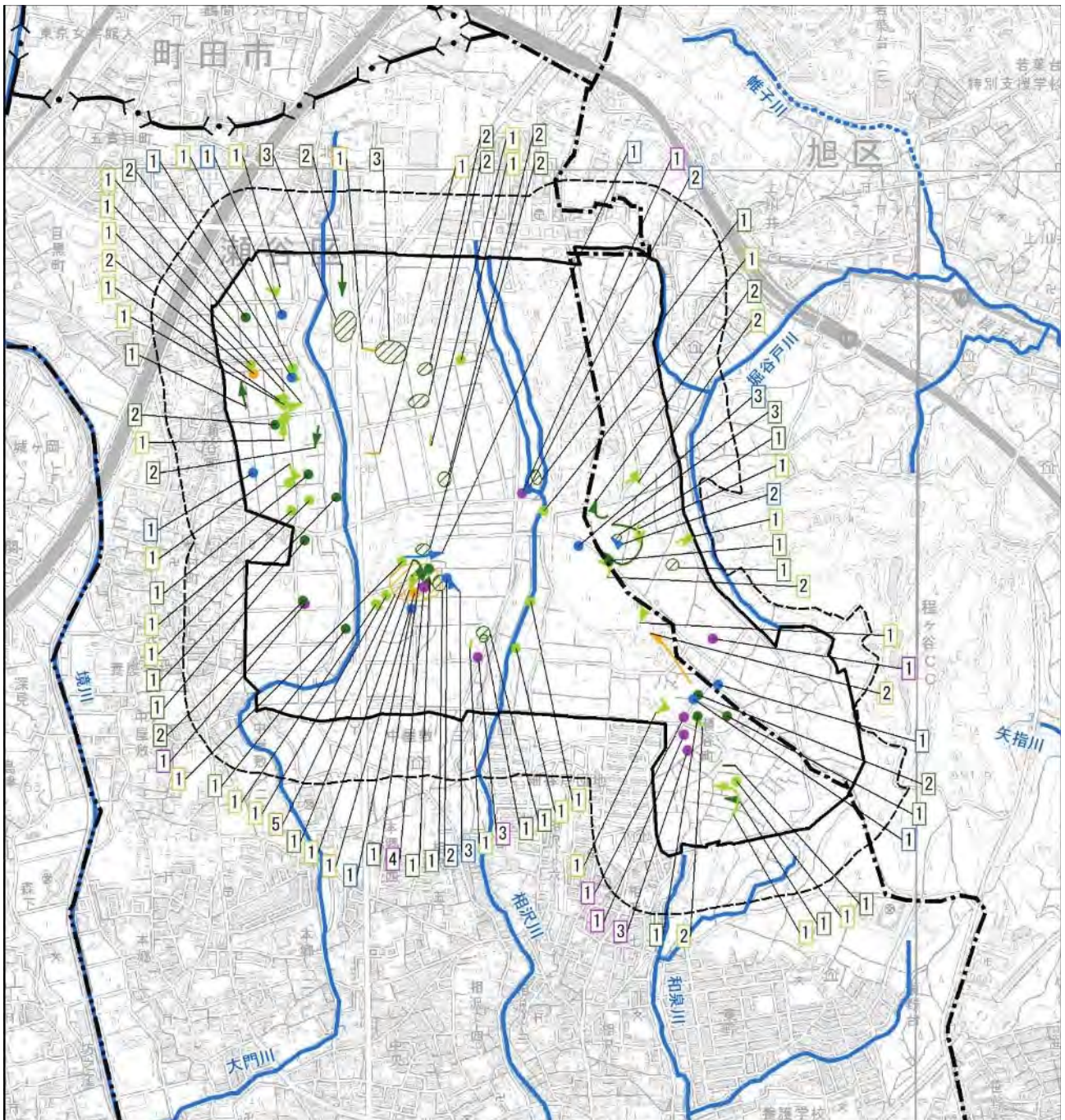


図 9.10-3(4) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：ヒバリ）

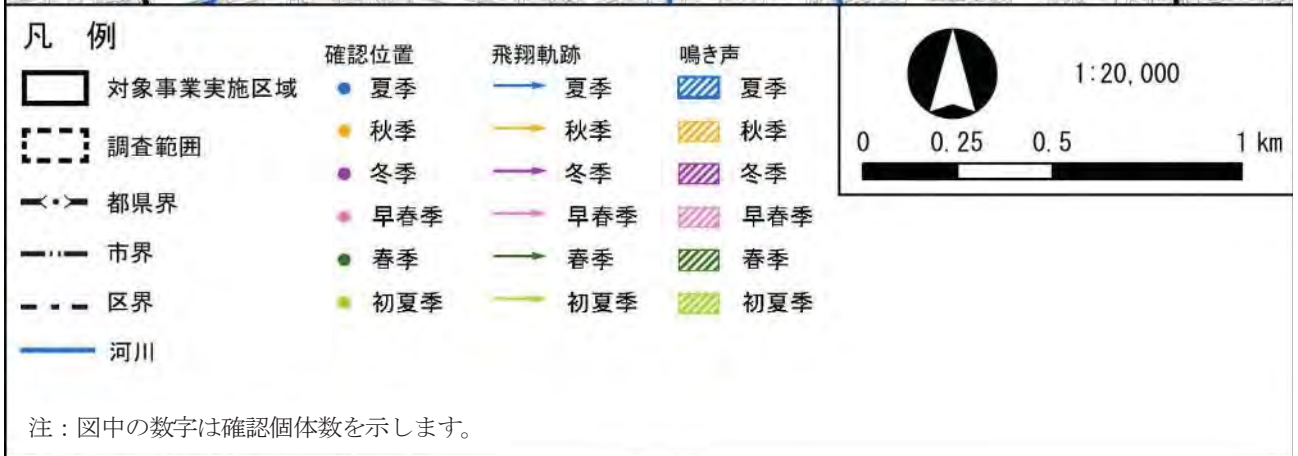
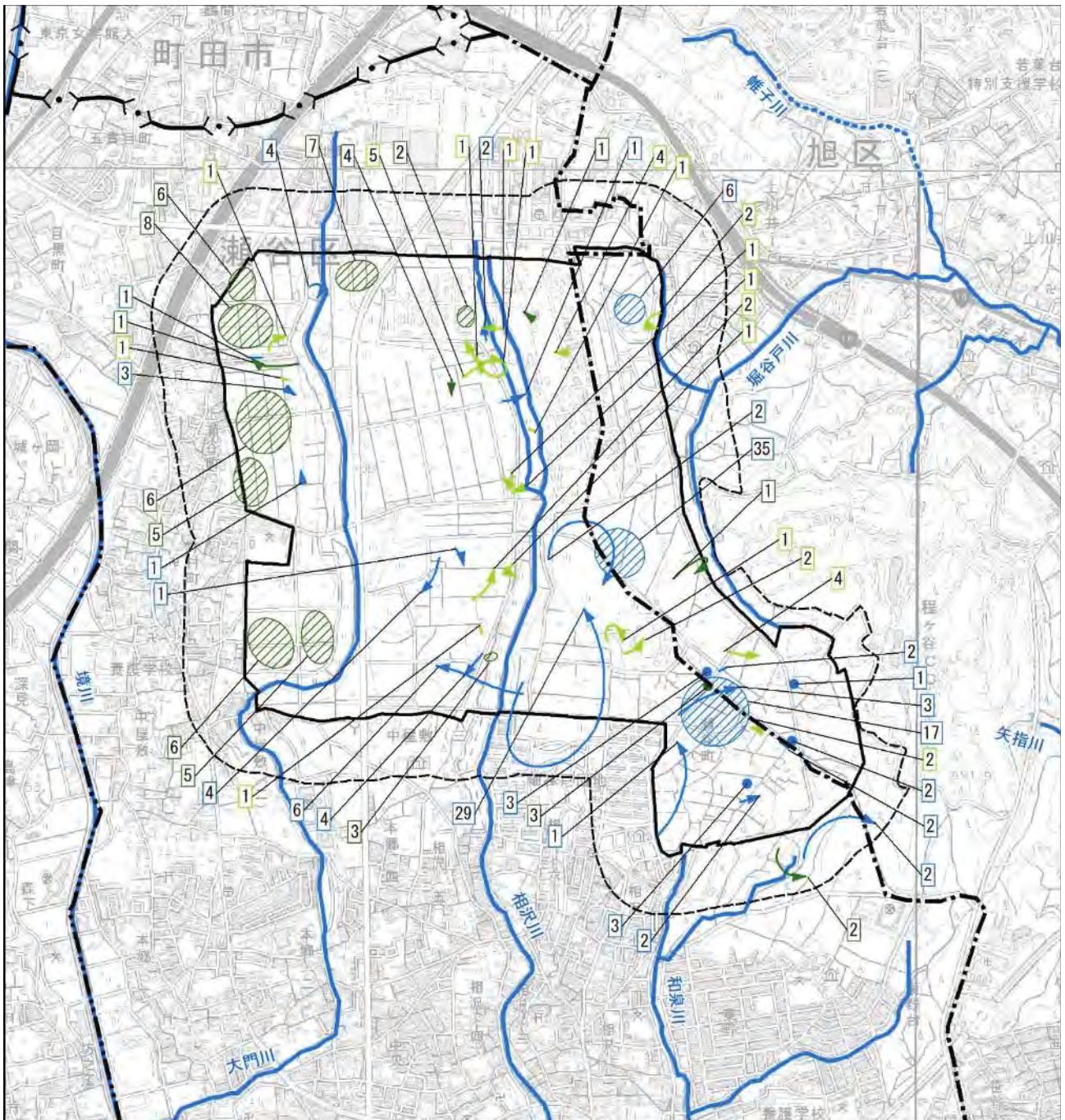


図 9.10-3(5) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：ツバメ）

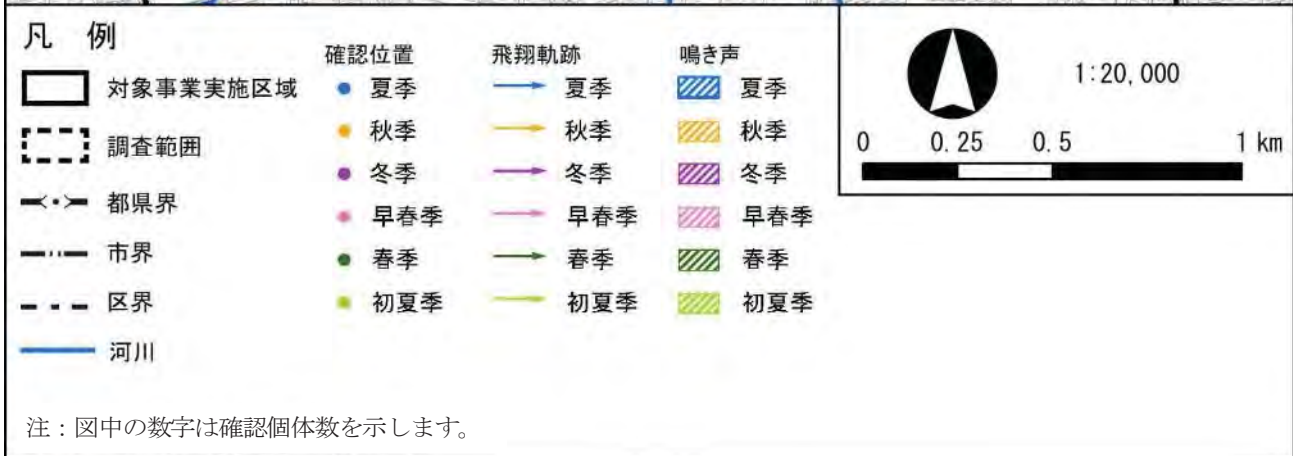
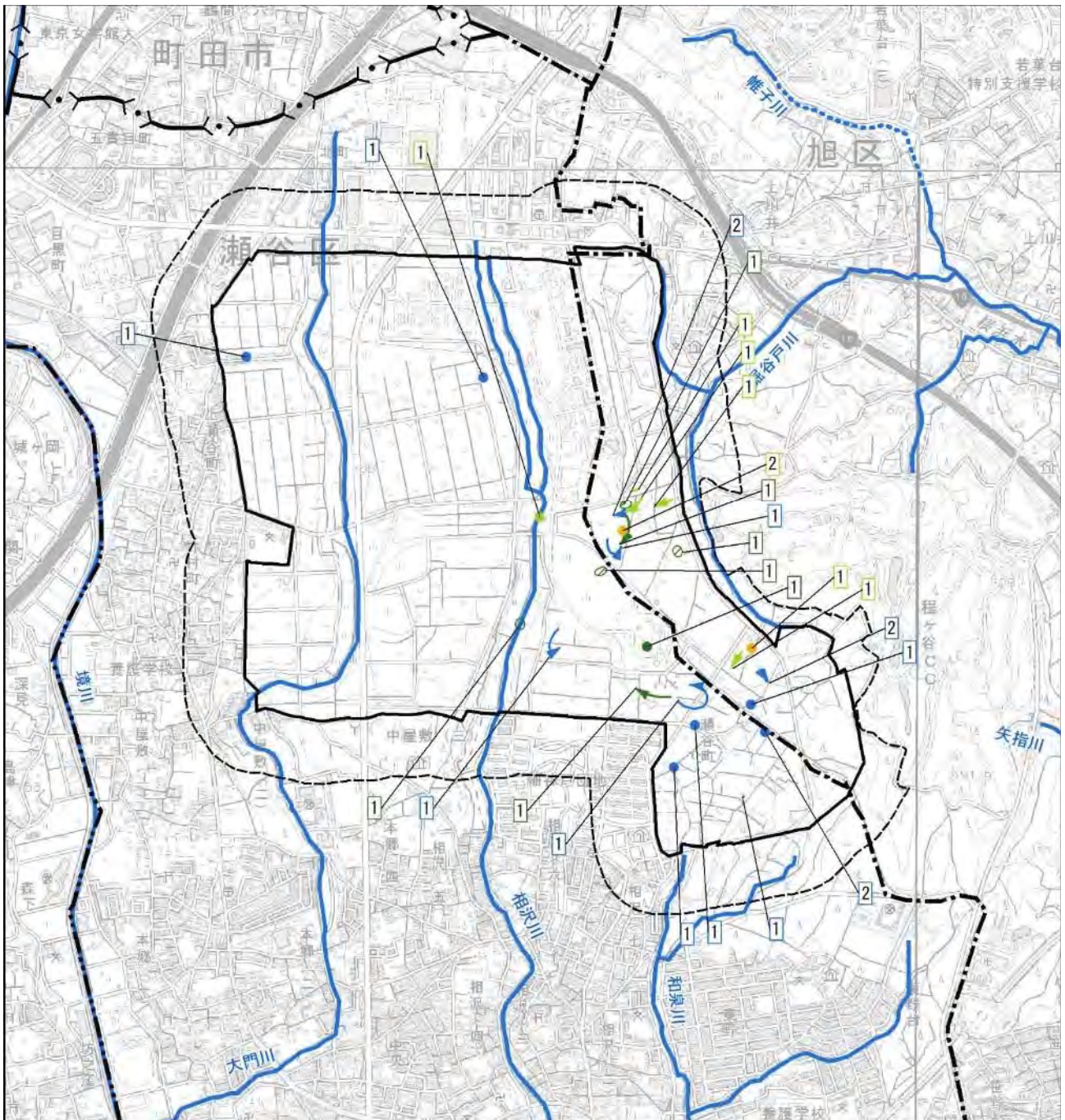


図 9.10-3(6) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：セッカ）

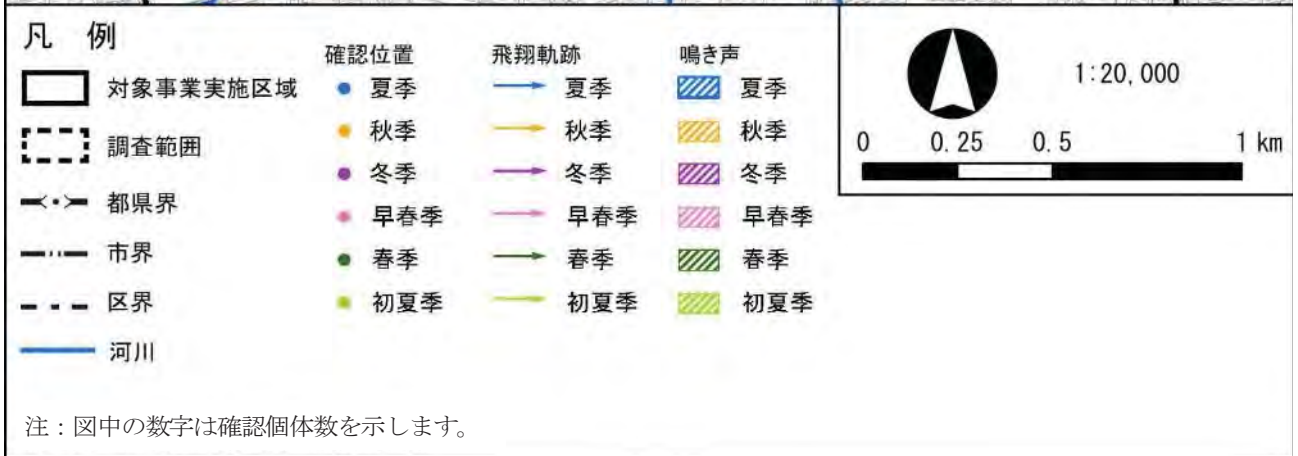
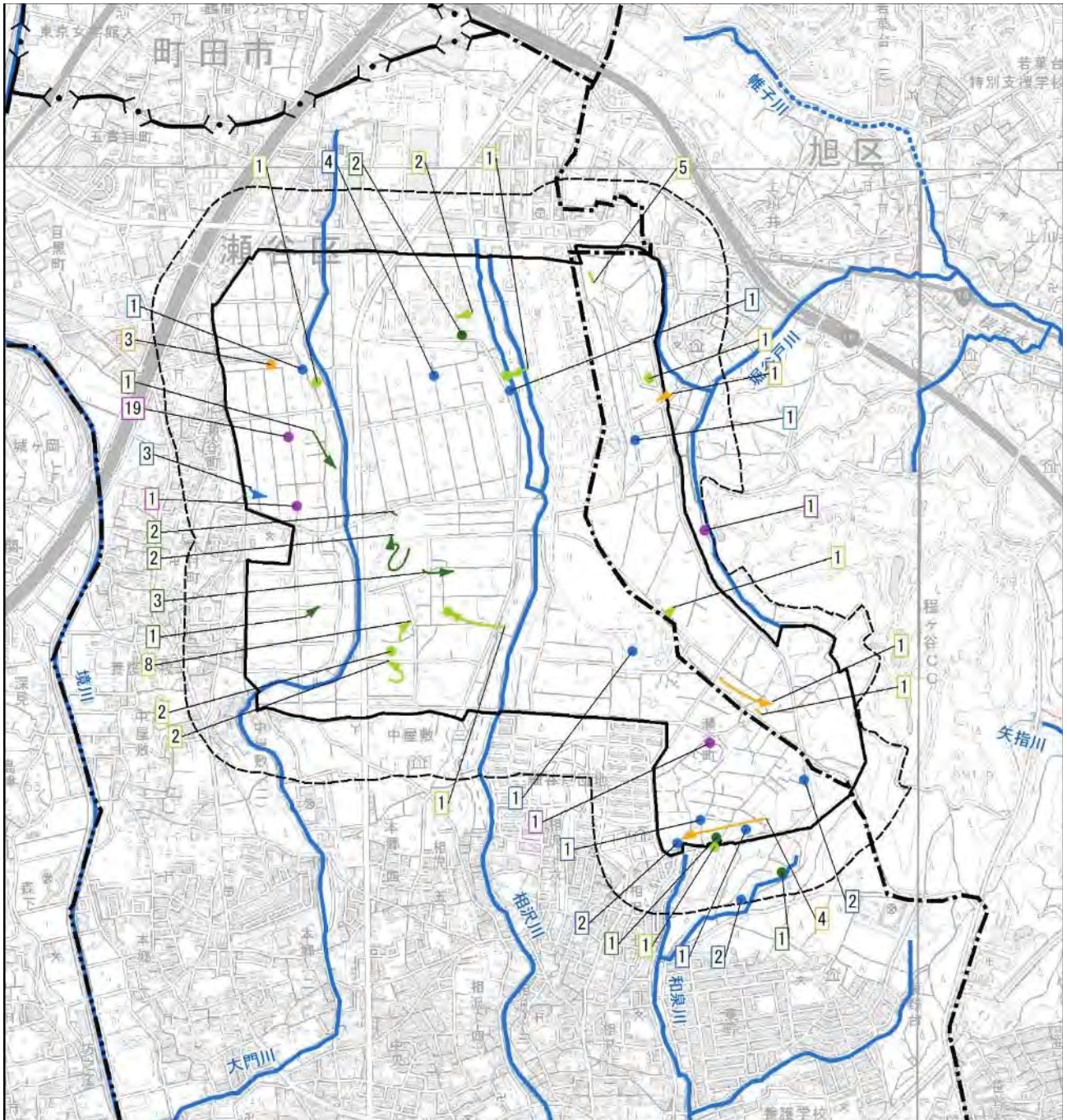


図 9.10-3(7) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：カワラヒワ）

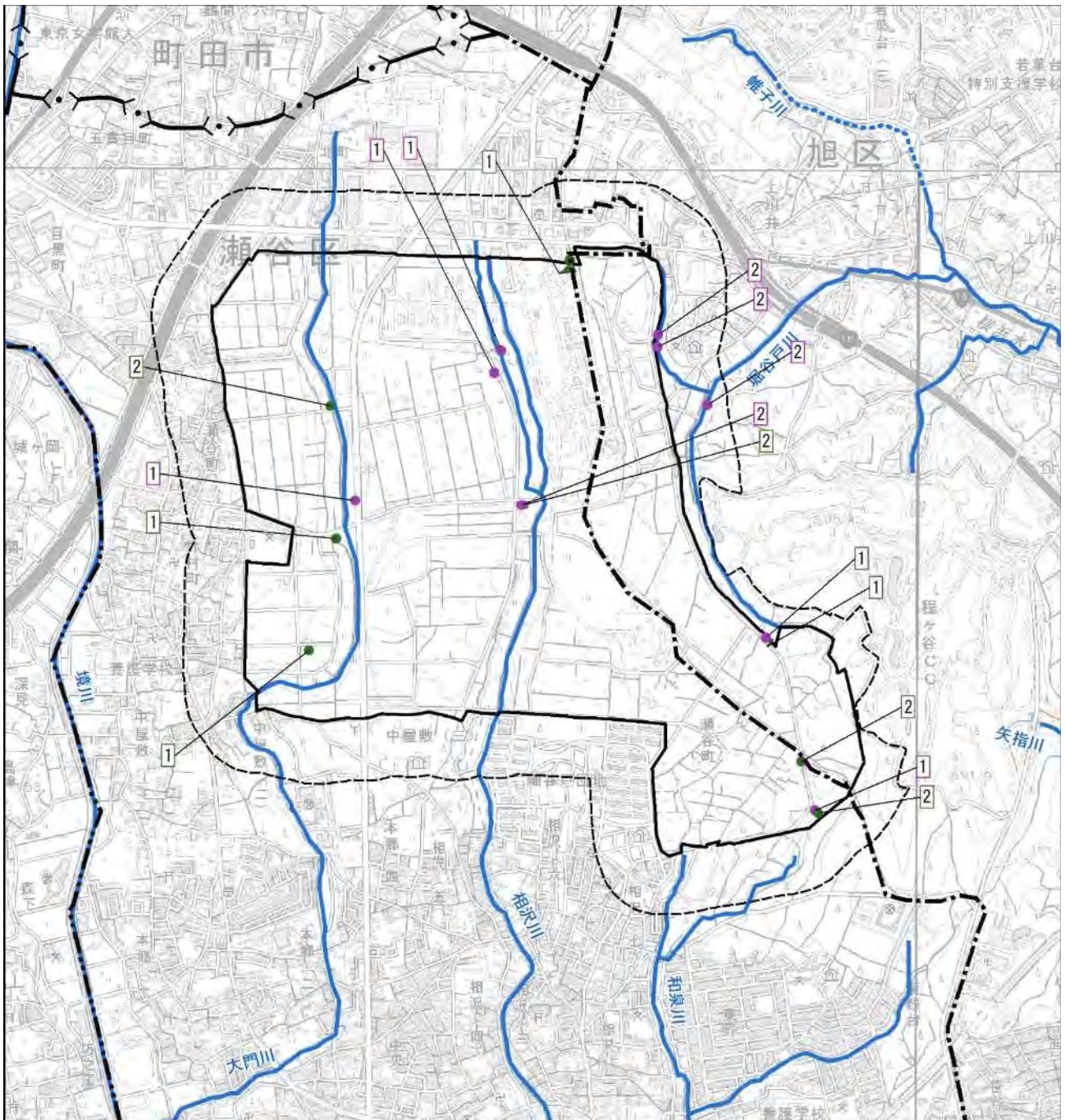
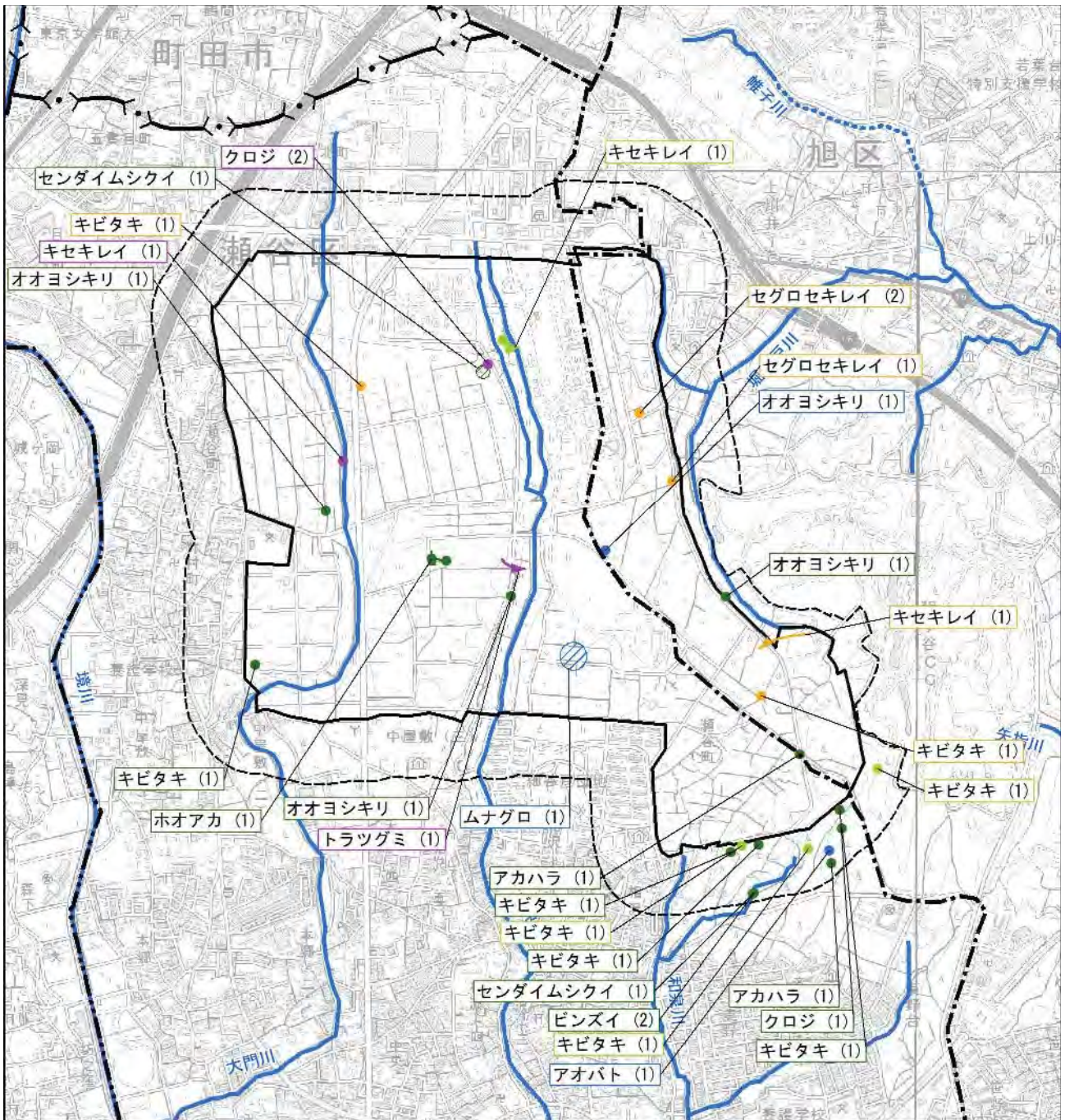
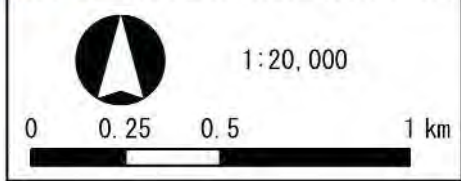


図 9.10-3(8) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：アオジ）



凡例

- | | | | |
|----------|-------------|-------------|------------|
| 対象事業実施区域 | 確認位置 | 飛翔軌跡 | 鳴き声 |
| 調査範囲 | ● 夏季 | → 夏季 | 夏季 |
| 都県界 | ● 秋季 | → 秋季 | 秋季 |
| 市界 | ● 冬季 | → 冬季 | 冬季 |
| 区界 | ● 早春季 | → 早春季 | 早春季 |
| 河川 | ● 春季 | → 春季 | 春季 |
| | ● 初夏 | → 初夏 | 初夏 |



注：図中の数字は確認個体数を示します。

図 9.10-3(9) 鳥類の重要な種の確認位置図（一般鳥類：その他）

c. 鳥類（フクロウ類・夜行性鳥類）

現地調査の結果、1目1科1種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-22 に、確認位置は図 9.10-4 に示すとおりです。

現地調査の結果、合計4例（平成31年繁殖期：1例、令和2年繁殖期：3例）のフクロウを確認しましたが、対象事業実施区域及びその周辺で繁殖は確認されませんでした。

表 9.10-22 フクロウ類・夜行性鳥類の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④	
							繁殖期	非繁殖期
1	フクロウ	フクロウ	フクロウ				NT	
合計	1目	1科	1種	—	—	—	1種	—

注：1. 種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 平成24年9月）に準拠しました。

2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省 令和2年3月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

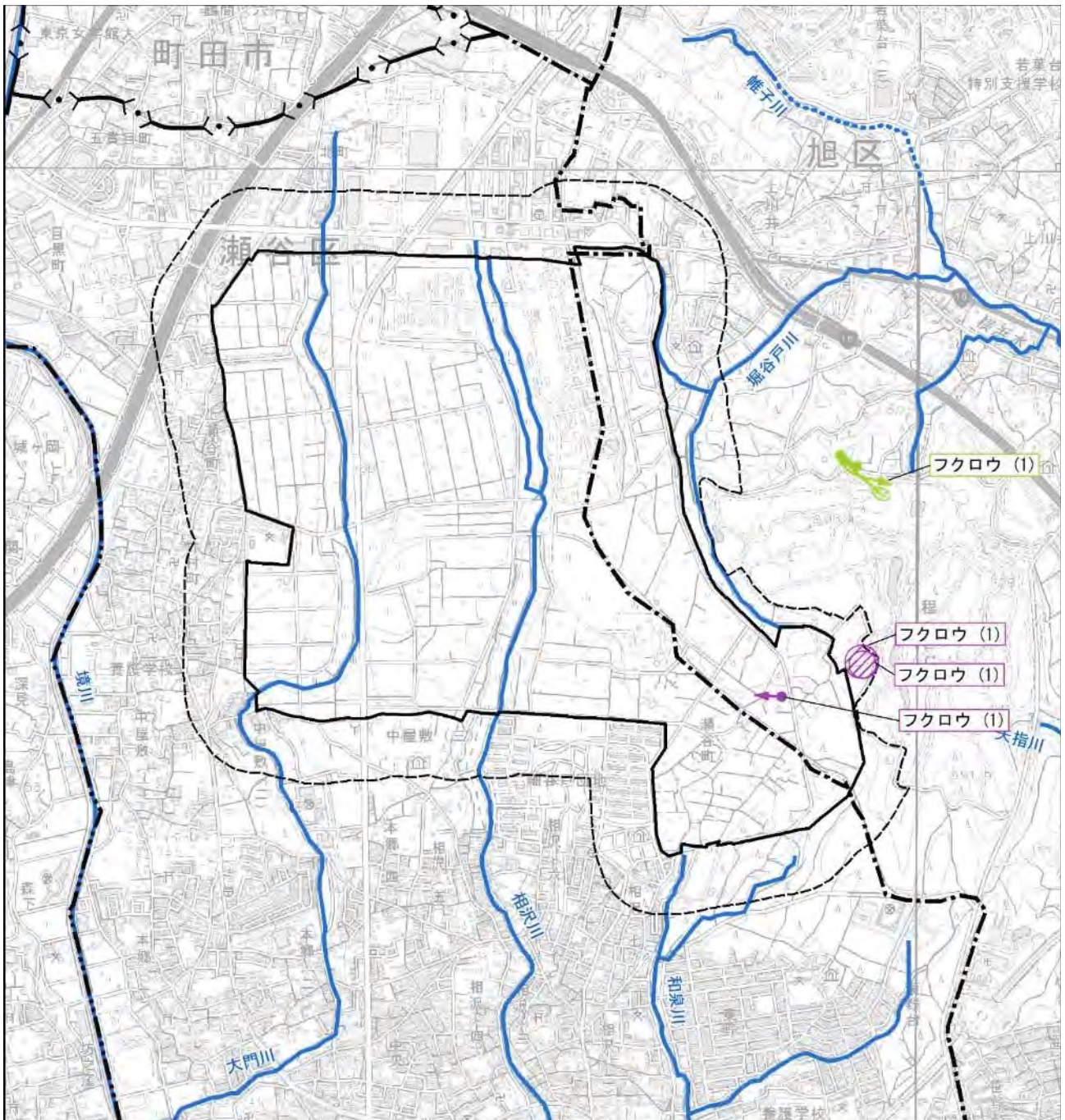


図 9.10-4 フクロウ類・夜行性鳥類の確認位置図

d. 鳥類（猛禽類）

現地調査の結果、2目3科7種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-23 に、確認位置は図 9.10-5 に示すとおりです。

表 9.10-23 猛禽類の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	選定基準				
				①	②	③	④ 繁殖期	④ 非繁殖期
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	VU	NT
2		タカ	ツミ				VU	希少
3			ハイタカ			NT	DD	希少
4			オオタカ			NT	VU	希少
5			サシバ			VU	CR+EN	
6			ノスリ				VU	希少
7	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ		国内	VU	CR+EN	希少
合計	2目	3科	7種	—	1種	5種	7種	6種

注：1. 種名及び配列は原則として、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 平成24年9月）に準拠しました。

2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省 令和2年3月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

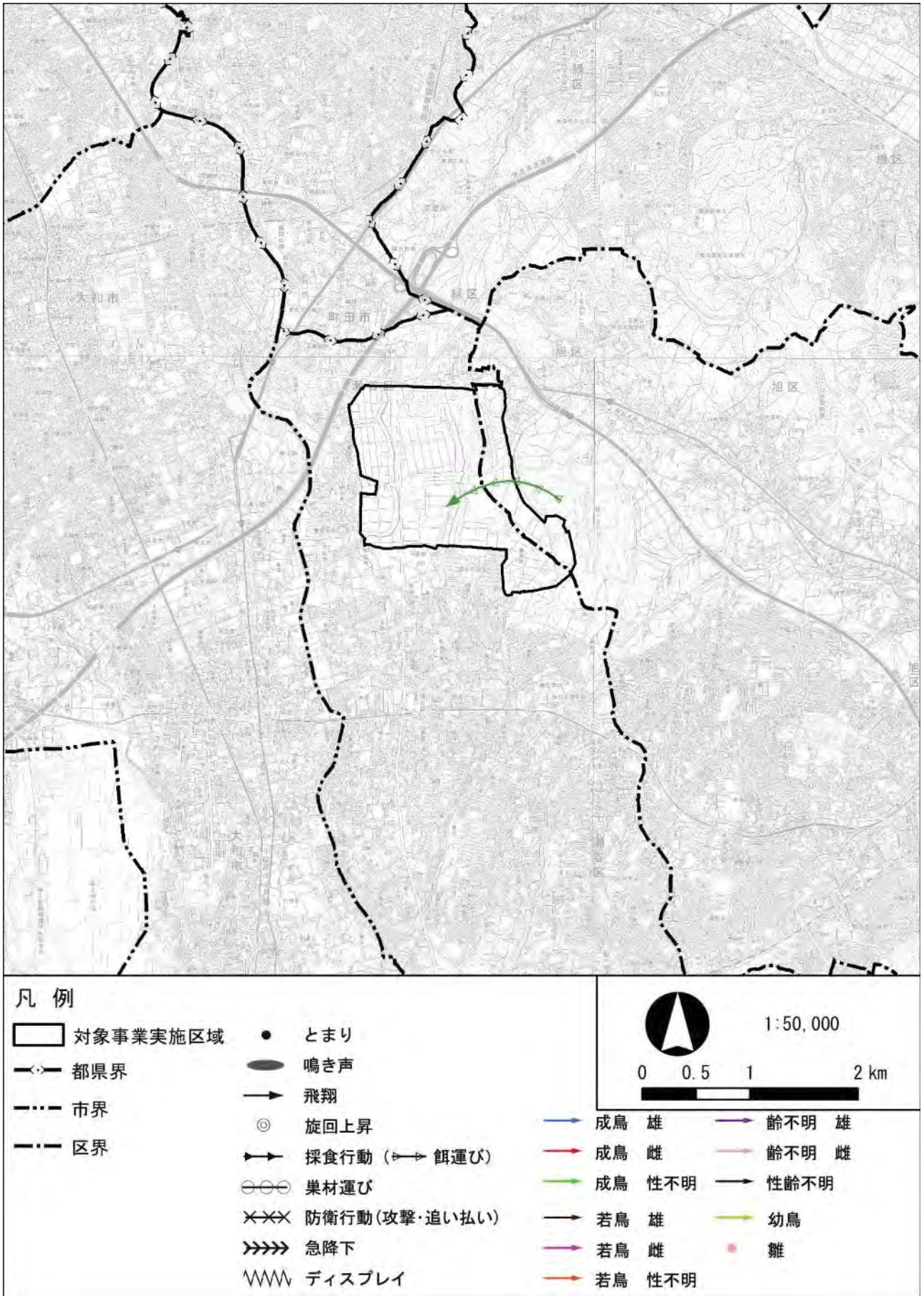


図 9.10-5(1) 猛禽類の確認位置図 (ミサゴ：令和2年繁殖期)

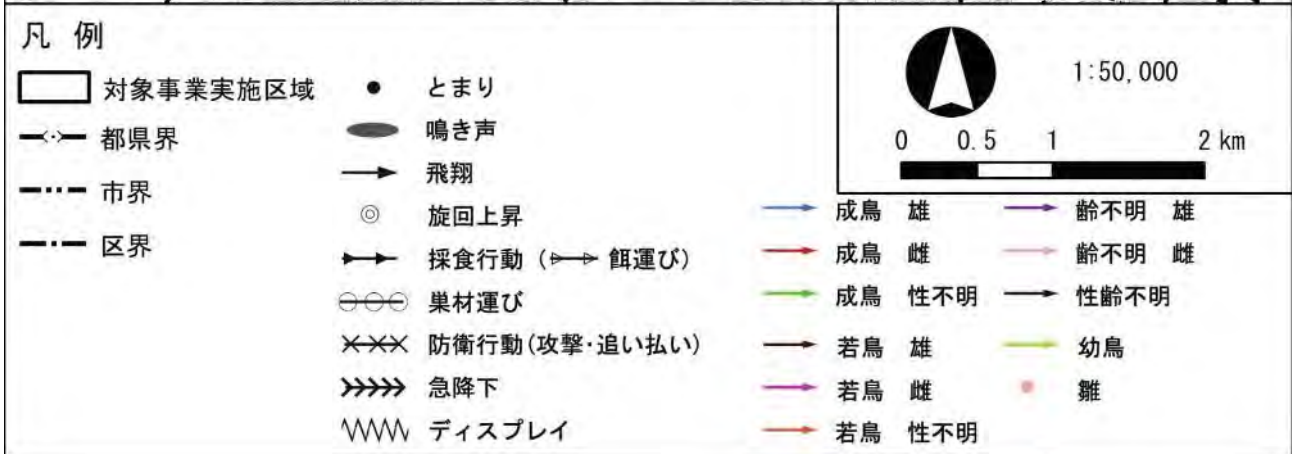
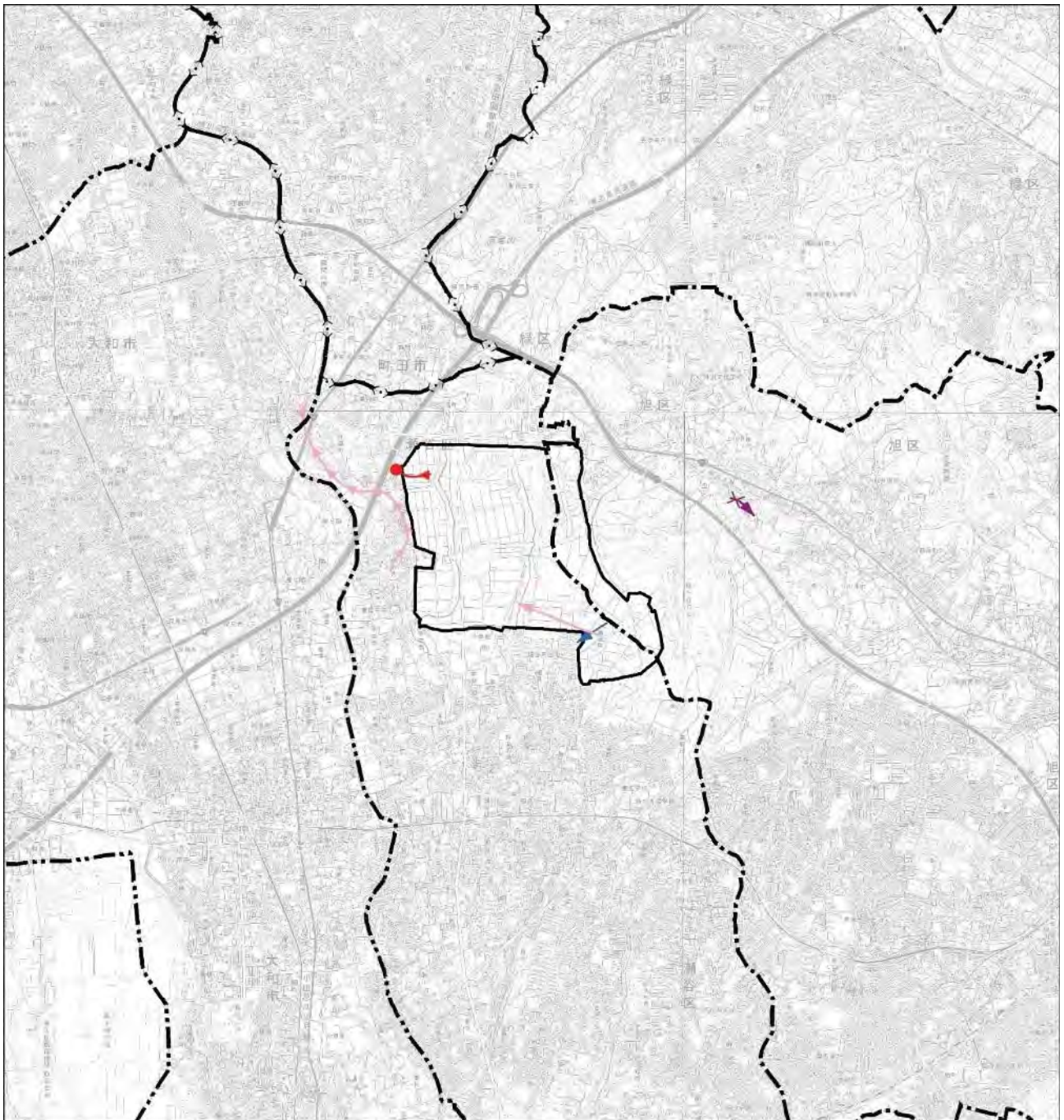


図 9.10-5(2) 猛禽類の確認位置図 (ツミ：平成 31 年繁殖期)

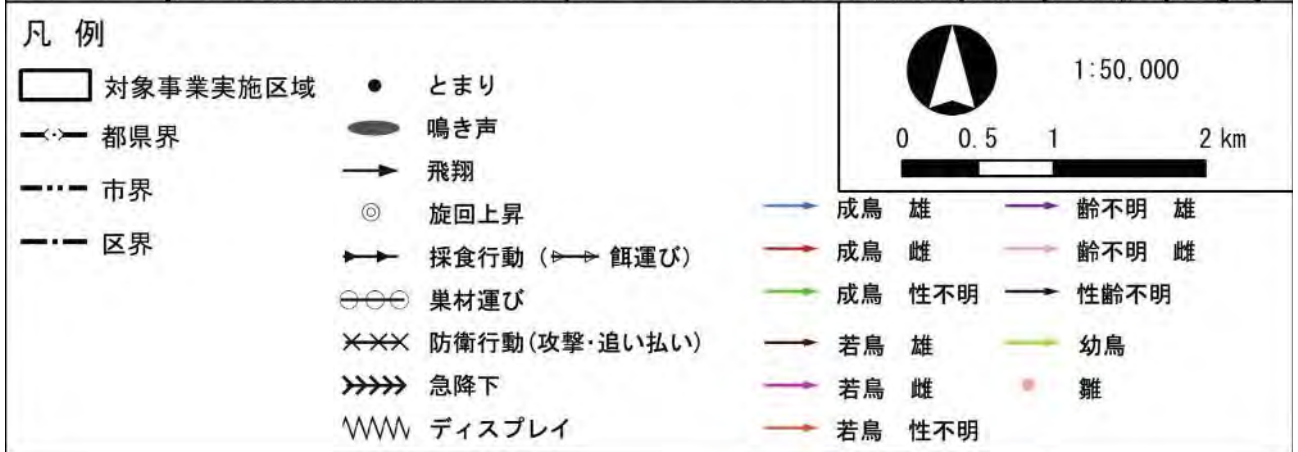
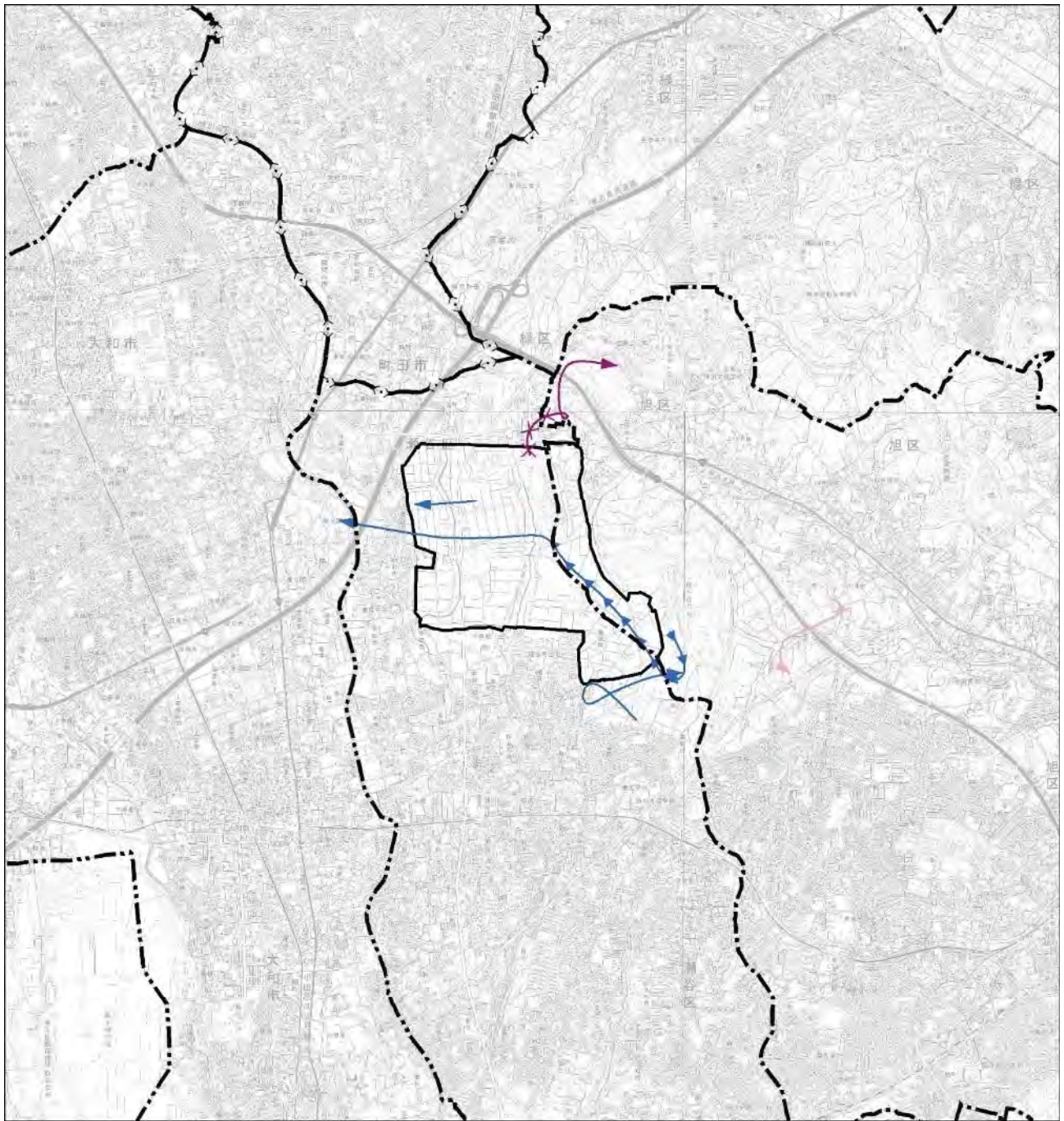


図 9.10-5(3) 猛禽類の確認位置図 (ツミ：令和2年繁殖期)

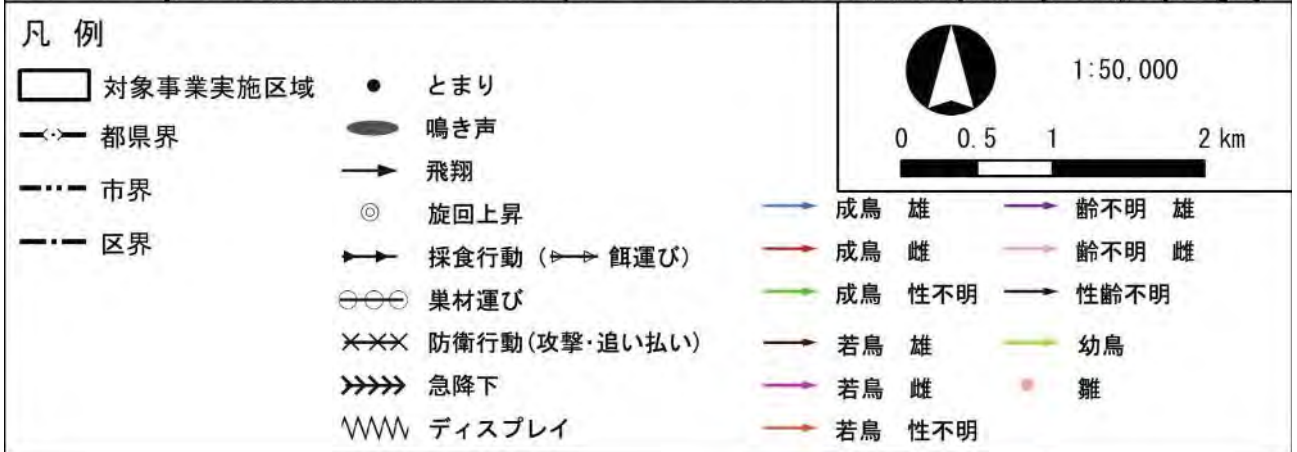
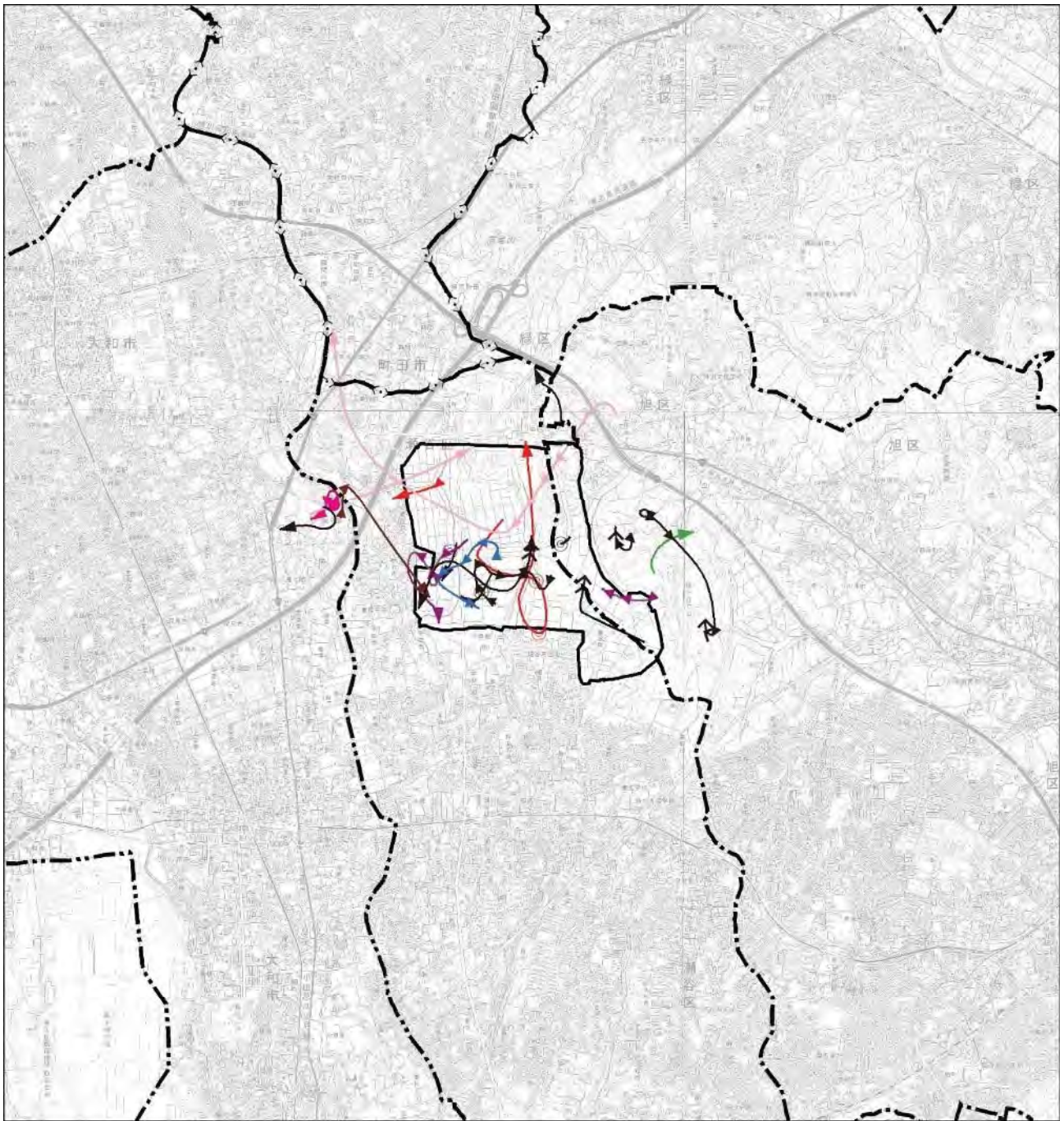


図 9.10-5(4) 猛禽類の確認位置図 (ハイタカ：平成31年繁殖期)

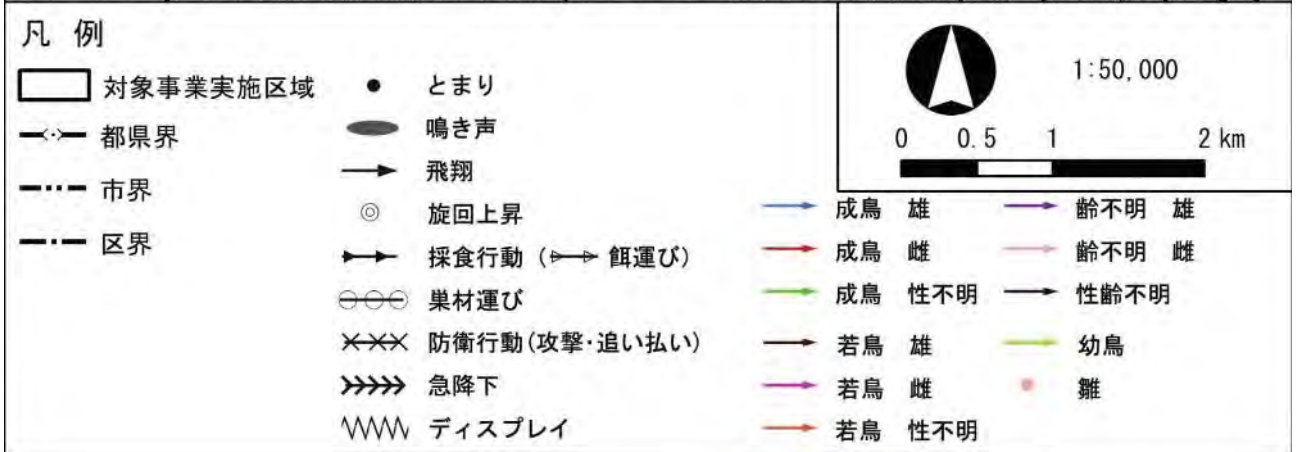
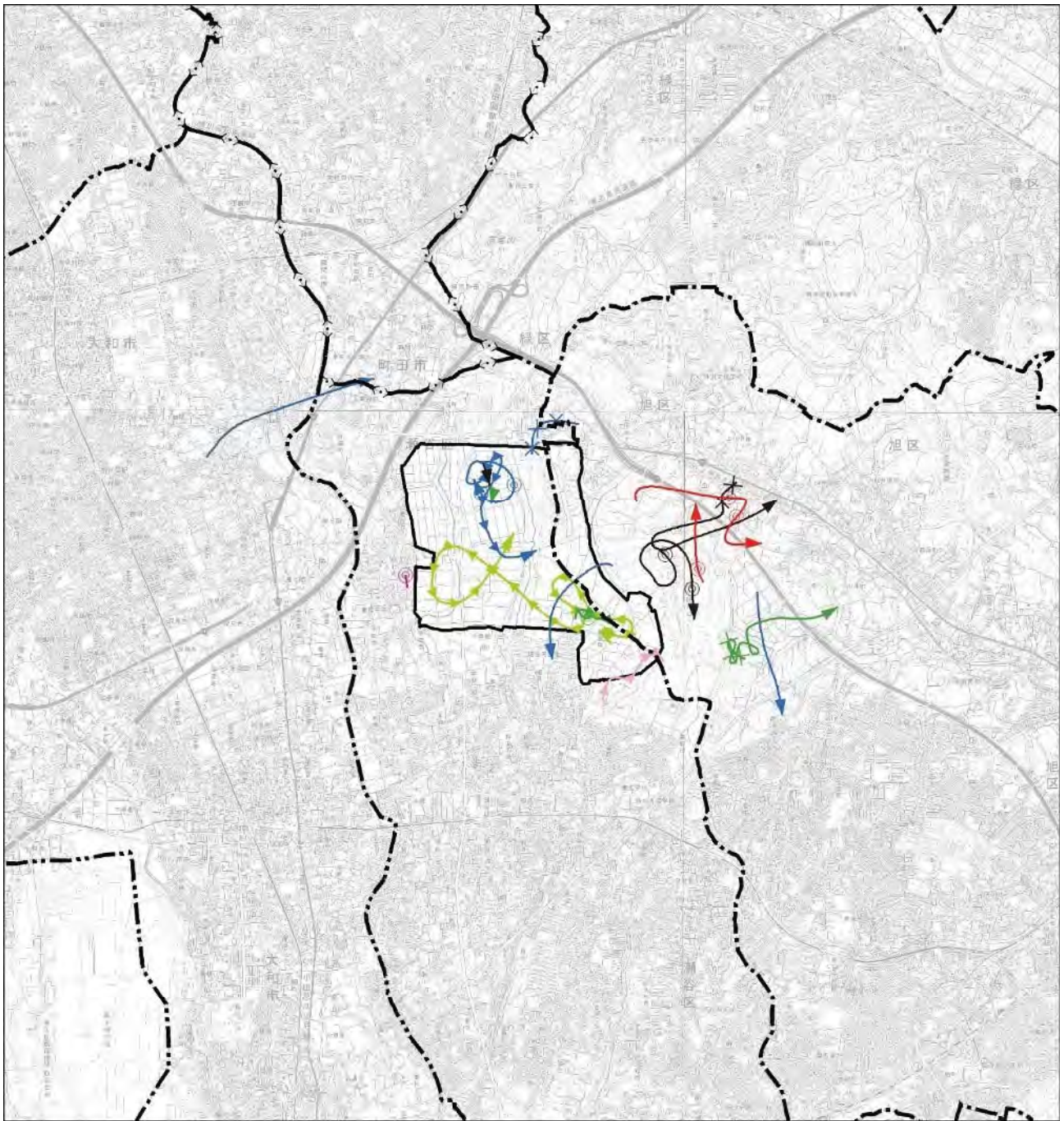


図 9.10-5(5) 猛禽類の確認位置図 (ハイタカ：令和2年繁殖期)

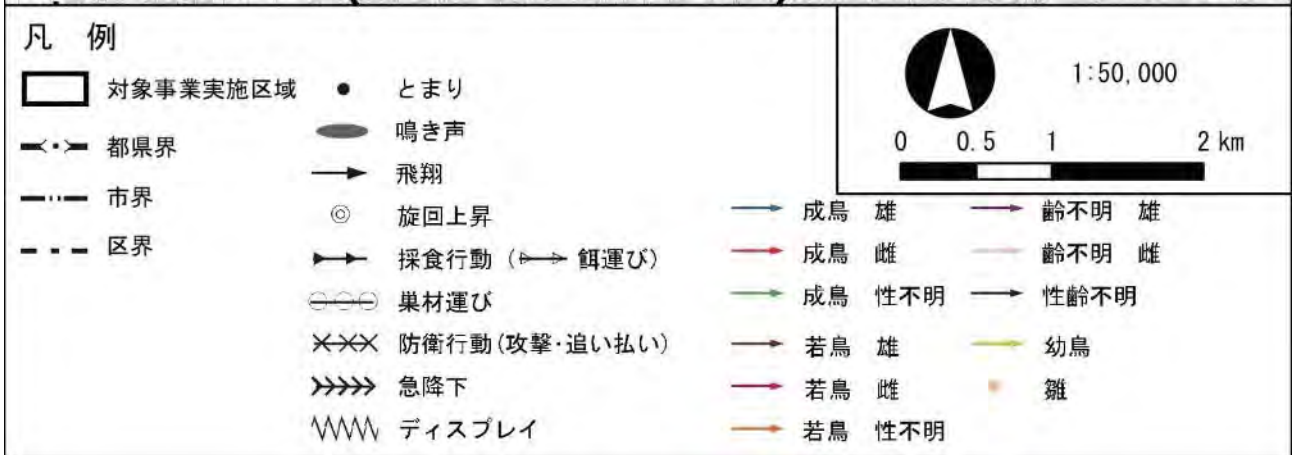
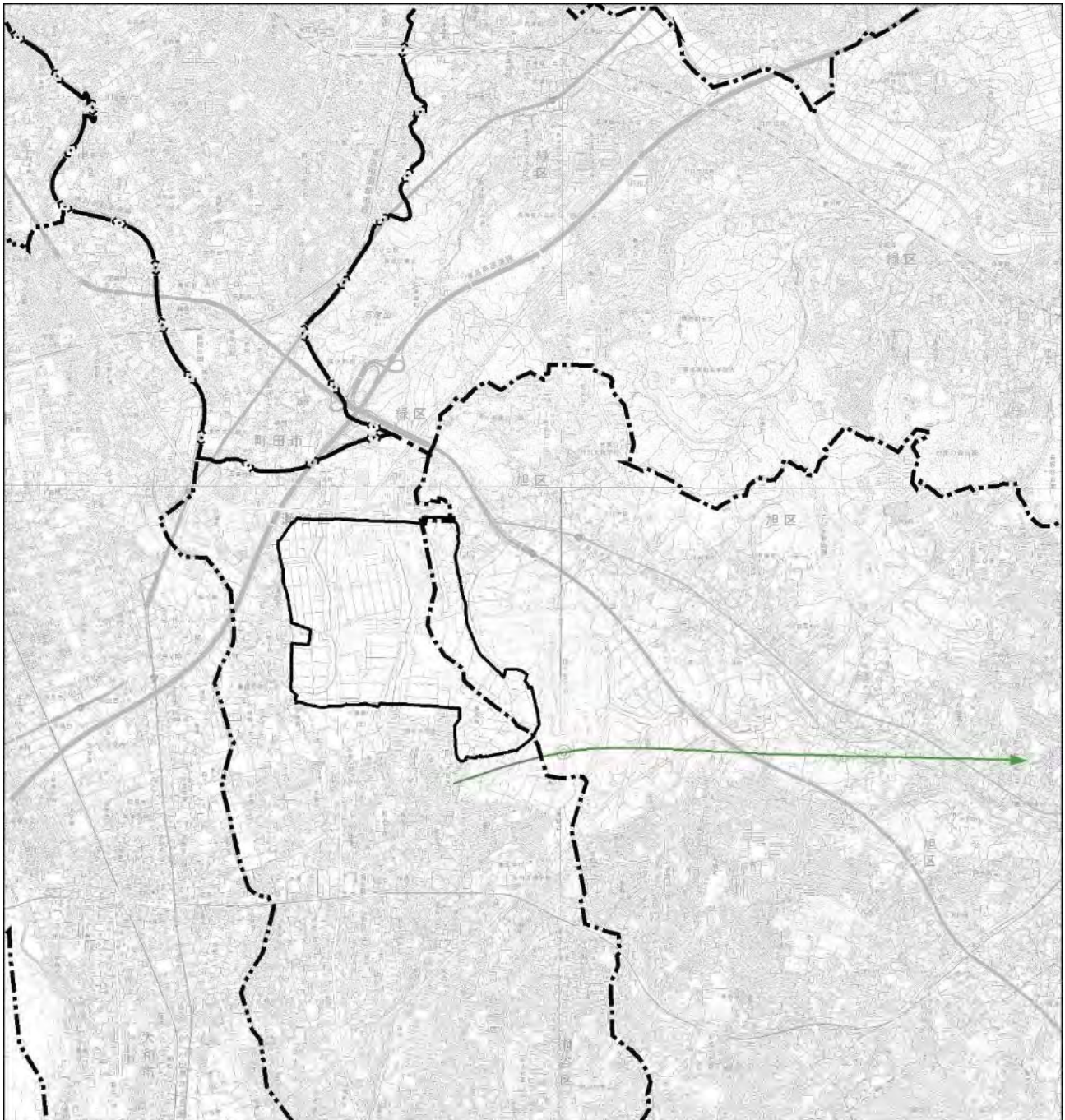


図 9.10-5(6) 猛禽類の確認位置図 (サシバ:平成31年繁殖期)

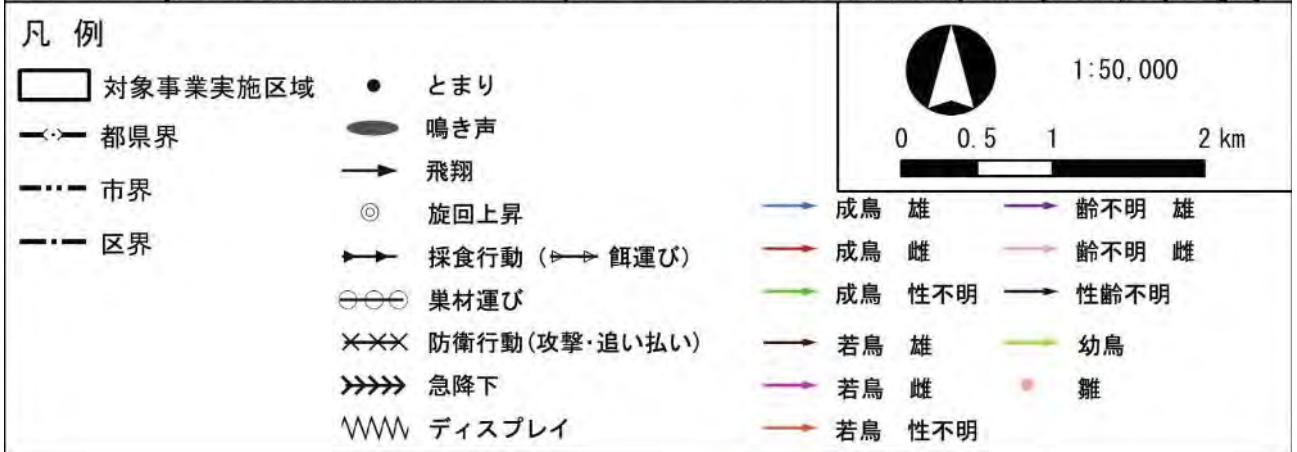
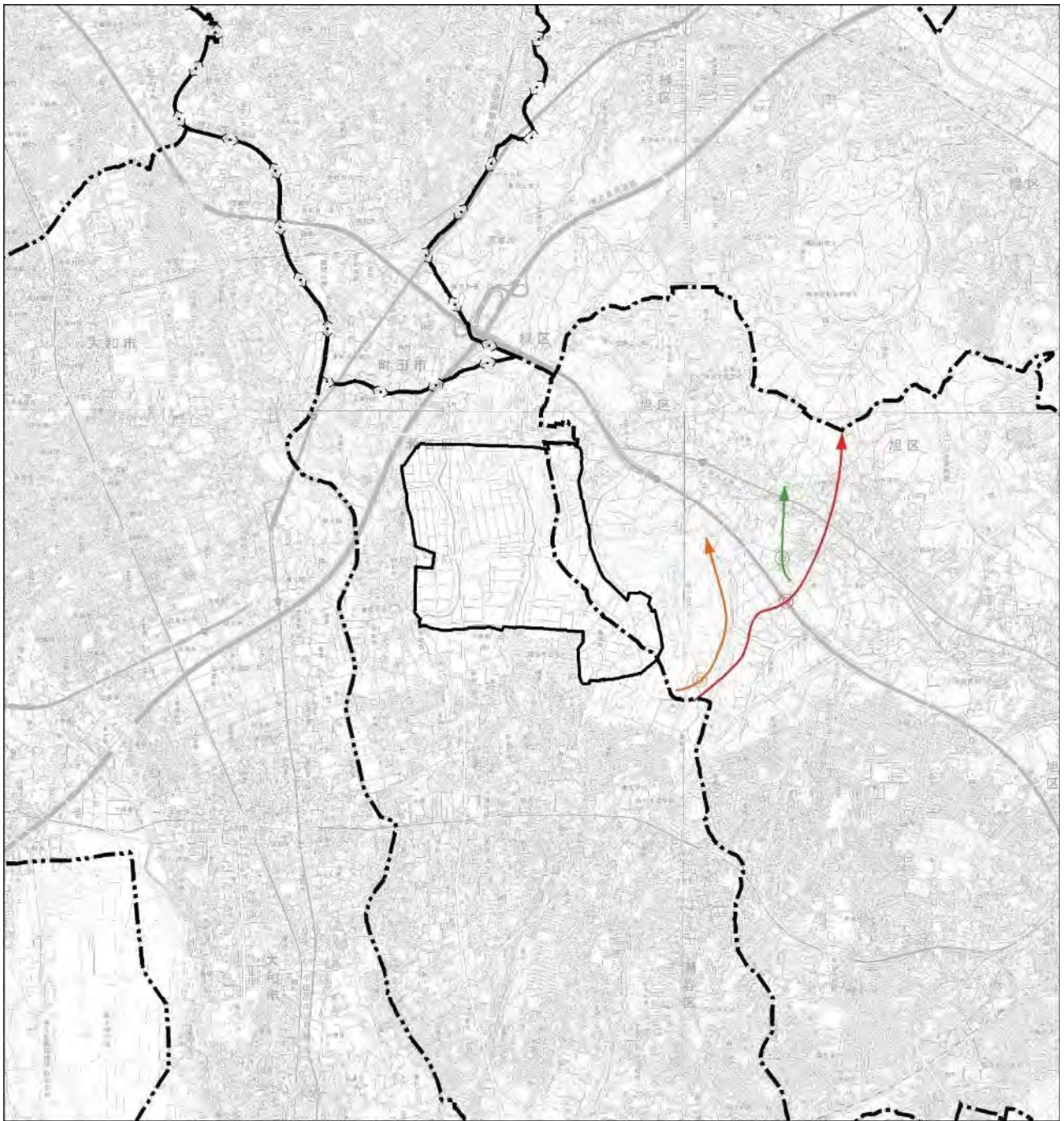


図 9.10-5(7) 猛禽類の確認位置図 (サシバ: 令和2年繁殖期)

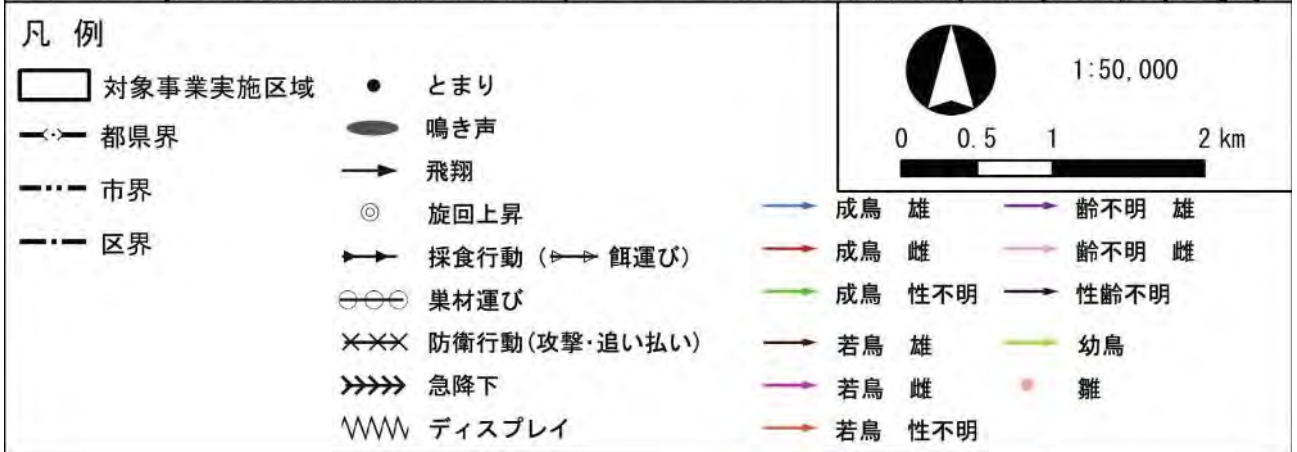
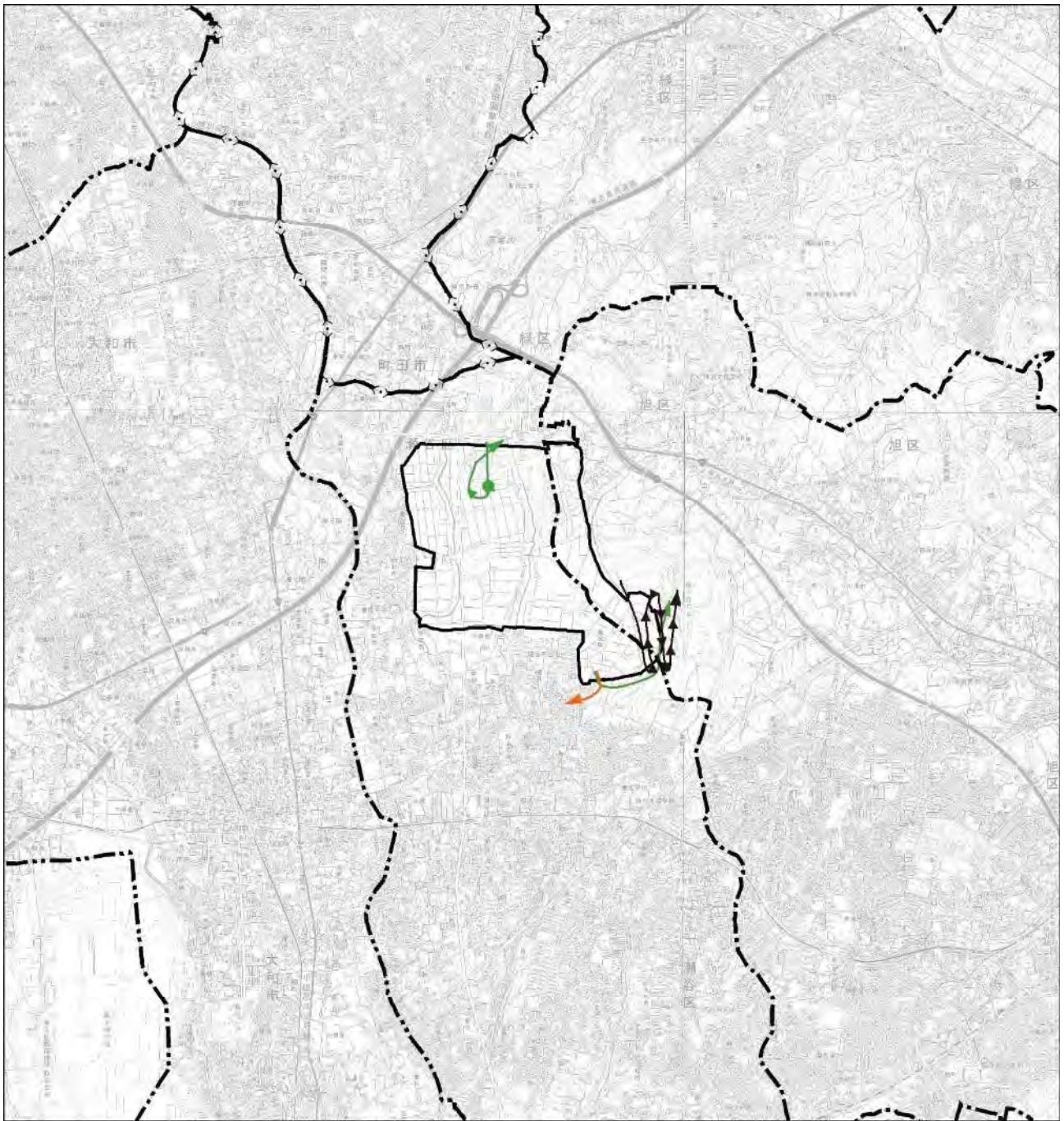


図 9.10-5(8) 猛禽類の確認位置図 (ノスリ：平成31年繁殖期)

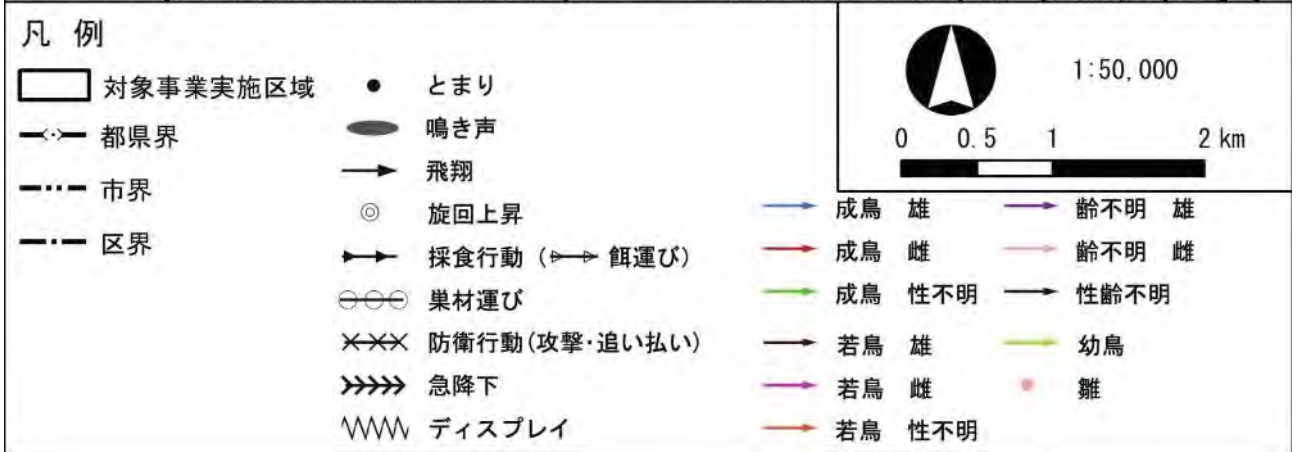
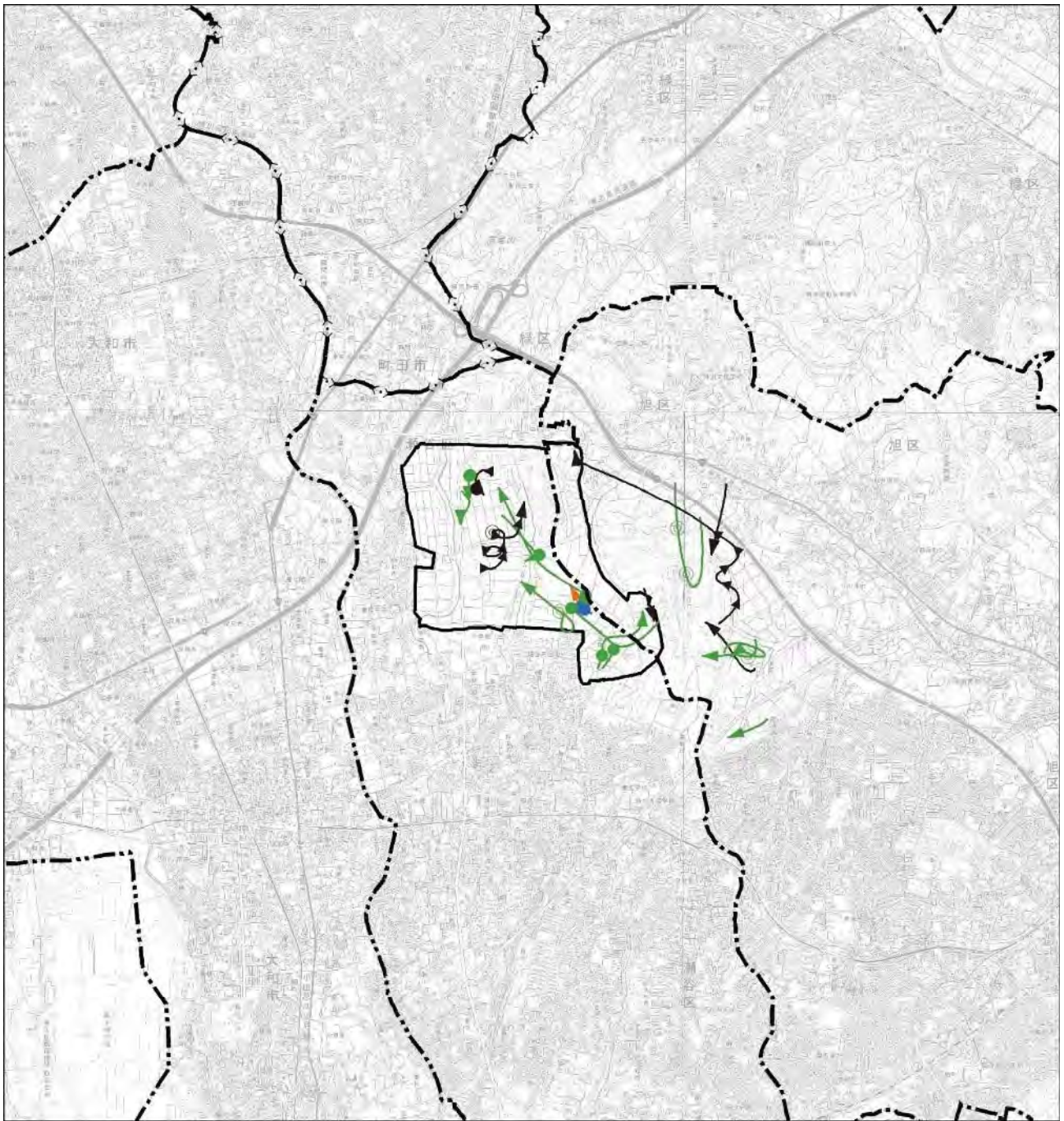


図 9.10-5(9) ノスリ類の確認位置図 (ノスリ：令和2年繁殖期)

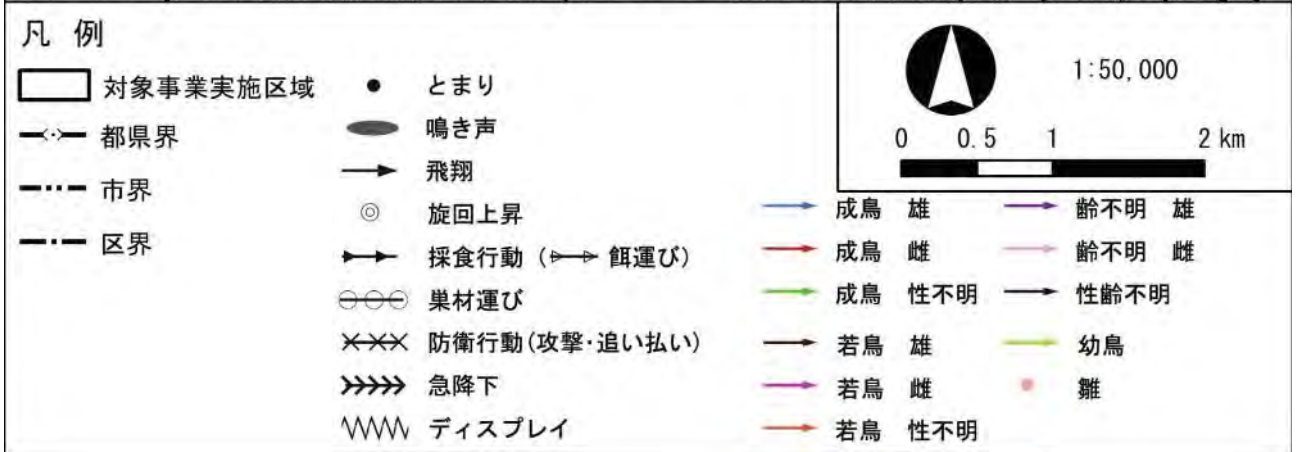
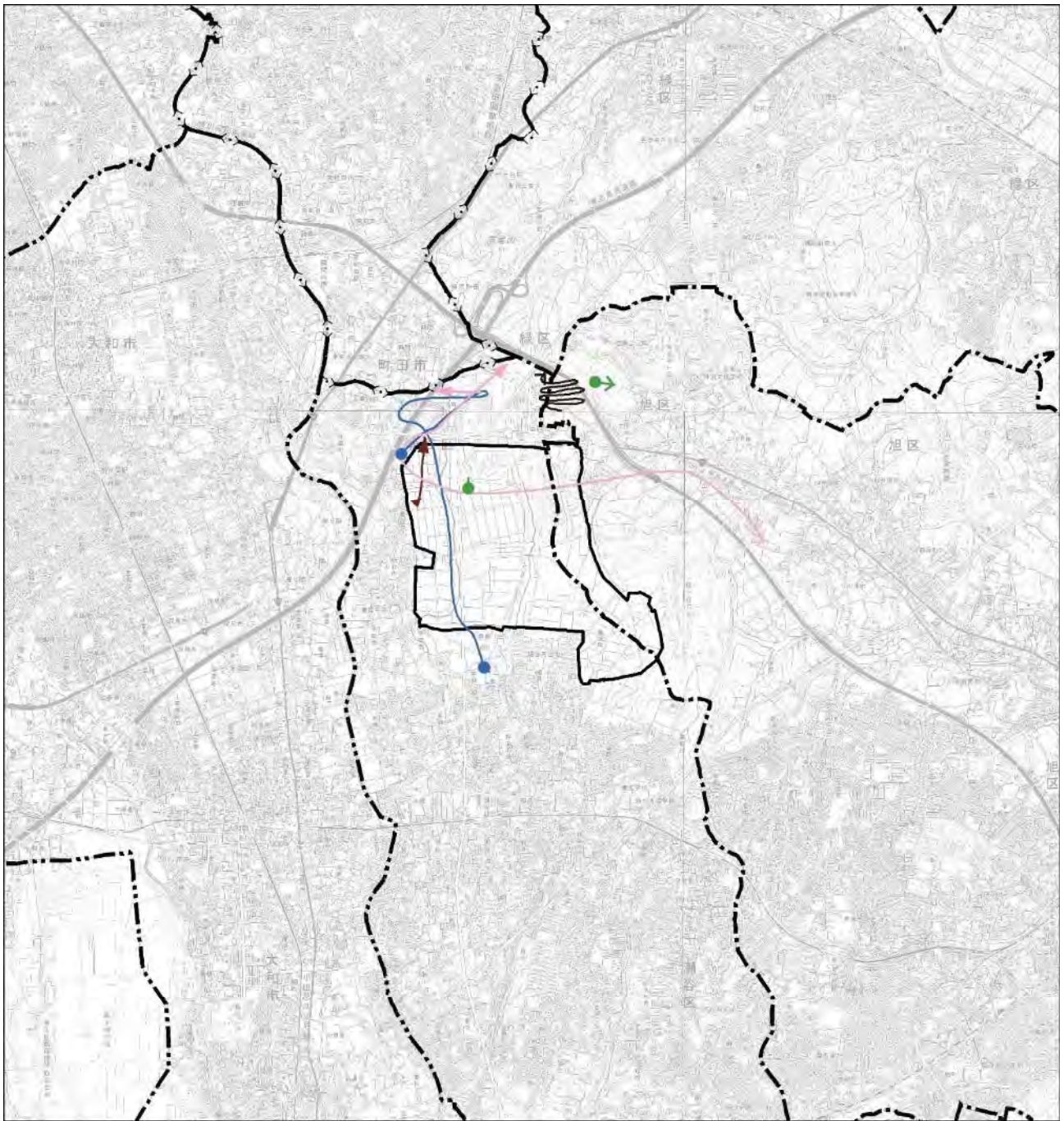


図 9.10-5(10) 猛禽類の確認位置図 (ハヤブサ：平成 31 年繁殖期)

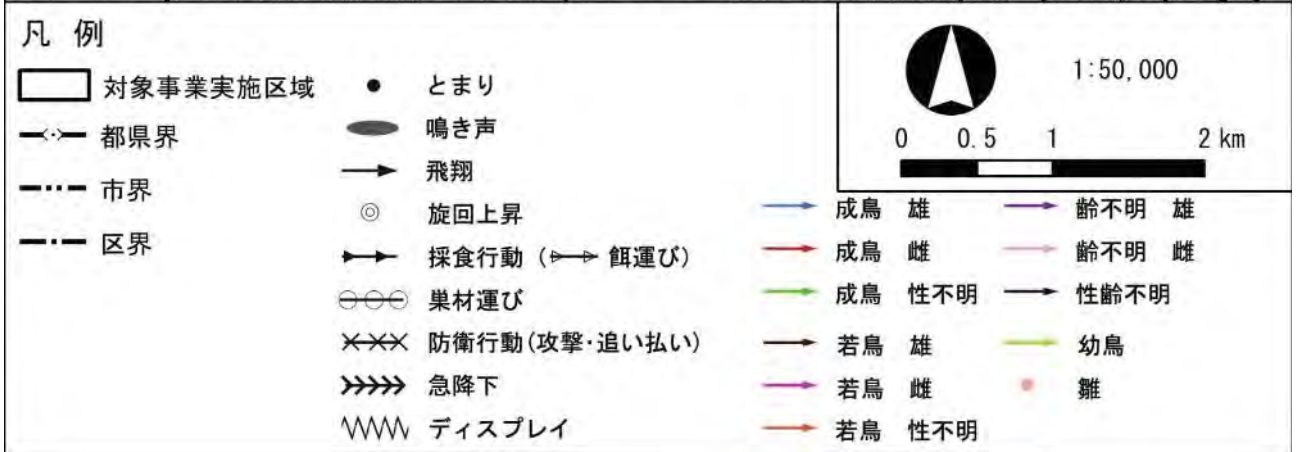
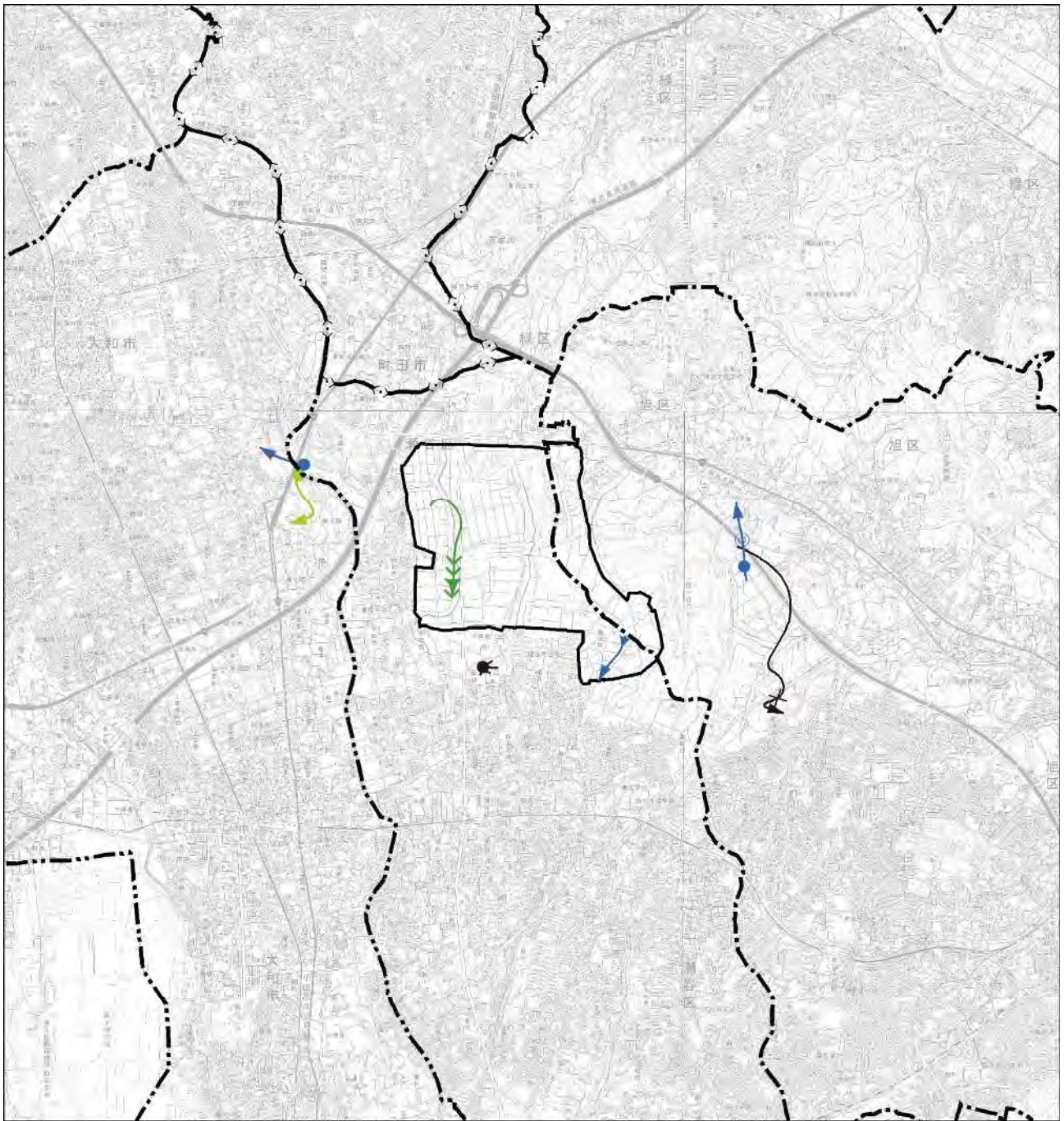


図 9.10-5(11) 猛禽類の確認位置図 (ハヤブサ：令和2年繁殖期)

また、確認された重要な種のうち、オオタカについて確認状況を図 9.10-5(12)及び(13)に示します。

重要な種の保護の観点から、非表示としております。

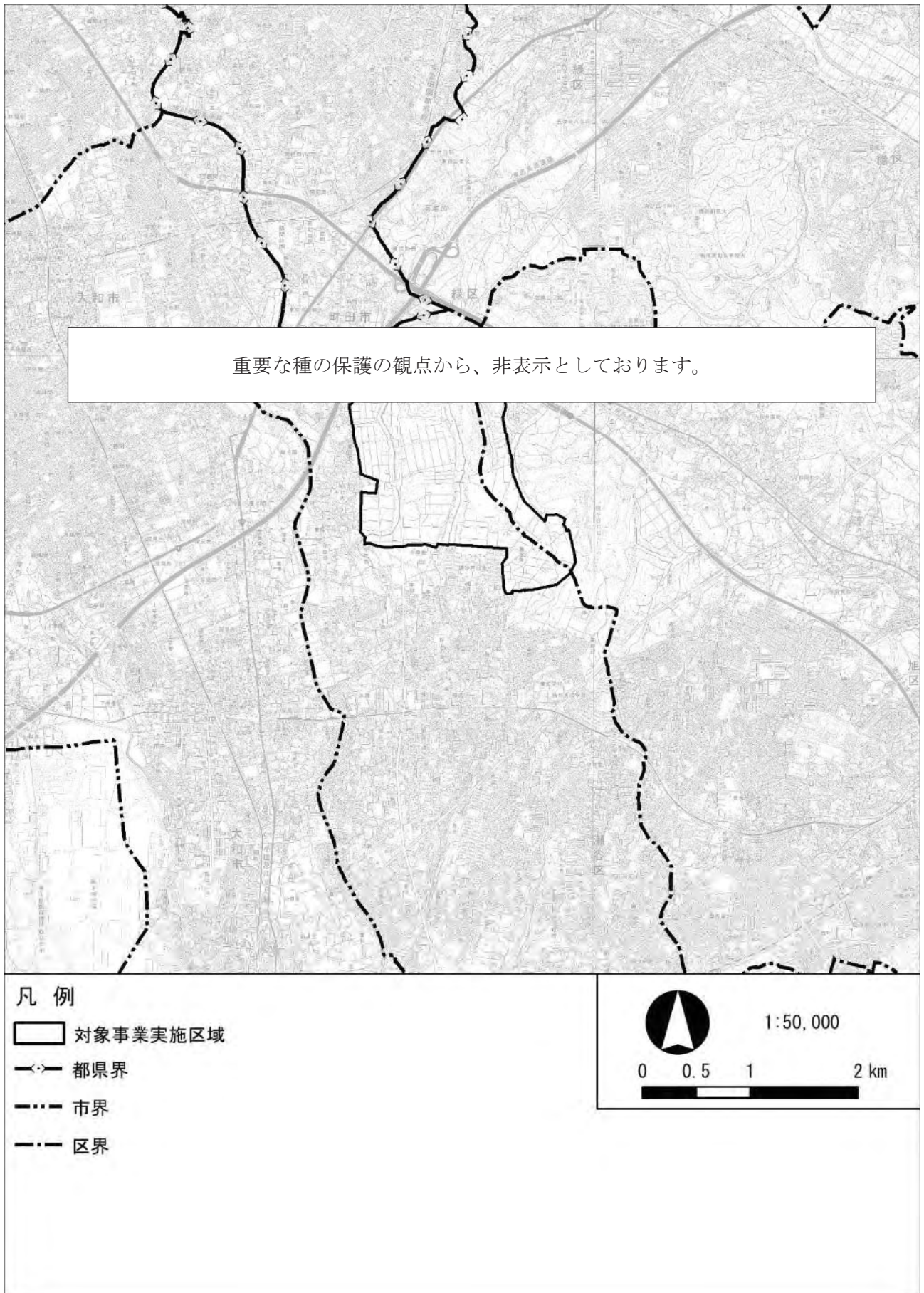


図 9.10-5(12) 猛禽類の確認位置図（オオタカ：平成31年繁殖期）

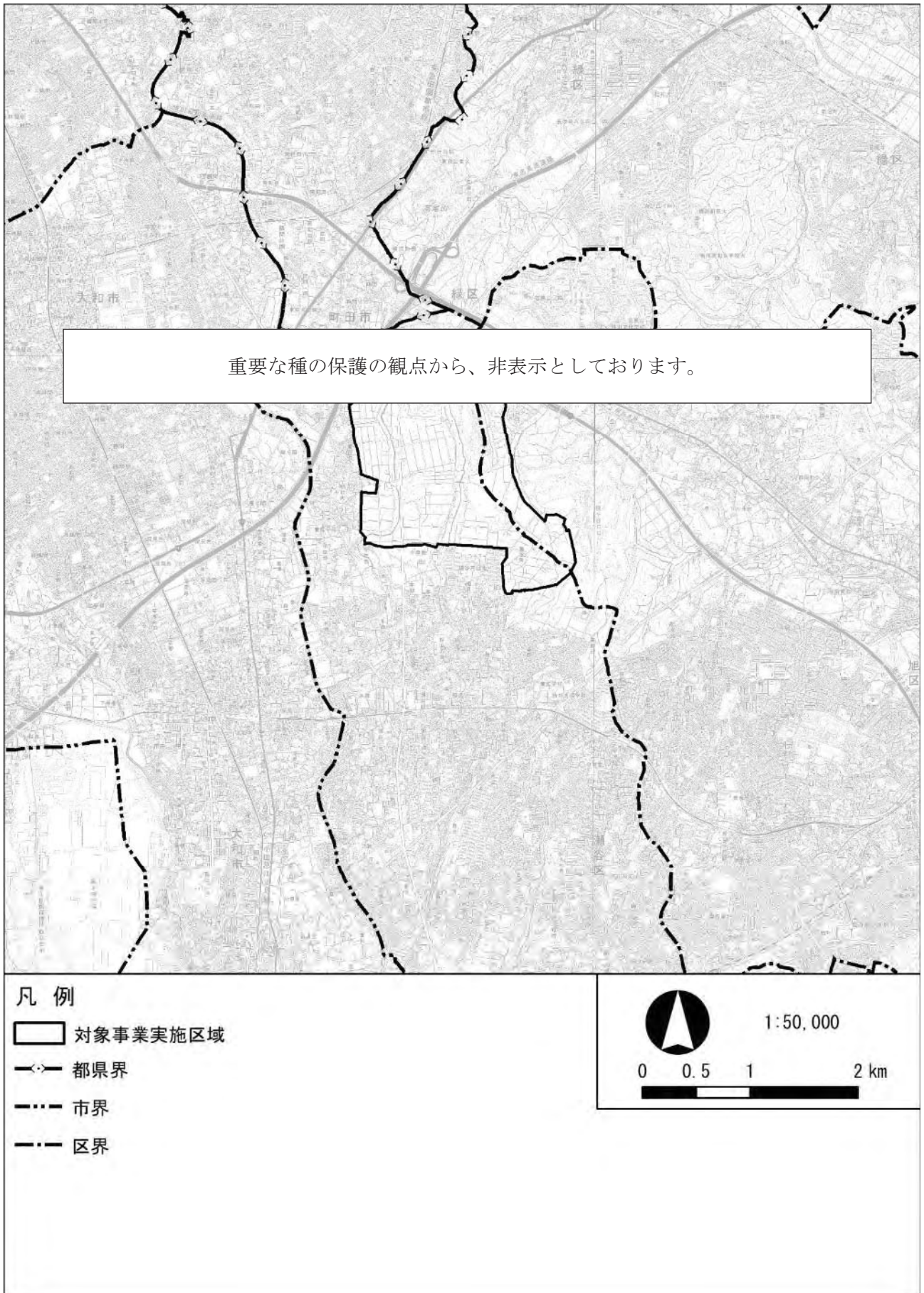


図 9.10-5(13) 猛禽類の確認位置図（オオタカ：令和2年繁殖期）

重要な種の保護の観点から、非表示としております。

重要な種の保護の観点から、非表示としております。

重要な種の保護の観点から、非表示としております。

重要な種の保護の観点から、非表示としております。

e. 両生類

現地調査の結果、1目2科2種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-26 に、確認位置は図 9.10-7 に示すとおりです。

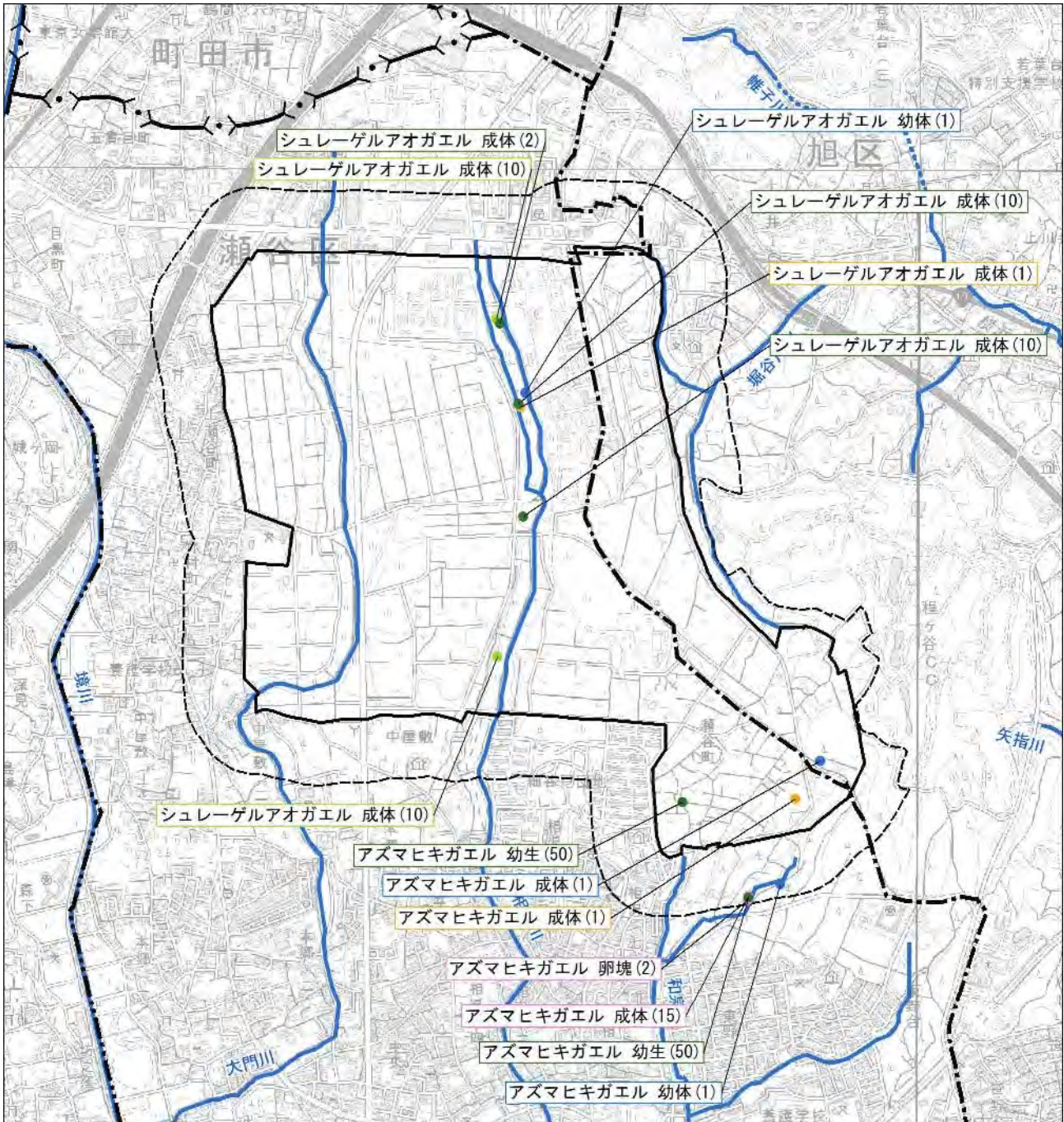
表 9.10-26 両生類の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		選定基準			
				内	外	①	②	③	④
1	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●				要注
2		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	●					要注
合計	1目	2科	2種	2種	1種	—	—	—	2種

注：1. 種名及び配列は原則として、「平成31年河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成31年版）に準拠しました。

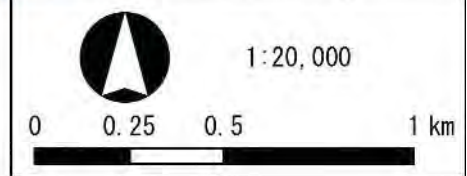
2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省 令和2年3月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
- 都県界
- 市界
- 区界
- 河川
- 夏季
- 秋季
- 早春季
- 春季
- 初夏季



注：図中の数字は確認個体数を示します。

図 9.10-7 両生類の重要な種の確認位置図

f. 爬虫類

現地調査の結果、1目2科5種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-27 に、確認位置は図 9.10-8 に示すとおりです。

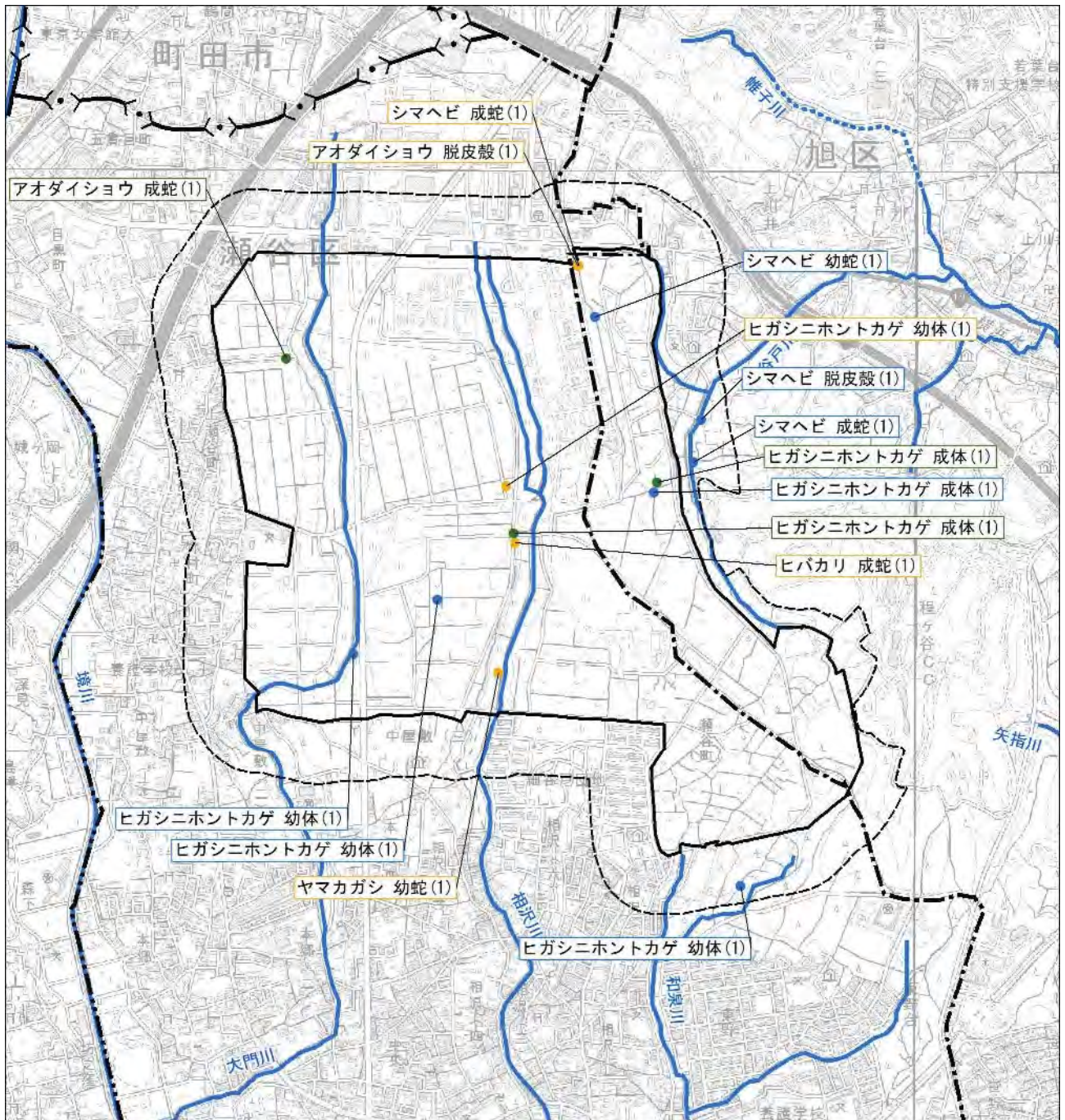
表 9.10-27 爬虫類の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		選定基準			
				内	外	①	②	③	④
1	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	●	●				要注
2		ナミヘビ	シマヘビ	●	●				要注
3			アオダイショウ	●					要注
4			ヒバカリ	●					NT
5			ヤマカガシ	●					要注
合計	1目	2科	5種	5種	2種	—	—	—	5種

注：1. 種名及び配列は原則として、「平成31年河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成31年版）に準拠しました。

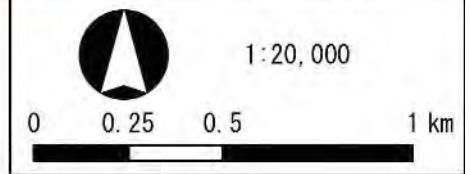
2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省 令和2年3月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
- 都県界
- 市界
- 区界
- 河川
- 夏季
- 秋季
- 早春季
- 春季
- 初夏季



注：図中の数字は確認個体数を示します。

図 9.10-8 爬虫類の重要な種の確認位置図

g. 昆虫類

現地調査の結果、5目15科17種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-28 に、確認位置は図 9.10-9 に示すとおりです。

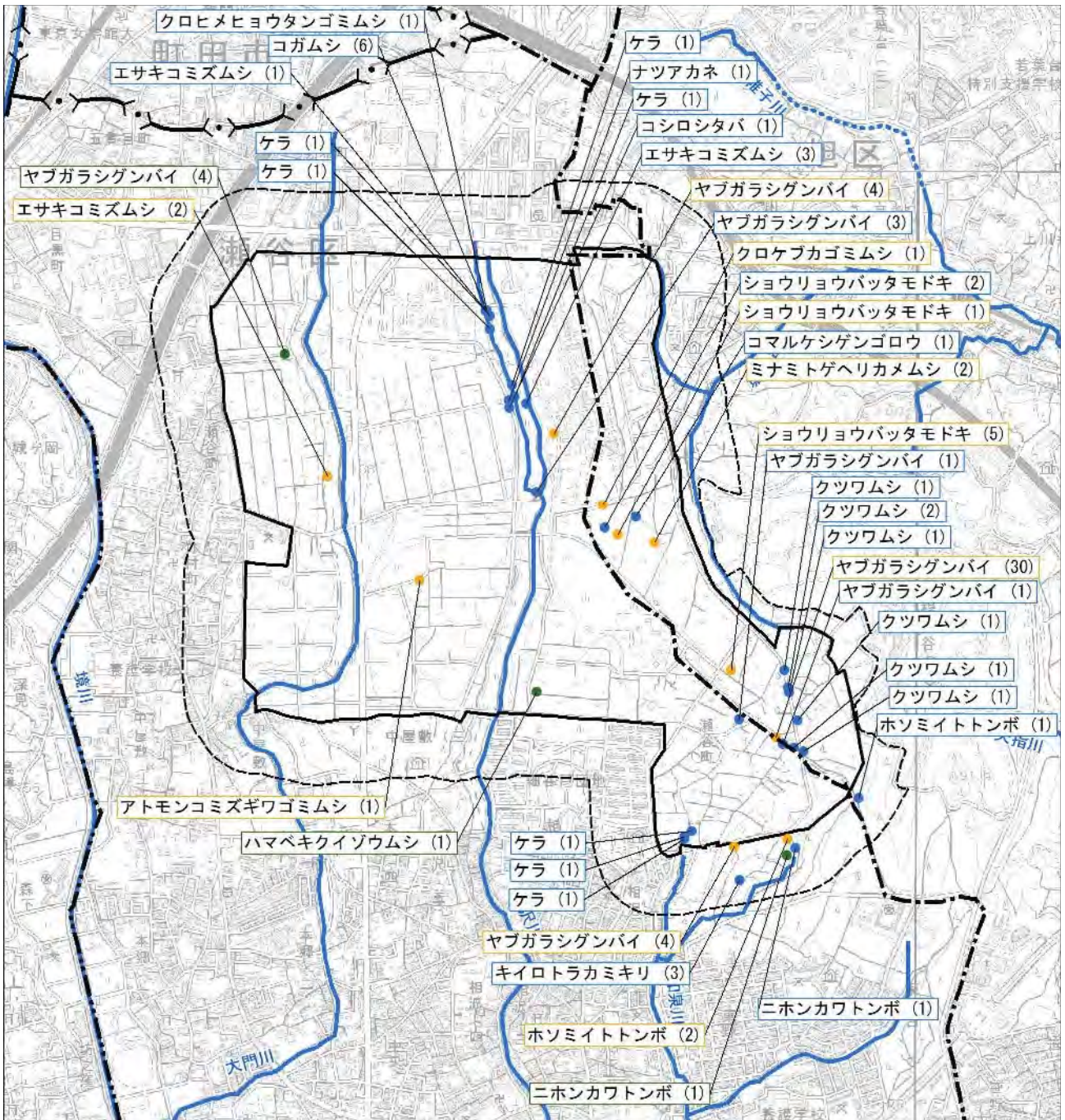
表 9.10-28 昆虫類の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		選定基準			
				内	外	①	②	③	④
1	トンボ	カワトンボ	ニホンカワトンボ		●				NT
2		イトトンボ	ホソミイトトンボ		●				DD
3		トンボ	ナツアカネ		●				要注
4	バッタ	ケラ	ケラ	●					要注
5		クツワムシ	クツワムシ	●					要注
6		バッタ	ショウリョウバッタモドキ	●					要注
7	カメムシ	ミズムシ	エサキコミズムシ	●					DD
8		グンバイムシ	ヤブガラシグンバイ	●	●				DD
9		ヘリカメムシ	ミナミトゲヘリカメムシ	●					DD
10	コウチュウ	オサムシ	クロヒメヒョウタンゴミムシ	●					NT
11			アトモンコミズギワゴミムシ	●					NT
12			クロケブカゴミムシ	●					NT
13		ゲンゴロウ	コマルケシゲンゴロウ	●					NT
14		ガムシ	コガムシ	●					DD NT
15		カミキリムシ	キイロトラカミキリ		●				要注
16		ゾウムシ	ハマベキクイゾウムシ	●					NT
17	チョウ	ヤガ	コシロシタバ	●					NT
合計	5目	15科	17種	14種	4種	—	—	3種	15種

注：1. 種名及び配列は原則として、「日本産昆虫総目録」（九州大学農学部昆虫学研究室 平成元年9月）に準拠しましたが、一部他の文献も参考としました。

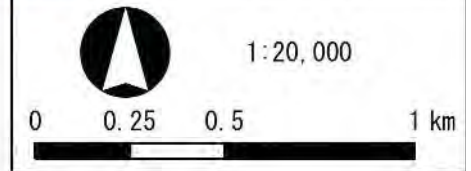
2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省 令和2年3月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群



凡 例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
- 都県界
- 市界
- 区界
- 河川
- 夏季
- 秋季
- 春季
- 初夏季



注：図中の数字は確認個体数を示します。

図 9.10-9 昆虫類の重要な種の確認位置図

h. クモ類

現地調査の結果、重要な種は確認されませんでした。

i. 魚類

現地調査の結果、1目3科3種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-29 に、確認位置は図 9.10-10 に示すとおりです。

なお、ドジョウについては、DNA 系統分析の結果、中国からの外来系統であると判断されたことから、重要な種として扱いません。

また、ミナミメダカについては、専門家へのヒアリングの結果、放流個体の可能性が高いということから、重要な種として扱いません。

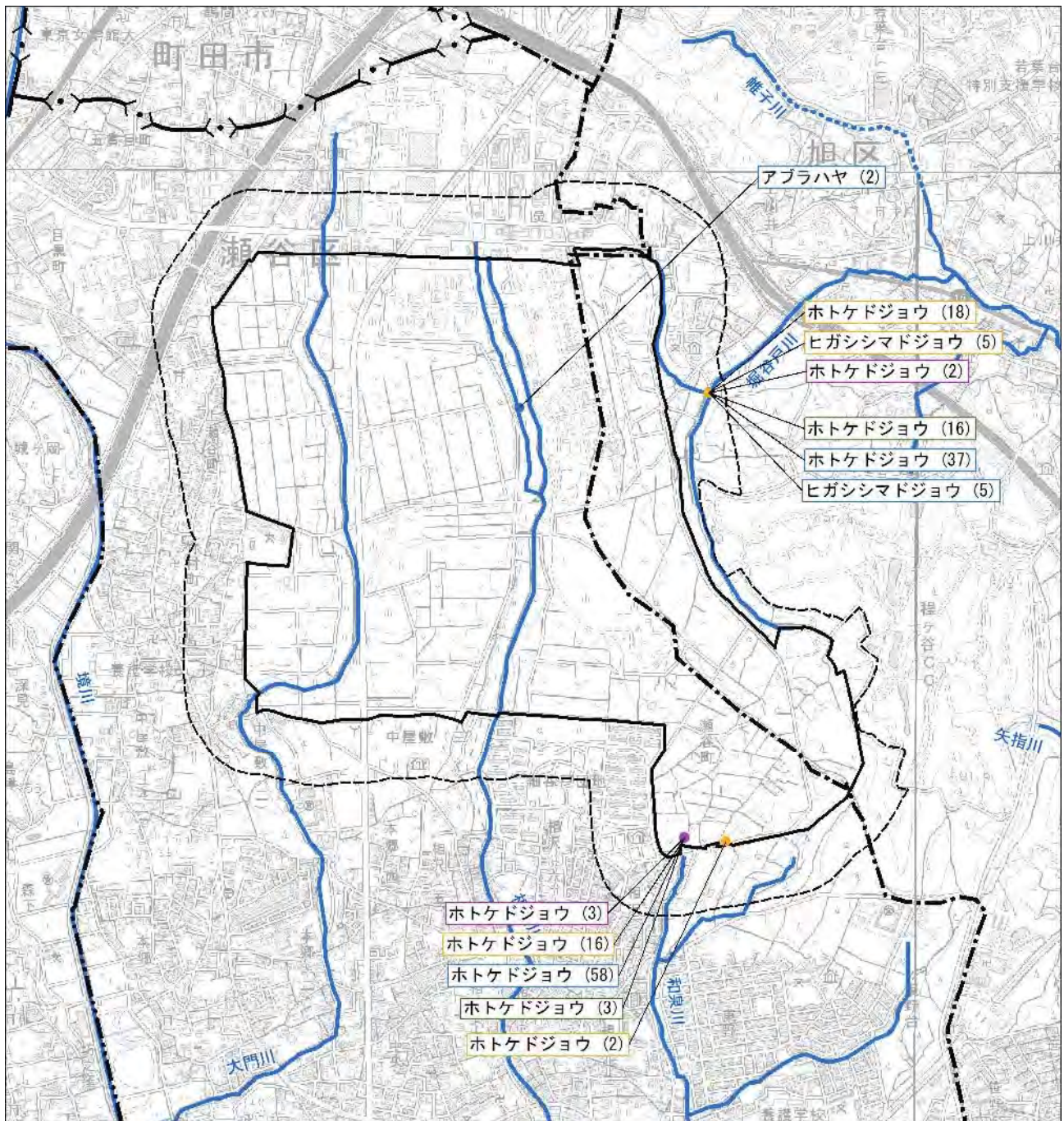
表 9.10-29 魚類の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		選定基準			
				内	外	①	②	③	④
1	コイ	コイ	アブラハヤ	●					NT
2		ドジョウ	ヒガシマドジョウ		●				NT
3		フクドジョウ	ホトケドジョウ	●	●			EN	EN
合計	1目	3科	3種	2種	2種	—	—	1種	3種

注：1. 種名及び配列は原則として、「平成 30 年河川水辺の国勢調査のための生物リスト」（平成 30 年版）に準拠しました。

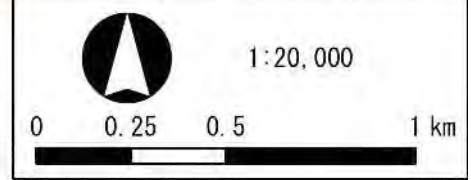
2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト 2020」（環境省 令和 2 年 3 月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群



凡例

- | | |
|--|--|
|  対象事業実施区域 |  夏季 |
|  調査範囲 |  秋季 |
|  都県界 |  冬季 |
|  市界 |  春季 |
|  区界 | |
|  河川 | |



注：図中の数字は確認個体数を示します。

図 9.10-10 魚類の重要な種の確認位置図

j. 底生動物

現地調査の結果、3目4科4種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-30 に、確認位置は図 9.10-11 に示すとおりです。

なお、マルタニシについては、DNA 系統分析の結果、在来系統であると判断されました。

表 9.10-30 底生動物の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		選定基準			
				内	外	①	②	③	④
1	新生腹足	タニシ	マルタニシ	●					VU
2	トンボ (蜻蛉)	カワトンボ	ハグロトンボ	●	●				要注
3		サナエトンボ	ヤマサナエ	●					要注
4	カメムシ (半翅)	ミズムシ (昆)	エサキコミズムシ	●					DD
合計	3目	4科	4種	4種	1種	—	—	1種	3種

注：1. 種名及び配列は原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 29 年生物リスト 河川環境データベース」(国土交通省 平成 29 年)に準拠したほか、部分的には「図説日本のユスリカ」(日本ユスリカ研究会編 平成 22 年 8 月)など、各種文献類に従いました。

2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

①「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト 2020」(環境省 令和 2 年 3 月)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

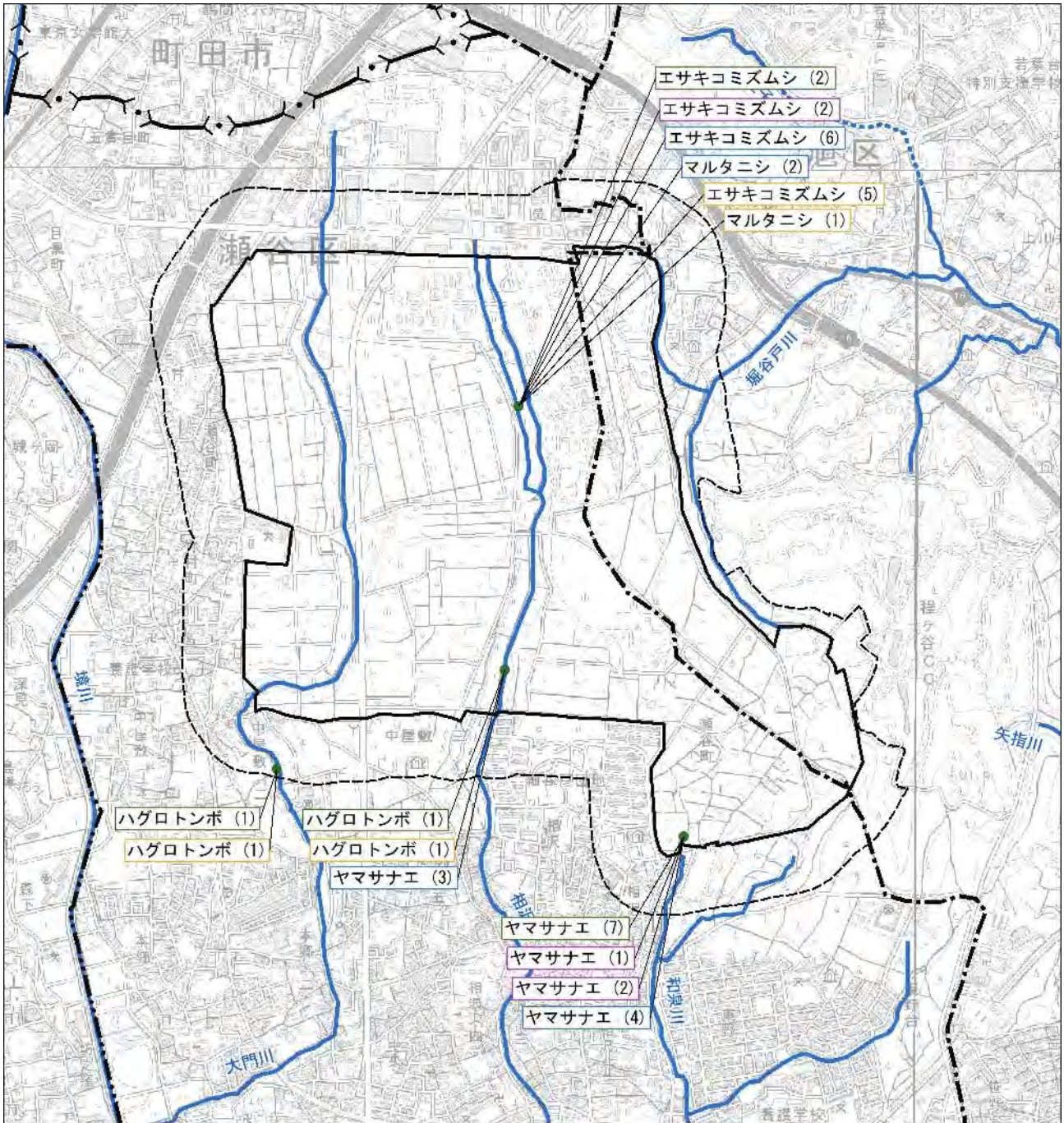
④「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」

(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成 18 年 7 月)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

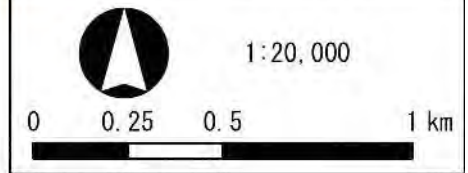
VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、

DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群



凡例

- 対象事業実施区域
 - 調査範囲
 - 都県界
 - 市界
 - 区界
 - 河川
- 夏季
 - 秋季
 - 冬季
 - 春季



注：図中の数字は確認個体数を示します。

図 9.10-11 底生動物の重要な種の確認位置図

k. 陸産貝類

現地調査の結果、1目1科1種の重要な種が確認されました。

重要な種の確認種目録は表 9.10-31 に、確認位置は図 9.10-12 に示すとおりです。

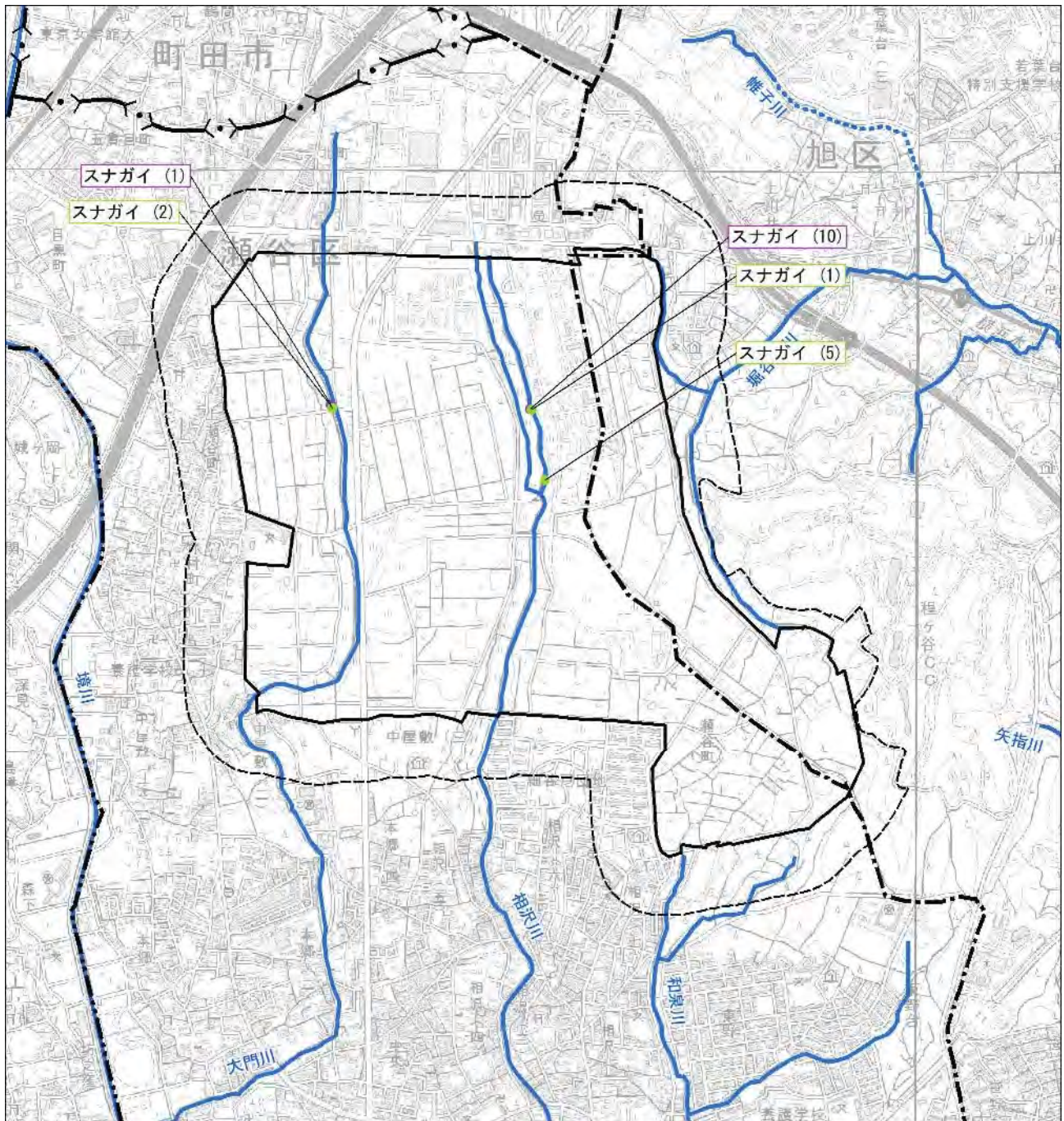
表 9.10-31 陸産貝類の重要な種の確認種目録

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		選定基準			
				内	外	①	②	③	④
1	マイマイ	キバサナギガイ	スナガイ	●				NT	
合計	1目	1科	1種	1種	—	—	—	1種	—

注：1. 種名及び配列は原則として、「野生生物目録 無脊椎動物Ⅲ」（環境庁 平成10年4月）に準拠しましたが、一部他の文献も参考としました。

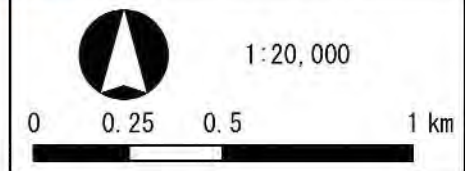
2. 重要な種の選定基準は以下のとおりです。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省 令和2年3月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、減少：減少種、希少：希少種、要注：要注意種、
DD：情報不足、不明：不明種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群



凡例

- 対象事業実施区域
- 調査範囲
- 都県界
- 市界
- 区界
- 河川
- 冬季
- 初夏季



注：図中の数字は確認個体数を示します。

図 9.10-12 陸産貝類の重要な種確認位置図

ウ. 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

a. 哺乳類

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である哺乳類は確認されませんでした。

b. 鳥類（一般鳥類）

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である鳥類（一般鳥類）は確認されませんでした。

c. 鳥類（フクロウ類・夜行性鳥類）

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である鳥類（フクロウ類・夜行性鳥類）は確認されませんでした。

d. 鳥類（猛禽類）

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である鳥類（猛禽類）は確認されませんでした。

e. 両生類

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である両生類は確認されませんでした。

f. 爬虫類

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である爬虫類は確認されませんでした。

g. 昆虫類

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である昆虫類として、ゲンジボタルを確認しました。

調査結果の概要は表 9.10-32 に、確認位置は図 9.10-13 に示すとおりです。

表 9.10-32 確認概要

No.	目名	科名	種名	対象事業 実施区域		調査回			
				内	外	第1回	第2回	第3回	第4回
1	コウチュウ	ホタル	ゲンジボタル		●	●	●		
合計	1目	1科	1種	—	1種	1種	1種	—	—

注：種名及び配列は原則として、「日本産昆虫総目録」（九州大学農学部昆虫学研究室 平成元年9月）に準拠しましたが、一部他の文献も参考としました。

h. クモ類

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由であるクモ類は確認されませんでした。

i. 魚類

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である魚類は確認されませんでした。

j. 底生動物

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である底生動物は確認されませんでした。

k. 陸産貝類

現地調査の結果、注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である陸産貝類は確認されませんでした。

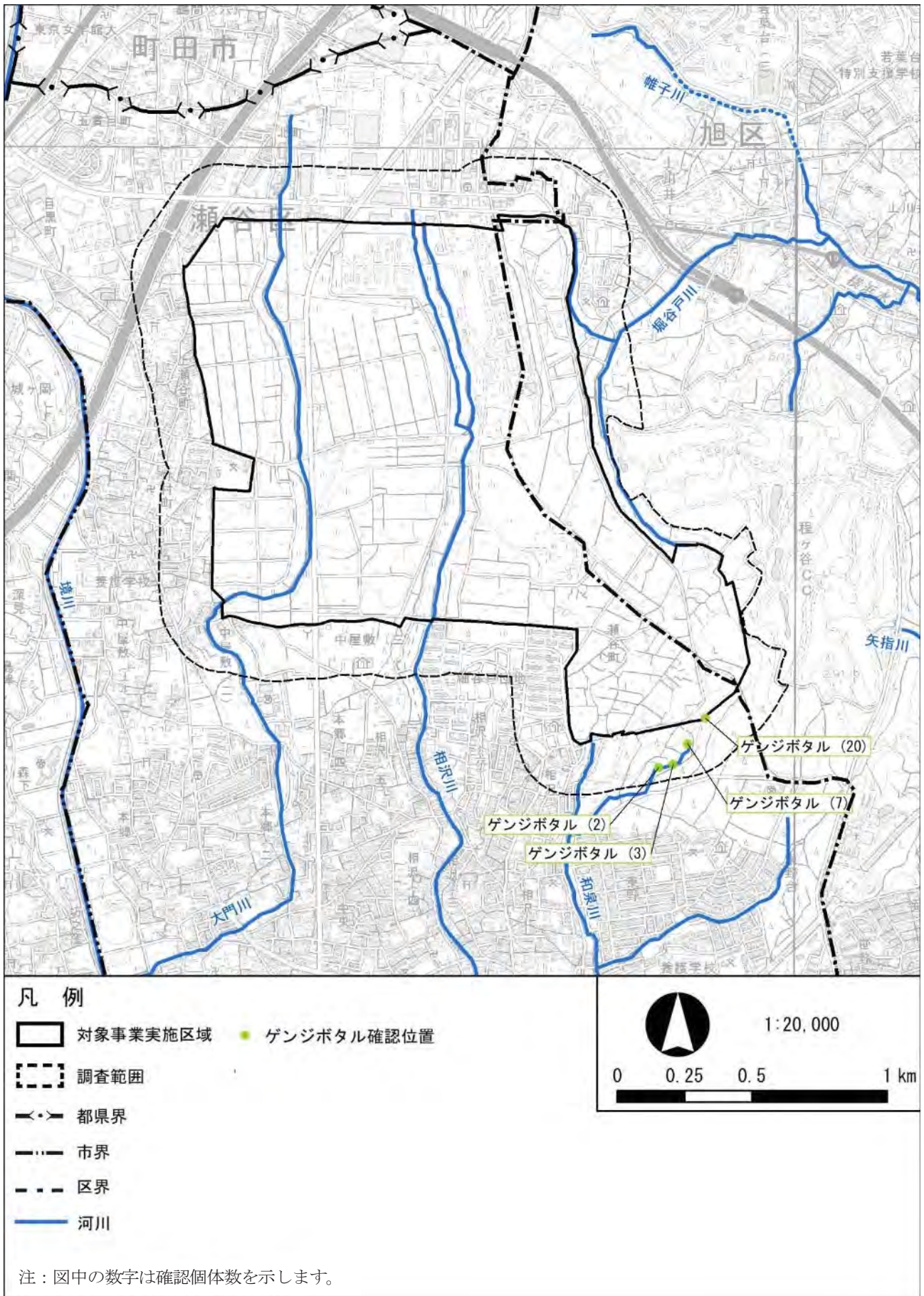


図 9.10-13 注目すべき昆虫類の確認位置図

(7) 専門家等ヒアリング結果

専門家等ヒアリング結果は、表 9.10-33 に示すとおりです。

表 9.10-33(1) 専門家等ヒアリング結果（専門家 A 氏（哺乳類））

【哺乳類について】

- ・イタチ、キツネともに、森林よりは草原や畑地などを好む動物であり、今回の地域に生息する可能性はあると考える。
- ・特にイタチは、レッドデータ生物調査でも NT という評価になっているが、繰り返し調査をするうちに生息状況が分かってくるような種なので、引き続き注目すべきと考える。
- ・計画が実施されると草原や畑地などのその大半は無くなってしまいが、対象事業実施区域の外周の畑地は残され、湧水周辺の整備もあるので、今後も細々とではあるが生息していくものと期待する。
- ・キツネについては、全県的に個体数が少なくなっている種なので、今後の生息も厳しいと考える。

表 9.10-33(2) 専門家等ヒアリング結果（専門家B氏（鳥類））

【事業計画等について】

- ・ 改変する面積が大きいという印象を持っている。これだけの面積を改変するとなると、影響が少ないとは言いづらい。保全措置として、草地環境、水辺環境の両方を残すように検討をして欲しい。相沢川の状況を見ると、相沢川を残すというより、相沢川の水田、湿地を残すことが大事である。

【鳥類全般について】

- ・ ホットスポットといわれる相沢川で気になる種は、オオヨシキリである。セッカ、コチドリ、モズ、ヒバリ、カワラヒワは、繁殖していると考えられる。
- ・ ビオトープなどを検討する場合は、鳥類的にはあまり人手が入っていない、管理されていないような状況が好ましい。舞岡公園の環境を参考にするとよい。

【オオタカ、フクロウ、ハイタカについて】

重要な種の保護の観点から、非表示としております。

- ・ 環境的にはハイタカは繁殖できる可能性はある。ハヤブサは、周辺に繁殖できる環境がないと考える。
- ・ フクロウへの影響は、オオタカと同じく餌環境によるものである。フクロウはネズミ類を食べることが多く、対象地域では調査によりネズミ類が生息していると思われる果樹園を、主な採食場所として利用していると考えられる。
- ・ 農業振興地区がどのような土地利用になるか分からないのが、フクロウの餌環境を確保するために、ネズミ類が多く生息する果樹園を多く残すことも検討してほしい。
- ・ 今回の土地利用計画で直接的な生息に対して特に影響が深刻なのが、フクロウとオオタカと感じている。

表 9.10-33(3) 専門家等ヒアリング結果（専門家C氏（昆虫類））

【事業計画等について】

- ・これだけ多くの重要な種が生息する場所であり、その場所を改変するのであれば、重要な種は全滅することを認識して欲しい。計画を変えることはできないと思うので、できることを最大限に模索してほしい。
- ・工事工程計画においては、重要な種の生育、生息地の改変工事は、できるだけ最後にもってくるようなきめ細かい対応を行えば、多少なりとも救える種が出てくる。
- ・横浜市事業なので、瀬谷市民の森も使って一体化して何かできないかを検討してほしい。
- ・今後、保全計画を立てる際には、具体的な目標を文章化することで関係者が分かりやすくなる。

【昆虫類全般について】

- ・マルタニシは、人工池に放流しても問題ないと考える。ビオトープを計画する際には、多様な方法で種を残すということを模索してほしい。
- ・アメリカザリガニは既にいるので、ビオトープができた段階から捕獲を継続的に行い、保全対象種への被害を減らすことが大切である。ビオトープに外来種（アメリカザリガニ）が入らないような道具が幾つかあり、一見人為的な方法に見えるかもしれないが、外来種の侵入に抑止効果がある。総合的な方法で保全管理していくことが有効だと考える。
- ・環境保全対策が一番難しいのが、湧水に生息する種類で、特にニホンカワトンボは横浜で数地点しか確認をされていない。湧水環境を人工的に作るの難しいので、現状を傷つけずに残すことについて最大限の努力をしてもらいたい。
- ・保全技術が分かっている種、分かっている種があるので、事前に先行事例の有無を良く調べて、しっかりとした管理計画を作っておく必要がある。

【ビオトープについて】

- ・ビオトープをどこの工区よりも先に、最優先で造成することが大事である。ビオトープができた後にいろいろと試行錯誤を繰り返して、環境を整備しなければならないので、割と時間がかかる。その期間を見込んで工事計画を行って欲しい。
- ・ビオトープの造成初期は攪乱環境となるので、外来種が侵入しやすく、外来種の宝庫となる。誰がやるのか。お金はどこが出すのか。というところが課題になっている。そこを含めての管理計画が必要となる。
- ・水田環境があったからこそ生息できた種もあるので、ビオトープの中にも水田環境や湿地環境等、湿地という視点からも模索をして欲しい。
- ・狭い面積のビオトープの中で、いかに多様な環境を創出するかが大切。ビオトープ内に起伏をつけるなど、地形的な工夫も必要。

表 9.10-33(4) 専門家等ヒアリング結果（専門家D氏（昆虫類））

【昆虫類について】

- ・昆虫の重要な種の中では、クツワムシの存在は極めて重要である。かつては普通種であったが、相模川以東の産地がほとんどないことから、生息環境はなるべく現状に手を加えない方向で維持して欲しい。
- ・今後緑地として維持する場合、環境の手入れの程度については、留意が必要である。特にクツワムシは適度な藪が好みで、過度な刈り取りをしたために、絶滅した産地が少なくない。また、クツワムシは移動能力が極めて低いため、生息地が開発される見込みの場合は、クズやササが繁茂する他の茂み（夜はちゃんと暗い場所が良い）への移植も検討して欲しい。（成虫を移植すれば良い。）
- ・移植を行う場合、うまくいかない可能性や、少数個体では遺伝的に均一な集団になってしまい、最終的には絶えてしまうため、なるべく数年かけて念入りに行う方が良い。

【ビオトープについて】

- ・ビオトープ造成に際しては、過去の都市近郊のビオトープの事例を踏まえると、外来種の放逐を防ぐために、一般の方への常時公開はせずに、周辺を含め柵などで立ち入りできないようにした方が良い。
- ・夜間の照明についても、生物によっては悪影響が生じる（例えば、天敵から見え易くなり捕食圧が高まる、交尾などがうまくできない、など）ので、保護エリアの周囲は配慮が必要である。

【その他土地利用について】

- ・「自然とのふれあい」や「市民による環境づくり」のような場を設ける場合は、保全エリアとは別に設置すべきである。

表 9.10-33(5) 専門家等ヒアリング結果（専門家E氏（魚類））

【事業計画等について】

- ・相沢川を中心に両側に魚類をはじめいろいろな生物が確認されている。ホットスポットになっている相沢川流域を暗渠化することで、一番肝心な所を全部改変してしまうことになる。現在の計画において公益的施設用地に水辺環境を創出しているが、これは代償措置とはいえない。
- ・このままの土地利用計画では、環境に何も配慮していないように感じる。
- ・開発事業なので、完全な形で現状を残すことは難しいと思うので仕方はないが、新しい環境を創造するのではなく既に適切な環境があるので、それを残すように開発を進めて行くことを考えてほしい。
- ・相沢川を残す場合もその両岸にどれだけ荒れ地、湿地等の環境が残せるかが重要である。川だけを3面張り、2面張りにして残すというのであれば、それはあまり意味がない。

【魚類について】

- ・ホトケドジョウは、そんなに移動を繰り返さない。湧き水の位置は変わらないので、そこを中心にホトケドジョウが生息できる環境を残しておけば（湧水の源流部の下流に、浅くてホトケドジョウが好みそうな環境が維持するなど）、土地利用計画全体でみてそれほど深刻な問題ではないと感じる。
- ・ホトケドジョウは、他の生物と違って要求される生息環境の幅は広くない。例えば、浅くて広い開放水面を作り、シャジクモのような種が繁茂し、稚魚が生息できる環境を創出できれば、今よりも増える可能性もある。谷筋の暗くて細い水路だけを残しても、ホトケドジョウとしてはギリギリの環境下で、生き残っている状況となる。
- ・ホトケドジョウが確認された水源、流水部は、生息環境としてはギリギリの環境下だと思われるので、その環境が少しでも変わってしまうと絶滅する可能性も大きい。工事は、ホトケドジョウが繁殖する時に影響がない時期に行わなければならない。
- ・ミナミメダカは、昔から生息していたのではなく、放流された個体が確認されたのではないかと考えられる。外来種の可能性が高い。

表 9.10-33(6) 専門家等ヒアリング結果（現地市民団体）

- ・上瀬谷球場から北へ約 200m の地点の小さな水路（相沢川より取水する農業用水路）にも約 30 種（サワガニ、カワニナ、シジミ、カワリヌマエビ、プラナリア、カワモズク等）の生物がいる。以前はアメリカザリガニが多かったが、最近ではカワリヌマエビに変わってきた。
- ・相沢川は三面張りになっており、川底には落ち葉や砂利が溜まっているが、魚類等水生生物には厳しい環境になっている。本当は和泉川のような多自然川づくりが理想である。
- ・上瀬谷球場から北へ約 1000m の地点の近くに冬水田んぼに併設したビオトープをつくった。そこには、多くのクロメダカ、ドジョウ等の魚類、ダイサギ、カルガモ、カワセミ等の水鳥類、ハラビロトンボやクロスジギンヤンマ、アジアイトトンボなどのトンボ類やハイイロゲンゴロウ等の昆虫も生息する。また、オオタカやノスリ等の猛禽類の猟場にもなっている。この地域に不足する水場を人工的でも造ったことで生物多様性が増したのではと考えている。
- ・ビオトープ周辺の耕作放棄水田で、絶滅危惧類のタコノアシやオオアカバナを発見した。イチリンソウの群落も観られる。大谷戸の植物は在来種の割合が高い。
- ・相沢川流域は、毎月第 3 土曜日に実施する定例観察会の観察でもノスリ、チョウゲンボウ、ジョウビタキが観察されたように、とても自然豊かなところである。テーマパークのような人工的な開発は西側の原っぱのところに配置して、相沢川流域はなるべく今の環境のまま残して、人工的な開発エリアと自然がそのまま残ったエリアとが対比ができるようなことを考えて欲しい。
- ・相沢川は谷戸の底を流れており、相沢川を囲む湿潤な谷戸地形が、多様な生物の生息・成育場となっている。例えば 2018 年の計 12 回の定例観察会では 100 種を超える昆虫を発見し、これら昆虫や水田・水路の水生生物を食する鳥が集まる貴重な生態系が形成され、豊かな自然環境となっている。開発に際しては、この谷戸が有する機能をきちんと評価して検討して欲しい。
- ・原っぱを含めたこの辺りは、自然は豊かではあるが、水場が足りない。再開発の際には、横浜市水と緑の基本計画、水・緑の環境を守り・作り・育てるに沿う、生物多様性のシンボル（目玉）となるサンクチュアリー、水が十分供給できるような大きな川や池を有する自然保護区の創生を強く要望する。
- ・この地域は軍施設ができる前は、現在の瀬谷市民の森のような樹林になっていたと考えられる。ここを源流域とする和泉川・相沢川の水を安定して供給するためには、「緑のダム」と言われる森の再生が必須であると考えている。
- ・植樹に際しては、食物連鎖を考慮して樹種を選定し、一部は児童・生徒による「どんぐり苗」を植えるなどの市民参加型の森づくりを展開して欲しい。

9.10.2 予測及び評価の結果

(1) 予測

① 予測項目

工事の実施（造成工事）、土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））としました。

② 予測地域

事業の実施に伴い重要な種の生息地が直接改変される地域又は移動経路が分断される地域とし、調査範囲（対象事業実施区域及びその周辺約 200m の範囲内（舗装地等人工改変地を除く。））としました。

③ 予測対象時期

工事の実施は、造成工事が最大となった時期とし、土地又は工作物の存在及び供用時については、事業の実施が終了し、供用後の環境が安定することが想定される時期としました。

④ 予測の基本的な手法

土地利用計画を踏まえ、動物の重要な種の生息環境の改変の程度を推定し、事例の引用又は解析により予測しました。

⑤ 予測対象種

予測対象種は、現地調査によって確認された重要な種及び注目すべき生息地、当該生息地が注目される理由である種（以下、注目すべき種といいます。）としました。

【重要な種】

- ・一般鳥類：20 種（フクロウを含みます。）
- ・猛禽類：7 種
- ・両生類：2 種
- ・爬虫類：5 種
- ・昆虫類：19 種

（底生動物調査で確認された、ハグロトンボ、ヤマサナエ、エサキコミズムシを含みます。）

- ・魚類：3 種
- ・底生動物：1 種
- ・陸産貝類：1 種

【注目すべき種】

- ・昆虫類：1 種（ゲンジボタル）

現地調査での確認種及び文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった種は表 9.10-34 に示すとおりです。

表 9.10-34(1) 予測対象種及び予測対象としなかった種（現地調査で確認されなかった種等）

分類群	区分	種名
哺乳類	現地調査で確認された重要な種（0種）	—
	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	キツネ、イタチ
鳥類	一般鳥類 現地調査で確認された重要な種（20種）	アオバト、ムナグロ、コチドリ、モズ、ヒバリ、ツバメ、センダイムシクイ、オオヨシキリ、セッカ、トラツグミ、アカハラ、キビタキ、キセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオアカ、アオジ、クロジ、フクロウ
	猛禽類 現地調査で確認された重要な種（7種）	ミサゴ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハヤブサ
	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	ウズラ、ヤマドリ、アカツクシガモ、オシドリ、トモエガモ、ヨシゴイ、ミゾゴイ、ササゴイ、チュウサギ、ヒクイナ、カッコウ、ヨタカ、ヒメアマツバメ、タゲリ、ダイゼン、イカルチドリ、ヤマシギ、タシギ、クサシギ、キアシシギ、イソシギ、ハマシギ、タマシギ、コアジサシ、アオバズク、アカショウビン、ブッポウソウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、チゴモズ、キクイタダキ、コガラ、コシアカツバメ、ヤブサメ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、オオセッカ、カワガラス、クロツグミ、ルリビタキ、コサメビタキ、オオルリ、オオジュリン、アオバズク
両生類	現地調査で確認された重要な種（2種）	アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル
	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	アカハライモリ、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、モリアオガエル
爬虫類	現地調査で確認された重要な種（5種）	ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ
	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	—
昆虫類	現地調査で確認された重要な種（19種）	ハグロトンボ、ニホンカワトンボ、ホソミイトトンボ、ヤマサナエ、ナツアカネ、ケラ、クツワムシ、ショウリョウバッタモドキ、エサキコミズムシ、ヤブガラシゲンバイ、ミナミトゲヘリカメムシ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アトモンコミズギワゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コマルケシゲンゴロウ、コガムシ、キイロトラカミキリ、ハマベキクイゾウムシ、コシロシタバ (ハグロトンボ、ヤマサナエは底生動物調査で確認。エサキコミズムシは、昆虫類調査、底生動物調査の両方で確認。)
	現地調査で確認された注目すべき種（1種）	ゲンジボタル

表 9.10-34(2) 予測対象種及び予測対象としなかった種（現地調査で確認されなかった種等）

分類群	区分	種名
昆虫類	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	クロイトトンボ、セスジイトトンボ、キイトトンボ、ベニイトトンボ、モートンイトトンボ、モノサシトンボ、オツネイトトンボ、キイロサナエ、コサナエ、カトリヤンマ、サラサヤンマ、コヤマトンボ、タカネトンボ、コフキトンボ、シオヤトンボ、チョウトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ、ヒメアカネ、ミヤマアカネ、リスアカネ、ヒガシキリギリス、ハルゼミ、オオアメンボ、コオイムシ、タガメ、ホソハンミョウ、ゲンゴロウ、ガムシ、ミヤマクワガタ、ウバタマムシ、ウバタマコメツキ、ヘイケボタル、ムネアカクロハナカミキリ、マルクビケマダラカミキリ、トラフカミキリ、シロスジカミキリ、ネジロカミキリ、オオミノガ、ホソバセセリ、ギンイチモンジセセリ、ミヤマチャバネセセリ、オオチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、ミドリシジミ、クロシジミ、シルビアシジミ、スミナガシ本土亜種、オオムラサキ
	現地調査で確認された重要な種（0種）	—
クモ類	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	—
	現地調査で確認された重要な種（3種）	アブラハヤ、ヒガシシマドジョウ、ホトケドジョウ
魚類	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	スナヤツメ類、コイ、ゲンゴロウブナ、キンブナ、ハス、ウグイ、ゼゼラ、カマツカ、ニゴイ、スゴモロコ、シマドジョウ、ナマズ、サクラマス（ヤマメ）、カジカ、ボウズハゼ、オオヨシノボリ
	現地調査で確認された重要な種（1種）	マルタニシ (昆虫類として予測対象とした種：ハグロトンボ、ヤマサナエ、エサキコミズムシ)
底生動物	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	—
	現地調査で確認された重要な種（1種）	スナガイ
陸産貝類	文献その他の資料調査で確認され、現地調査で確認されなかった重要な種	サドヤマトガイ、イナバマメタニシ、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、コウフオカモノアラガイ
	現地調査で確認された重要な種（1種）	—

⑥ 予測条件

本事業では、計画立案の段階において表 9.10-35 に示す環境保全措置の検討を行っています。予測条件として、これらの環境保全措置を実施することを前提に予測を行いました。

また、対象事業実施区域内はすべて改変の可能性がある範囲とし、調査範囲を予測地域として予測を行いました。事業を実施した場合に想定される予測地域における植生等の改変率は、表 9.10-36 に示すとおりです。予測地域全体で見ると約 64%の植生が改変され、樹林域については約 36%、乾性草地については約 96%、湿性草地については約 59%が改変されます。

表 9.10-35 予測の前提条件とした環境保全措置

想定される影響の内容	環境保全措置
建設機械の稼働による騒音・振動	低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音・振動を低減します。
造成工事に伴い発生する濁水	仮設排水路や仮設調整池の設置等により、濁水中の浮遊物質量(SS)を低減します。
樹林面積の減少	造成後は、できる限り樹林地を回復させ、樹林地の連続性確保に努めます。

表 9.10-36 対象事業実施区域における植生等の改変率

区分	群落名等	予測地域 ^{※1} の面積 (ha)	改変区域 ^{※2} (ha)	非改変区域 (ha)	改変率	
樹林域	コナラ群落	7.76	0.63	7.13	8.1%	35.9%
	ムクノキエノキ群落	8.23	7.20	1.03	87.5%	
	スギ・ヒノキ植林	15.07	3.18	11.89	21.1%	
	竹林	0.70	0.29	0.41	41.4%	
	ヤナギ低木群落	0.18	0.18	0.00	100.0%	
乾性草地	アズマネザサ群落	1.42	1.42	0.00	100.0%	96.0%
	ススキ群落	0.43	0.43	0.00	100.0%	
	セイタカアワダチソウ群落	3.06	2.67	0.39	87.3%	
	ヒメムカシヨモギ群落	1.18	0.62	0.56	52.5%	
	イネ科草本群落	7.87	7.87	0.00	100.0%	
	チガヤ群落	10.17	8.27	1.90	81.3%	
	メヒシバエノコログサ群落	69.24	68.38	0.86	98.8%	
湿性草地	オギ群落	3.86	2.27	1.59	58.8%	58.8%
その他 土地利用	シバ草地	0.55	0.55	0.00	100.0%	55.5%
	植栽樹群	19.20	17.30	1.90	90.1%	
	果樹園	8.78	5.48	3.30	62.4%	
	畑地	102.74	85.61	17.13	83.3%	
	水田	1.83	1.83	0.00	100.0%	
	休耕田	1.71	1.71	0.00	100.0%	
	グラウンド	8.13	6.39	1.74	78.6%	
	人工構造物	116.73	25.39	91.34	21.8%	
造成地	1.87	0.82	1.05	43.9%		
合 計		390.71	248.49	142.22	63.6%	

※1：予測地域は動物及び植物の調査範囲（対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲）としています。

※2：改変区域は対象事業実施区域の範囲となります。

⑦ 影響予測の手順

影響予測は、図 9.10-14 に示す手順に基づき行いました。

対象事業実施区域内は、すべて改変の可能性ある範囲として影響予測を実施しました。

⑧ 予測結果

ア. 動物の重要な種への予測結果の概況

事業の実施による動物の重要な種及び注目すべき種（鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、魚類、底生動物、陸産貝類）の予測結果の概要は、表 9.10-37 に示すとおりです。

なお、表中の「○」は生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測したもの及び生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測したもの、「△」は影響があると予測したもの、「×」は影響が大きいと予測したものです。

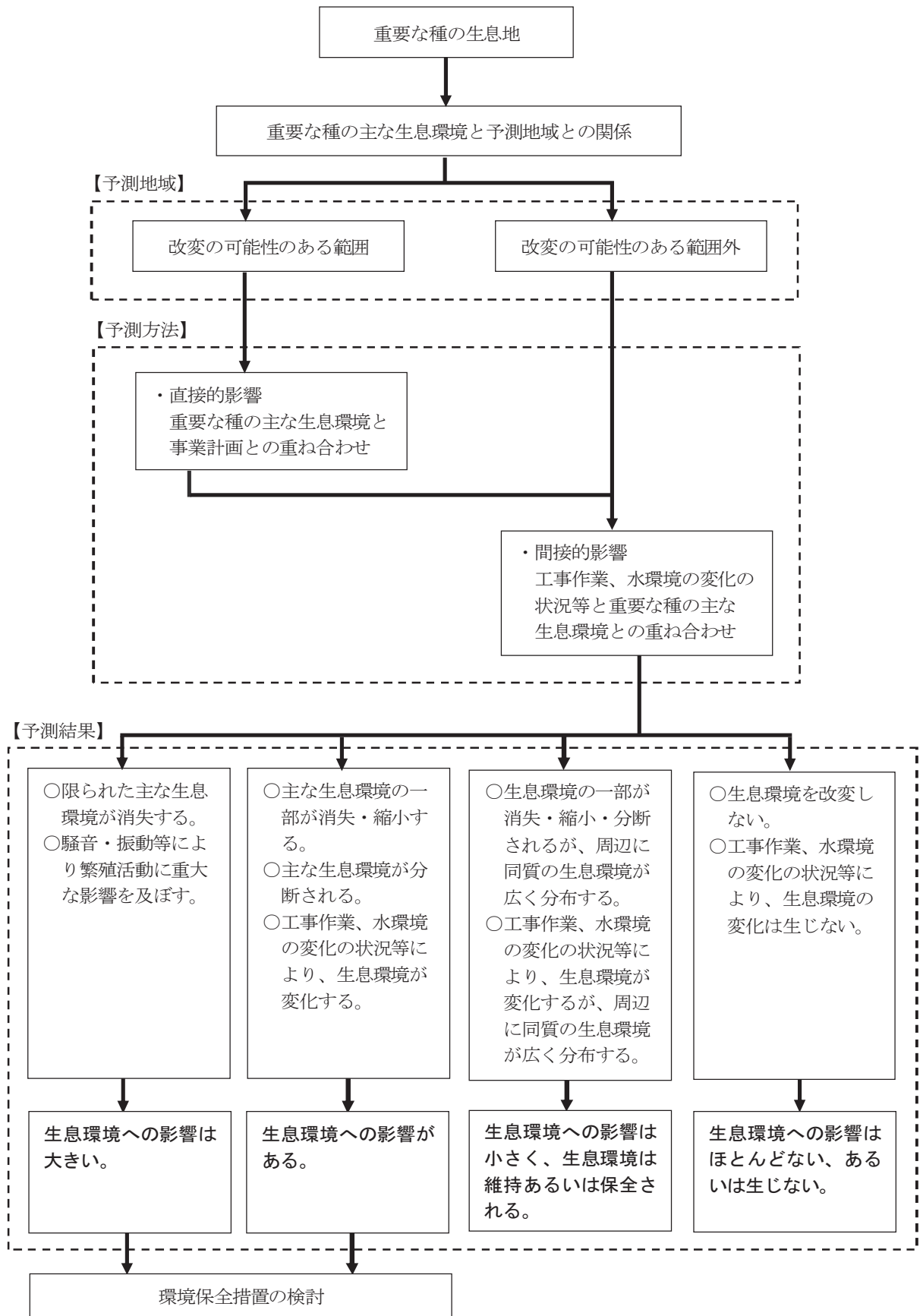


図 9.10-14 影響予測の手順（動物）

表 9.10-37(1) 動物の重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	一般的な生息環境	影響予測	
				工事の実施	存在及び供用
				造成工事	敷地の存在 (土地の改変)
一般鳥類	1	アオバト	樹林	○	○
	2	ムナグロ	水田、畑地、乾性草地	○	○
	3	コチドリ	砂地、荒れ地	×	○
	4	モズ	樹林、農耕地	×	○
	5	ヒバリ	乾性草地、農耕地	×	○
	6	ツバメ	農耕地	×	○
	7	センダイムシクイ	樹林	○	○
	8	オオヨシキリ	湿性草地	○	○
	9	セッカ	水田、草地	×	×
	10	トラツグミ	樹林	○	○
	11	アカハラ	樹林	○	○
	12	キビタキ	樹林	○	○
	13	キセキレイ	水田、農耕地	×	×
	14	セグロセキレイ	水田、農耕地	×	○
	15	ビンズイ	樹林	○	○
	16	カワラヒワ	樹林、市街地	△	△
	17	ホオアカ	乾性草地	○	○
	18	アオジ	樹林、農耕地	△	△
	19	クロジ	樹林	○	○
	20	フクロウ	樹林、農耕地	△	○
猛禽類	1	ミサゴ	大河川、湖沼	○	○
	2	ツミ	樹林	△	○
	3	ハイタカ	樹林	△	○
	4	オオタカ	樹林	△	○
	5	サシバ	樹林、農耕地	○	○
	6	ノスリ	樹林、畑地	△	○
	7	ハヤブサ	海岸	△	○
両生類	1	アズマヒキガエル	樹林、草地	○	○
	2	シュレーゲルアオガエル	水田、草地	×	×
爬虫類	1	ヒガシニホントカゲ	乾性草地、農耕地	×	○
	2	シマヘビ	樹林、草地、水田	×	○
	3	アオダイショウ	樹林、草地、水田	×	○
	4	ヒバカリ	樹林、湿性草地	×	×
	5	ヤマカガシ	水田、湿性草地	×	×

表 9.10-37(2) 動物の重要な種の予測結果の概要

分類	番号	種名	一般的な生息環境	影響予測	
				工事の実施	存在及び供用
				造成工事	敷地の存在 (土地の改変)
昆虫類	1	ハグロトンボ	小川	×	×
	2	ニホンカワトンボ	河川	○	○
	3	ホソミイトトンボ	池、湿地	○	○
	4	ヤマサナエ	溪流	×	×
	5	ナツアカネ	池沼、水田	×	×
	6	ケラ	水田、農耕地	×	×
	7	クツワムシ	樹林、乾性草地	△	△
	8	ショウリョウバッタモドキ	乾性草地、湿性湿地	×	×
	9	エサキコムズムシ	池沼、水田、休耕地	×	×
	10	ヤブガラシグンバイ	ヤブガラシ群落	×	×
	11	ミナミトゲヘリカメムシ	樹林	△	△
	12	クロヒメヒョウタンゴミムシ	湿性草地	×	×
	13	アトモンコムズギワゴミムシ	湿性草地	×	×
	14	クロケバカゴミムシ	湿性草地	×	×
	15	コマルケシゲンゴロウ	池沼、湿地、休耕地	×	×
	16	コガムシ	池沼、水田	×	×
	17	キイロトラカミキリ	樹林	○	○
	18	ハマベキクイゾウムシ	樹林	×	×
	19	コシロシタバ	樹林	△	△
	20	ゲンジボタル	河川	○	○
魚類	1	アブラハヤ	河川	×	×
	2	ヒガシシマドジョウ	河川	○	○
	3	ホトケドジョウ	河川、水路、池沼	×	×
底生動物	1	マルタニシ	池沼、水田	×	×
陸産貝類	1	スナガイ	樹林	×	×

○…生息環境への影響は小さく、生息環境は維持もしくは保全される。影響はほとんどない、あるいは生じない。
 △…生息環境への影響がある。
 ×…生息環境への影響は大きい。

イ. 鳥類（一般鳥類）

事業の実施による鳥類の重要な種の予測結果は、表 9.10-38 に示すとおりです。

表 9.10-38(1) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		アオバト	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、四国、九州で繁殖し、北海道では夏鳥、他は留鳥、薩南諸島、南西諸島には冬に現れます。本州中部以南に多く分布します。 山地帯の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林に生息します。樹上、特に小枝や葉が茂る樹冠部や、林内や林縁の地上で採餌します。樹木や草の実・果実・種子等のほか、どんぐりのような堅果も餌とします。巣は樹木の枝の上につくられます。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	確認されませんでした。
		対象事業実施区域外	夏季に樹林地で1地点1個体を確認しました。
		対象事業実施区域外の樹林環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の確認は、対象事業実施区域外の樹林環境のみであり、それらの生息環境は多くが残存することから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、まとまった樹林環境に生息しますが、対象事業実施区域にはそれらの環境はほとんど存在しないことから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	

表 9.10-38(2) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		ムナグロ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 全国に旅鳥として渡来します。小笠原や南西諸島では越冬します。 干潟や砂浜、水田やハス田に渡来するほか、畑、草地、川原などでもよくみられ、昆虫などを捕食します。巣は地上に作られます。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	夏季に上空を通過する1個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		本種は、渡りの時期に越冬地への移動個体が上空を通過したと考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、上空通過個体が1個体確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、上空通過個体が1個体確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	

表 9.10-38(3) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名	コチドリ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> 夏鳥として北海道、本州、四国、九州等で繁殖します。九州以南で少数が越冬します。 河川敷内の中州、水辺、河口の三角州や干潟、海岸の砂浜、植生が疎らで裸出土の多い荒れ地に生息します。主に昆虫類を捕食します。砂地に浅い窪みを掘って営巣します。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	春季に畑地で6地点計11個体、初夏に畑地、上空通過で7地点計10個体、夏季に畑地で8地点計17個体を確認しました。
	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
	対象事業実施区域の畑地等の耕作地が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約83%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内には農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

表 9.10-38(4) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名	モズ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全国で繁殖します。積雪地の個体は冬期に暖地へ移動します。 低地の林、河原、農耕地、公園などで単独で生活します。昆虫類を始めとした無脊椎動物や小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類などを捕食し、はやにえを作る習性があります。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	秋季に樹林地、果樹園、乾性草地で14地点計23個体、冬季に樹林地、果樹園、畑地、乾性草地、河川敷で8地点計9個体、春季に樹林地、畑地、乾性草地、人工構造物で10地点計13個体、初夏に樹林地、畑地、人工構造物、畑地で7地点計8個体、夏季に樹林地、畑地、乾性草地、人工構造物で12地点計12個体を確認しました。
	対象事業実施区域外	秋季に樹林地で1地点1個体、春季に竹林で1地点1個体を確認しました。
	対象事業実施区域の畑地等の耕作地が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約83%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

表 9.10-38(5) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		ヒバリ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・留鳥又は漂鳥として北海道から九州に生息します。南西諸島では冬鳥として生息します。 ・広い草地のある河川敷や農耕地、牧場、造成地などに生息します。イネ科などの植物の株際の地上、あるいは株内の低い位置に巣をつくります。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 夏季（平成 30 年）に低茎草地や畑地で 3 地点計 6 個体、秋季に低茎草地、畑地、果樹園、上空通過で 6 地点計 12 個体、冬季に畑地、低茎草地で 8 地点計 15 個体、春季に畑地、低茎草地、芝地、砂礫地、人工構造物、上空通過で 33 地点計 50 個体、初夏に芝地、畑地、低茎草地で 30 地点計 33 個体、夏季（平成 31 年）に畑、低茎草地、人工構造物で 9 地点計 13 個体を確認しました。
		対象事業実施区域外 確認されませんでした。
		対象事業実施区域の畑地等の耕作地が主な生息環境であると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約 83% が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約 83% が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

表 9.10-38(6) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		ツバメ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・九州以北に夏鳥として渡来します。西日本では越冬する個体も多いです。沖縄では旅鳥として渡来します。 ・繁殖は人間の居住空間と密接に結びつき、人間が出入りする建物の軒下に、泥や草を唾液で固めた椀型の巣を造ります。飛びながら飛翔昆虫を捕食します。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 夏季（平成 30 年）に畑地、乾性草地、上空通過で 16 地点計 91 個体、春季に樹林地、畑地、乾性草地、人工構造物、上空通過で 14 地点計 58 個体、初夏に畑地、上空通過、芝地、人工構造物、水田、樹林地で 18 地点計 32 個体、夏季（平成 31 年）に畑地、乾性草地、上空通過で 8 地点計 44 個体を確認しました。
		対象事業実施区域外 春季に樹林地で 1 地点計 2 個体、夏季（平成 31 年）に樹林地で 1 地点計 2 個体を確認しました。
		対象事業実施区域の畑地等の耕作地が主な生息環境であると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約 83% が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約 83% が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

表 9.10-38(7) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		センダイムシクイ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 夏鳥として北海道から九州までの各地で繁殖します。 主に低山帯の落葉広葉樹林に生息し、傾斜があり、林床に低木や藪が多い林を好みます。渡りの時期には平野部でもみられます。樹上で採餌し、昆虫類の幼虫や成虫を捕食します。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 春季に樹林地で1地点1個体を確認しました。
		対象事業実施区域外 春季に樹林地で1地点1個体を確認しました。
		本種は、渡りの時期に繁殖地への移動個体が樹林地を一時的に利用していると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

表 9.10-38(8) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		オオヨシキリ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 夏鳥として北海道の北部及び東部と沖縄を除く全国で繁殖します。 水辺のヨシ原に生息し、海岸や河口等の低地の湿原や、山地の湖岸や川岸の湿地で繁殖します。茎から茎へと移動しながら、チョウ、バッタといった昆虫類やクモ類等を捕食します。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 春季に樹林地、乾性草地で2地点計2個体、夏季（平成31年）に畑地で1地点1個体を確認しました。
		対象事業実施区域外 春季に畑地で1地点1個体を確認しました。
		繁殖時期の初夏に確認されていないことから、渡り時期の移動個体等が、乾性草地等を一時的に利用していると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期の移動個体等が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期の移動個体等が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

表 9.10-38(9) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		セッカ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州以南の平地から山地の草原、ヨシ原、農耕地で繁殖し、多雪地や本州北部のものは冬期には南下します。 ・河原や水田周辺の草原に生息します。電線にとまったり、草の間をくぐったり、地上を歩きながら昆虫などを捕食します。草の茎や葉の間に巣をつくります。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季（平成30年）に乾性草地で7地点計10個体、秋季に乾性草地で2地点計3個体、春季に乾性草地、芝地、人工構造物で7地点計7個体、初夏に乾性草地、樹林地で5地点計5個体、夏季（平成31年）に乾性草地で5地点計5個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季（平成30年）に乾性草地で7地点計10個体、秋季に乾性草地で2地点計3個体、春季に乾性草地、芝地、人工構造物で7地点計7個体、初夏に乾性草地、樹林地で5地点計5個体、夏季（平成31年）に乾性草地で5地点計5個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季（平成30年）に乾性草地で7地点計10個体、秋季に乾性草地で2地点計3個体、春季に乾性草地、芝地、人工構造物で7地点計7個体、初夏に乾性草地、樹林地で5地点計5個体、夏季（平成31年）に乾性草地で5地点計5個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の乾性草地環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施（造成工事）	・本種の主な生息環境である乾性草地環境は、造成工事により、予測地域内の約96%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の主な生息環境である乾性草地環境は、土地の改変により、予測地域内の約96%が消失します。対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境は整備されますが、まとまった乾性草地環境は消失するため、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。				

表 9.10-38(10) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		トラツグミ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・九州以北、奄美大島、西表島で繁殖し、北方や高地のものは冬に暖地へ移動します。 ・低地から山地の暗い森林内の林床に生息します。落葉広葉樹や雑木に営巣します。越冬期には、明るい林にも現れ、人家の庭などにも来ることがあります。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>冬季に上空を通過する個体を1地点1個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	冬季に上空を通過する個体を1地点1個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	冬季に上空を通過する個体を1地点1個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
本種は、渡りの時期に越冬地への移動個体が上空を通過したと考えられます。						
影響予測	工事の実施（造成工事）	・本種は、渡り時期に越冬地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種は、渡り時期に越冬地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。				

表 9.10-38(11) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		アカハラ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州中部以北で繁殖し、冬は本州中部以西から中国南部などに渡ります。 ・山地の明るい林、木が疎らに生えた環境を好み、カラマツ林や草原と林が接するところで繁殖します。林縁の落葉広葉樹、亜高山針葉樹の枝先、または幹に近い枝上に巣をつくります。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	春季に樹林環境で1地点1個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	春季に樹林環境で1地点1個体を確認しました。
		本種は、渡りの時期に繁殖地への移動個体が樹林地を一時的に利用していると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	

表 9.10-38(12) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		キビタキ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・夏鳥として九州以北に渡来します。 ・山地から丘陵地によく茂った落葉広葉樹林に渡来します。枝から枝に渡り虫を捕食します。繁殖は、落葉広葉樹、針広混交林で行われます。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	秋季に樹林地で2地点計2個体、春季に樹林地で1地点1個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	春季に樹林地で3地点計3個体、初夏に樹林地で3地点計3個体を確認しました。
		対象事業実施区域内は、渡り時期に一時的に利用していると考えられ、対象事業実施区域周辺の樹林地が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、対象事業実施区域の利用が渡り時期の一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、対象事業実施区域の利用が渡り時期の一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	

表 9.10-38(13) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		キセキレイ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 北海道南部から九州までの平地から山地の河川に、留鳥または漂鳥として生息します。 平地から山地の川岸、湖沼、水田、農耕地に生息します。主に水辺を歩き、水生昆虫等を捕食します。人家の屋根や橋桁、樹木などにお椀型の巣をつくります。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>秋季に芝地で1地点1個体、冬季に河川で1地点1個体、初夏に水田で1地点1個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	秋季に芝地で1地点1個体、冬季に河川で1地点1個体、初夏に水田で1地点1個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	秋季に芝地で1地点1個体、冬季に河川で1地点1個体、初夏に水田で1地点1個体を確認しました。			
対象事業実施区域外	確認されませんでした。					
		対象事業実施区域内の河川や水田・休耕田環境が主な生息環境であると考えられます。				
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の100%が消失します。また、本種の主な生息環境である河川は、土地の改変により暗渠化されることから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-38(14) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		セグロセキレイ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 北海道南部から九州までの平地から山地の河川に、留鳥または漂鳥として生息します。 平地から山地の河川中流域の川岸や湖沼、水田、農耕地に生息します。巣は、川の土手のくぼみ、河原の石や流木の下、人家の石垣や屋根、瓦の隙間などにつくります。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>秋季に畑地で1地点計2個体、人工構造物で1地点1計個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	秋季に畑地で1地点計2個体、人工構造物で1地点1計個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	秋季に畑地で1地点計2個体、人工構造物で1地点1計個体を確認しました。			
対象事業実施区域外	確認されませんでした。					
		対象事業実施区域の畑地等の耕作地が主な生息環境であると考えられます。				
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約83%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。 				

表 9.10-38(15) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		ビンズイ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 本州中部の山地から北海道にかけて繁殖し、少数は四国の山地でも繁殖します。 北海道から東北地方北部では、海岸近くから山地までみられますが、その他の地方では山地に限って繁殖します。夏は主にチョウ、バッタ、ハチ、ハエ、ガガンボ、甲虫といった昆虫類を餌とし、冬は主に植物の種子を餌とします。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 確認されませんでした。
		対象事業実施区域外 春季に樹林地で1地点計2個体を確認しました。
		本種は、渡りの時期に繁殖地への移動個体が樹林地を一時的に利用していると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が対象事業実施区域外の樹林地で確認されたのみであることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が対象事業実施区域外の樹林地で確認されたのみであることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

表 9.10-38(16) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		カワラヒワ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 本州から九州にかけて留鳥、または冬鳥として生息します。 平地から低山地の林や、市街地などの木や街路樹に営巣します。草の実を食べます。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 夏季（平成30年）に樹林地で1地点1個体、秋季に乾性草地、樹林地のほか、上空通過として4地点計9個体、冬季に樹林地、畑地で3地点計21個体、春季に樹林地、乾性草地のほか、上空通過として7地点計12個体、初夏に樹林地、上空通過、乾性草地、畑地、人工構造物で11地点計25個体、夏季（平成31年）に樹林地、畑地、乾性草地で9地点計16個体を確認しました。
		対象事業実施区域外 冬季に畑地で1地点1個体、春季に樹林地で1地点1個体、初夏に樹林地で1地点1個体、夏季（平成31年）に畑地で1地点計2個体を確認しました。
		対象事業実施区域及びその周辺の樹林地や畑地等の耕作地が主な生息環境であると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林環境は、造成工事により、予測地域内の約36%が消失することから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である樹林環境は、土地の改変により、予測地域内の約36%が消失します。造成後の法面や道路、公園等には樹木植栽による緑化を実施し、樹林環境の回復を図りますが、回復する樹林環境の範囲は限定的であるため、土地の改変による生息環境への影響があると予測します。

表 9.10-38(17) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種 名		ホオアカ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・全国に旅鳥として渡来します。小笠原や南西諸島では越冬します。 ・低地、低山帯、亜高山帯の草原、草原状のところに生息します。イネ科、タデ科などの種子を採食します。草むらの間や草株の上に巣をつくります。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	春季に乾性草地で2地点計2個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		本種は、渡りの時期に繁殖地への移動個体が上空を通過したと考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、渡り時期に繁殖地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 	

表 9.10-38(18) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種 名		アオジ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州中部以北の標高 1,000m 位の亜高山帯で繁殖し、冬期には南方や平地へ移動します。本州中部以西では冬鳥として観察されます。 ・非繁殖期には平地から低山の雑木林や農耕地、河川敷の草やぶ、人家の庭などでもみられます。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	冬季に樹林地、畑地、乾性草地、河川で5地点計6個体、春季に樹林地、乾性草地で8地点計12個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	冬季に河川、畑地で4地点計7個体を確認しました。
		対象事業実施区域及びその周辺の樹林地が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、造成工事により、予測地域内の約36%が消失することから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、土地の改変により、予測地域内の約36%が消失します。造成後の法面や道路、公園等には樹木植栽による緑化を実施し、樹林環境の回復を図りますが、回復する樹林環境の範囲は限定的であるため、土地の改変による生息環境への影響があると予測します。 	

表 9.10-38(19) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		クロジ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 本州中部以北の亜高山帯の落葉広葉樹林や針葉樹林のササが多い林で繁殖しますが局所的で、本州では日本海側の山地に偏っており、特に新潟県や長野県、群馬県の県境地方に多くなっています。冬期は南の地方や平地へ移動します。本州中部以南では冬鳥としてみられます。 非繁殖期には丘陵地や低山の林でみられるほか、都市公園や人家の庭でも記録があります。暗い林床の落ち葉をかき分けて、主に草や木の実を食べます。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>冬季に樹林地で1地点計2個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>春季に樹林地で1地点1個体を確認しました。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	冬季に樹林地で1地点計2個体を確認しました。	対象事業実施区域外	春季に樹林地で1地点1個体を確認しました。
		対象事業実施区域内	冬季に樹林地で1地点計2個体を確認しました。			
対象事業実施区域外	春季に樹林地で1地点1個体を確認しました。					
		本種は、渡りの時期に繁殖地、越冬地への移動個体が樹林地を一時的に利用していると考えられます。				
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期に繁殖地、越冬地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、渡り時期に繁殖地、越冬地への移動個体が確認されたのみであり、対象事業実施区域の利用は一時的なものと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 				

表 9.10-38(20) 鳥類（一般鳥類）の重要な種への影響予測

種名		フクロウ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 留鳥として九州以北の平地から低山の林に生息します。 平地から低山の大きな木のある林や社寺林などに生息します。夜行性で日中は薄暗い林などで休んでいます。夕方から活動をはじめ、樹林に接した農耕地など開けた場所でネズミ類や鳥類、爬虫類、両生類などを捕食します。主に大木の樹洞に営巣しますが、土の壁の横穴や人家の屋根裏、巣箱や人工構造物などもよく利用します。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>冬季（令和2年繁殖期）に、雌のとまり及び飛翔を果樹園で1地点1個体確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>初夏（平成31年繁殖期）に、とまり・飛翔・鳴き声を樹林地で1地点1個体確認しました。冬季（令和2年繁殖期）に、雄の鳴き声を樹林地で1地点1個体、雌の鳴き声を樹林地で1地点1個体確認しました。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	冬季（令和2年繁殖期）に、雌のとまり及び飛翔を果樹園で1地点1個体確認しました。	対象事業実施区域外	初夏（平成31年繁殖期）に、とまり・飛翔・鳴き声を樹林地で1地点1個体確認しました。冬季（令和2年繁殖期）に、雄の鳴き声を樹林地で1地点1個体、雌の鳴き声を樹林地で1地点1個体確認しました。
		対象事業実施区域内	冬季（令和2年繁殖期）に、雌のとまり及び飛翔を果樹園で1地点1個体確認しました。			
対象事業実施区域外	初夏（平成31年繁殖期）に、とまり・飛翔・鳴き声を樹林地で1地点1個体確認しました。冬季（令和2年繁殖期）に、雄の鳴き声を樹林地で1地点1個体、雌の鳴き声を樹林地で1地点1個体確認しました。					
		<p>本種は、対象事業実施区域及びその周辺の樹林地や畑地等の耕作地を採餌環境として利用していると考えられます。</p> <p>なお、対象事業実施区域及びその周辺の樹林地で、本種の繁殖は確認されませんでした。</p>				
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 造成工事により、本種の子な利用環境である樹林環境の約36%、畑地環境の約83%が消失しますが、対象事業実施区域周辺には耕作地や樹林地が残存します。したがって、主な生息環境の一部が消失・縮小すると考えられることから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域外の樹林環境や畑地環境は、まとまった樹林環境や畑地環境として残存します。また、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。 				

ウ. 鳥類（猛禽類）

事業の実施による鳥類（猛禽類）の重要な種の予測結果は、表 9.10-39 に示すとおりです。

表 9.10-39(1) 鳥類（猛禽類）の重要な種への影響予測

種名		ミサゴ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・全国の沿岸部で局地的に繁殖し、冬期には漂行する個体も多くあります。 ・大きな川や湖、入り江などに生息し、空中高くからダイビングして魚を捕らえます。繁殖期には断崖の岩棚や、大木の上に枯れ枝などを組み合わせて巣をつくります。 	
確認状況及び主な生息環境		平成31年繁殖期	確認されませんでした。
		令和2年繁殖期	対象事業実施区域内で2月に餌運びを1例確認しました。
		対象事業実施区域及びその周辺には、本種が利用できるような大きな河川や湖沼等は存在しません。 対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	・対象事業実施区域には本種が利用するような環境が存在しないことから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種は、上空通過個体が1個体確認されたのみであり、対象事業実施区域には本種が利用するような環境が存在しないことから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。	

表 9.10-39(2) 鳥類（猛禽類）の重要な種への影響予測

種名		ツミ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・全国で繁殖し、西南日本では越冬する個体もあります。 ・山地の樹林にも生息する一方で、都市公園・人家の庭などの小規模の都市緑地でも繁殖し、小鳥類をとらえます。クロマツなどの高木に営巣します。 	
確認状況及び主な生息環境		平成31年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月1例、4月に4例計5例の採餌行動等を確認しました。
		令和2年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月に1例、4月に3例、7月に1例計5例の採餌行動等を確認しました。
		対象事業実施区域及びその周辺の耕作地等を採餌環境として利用していると考えられます。 対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	・対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。採餌行動等が確認されており、本種が採餌環境として利用している畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域周辺には耕作地や樹林地が残存します。したがって、主な生息環境の一部が消失・縮小すると考えられることから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。	

表 9.10-39(3) 鳥類（猛禽類）の重要な種への影響予測

種名	ハイタカ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四国以北で繁殖し、冬鳥として国外から渡来する個体も多くあります。 ・ 山地から丘陵地の森林に生息します。林内を飛翔して主に小鳥類を捕食します。高木に営巣します。 	
確認状況及び主な生息環境	平成31年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月に1例、2月に4例、3月に1例、4月14例計20例の採餌行動等を確認しました。
	令和2年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月に8例、2月に7例、3月に2例計17例の採餌行動等を確認しました。
	対象事業実施区域及びその周辺の樹林環境や畑地環境を越冬地の餌場として利用していると考えられます。 対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。越冬地の餌場として利用していると考えられ、本種が採餌環境として利用している樹林環境の約36%、畑地環境の約83%が消失しますが、対象事業実施区域周辺には耕作地や樹林地が残存します。したがって、主な生息環境の一部が消失・縮小すると考えられることから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

表 9.10-39(4) 鳥類（猛禽類）の重要な種への影響予測

種名		オオタカ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・北海道と本州で繁殖し、冬期は漂行する個体も多くあります。 ・山麓から丘陵地の森林に生息し、主に中・小型の鳥類を捕食します。多くは、スギ・マツ類などの針葉樹の高木に営巣します。
確認状況及び主な生息環境		<p style="text-align: center;">重要な種の保護の観点から、非表示としております。</p>
影響予測	工事の実施 (造成工事)	
	土地又は工作物の 存在及び供用 (敷地の存在(土地 の改変))	

表 9.10-39(5) 鳥類（猛禽類）の重要な種への影響予測

種名	サンバ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・夏鳥として渡来し、東北地方から九州にかけて繁殖します。 ・4月頃夏鳥として渡来し、丘陵地や低山地に生息し、水辺でカエルやヘビを捕食します。また昆虫類も捕食します。 ・スギ林などの高木の樹上に営巣します。 	
確認状況及び主な生息環境	平成31年繁殖期	対象事業実施区域外で4月1例の飛翔を確認しました。
	令和2年繁殖期	対象事業実施区域外で4月3例の飛翔を確認しました。
	本種は、渡りの時期に越冬地への移動個体が上空を通過したと考えられます。対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	・対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されておらず、渡りの時期に越冬地への移動個体が上空を通過したのみであることから、本種による対象事業実施区域の利用頻度は低いと考えられることから、造成工事による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

表 9.10-39(6) 鳥類（猛禽類）の重要な種への影響予測

種名	ノスリ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道から四国で繁殖し、非繁殖期には全国で見られます。 ・繁殖期には、森林で営巣しますが、採餌には伐採地や牧場、畑のような開けた環境をよく利用します。巣は高木の樹上に作られます。上空を帆翔しながら獲物を探し、モグラ・ネズミなどの小型哺乳類を捕食します。 	
確認状況及び主な生息環境	平成31年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月に2例、2月に3例計5例の採餌行動等を確認しました。
	令和2年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月に12例、2月10例、3月に2例、4月に1例計25例の採餌行動等を確認しました。
	対象事業実施区域及びその周辺の樹林環境や畑地環境を越冬地の餌場として利用していると考えられます。対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	・対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。越冬地の餌場として利用していると考えられ、本種が採餌環境として利用している樹林環境の約36%、畑地環境の約83%が消失しますが、対象事業実施区域周辺には耕作地や樹林地が残存します。したがって、主な生息環境の一部が消失・縮小すると考えられることから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

表 9.10-39(7) 鳥類（猛禽類）の重要な種への影響予測

種名	ハヤブサ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道から九州の海岸部の断崖で局地的に繁殖します。 ・留鳥または冬鳥として、断崖のある海岸に生息します。 ・高速で飛行し、ハト類などの鳥類を飛びながらとらえます。 	
確認状況及び主な生息環境	平成31年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月に1例、3月に2例、4月に3例、6月に1例、7月に1例計8例の採餌行動等を確認しました。
	令和2年繁殖期	対象事業実施区域及びその周辺で1月に5例、2月に2例、3月に2例計9例の採餌行動等を確認しました。
	<p>対象事業実施区域及びその周辺の樹林環境や畑地環境を越冬地の餌場として利用していると考えられます。</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。</p>	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域及びその周辺で営巣は確認されませんでした。越冬地の餌場として利用していると考えられ、本種が採餌環境として利用している樹林環境の約36%、畑地環境の約83%が消失しますが、対象事業実施区域周辺には耕作地や樹林地が残存します。したがって、主な生息環境の一部が消失・縮小すると考えられることから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失しますが、対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境を整備することから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。

エ. 両生類

事業の実施による両生類の重要な種の予測結果は、表 9.10-40 に示すとおりです。

表 9.10-40(1) 両生類の重要な種への影響予測

種名		アズマヒキガエル
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 北海道南部～近畿、山陰地方に分布します。 森林周辺の草むら・竹やぶ・人家の庭等に住み、繁殖期以外はほとんど水に入りません。昼間は石や倒木の下にひそみ、夕暮れから行動して、昆虫・ミミズなどの小動物を捕食します。多数の個体が産卵場所に集まって集団産卵をします。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 秋季に低木林内の廃棄物下で成体が1個体、春季に高茎草地内で雨水の溜まった廃バスタブに幼生が50個体以上、夏季(平成31年)に耕作地周辺で成体が1個体確認されました。
		対象事業実施区域外 早春季に樹林地の水路で成体が15個体、卵塊が2塊、春季に同じ水路で、幼生が50個体以上、夏季(平成31年)に同じ水路で幼体が1個体確認されました。
対象事業実施区域及びその周辺の樹林や草地環境が主な生息環境であり、水辺環境が産卵環境であると考えられます。		
影響予測	工事の実施(造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> 本種の産卵環境2箇所のうち1箇所(廃バスタブ)が造成工事により消失するものの、対象事業実施区域外の自然環境内の産卵環境1箇所及びその周辺の樹林環境は残存することから、造成工事による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用(敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> 本種の産卵環境2箇所のうち1箇所(廃バスタブ)が土地の改変により消失するものの、対象事業実施区域外の産卵環境は、改変区域から離れており、周辺の樹林環境もまとまった樹林環境として残存するため、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

表 9.10-40(2) 両生類の重要な種への影響予測

種名		シュレーゲルアオガエル
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 本州～九州に分布します。 平地から丘陵地の水田周辺や草地に多く、地上性です。水田の畔や小川の堤に穴を掘り、白い泡状の卵塊を産み、孵化した幼生は水中に泳ぎだして成長します。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 夏季に水田周辺で幼体が1個体、秋季に鳴き声が1例、春季に水田周辺で複数個体の鳴き声が3例、初夏に水田周辺で複数個体の鳴き声が2例確認されました。
		対象事業実施区域外 確認されませんでした。
対象事業実施区域内の水田・休耕田や草地環境が主な生息環境であると考えられます。		
影響予測	工事の実施(造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田や草地環境は、造成工事により、予測地域内の約95%が改変されることから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用(敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田や草地環境は、土地の改変により、予測地域内の約95%が改変されることから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

オ. 爬虫類

事業の実施による爬虫類の重要な種の予測結果は、表 9.10-41 に示すとおりです。

表 9.10-41 (1) 爬虫類の重要な種の影響予測

種名	ヒガシニホントカゲ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本に分布します。 ・日当たりの良い石の下や石垣の隙間、土手の斜面の穴などにすみ、ミミズやクモ、昆虫などを捕食します。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	夏季に耕作地周辺で幼体が2個体、秋季に林縁部で幼体が1個体、春季に耕作地周辺で成体が1個体、林縁部で成体が1個体、夏季(平成31年)に耕作地周辺で成体が1個体確認されました。
	対象事業実施区域外	夏季(平成31年)に樹林地1箇所幼体1個体を確認しました。
	対象事業実施区域及びその周辺の畑地等の耕作地周辺や林縁部が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施(造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約83%が消失すること、林縁部は樹林地環境が約36%消失することに伴い減少することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用(敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失し、林縁部も樹林地環境の消失に伴い減少することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

表 9.10-41 (2) 爬虫類の重要な種への影響予測

種名	シマヘビ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道～九州に分布します。 ・開けた平地から山地の林縁部など、明るい環境を好みます。動きは俊敏で、カエルを多く食べますが、他にも、ネズミ、鳥類の卵やヒナ、ヘビ、トカゲなどさまざまな動物を捕食します。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	夏季に人工構造物1箇所幼蛇1個体、秋季に人工構造物1箇所成蛇が1個体確認されました。
	対象事業実施区域外	夏季に人工構造物1箇所脱皮殻1例、夏季に畑地1箇所成蛇1個体を確認しました。
	対象事業実施区域及びその周辺の畑地等の耕作地や林縁部などの明るい環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施(造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、造成工事により、予測地域内の約83%が消失すること、林縁部は樹林地環境が約36%消失することに伴い減少することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用(敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約83%が消失し、林縁部も樹林地環境の消失に伴い減少することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

表 9.10-41(3) 爬虫類の重要な種への影響予測

種 名		アオダイショウ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・北海道～九州に分布します。 ・山地の林から平野部までさまざまな環境に生息します。成蛇は人家や倉庫などにもすみ着き、ネズミをよく捕食します。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>秋季に人工構造物 1 箇所です脱皮殻 1 例、春季に畑地周辺 1 箇所です成蛇 1 個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	秋季に人工構造物 1 箇所です脱皮殻 1 例、春季に畑地周辺 1 箇所です成蛇 1 個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	秋季に人工構造物 1 箇所です脱皮殻 1 例、春季に畑地周辺 1 箇所です成蛇 1 個体を確認しました。			
対象事業実施区域外	確認されませんでした。					
		対象事業実施区域の畑地等の耕作地、樹林環境等が主な生息環境であると考えられます。				
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境と樹林環境は、造成工事により、予測地域内の約 72%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在 (土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である畑地環境は、土地の改変により、予測地域内の約 83%が消失し、樹林環境も約 36%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響はあると予測します。 				

表 9.10-41(4) 爬虫類の重要な種への影響予測

種 名		ヒバカリ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州～九州に分布します。 ・低山地から山地の森林に住み、水辺や多湿な場所を好み、カエルやミミズ、水中に入ってオタマジャクシや小魚などを捕食します。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>秋季に水田周辺の路上で成蛇 (轢死体) が 1 例確認されました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	秋季に水田周辺の路上で成蛇 (轢死体) が 1 例確認されました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	秋季に水田周辺の路上で成蛇 (轢死体) が 1 例確認されました。			
対象事業実施区域外	確認されませんでした。					
		対象事業実施区域及びその周辺の樹林、畑地や水田・休耕田等が主な生息環境であると考えられます。				
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・造成工事により、予測地域内の本種の主な生息環境である樹林環境の約 36%、畑地環境の約 83%、水田・休耕田環境の 100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在 (土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の改変により、予測地域内の本種の主な生息環境である樹林環境の約 36%、畑地環境の約 83%、水田・休耕田環境の 100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-41(5) 爬虫類の重要な種への影響予測

種名	ヤマカガシ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・本州～九州に分布します。 ・平地から山地の水田や小川、湿地などに多く生息します。動きは活発で主としてカエルを食べますが、水にも入り、オタマジャクシや小魚なども捕食します。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	秋季に水田周辺で幼蛇を1個体確認しました。
	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
	対象事業実施区域及びその周辺の水田・休耕田や水辺等が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施 (造成工事)	・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

カ. 昆虫類

事業の実施による昆虫類の重要な種及び注目すべき種の予測結果は、表 9.10-42 に示すとおりです。

表 9.10-42(1) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名	ハグロトンボ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、九州、種子島、屋久島などに分布します。 生息域は水辺に草本類の生える流水で、アオハダトンボに比べると水質汚染に耐性を持ち、生活排水などでやや汚染されている川にも生息しています。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	底生動物調査で、秋季に河川で1地点1個体、春季に河川で1地点1個体を確認しました。
	対象事業実施区域外	底生動物調査で、秋季に河川で1地点1個体、春季に河川で1地点1個体を確認しました。
	対象事業実施区域内及びその周辺の河川が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> 本種が生息する河川環境は、造成工事により、2地点のうち1地点が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域外の生息環境は、平水時は水量に大きな変化がなく、降雨時は調整池において濁水等の流出を防止しますが、対象事業実施区域内の本種の主な生息環境である河川環境は、土地の改変により暗渠化されることから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

表 9.10-42(2) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名	ニホンカワトンボ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> 北海道～九州に分布します。 主に丘陵地の流れにみられ、源流から中流まで幅広い環境に記録があります。成虫は一般には4～6月の春季が出現期です。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	確認されませんでした。
	対象事業実施区域外	春季に樹林内の沢沿い1地点1個体、夏季(平成31年)に樹林内の沢沿い1地点1個体を確認しました。
	対象事業実施区域外の樹林地の水辺環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、対象事業実施区域外の樹林地の沢周辺のみで確認されており、対象事業実施区域における生息の可能性は低いと考えられます。また、本種は、水中で生活するため、濁水等の影響を受けますが、本事業では、本種の確認された樹林地の沢には工事排水を排水しない計画です。以上のことから、造成工事及び濁水等による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> 本種の生息環境である対象事業実施区域外の沢は、帯水層を遮断するような連続的な切土等による土地の改変は行わないため、沢の流量等に変化は生じないと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

表 9.10-42(3) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		ホソミイトトンボ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 石川、栃木県～九州に分布します。 丘陵地の池や湿地にみられます。成虫越冬する種であり、越冬場所は水から近い山腹の南斜面や南に面する崖下です。分布北限となる関東地方での記録は散発的です。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 確認されませんでした。
		対象事業実施区域外 夏季（平成30年）に樹林内の遊歩道沿いで1地点1個体、秋季に、樹林内の遊歩道沿いで1地点計2個体を確認しました。
		対象事業実施区域外の樹林地の水辺環境が主な生息環境であると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、対象事業実施区域外の樹林地のみで確認されており、対象事業実施区域には生息していないと考えられます。また、本種は、水中で生活するため、濁水等の影響を受けますが、本事業では、本種の確認された樹林地には工事排水を排水しない計画です。以上のことから、造成工事及び濁水等による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の生息環境である対象事業実施区域外の樹林地は、対象事業実施区域と集水域が異なるため、樹林地の水辺環境の流量等に変化は生じないと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

表 9.10-42(4) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		ヤマサナエ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 本州、四国、九州に分布します。 河川上流域に生息し、同属のキイロサナエに比較すると上流寄り、渓流域でカワトンボと同所的に生息する例が多くなっています。汚染されていない砂泥底に、ほぼ完全に潜って生活します。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 底生動物調査で、夏季に湧水起源の小水路で1地点計4個体、河川で1地点計3個体、冬季に湧水起源の小水路で1地点計3個体、春季に湧水起源の小水路で1地点計7個体を確認しました。
		対象事業実施区域外 確認されませんでした。
		対象事業実施区域内の河川や湧水起源の小水路が主な生息環境であると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である湧水起源の小水路及び河川環境は、造成工事によりすべて消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である湧水起源の小水路は、土地の改変により、すべて消失し、河川環境は暗渠化されることから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

表 9.10-42(5) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		ナツアカネ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 北海道～九州に分布します。 平野部・低山地の水田や池沼に生息しますが、通常は丘陵や樹林に隣接する場所を好みます。7～8月頃に羽化し、未熟成虫は大規模な移動は行わず、羽化期直後から水域近辺の樹林で継続してみられます。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季（平成31年）に、水田周辺の樹林地で1地点1個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季（平成31年）に、水田周辺の樹林地で1地点1個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季（平成31年）に、水田周辺の樹林地で1地点1個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の水田・休耕田環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-42(6) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		ケラ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 北海道～九州に分布します。 水田付近に多く、円筒型の体型、細かい毛の密生、前足の発達など穴居に適した形態を備えています。飛ぶことができ、灯火に飛来します。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季に水田周辺で7地点計7個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季に水田周辺で7地点計7個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季に水田周辺で7地点計7個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の水田・休耕田環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-42(7) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		クツワムシ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州～九州に分布します。 ・クズ、カラスウリなどの蔓性植物がからみついた雑木林の林縁に生息します。秋に成虫が出現し、非常に大きな声で鳴きます。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季に、耕作地周辺の樹林地の林縁部等で6地点計7個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季に、耕作地周辺の樹林地の林縁部等で6地点計7個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季に、耕作地周辺の樹林地の林縁部等で6地点計7個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域の樹林地の林縁部が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	・本種の主な生息環境である樹林環境は、造成工事により、予測地域内の約36%が消失することから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	・本種の主な生息環境である樹林環境は、土地の改変により、予測地域内の約36%が消失します。造成後の法面や道路、公園等には樹木植栽による緑化を実施し、樹林環境の回復を図りますが、回復する樹林環境の範囲は限定的であるため、土地の改変による生息環境への影響があると予測します。				

表 9.10-42(8) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		ショウリョウバッタモドキ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州～九州に分布します。 ・成虫は8月からあらわれ、やや湿った草原やススキ・アシなどの草にとまっています。飛ぶことはほとんどありません。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季(平成30年)に乾性草地で1地点計2個体、秋季に乾性草地で2箇所計6個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季(平成30年)に乾性草地で1地点計2個体、秋季に乾性草地で2箇所計6個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季(平成30年)に乾性草地で1地点計2個体、秋季に乾性草地で2箇所計6個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の乾性草地や湿性草地環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	・本種の主な生息環境である乾性草地や湿性草地環境は、造成工事により、予測地域内の約95%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	・本種の主な生息環境である乾性草地や湿性草地環境は、土地の改変により、予測地域内の約95%が消失します。対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境は整備されますが、まとまった乾性草地や湿性草地環境は消失するため、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。				

表 9.10-42(9) 昆虫類の重要な種への影響予測

種 名		エサキコミズムシ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、トカラ、奄美、沖縄、八重山に分布します。 ・池沼、水田、休耕田、湿地、水たまりに生息します。体長に個体差があり、同じ場所でも大型のものから小型のものまでみられます。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季（平成 30 年）に水田周辺で 2 地点計 4 個体、秋季に耕作地脇の水辺で 1 地点計 2 個体を確認しました。底生動物調査で、水田周辺の小水路で夏季に 1 地点計 6 個体、秋季に 1 地点計 5 個体、冬季に 1 地点計 2 個体、春季に 1 地点計 2 個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季（平成 30 年）に水田周辺で 2 地点計 4 個体、秋季に耕作地脇の水辺で 1 地点計 2 個体を確認しました。底生動物調査で、水田周辺の小水路で夏季に 1 地点計 6 個体、秋季に 1 地点計 5 個体、冬季に 1 地点計 2 個体、春季に 1 地点計 2 個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季（平成 30 年）に水田周辺で 2 地点計 4 個体、秋季に耕作地脇の水辺で 1 地点計 2 個体を確認しました。底生動物調査で、水田周辺の小水路で夏季に 1 地点計 6 個体、秋季に 1 地点計 5 個体、冬季に 1 地点計 2 個体、春季に 1 地点計 2 個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の水田・休耕田環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施（造成工事）	・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の 100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の 100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。				

表 9.10-42(10) 昆虫類の重要な種への影響予測

種 名		ヤブガラシゲンバイ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州、九州に分布します。 ・ヤブガラシの葉裏に時に群生し採集されますが、ヤブガラシ群生地であっても採集できる個体は少数です。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季（平成 30 年）にヤブガラシ生育地で 3 地点計 5 個体、秋季にヤブガラシ生育地で 2 地点計 34 個体、春季にヤブガラシ生育地で 1 地点計 4 個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>秋季にヤブガラシ生育地で 1 地点計 4 個体を確認しました。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季（平成 30 年）にヤブガラシ生育地で 3 地点計 5 個体、秋季にヤブガラシ生育地で 2 地点計 34 個体、春季にヤブガラシ生育地で 1 地点計 4 個体を確認しました。	対象事業実施区域外	秋季にヤブガラシ生育地で 1 地点計 4 個体を確認しました。
		対象事業実施区域内	夏季（平成 30 年）にヤブガラシ生育地で 3 地点計 5 個体、秋季にヤブガラシ生育地で 2 地点計 34 個体、春季にヤブガラシ生育地で 1 地点計 4 個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	秋季にヤブガラシ生育地で 1 地点計 4 個体を確認しました。			
対象事業実施区域及びその周辺のヤブガラシ群生地が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施（造成工事）	・本種の生息するヤブガラシ群生地は、造成工事により、7 地点のうち 6 地点が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。				
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の生息するヤブガラシ群生地は、土地の改変により、7 地点のうち 6 地点が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。				

表 9.10-42(11) 昆虫類の重要な種への影響予測

種 名		ミナミトゲヘリカメムシ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、南西諸島に分布します。 ・寄主植物はクスノキ科ですが、柑橘類を加害することもあります。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>秋季に、耕作地周辺の常緑広葉樹で1地点計2個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	秋季に、耕作地周辺の常緑広葉樹で1地点計2個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	秋季に、耕作地周辺の常緑広葉樹で1地点計2個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域の樹林地が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、造成工事により、予測地域内の約36%が消失することから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である樹林環境は、土地の改変により、予測地域内の約36%が消失します。造成後の法面や道路、公園等には樹木植栽による緑化を実施し、樹林環境の回復を図りますが、回復する樹林環境の範囲は限定的であるため、土地の改変による生息環境への影響があると予測します。 				

表 9.10-42(12) 昆虫類の重要な種への影響予測

種 名		クロヒメヒョウタンゴミムシ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州に分布します。 ・河川敷の湿地的環境に見られるが、個体数は少数です。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季(平成30年)に、水田周辺で1地点1個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季(平成30年)に、水田周辺で1地点1個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季(平成30年)に、水田周辺で1地点1個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の水田・休耕田環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-42(13) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		アトモンコミズギワゴミムシ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州、九州に分布します。 ・公園などのまばらな草地で、スギゴケが生えるような湿った環境に局地的に生息します。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>秋季に、除草管理された乾性草地で1地点1個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	秋季に、除草管理された乾性草地で1地点1個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	秋季に、除草管理された乾性草地で1地点1個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の湿性草地環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である乾性草地環境は、造成工事により、予測地域内の約96%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である乾性草地環境は、土地の改変により、予測地域内の約96%が消失します。対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境は整備されますが、まとまった乾性草地環境は消失するため、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-42(14) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		クロケブカゴミムシ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、琉球に分布します。 ・河川敷の草地に多く見られますが、湿地にも生息します。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>秋季に、湿潤な草地環境で1地点1個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	秋季に、湿潤な草地環境で1地点1個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	秋季に、湿潤な草地環境で1地点1個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域内の湿潤な草地環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された湿潤な草地環境は、造成工事により、すべて消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された湿潤な草地環境は、土地の改変により、すべて消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-42(15) 昆虫類の重要な種への影響予測

種 名		コマルケシゲンゴロウ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州（福島県以南）、四国、九州、南西諸島に分布します。 ・池沼の浅瀬や湿地、放棄水田などの植物の豊富な水域に生息します。産地はやや局所的です。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	夏季（平成 30 年）に、ライトトラップ調査において、乾性草地で 1 地点 1 個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		ライトトラップ調査地点の乾性草地で確認されましたが、生態学的特徴から、対象事業実施区域内の水田・休耕田環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の 100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の 100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 	

表 9.10-42(16) 昆虫類の重要な種への影響予測

種 名		コガムシ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・北海道～九州に分布します。 ・平地の池沼や水田などに生息し、成虫は年中みられます。成虫は水草、藻などを食べますが、幼虫は強い肉食性を持ち、他の虫を食べます。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	夏季（平成 30 年）に、水田周辺で 1 地点計 6 個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内の水田・休耕田環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の 100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の 100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 	

表 9.10-42(17) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		キイロトラカミキリ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州～九州に分布します。 ・山地にも生息しますが、低地や山間地の夏緑林に多く生息します。各種広葉樹を寄主植物とします。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 確認されませんでした。
		対象事業実施区域外 夏季（平成 31 年）に、樹林内で 1 地点計 3 個体を確認しました。
		対象事業実施区域外の樹林地が主な生息環境であると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、対象事業実施区域外の樹林地のみで確認されており、対象事業実施区域には生息していないことから、造成工事による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種は、対象事業実施区域外の樹林地のみで確認されており、対象事業実施区域には生息していないことから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

表 9.10-42(18) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名		ハマベキクイゾウムシ
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・本州～南西諸島に分布します。 ・沿岸性の種で、マツ類やヒノキなどのピーティングなどで採れますが、詳細な生態は不明です。
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内 春季に、乾性草地で 1 地点 1 個体を確認しました。
		対象事業実施区域外 確認されませんでした。
		対象事業実施区域内の乾性草地環境や樹林環境が主な生息環境であると考えられます。
影響予測	工事の実施（造成工事）	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である乾性草地や樹林環境は、造成工事により、予測地域内のそれぞれ約 96%、36%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	<ul style="list-style-type: none"> ・本種の主な生息環境である乾性草地環境は、土地の改変により、予測地域内の約 96%が消失し、樹林環境も約 36%が消失します。対象事業実施区域内に農業振興地区として耕作地環境は整備されますが、まとまった乾性草地環境は消失するため、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

表 9.10-42(19) 昆虫類の重要な種への影響予測

種名	コシロシタバ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道～九州に分布します。 ・クヌギなどのブナ科を食草とします。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	夏季（平成 31 年）に、樹林地で 1 地点 1 個体を確認しました。
	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
	対象事業実施区域の樹林地環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	・本種の主な生息環境である樹林地環境は、造成工事により、予測地域内の約 36% が消失することから、造成工事による生息環境への影響があると予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の主な生息環境である樹林地環境は、土地の改変により、予測地域内の約 36% が消失します。造成後の法面や道路、公園等には樹木植栽による緑化を実施し、樹林地環境の回復を図りますが、回復する樹林地環境の範囲は限定的であるため、土地の改変による生息環境への影響があると予測します。

表 9.10-42(20) 昆虫類の注目すべき種への影響予測

種名	ゲンジボタル	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州に分布します。 ・国内最大のホタルで、夜、沢や川の水辺で活動し、腹部末端を発光させ、光のシグナルで交信します。幼虫は、川にいるカワニナなどの巻き貝を食べて育ちます。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	確認されませんでした。
	対象事業実施区域外	初夏に、樹林地内の沢で 4 地点計 32 個体を確認しました。
	対象事業実施区域外の樹林地の水辺環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	・本種は、対象事業実施区域外の樹林地の水辺のみで確認されており、対象事業実施区域には生息していないと考えられます。また、本種は、水中で生活するため、濁水等の影響を受けますが、本事業では、本種の確認された樹林地の沢には工事排水を排水しない計画です。以上のことから、造成工事及び濁水等による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の生息環境である対象事業実施区域外の沢は、対象事業実施区域と集水域が異なるため、沢の流量等に変化は生じないと考えられることから、土地の改変による生息環境への影響はほとんどない、あるいは生じないと予測します。

キ. 魚類

事業の実施による魚類の重要な種の予測結果は、表 9.10-43 に示すとおりです。

表 9.10-43(1) 魚類の重要な種への影響予測

種名		アブラハヤ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 青森県から岡山県の太平洋側と青森県から福井県の日本海側に分布します。 河川の上流域から中流域にかけて生息します。雑食性で底生動物、付着藻類、落下昆虫などを食べます。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>夏季に水田周辺の小水路で1地点計2個体を確認しました。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	夏季に水田周辺の小水路で1地点計2個体を確認しました。	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域内	夏季に水田周辺の小水路で1地点計2個体を確認しました。			
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。			
対象事業実施区域の水田・休耕田の小水路環境が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 				

表 9.10-43(2) 魚類の重要な種への影響予測

種名		ヒガシシマドジョウ				
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 中部以東の本州に分布します。 河川の中流域から下流域上部にかけての砂底ないし砂礫底域に生息します。底生動物やデトリタスを砂と一緒に取り込み、餌だけを食べます。 				
確認状況及び主な生息環境		<table border="1"> <tr> <td>対象事業実施区域内</td> <td>確認されませんでした。</td> </tr> <tr> <td>対象事業実施区域外</td> <td>河川で、夏季に1地点計5個体、秋季に河川で1地点計5個体を確認しました。</td> </tr> </table>	対象事業実施区域内	確認されませんでした。	対象事業実施区域外	河川で、夏季に1地点計5個体、秋季に河川で1地点計5個体を確認しました。
		対象事業実施区域内	確認されませんでした。			
		対象事業実施区域外	河川で、夏季に1地点計5個体、秋季に河川で1地点計5個体を確認しました。			
対象事業実施区域外の河川が主な生息環境であると考えられます。						
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> 本種は、対象事業実施区域外の河川のみで確認されており、対象事業実施区域には生息していないと考えられます。また、本種は、水中で生活するため、濁水等の影響を受けますが、本事業では、仮設調整池、土砂流出防止柵等を設置する計画であり、これにより排水中の浮遊物質量(SS)の低減が図られます。以上のことから、造成工事及び濁水等による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。 				
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> 本種の生息環境である対象事業実施区域外の河川に対しては、調整池に雨水を集水して河川に放流するため、対象事業実施区域からの水の流入量は維持されることが考えられることから、土地の改変による生息環境への影響は小さく、生息環境は維持あるいは保全されると予測します。 				

表 9.10-43(3) 魚類の重要な種への影響予測

種名	ホトケドジョウ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方から近畿地方にかけての本州に分布します。 ・河川の上・中流域や河川敷の湿地、農業用水路、丘陵地細流、池沼などに生息します。水質が良好で植生が豊富な緩やかな流れのある場所を好みます。雑食性で水生小動物などを捕食します。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	湧水起源の小水路で、夏季に1地点計58個体、秋季に2地点計18個体、冬季に1地点計3個体、春季に1地点計3個体を確認しました。
	対象事業実施区域外	河川で、夏季に1地点計37個体、秋季に1地点計18個体、冬季に1地点計2個体、春季に1地点計16個体を確認しました。
	対象事業実施区域の湧水起源の小水路が主な生息環境であると考えられます。対象事業実施区域外の河川（コンクリート三面張り）は、周辺のホトケドジョウが生息する湿地環境からの流下個体が一時的に生息しているものと考えられます。	
影響予測	工事の実施（造成工事）	・本種の主な生息環境である湧水起源の小水路は、造成工事によりすべて消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用（敷地の存在（土地の改変））	・本種の主な生息環境である湧水起源の小水路は、土地の改変により、すべて消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

ク. 底生動物

事業の実施による底生動物の重要な種の予測結果は、表 9.10-44 に示すとおりです。

表 9.10-44 底生動物の重要な種への影響予測

種名		マルタニシ	
分布・生態学的特徴		<ul style="list-style-type: none"> 北海道から琉球列島に分布します。 自然湖沼、湿原、ため池、水田などを主な生息環境としています。石などに生えた藻類や水底に沈殿した有機物を餌とします。 	
確認状況及び主な生息環境		対象事業実施区域内	夏季に水田周辺の小水路で1地点計2個体、秋季に水田周辺の小水路で1地点1個体を確認しました。
		対象事業実施区域外	確認されませんでした。
		対象事業実施区域の水田・休耕田環境やその周辺の小水路が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施 (造成工事)	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、造成工事により、予測地域内の100%が消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。 	
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	<ul style="list-style-type: none"> 本種の主な生息環境である水田・休耕田環境は、土地の改変により、予測地域内の100%が消失することから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。 	

ケ. 陸産貝類

事業の実施による陸産貝類の重要な種の予測結果は、表 9.10-45 に示すとおりです。

表 9.10-45 陸産貝類の重要な種への影響予測

種名	スナガイ	
分布・生態学的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・本州、四国、九州、奄美、沖縄に分布します。 ・マサキの群落の落葉の下などでみられます。 	
確認状況及び主な生息環境	対象事業実施区域内	冬季に河川沿いの水路沿いや樹木根元の落ち葉下や草地環境の2地点計11個体、初夏に水路沿いの樹木根元の落ち葉下やササ藪の根元3地点計8個体を確認しました。
	対象事業実施区域外	確認されませんでした。
	対象事業実施区域の河川沿いの樹林環境が主な生息環境であると考えられます。	
影響予測	工事の実施 (造成工事)	・本種の生息する河川環境は、造成工事により、すべて消失することから、造成工事による生息環境への影響は大きいと予測します。
	土地又は工作物の存在及び供用 (敷地の存在(土地の改変))	・本種の生息する河川環境は、土地の改変により暗渠化されることから、土地の改変による生息環境への影響は大きいと予測します。

(2) 環境保全措置の検討

① 保全対象種の選定

動物の重要な種への影響予測の結果、環境保全措置の検討を行う保全対象種は、表 9.10-46 に示すとおりです。

表 9.10-46 保全対象種（動物）

保全対象種	選定理由
コチドリ、モズ、ヒバリ、ツバメ、セッカ、キセキレイ、セグロセキレイ シュレーゲルアオガエル ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ ハグロトンボ、ヤマサナエ、ナツアカネ、ケラ、ショウリョウバッタモドキ、エサキコミズムシ、ヤブガラシグンバイ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アトモンコミズギワゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コマルケシゲンゴロウ、コガムシ、ハマベキクイゾウムシ アブラハヤ、ホトケドジョウ マルタニシ スナガイ	工事の実施(造成工事)において、生息環境への影響が大きいと予測されたため。
フクロウ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、カワラヒワ、アオジ クツワムシ、ミナミトゲヘリカメムシ、コシロシタバ	工事の実施(造成工事)において、生息環境への影響があると予測されたため。
セッカ、キセキレイ シュレーゲルアオガエル ヒバカリ、ヤマカガシ ハグロトンボ、ヤマサナエ、ナツアカネ、ケラ、ショウリョウバッタモドキ、エサキコミズムシ、ヤブガラシグンバイ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アトモンコミズギワゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コマルケシゲンゴロウ、コガムシ、ハマベキクイゾウムシ、 アブラハヤ、ホトケドジョウ マルタニシ スナガイ	土地又は工作物の存在及び供用(敷地の存在(土地の改変))において、生息環境への影響が大きいと予測されたため。
カワラヒワ、アオジ ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ クツワムシ、ミナミトゲヘリカメムシ、コシロシタバ	土地又は工作物の存在及び供用(敷地の存在(土地の改変))において、生息環境への影響があると予測されたため。

② 環境保全措置の検討の状況

事業者の実行可能な範囲内でできる限り、環境影響を回避又は低減することを目的として行った環境保全措置の検討の状況を、表 9.10-47 及び図 9.10-15 に示します。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討しました。

表 9.10-47(1) 環境保全措置の検討の状況（動物）

保全対象種	環境保全措置	実施の適否	適否の理由
ホトケドジョウ	工事中の保全対象種の調査	適	ホトケドジョウの生息状況が変化した場合に順応的に対策を検討できるため、適正な環境保全措置と考慮して採用します。
ホトケドジョウ	保全対象種の生息環境(湧水起源の小水路環境)の創出	適	保全対象種の生息環境である「湧水起源の小水路環境」を対象事業実施区域南東部の和泉川源流部に創出することで、保全対象種の生息環境を代償できることから、適正な環境保全措置と考慮して採用します。なお、保全対象種の生息環境の創出に当たっては、専門家等の助言を踏まえ、実施します。
モズ、ヒバリ、ツバメ、セッカ、キセキレイ、カワラヒワ、シュレーゲルアオガエル、ヒバカリ、ヤマカガシ、ハグロトンボ、ヤマサナエ、ナツアカネ、ケラ、ショウリウウバツタモドキ、エサキコミズムシ、ヤブガラシ、グンバイ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アトモンコミズギワゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コマルケシゲンゴロウ、コガムシ、ハマベキクイゾウムシ、マルタニシ、アブラハヤ、スナガイ	保全対象種の生息環境(湿地環境と草地環境)の創出	適	保全対象種の生息環境である「湿地環境と草地環境」を対象事業実施区域南部の相沢川周辺に創出することで、保全対象種の生息環境を代償できることから、適正な環境保全措置と考慮して採用します。なお、保全対象種の生息環境の創出に当たっては、専門家等の助言を踏まえ、実施します。
シュレーゲルアオガエル、ハグロトンボ、ヤマサナエ、ナツアカネ、クツワムシ、エサキコミズムシ、コマルケシゲンゴロウ、コガムシ、アブラハヤ、ホトケドジョウ、マルタニシ、スナガイ	保全対象種の個体の移動	適	移動能力の低い保全対象種の個体や卵囊・卵塊を工事区域以外の生息適地に移動させることで、個体を保全できることから、適正な環境保全措置と考慮して採用します。なお、保全対象種の個体の移動に当たっては、専門家等の助言を踏まえ、捕獲の方法や時期等を計画、実施します。

表 9.10-47(2) 環境保全措置の検討の状況（動物）

保全対象種	環境保全措置	実施の 適否	適否の理由
<p>コチドリ、モズ、ヒバリ、ツバメ、セッカ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、アオジ、フクロウ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、シュレーゲルアオガエル、ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ナツアカネ、ケラ、クツワムシ、ショウリョウバッタモドキ、ヤブガラシグンバイ、ミナミトゲヘリカメムシ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アトモンコミズギワゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コマルケシゲンゴロウ、コガムシ、ハマベキクイゾウムシ、コシロシタバ</p>	<p>逃避経路の確保と工事の分散化</p>	<p>適</p>	<p>改変にあたっては、動物の逃避経路確保の視点に配慮します。また、建設機械の稼働が集中しないような工事計画を策定し、人圧等による動物への影響を極力低減させることができることから、適正な環境保全措置と考えて採用します。</p>
<p>モズ、カワラヒワ、アオジ、フクロウ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、クツワムシ、ミナミトゲヘリカメムシ、コシロシタバ</p>	<p>周辺の緑との連続性に配慮した緑地の創出</p>	<p>適</p>	<p>周辺の緑との連続性や生物の移動、生物の生息・生育環境の繋がりに配慮して、できる限り緑地の創出を行います。また、緑化には周辺樹林に生育する種から選定した樹種を植栽することから、適正な環境保全措置と考えて採用します。</p>
<p>保全対象種全般</p>	<p>作業時間の順守</p>	<p>適</p>	<p>夜間作業は原則行わないことにより、照明等による夜行性動物への影響をできる限り回避します。また、作業員の出入りや重機の稼働時間を規定することで、周辺に生息する動物への人圧を低減させることができることから、適正な環境保全措置と考えて採用します。</p>
<p>保全対象種全般</p>	<p>工事従事者への講習・指導</p>	<p>適</p>	<p>工事区域外への不必要な立ち入り等を制限することで、踏みつけ等による保全対象種への影響を回避できることから、適正な環境保全措置と考えて採用します。</p>

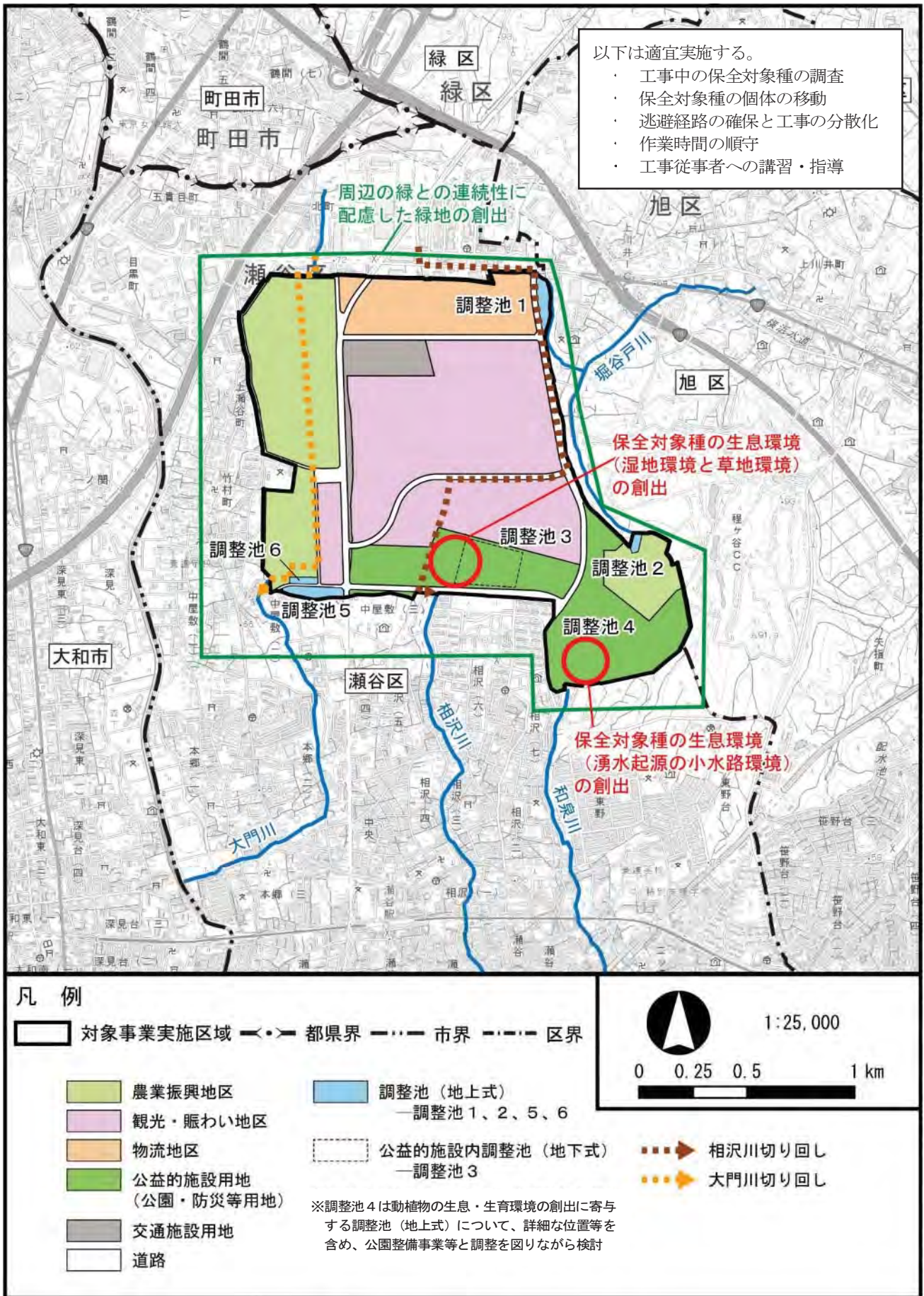


図 9.10-15 環境保全措置の実施想定場所

ア. 保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）の創出

保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）の創出については、和泉川の源流部で確認されたホトケドジョウのハビタットタイプを整理し、必要な環境区分を抽出した結果、表 9.10-48 に示す小水路の環境区分が必要となります。

保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）の創出に係る断面イメージ図は図 9.10-16 に示すとおりです。

保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）の創出に際し、以下の点に留意して実施します。

- ・産卵環境や稚魚の生息環境を創出するため、水草が繁茂した環境とします。
- ・ホトケドジョウは雑食性であるため、水生昆虫や藻類等が生息・生育できる環境とします。
- ・水面への緑陰の形成や昆虫類等の餌資源供給のため、水際は草地環境とします。
- ・現在の湧水地から湧水を導水する計画とし、水質は現状を維持します。

今後、公園整備事業等の関連事業と調整を図りながら、具体点な配置などの詳細について検討していきます。

表 9.10-48 保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）区分整理

環境区分	保全対象種
小水路環境 (浅い水域、緩やかな流れ、砂泥底)	魚類：ホトケドジョウ

【東西断面】



図 9.10-16 保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）の創出に係る断面イメージ図

イ. 保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出

保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出については、相沢川沿いで確認された重要な種のハビタットタイプを種ごとに整理し、必要な環境区分を抽出した結果、大きくは湿地環境、湿性草地、水路、樹林、乾性草地の5つの環境区分が必要となります。さらに、湿地環境は水深、湿性草地は草丈、水路は水深及び河床材料に変化を持たせた複数の環境区分が必要となることから、表 9.10-49 に示す①～⑧の8つの環境区分を設定します。

成長段階によって生息環境が異なる種、豊富な餌量と多様な環境を必要とする種が生息し、世代交代を行い、地域個体群を維持していくためには、環境区分①～⑧に示す環境区分を配置し、多様な環境を創出する必要があります。

そのため、対象事業実施区域南側の谷戸地形において、公園整備事業区域内の概ね1.5ha（東西方向：約60m～70m、南北方向：約220m～230m）のエリアに、現況の地形及び土地利用を活かした保全対象種の生息・生育環境を創出します。現在の土地利用が水田と畑地又は休耕地がモザイク状に分布していることから、湿地と草地をモザイク状に配置し、草地については湿性草地と乾性草地を創出する計画としています。

保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出に係る平面イメージ図は図 9.10-17、断面イメージ図は図 9.10-18 に示すとおりです。

保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出に際し、以下の点に留意して実施します。

- ・湿地環境については、水深の異なる湿地を配置します。
- ・水路については、現況の3面張りから多自然水路とし、水の流れに変化を持たせるとともに、周辺には湿地環境や草地環境を創出することで、質の向上を図ります。
- ・樹林を西側に創出します。
- ・水路、草地、湿地、樹林という環境区分を連続的に推移させることで、様々なハビタットタイプの保全対象種が生息・生育できる環境を創出します。
- ・湿地環境の周辺には湿性草地を配置するなど、各環境が緩やかに移行するような配置・構造を検討します。
- ・樹林や乾性草地は、瀬谷市民の森、周辺の緑との連続性に配慮した緑地の創出、農業振興地区等を有機的に繋げることにより、生物の移動に配慮します。

今後、公園整備事業等の関連事業と調整を図りながら、具体的な配置などの詳細について検討していきます。

表 9.10-49 保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）区分整理

環境区分	保全対象種
①湿地環境 (水深 5 cm、泥底)	昆虫類：ナツアカネ (幼虫)、エサキコムズムシ、 シオカラトンボ (幼虫) 底生動物：マルタニシ
②湿性草地 (草丈の低い草地)	昆虫類：ケラ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、 アトモンコムズギワゴミムシ、クロケブカゴミムシ
③水路 (水深 20~40cm、砂礫底)	魚類：アブラハヤ
④湿地環境 (水深 10~20cm、泥底)	昆虫類：コマルケシゲンゴロウ、コガムシ
⑤湿性草地 (草丈の高い草地)	昆虫類：ショウリョウバッタモドキ
⑥水路 (水深 10~20cm、砂泥底)	昆虫類：ハグロトンボ (幼虫)、ヤマサナエ (幼虫)
⑦樹林 (落葉広葉樹)	(他の環境区分との連続性により保全されるため、 対象種は下記に記載します)
⑧乾性草地	昆虫類：トノサマバッタ
⑤⑥⑦ 水路周辺の湿性草地、樹林のまとまり	昆虫類：ハグロトンボ (成虫)、ヤマサナエ (成虫)
①~⑦ 湿地環境、水路、湿性草地等のまとまり	鳥類：キセキレイ 爬虫類：ヤマカガシ
①②④⑤⑦ 湿地環境、湿性草地、樹林のまとまり	両生類：シュレーゲルアオガエル 爬虫類：ヒバカリ、シマヘビ 昆虫類：ナツアカネ (成虫)、シオカラトンボ (成虫)

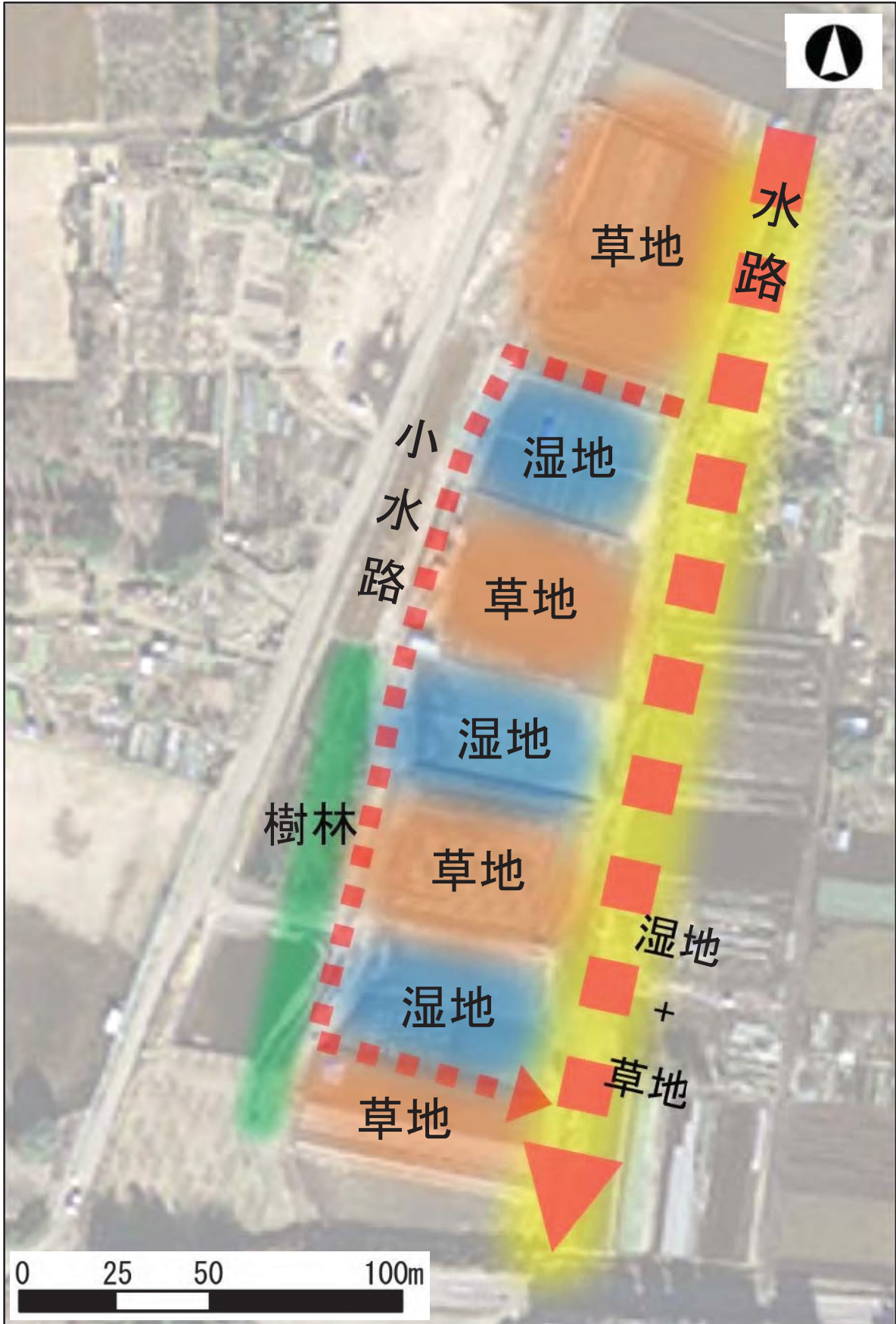
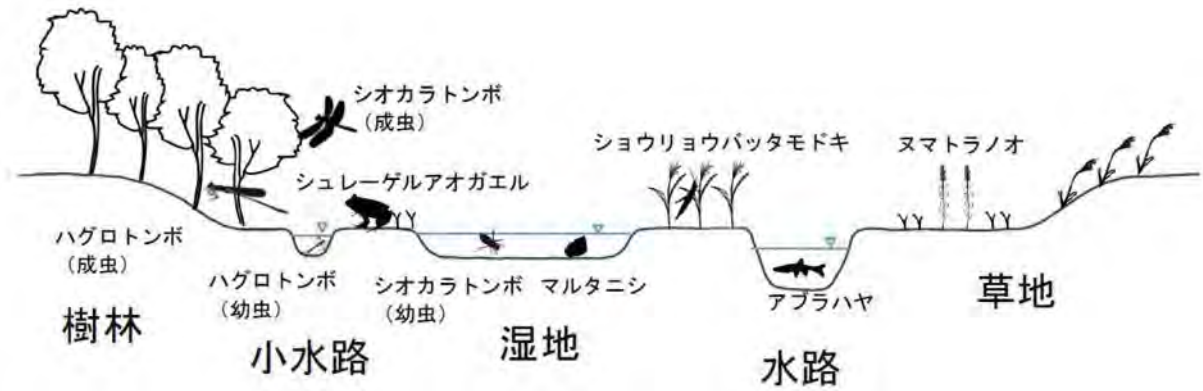


図 9.10-17 保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出に係る平面イメージ図

【東西断面】



【南北断面】

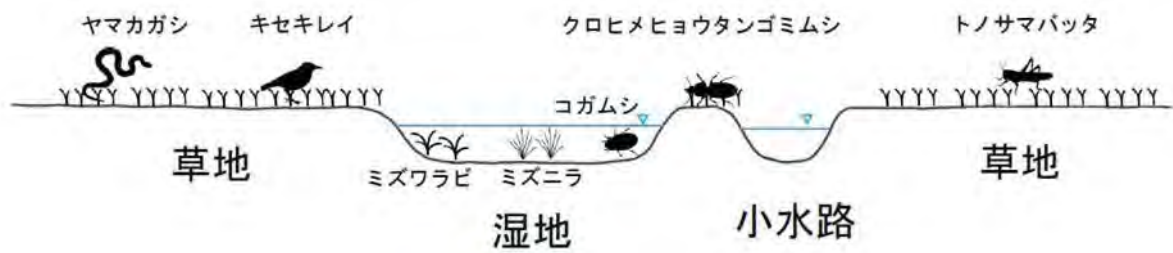


図 9.10-18 保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出に係る断面イメージ図

③ 環境保全措置の実施主体、内容、効果の不確実性、他の環境への影響

造成工事の実施に伴う重要な種及び注目すべき生息地への影響を低減させるため、表 9.10-50(1)～(3)に示すとおり、環境保全措置を実施します。

表 9.10-50(1) 環境保全措置の実施の内容（造成工事の実施－重要な種及び注目すべき生息地）

影響要因	保全対象種	影響	検討の視点	環境保全措置			実施主体	効果の不確実性	他の環境への影響
				内容	効果	区分			
工事の実施	ホトケドジョウ	重要な種の生息環境への影響	重要な種の生息環境の保全	工事中の保全対象種の調査	ホトケドジョウの生息状況が変化した場合に順応的な対策の検討が期待できます。	回避	事業者	なし	なし
	ホトケドジョウ			保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）の創出	保全対象種の生息環境である「湧水起源の小水路環境」を創出することで、保全対象種の生息環境の代償効果が見込まれます。	代償	事業者	あり	なし
	モズ、ヒバリ、ツバメ、セッカ、キセキレイ、カラヒワ、シュレーゲルアオガエル、ヒバカリ、ヤマカガシ、ハグロトンボ、ヤマサナエ、ナツアカネ、ケラ、ショウリウウバタモドキ、エサキコミズムシ、ヤブガラシグンバイ、クロヒメヒョウタンゴミムシ、アトモンコミズギワゴミムシ、クロケブカゴミムシ、コマルケシゲンゴロウ、コガムシ、ハマベキクイゾウムシ、アブラハヤ、マルタニシ、スナガイ			保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出	保全対象種の生息環境である「湿地環境と草地環境」を創出することで、保全対象種の生息環境の代償効果が見込まれます。	代償	事業者	あり	なし

表 9.10-50(2) 環境保全措置の実施の内容 (造成工事の実施—重要な種及び注目すべき生息地)

影響要因	保全対象種	影響	検討の視点	環境保全措置			実施主体	効果の不確実性	他の環境への影響
				内容	効果	区分			
工事の実施	造成工事の実施	重要な種の生息環境への影響	重要な種の生息環境の保全	保全対象種の個体の移動	移動能力の低い保全対象種の個体や卵囊・卵塊を工事区域以外の生息適地に移動させることで、個体の保全が期待できます。	代償	事業者	あり	なし
				逃避経路の確保と工事の分散化	動物の逃避経路の確保に配慮した施工に努め、建設機械の稼働が集中しないような工事計画を策定することにより、人圧等による動物への影響の低減が見込まれます。	低減	事業者	あり	なし

表 9.10-50(3) 環境保全措置の実施の内容 (造成工事の実施—重要な種及び注目すべき生息地)

影響要因	保全対象種	影響	検討の視点	環境保全措置			実施主体	効果の不確実性	他の環境への影響
				内容	効果	区分			
工事の実施 造成工事の実施	保全対象種全般	重要な種の生息環境への影響	重要な種の生息環境の保全	作業時間の順守	夜間作業は原則として行わず、照明等による夜行性動物への影響をできる限り回避します。また、作業員の出入りや重機の稼働時間を規定することで、周辺に生息する動物への人圧低減効果が見込まれます。	低減	事業者	あり	なし
				工事従事者への講習・指導	工事区域外への不必要な立ち入り等を制限することで、踏みつけ等による保全対象種への影響の回避が見込まれます。	回避	事業者	あり	なし

敷地の存在(土地の改変)に伴う重要な種及び注目すべき生息地への影響を低減させるため、表 9.10-50(4)に示すとおり、環境保全措置を実施します。

表 9.10-50(4) 環境保全措置の実施の内容
(敷地の存在(土地の改変)—重要な種及び注目すべき生息地)

影響要因	保全対象種	影響	検討の視点	環境保全措置			実施主体	効果の不確実性	他の環境への影響	
				内容	効果	区分				
土地又は工作物の存在及び供用	敷地の存在(土地の改変)	モズ、カワラヒワ、アオジ、フクロウ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、ヒガシニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ、クツワムシ、ミナミトゲヘリカメムシ、コシロシタバ	重要な種の生息環境への影響	緑地及び地形の保全	周辺の緑との連続性に配慮した緑地の創出	周辺の緑との連続性や生物の移動、生物の生息・生育環境の繋がりに配慮して、できる限り緑地を創出することにより重要な種の生息環境への影響の低減が見込まれます。	代償	事業者	なし	なし

④ 環境保全措置の効果、及び当該環境保全措置を講じた後の環境変化

表 9.10-50 に示したとおり、環境保全措置を実施することで、動物に係る環境影響が回避又は低減されます。

(3) 評価

① 評価手法

ア. 環境影響の回避、低減に係る評価

動物に係る環境影響が、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより評価を行いました。

② 評価結果

ア. 環境影響の回避、低減に係る評価

動物の重要な種の生息環境の改変の程度については、「工事中の保全対象種の調査」、「逃避経路の確保と工事の分散化」、「作業時間の順守」、「工事従事者への講習・指導」によって回避、低減を図るほか、「保全対象種の生息環境（湧水起源の小水路環境）の創出」、「保全対象種の生息環境（湿地環境と草地環境）の創出」、「保全対象種の個体の移動」、「周辺の緑との連続性に配慮した緑地の創出」によって損なわれる環境の有する価値を代償することから、事業者の実行可能な範囲内でできる限り、環境影響の低減が図られると評価します。

(4) 事後調査

都市計画対象事業の実施による動物への影響は、環境保全措置を実施することにより影響を回避又は低減できると予測します。

しかし、保全対象種の生息環境の創出について内容をより詳細なものとする必要があり、個体の移動等の代償措置の効果に不確実性があるものが存在することから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施します。

事後調査の項目等は、表 9.10-51 に示すとおりです。

なお、事後調査の結果、事業の実施に伴い動物への著しい影響が認められる場合、専門家の意見等を踏まえ、更なる環境保全措置を検討します。

また、動物への影響については、工事の実施中及び土地又は工作物の供用開始において環境保全措置の内容をより詳細なものとする必要があることから、後掲表 11-1(2) (P. 11-3) に示すとおりモニタリングを行います。

表 9.10-51 事後調査の項目等（動物）

環境影響評価項目		事後調査の 時期及び頻度	事後調査を行う こととした理由	事後調査の項目	事後調査の手法	
環境要素	影響要因					
動物	重要な種及び注目すべき生息地	造成工事、敷地の存在（土地の改変）	工事中、工事の完了後における適切な時期・頻度とし、保全対象種の生活サイクル・生息状況を勘案して設定します。	保全対象種について、本事業による生息環境の変化があるため。また、工事の実施中及び土地又は工作物の供用開始において環境保全措置の内容をより詳細なものとする必要があり、代償措置については効果の不確実性があるため。	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中における保全対象種の生息状況 ・工事の完了後における保全対象種の生息状況 ・必要に応じて更なる環境保全措置を講じます。 	現地調査（目視確認等）による確認